

JFA news

1 NO.50
2026.
1月 情報号

特集

見よう、最高の景色を

FIFAワールドカップ2026組み合わせ決定
山本昌邦 JFAナショナルチームダイレクター
森保一 SAMURAI BLUE監督
森保一監督100試合PLAYBACK
日本代表OBに聞く
～岡崎慎司さん (FCバサラ・マインツ監督)



制圧か、爆走か。



PREDATOR OR *F50*

JFA No.501 news

2026 1月情報号

特集

見よう、最高の景色を

CONTENTS

- 004 FIFAワールドカップ2026組み合わせ決定
- 005 山本昌邦JFAナショナルチームダイレクター
- 008 森保一SAMURAI BLUE監督
- 010 森保一監督100試合PLAYBACK
- 013 日本代表OBに聞く～岡崎慎司さん (FCバラサ・マインツ監督)

日本代表

- 018 第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025
齋藤登デフサッカー男子日本代表監督
山本典城デフサッカー女子日本代表監督
- 092 U-17日本代表
FIFA U-17ワールドカップカタール2025
廣山望監督インタビュー
- 096 フットサル日本女子代表
FIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025
須賀雄大監督インタビュー

大会・試合

- 022 2025明治安田J1リーグ
- 023 2025明治安田J2リーグ
- 024 2025明治安田J3リーグ
- 085 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2025ファイナル
- 086 JFA U-18女子サッカーファイナルズ2025
- 087 ASTRO SPORTS presents 2025年度第74回全日本大学サッカー選手権大会
- 088 第60回全国高等専門学校体育大会サッカー競技 兼
第58回全国高等専門学校サッカー選手権大会
- 089 高円宮杯 JFA 第37回全日本U-15サッカー選手権大会
- 090 高円宮妃杯 JFA 第30回全日本U-15女子サッカー選手権大会
- 091 JFA 第49回全日本U-12サッカー選手権大会

連載

- 026 My Coaching「長谷川具三(ともぞうSC代表)」
- 028 日本全国FAコーチ巡り「富山県サッカー協会」
- 030 いつも心にリスペクト／大住良之
- 031 JFAの所蔵品からひもとく日本サッカーの歴史

- 016 サッカーファミリー広場
- 017 JFA情報発信局
- 032 月刊レポート
- 041 蹴球通信
- 046 2026年度事業計画
- 055 会議レポート
- 061 データボックス
- 100 次号予告

JFAの理念

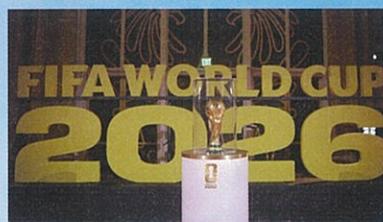
サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献する。

JFAのビジョン

サッカーの普及に努め、スポーツをより身近にすることで、人々が幸せになれる環境を作り上げる。
サッカーの強化に努め、日本代表が世界で活躍することで、人々に勇気と希望と感動を与える。
常にフェアプレーの精神を持ち、国内の、さらには世界の人々と友好を深め、国際社会に貢献する。

JFAのバリュー

エンジョイ◎スポーツの楽しさと喜びを原点とすること
プレーヤーズファースト◎選手にとっての最善を考えること
フェア◎オープンかつ誠実な姿勢で公正を貫くこと
チャレンジ◎成長への高い志と情熱で挑戦を続けること
リスペクト◎関わりのあるすべてを大切に思うこと



©2025 FIFA



©2025 FIFA

※本誌の記事・写真・図表などの無断転用を禁じます。
表紙・目次および本誌内のクレジットの記載のない写真：
©JFA、©JFA/PR、©J.LEAGUE、©WE LEAGUE、
©F.LEAGUE、©Walnix

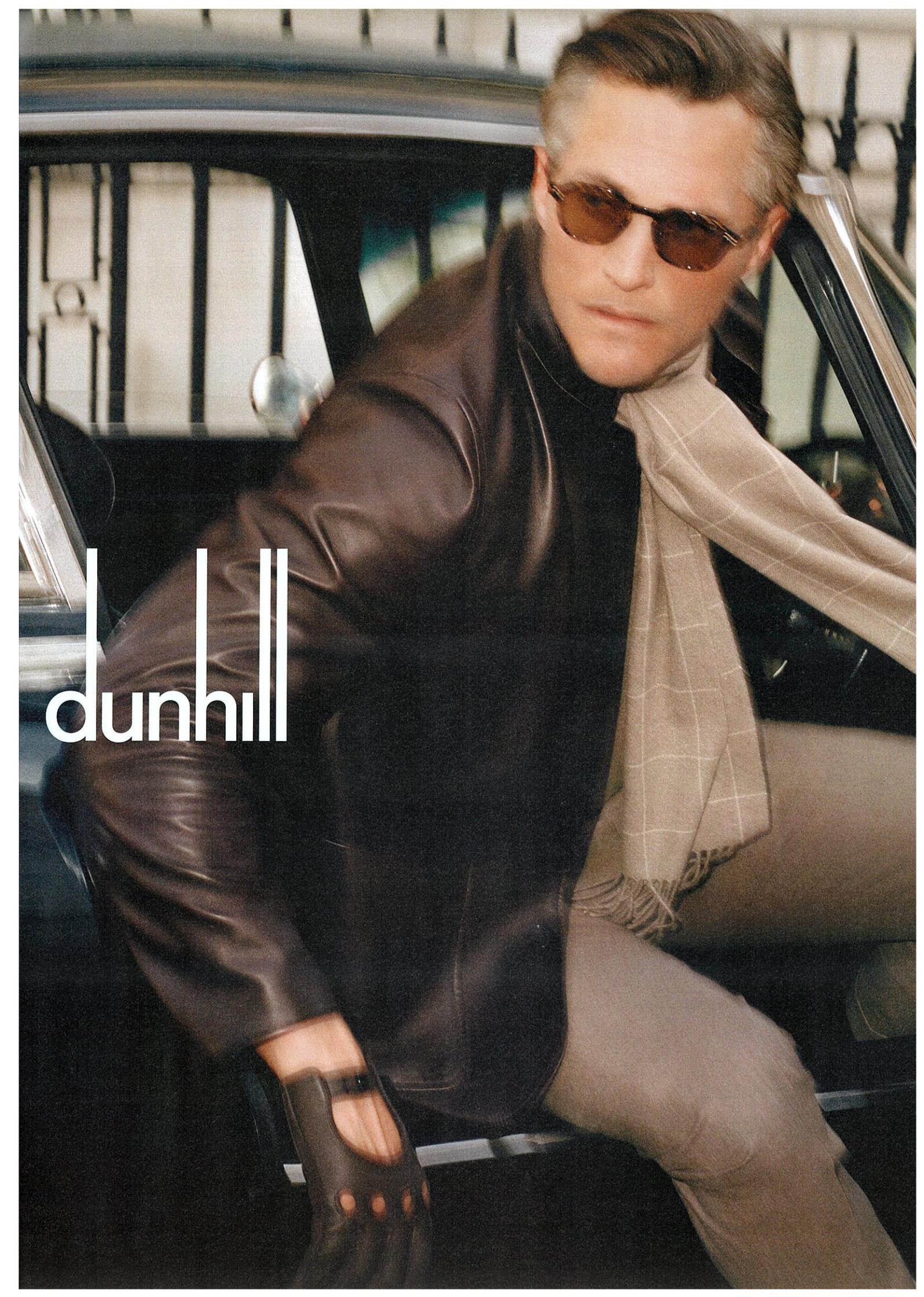


JFAは社会課題解決に向けた活動「アスパス」に取り組んでいます。これは「地球 (earth) の未来 (明日) のために私たち (us) がつなぐパス」の意を込めた造語でサッカーファミリーが世代や時代を超えて「パスを繋いでいく」という強い決意を表現しています。



©2025 FIFA



A man with short, light-colored hair is sitting in the driver's seat of a car. He is wearing a dark brown leather jacket over a black turtleneck sweater. A light-colored, patterned scarf is draped around his neck. He is also wearing light-colored trousers and dark leather shoes with orange accents. He is wearing dark sunglasses and looking towards the camera with a serious expression. The background shows the interior of the car, including the window and door panel.

|||
dunhill



日本代表
世界一を目指して頑張る日本!!
しゅん
この「しゅん」で
原くに
期待して
いま

特集



見よう、最高の景色を

一丸となつて、 てっぺんを取りに行く

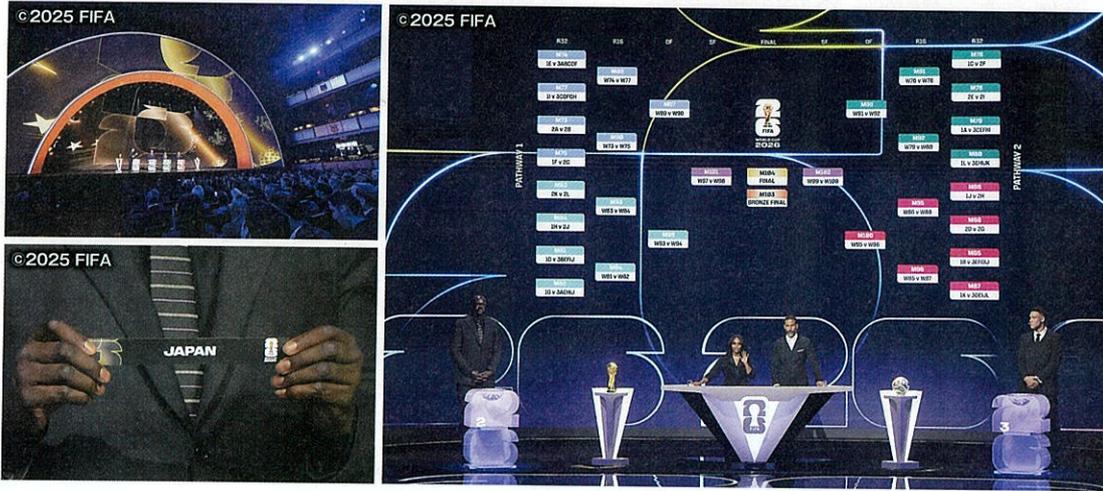
大会史上最多48チームが出場するFIFAワールドカップ2026は、6月11日に幕を開ける。8大会連続8度目の出場となるSAMURAI BLUE (日本代表)は、「最高の景色を2026 FOR OUR GREATEST STAGE」を合言葉に世界の頂点を目指す。日本中の人々を巻き込み、共に世界一を目指して戦う。死力を尽くした先に最高の景色が待っているはずだ。今号では日本サッカー協会(JFA)の山本昌邦ナショナルチームダイレクターと森保一監督に大会に向けた準備や抱負を、そして元日本代表の岡崎慎司さんには大会を戦い抜くポイントやSAMURAI BLUEへの期待などについて聞いた。



特集・見よ、最高の景色を

FIFAワールドカップ2026組み合わせ決定

日本はオランダ、チュニジア、ヨーロッパプレーオフB勝者と同組 初戦は6月15日(日本時間)、オランダと対戦



国際サッカー連盟(FIFA)は昨年12月5日(現地時間)、アメリカのワシントンD.C.でFIFAワールドカップ2026の組み合わせ抽選会を行った。下表の通り、グループステージの組み合わせが決定した。23回目となる今年のワールドカップは、アメリカ、カナダ、メキシコの3カ国が共同開催する初の大会となる。大会史上最多48チームが参加し、6月11日から7月19日の決勝まで、16都市で全104試合が行われる。

抽選会は48チームを12チームずつ、ポット1~5に分けて実施。最上位のポット1のチームから抽選によってグループA~Lに割り当て、その後、ポット2、3、4と、順に抽選が進められた。開催国の3カ国はポット1に入る事が決まっており、その他のチームはFIFAランキングに基づいて4つのポットに割り振られる。FIFAランキング18位(2025年12月5日時点)の日本はポット2に入った。

抽選会の司会進行は元イングランド代表主将のリオ・ファーディナンド氏が務め、ナショナル・フットボール・リーグ(NFL)スパーボウルで7度王者に輝いたトム・ブレイディ氏、ナショナル・ホッケー・リーグ(NHL)殿堂入りのウエイン・グレッツキー氏、メジャーリーグベースボール(MLS)オールスター出場7回を数えるニューヨーク

■グループステージ組み合わせ

グループ	ポット1	ポット2	ポット3	ポット4
A	メキシコ	韓国	南アフリカ	UEFA PO-D
B	カナダ	スイス	カタール	UEFA PO-A
C	ブラジル	モロッコ	スコットランド	ハイチ
D	アメリカ	オーストラリア	パラグアイ	UEFA PO-C
E	ドイツ	エクアドル	コートジボワール	キュラソー
F	オランダ	日本	チュニジア	UEFA PO-B
G	ベルギー	イラン	エジプト	ニューゼaland
H	スペイン	ウルグアイ	サウジアラビア	カーボベルデ
I	フランス	セネガル	ノルウェー	FIFA PO-2
J	アルゼンチン	オーストリア	アルジェリア	ヨルダン
K	ポルトガル	コロンビア	ウズベキスタン	FIFA PO-1
L	イングランド	クロアチア	パナマ	ガーナ

※UEFA PO...ヨーロッパプレーオフ

※FIFA PO...大陸プレーオフ

※UEFA PO-Bはウクライナ、スウェーデン、ポーランド、アルバニアによるノックアウト方式の勝者

■グループステージ試合日程 ※日本時間

- 第1戦 6月15日(日) 5:00
vs オランダ(Dallas Stadium, アメリカ/ダラス)
- 第2戦 6月21日(土) 13:00
vs チュニジア(Estadio Monterrey, メキシコ/モンテレイ)
- 第3戦 6月26日(木) 8:00
vs ヨーロッパプレーオフB勝者(Dallas Stadium, アメリカ/ダラス)

●FIFAワールドカップ2026 大会ページ (FIFA.com)

<https://www.fifa.com/ja/tournaments/mens/worldcup/canadamexicousa2026>



●全試合日程 (FIFA.com)

https://digitalhub.fifa.com/m/1be9ce37eb98fcc5/original/FWC26-Match-Schedule_English.pdf



ク・ヤンキースのアーロン・ジャッジ氏、ナショナル・バスケットボール・アソシエーション(NBA)で殿堂入りしているシャキール・オニール氏といったスポーツ界のレジェンドたちが抽選アシスタントを務めた。

抽選の結果、日本はグループFに入り、オランダとチュニジア、残る1チームは、ウクライナ、スウェーデン、ポーランド、アルバニアの4チームによるヨーロッパプレーオフBの勝者とグループステージを戦う。ノックアウトステージに勝ち上がれるのは、各グループ上位2チームと、3位のうち成績上位8チームの計32チーム。日本にとって8大会連続8度目の挑戦となる今大会、「最高の景色」を見るために全力を尽くす。

■森保一 SAMURAI BLUE (日本代表)監督 コメント

今大会も非常に厳しいグループに入りました。オランダは、ワールドカップ決勝進出の経験があり、言わずと知れた世界のトップ・オブ・トップのチーム、チュニジアはアフリカ予選を失点ゼロで勝ち抜いた堅守を誇る試合巧者です。もう1チームも日頃からヨーロッパで激しい戦いをしている力のある国であることは間違いありません。どのチームとの試合も厳しい戦いになります。そういった相手に対し、まずは自分たちが主体的に100%の力を発揮できるよう、これまでやってきたように一戦一戦最善の準備をして臨みたいと考えています。選手にはワールドカップの出場に向けて、まずは所属クラブで存在感を発揮できるように成長し、チームの戦力になってもらいたと思います。

「ワールドカップ優勝」という目標はすでに皆で共有できています。簡単なことではありませんが、必ずできるという信念を持って挑んでいきます。どんな相手にも正面から勝負を挑み、勝利を積み重ねていくことでしか最高の景色を見ることはできません。日本の皆さんが、日本を世界に誇れる戦いをするために最大限の準備を進めています。皆さんもぜひ、一丸での共闘をお願いします。



万全の体制で ワールドカップに 臨む

SAMURAI BLUE (日本代表)をはじめ、各年代の日本代表をサポートする山本昌邦ナショナルチームディレクターに、これまでのSAMURAI BLUE強化の取り組みやFIFAワールドカップ2026への準備について聞いた。

○取材日・2025年12月17日

山本昌邦

ナショナルチームディレクター インタビュー

最終予選初戦の勝利が
予選最大のポイントに

——2023年2月にナショナル

チームディレクターに就任されました。あらためてその役割を教えてください。

山本 代表チームのサポートが大きな役割になります。ピッチ内のご監督やコーチングスタッフが担っていますので、私はピッチ外でのテクニカルスタッフの編成やトレーニング時間の確保、選手たちのコンディショニング体制の構築など、選手・スタッフがより良い環境で代表活動ができるようにサ

ポートしています。

——就任以降のサムライブルー(日本代表)の成長ぶりを

どう評価されますか。

山本 大会や試合に臨む際、準備の部分で足りないところもありましたが、コーチやスタッフの数を増やし、森保監督と相談しながら勝つために必要なことを全て取り入れてきました。そのあたりが徐々に機能するようになり、準備がうまくいった結果が世界最速でのFIFAワールドカップ2026出場権獲得だと思っています。

——実際、どのような準備をしてアジア予選に臨んでいたのでしょうか。

山本 最終予選のスタートが2024年9月だったのですが、ヨーロッパでプレーする選手が多い状況もあって選手たちのコンディションにばらつきがあり、試合感覚も完全に戻っていないことがありました。例えば木曜日に試合があると、以前

は試合2日前の火曜日に到着する選手がいてコンディションを十分に把握できず、負荷をかけるられないまま中1日で試合に出さざるを得ないケースもありました。それらを言い訳にするつもりはありませんが、不本意な結果になっていたことは事実です。

今回の最終予選ではヨーロッパから移動する選手にチャーター機を用意し、早期合流を可能にしました。その結果火曜日に高強度の練習をし、水曜日に調整した上で木曜日の試合に臨めるようになりました。また、ミーティングの回数も増やすことができました。適切な準備をして試合に臨んだ結果、最終予選の初戦で中国代表に7-0で勝利するという最高のスタートにつながったと思いますし、ワールドカップ予選を通じて最大のポイントになりました。

——森保監督をはじめとするスタッフや、選手との連携において特に意識されていることを教えてください。

山本 選手が困っているときにサポートするのがわれわれの

SAMURAI BLUEのサポート役を担っている山本ナショナルチームディレクター





25年9月に実施したアメリカ遠征では移動による負荷を把握することができた

仕事ですので、常に見守り、コーチングスタッフをはじめ、総務やメディカルグループとも情報共有し、問題があればすぐに解決できるように努めています。

欧州組の体調管理のため4食スタイルを確立

——実際に選手からの要望を受けて対応したことなどはありますか。

山本 直接、要望を受けたわけではないのですが、欧州組の時

差調整に関してはいろいろな試行錯誤しました。欧州とは時差が7、8時間あり、日本の午前中は欧州では深夜で熟睡している時間帯ですので、代表活動中は朝食をフリー（自由選択制）にしました。そして欧州組にとつての昼食が朝食、夕食が昼食になり、深夜に夕食を食べてから就寝という形にしています。

欧州でプレーしている選手は普段（欧州時間）と近いリズムで生活することになりますので、代表活動が終わってクラブに戻ったときの負担が少なくなるんですよ。彼らは日本にいるときだけコンディションが良ければいいというわけではありません。欧州の厳しいリーグを戦う日常が控えていますから、良い状態で日本に来る、良い状態で戻らなければならない。われわれはそのため

に4食スタイルを確立し、選手にある程度の自由を与えるようにしました。スタッフに負担を強いることになりますし、深夜に食事を出せるかどうか、宿泊先とも交渉しなければならぬ部分があったのですが、スタッフの数を増やすなどして選手のコンディションをより良い状態にするよう心掛けました。

——佐藤龍之介選手（ファジアーノ岡山）が18歳で日本代表デビューを飾るなど、若手の成長も見られます。

山本 われわれは各年代に「ラージ100」、つまり代表にふさわしいレベルにある選手が100人ほどいる強いグループをつくらうという話をしています。森保監督も23年以降で100人弱の選手を招集しています。その選手たちが監督の考え方やチームの規律、戦術などを習得しながら全員で競争するグループがつけられています。若い選手も力があれば招集していますので、代表活動中の食事やミーティングでもいろいろなことを感じ取っていると

思います。選手たちの食事の様子を見ると、経験豊富な選手たちがあえて若い選手と同じテーブルに座っているいろいろな話をしていて、意識的にみんなでチームづくりをしているという雰囲気を感じとることが出来ます。トップレベルの選手やワールドカップを経験した選手との会話で気づくことも多いと思いますし、それをチームに持ち帰って成長の糧にすることができると思います。若い選手の成長を見ていると、代表活動に参加する意味は本当に大きいと思います。

一つの基準となつた25年のアメリカ遠征

——ワールドカップのグループステージはオランダ、チュニジア、欧州プレーオフB勝者と同じグループになりました。この組み合わせについてどのような感想をお持ちですか。

山本 簡単ではないと思います。ワールドカップですから簡単なグループなどありませんが、選手たちは厳しいグループを勝ち抜いていくだけの自信や

情熱を十分に備えていると思いますので、目の前の相手に落ちていくことが大切です。

——組み合わせや試合会場が決まる前にもさまざまなきっかけを想定されていたと思いますが、ここからどのように準備を進めていくのでしょうか。

山本 グループステージを突破して勝ち進み、あらゆる条件や状況下で戦うことを想定して準備しています。（ノックアウトステージで）開催国と当たれば圧倒的なアウェイの雰囲気です。移動や時差、標高、気温差なども考慮に入れなければなりません。組み合わせが決まっていよいよ形が見えてきたので、ここからはグループステージの戦いにある程度フォーカスして準備していくことが重要です。（日本が入ったグループは）日常的な暑熱対策が必要なエリアでの試合になりますので、コンディションをどうつくりかか、試合後にどれだけリカバリーできるかを念頭に置いてキャンプ地を選定することにしています。



——これまで活動の中で懸念点がありましたか。

山本 25年9月にアメリカ遠征をした際、西から東に空路で5時間移動しただけなのに、3時間の時差があったため、8時間移動したような感覚に陥りました。それによって選手たちの睡眠に影響が出て、こんなにダメージがあるのか、という印象を受けたので、メディカルスタッフの人員を増やし、リカバリーの機器を充実させなければならぬと感じました。5時間のフライトとなれば機内で食事をする必要があるため、お弁当を持ち込みますし、移動後もすぐに食事ができるようなシェフを手配しなければなりません。ミーティング時に使う映像を速やかに準備できるようにスタッフを増員させることも考えています。荷物を運ぶエキップ担当も経験豊富な人材がそろっていますし、対戦相手の情報収集や映像制作データ分析については東京大学と筑波大学のサッカー部に協力を仰いでいます。そういったバックアップ体制を3年かけて整えました。サムライブルーのた

めに非常に多くのスタッフが関わっていることをぜひ知っていただきたい。強固な体制でワールドカップに臨めると思っております。

**期待してもらえよう
しっかりと準備して臨む**

——本大会に向けて、選手たちに求めることは何ですか。

山本 4月1日(日本時間)のイングリランド代表との国際親善試合と5月31日のキリンチャレンジカップ2026を含めて良い準備をしていく必要があります。候補となるメンバーが多いので選考は非常に難しいと思いますが、本大会は決勝まで8試合を戦います。その8試合を乗り切るためには、メンバー入りする選手全員がベストコンディションでなければなりません。選手の大半が欧州でプレーしていますので、これからチームスタッフは欧州に視察に行つて選手たちのコンディションの見極めをするとともに、選手たちとコミュニケーションを取りながら、冷静に前に進んでいくことが大

切だと思っています。

——大会に臨むサムライブルーに期待されていることを教えてください。

山本 私自身が何かを期待するということより、多くのサッカー関係者の皆さんからお預かりした選手で世界の頂点を目指すものだと思います。サムライブルーの選手たちはわれわれだけで育てたわけではありませぬ。子どもの頃から彼らに寄り添い、育ててくれた関係者の皆さんには本当に感謝しています。私がスカウティング担当として日本代表に関わつていた1993年の「ドーハの悲劇」の頃はワールドカップに出ることを夢見ていましたが、そこから30年あまりがたち、いよいよ世界の頂点を目指そうという時代が来ました。それはひとえに選手たちを育ててくれた人々のおかげですし、そういった力の一つにして戦うわけです。皆さんに期待してもらえるよう、しっかりと準備して臨み、皆さんに良い報告ができるように力を尽くします。

——48カ国が出場し、装いも新たになったワールドカップへの期待を教えてください。

山本 32カ国が参加し、64試合が行われた前回までのワールドカップも「地球の祭典」と言われていましたが、今回は104試合が行われます。大会期間が長くなる分、選手の負担は大きくなりますが、毎日試合が見られますので、注目度もさう上がるのではないかと、う期待があります。

今大会はグループステージで3位になったとしても、グループ3位のうち成績上位8チームがノックアウトステージに進めます。25年11月のFIFA U-17ワールドカップカタル2025も同じレギュレーションで行われ、U-17日本代表はベスト8まで勝ち進むことができたのですが、この大会ではグループステージで勝ち点3を獲得すること、得失点差はプラスというのがノックアウトステージ進出のボーダーラインでした。つまり、グループステージの最終



ひのき舞台に向かう選手たち。大会に集中する環境を周囲がとれだけ整えられるかが重要になる

節までに1勝すればノックアウトステージに進める可能性があるため、消化試合が全くない大会になることを意味しています。決勝までの8試合全てが厳しい戦いになりますので、その意味では総合力が大切になる大会だと思います。日本も総力を結集して、最高の景色を見られるように、一戦一戦、目の前の試合に臨みます。

サムライブルー（日本代表） 森保一 監督

われわれの姿に 共感、共鳴し、 共闘してほしい

コーチ時代のロシア大会を含め3度目のFIFAワールドカップに臨む森保一監督。大会を半年後に控え、現在の心境や本大会での戦いなどについて聞いた。

取材日・2025年12月18日

選手を入れ替えながら つないで勝つ

— FIFAワールドカップ
2026の開幕まで半年を切り
ました。

森保 グループステージ（GS）
の組み合わせが決まり、また、そ
の抽選会場で出場チームの監督
や関係者と顔を合わせたことに
よって、いよいよ本番を迎えると
いう気持ちになっています。

— GSでは、オランダ、チュニ
ジア、欧州プレーオフB（ウクラ
イナ、スウェーデン、ポーランド、
アルバニア）の勝者との対戦が決
まりました。

森保 オランダは、世界トップク
ラスのタレントがそろっていて
攻守に迫力があり、隙がない印象
です。チュニジアは、これまでの
対戦経験や今回のアフリカ予選
からも分かる通り、堅守を誇り、
ぎりぎりの戦いのものでできる
試合巧者です。欧州プレーオフ
を戦う4チームは、いずれもスト
レートでワールドカップに出場
してもおかしくない強豪ばかり
ですし、プレーオフから本大会ま
での期間を考えると、勝ち上がっ
た勢いがそのまま反映されます

から、とても厄介な相手になる
な、と。どこに勝つても負けても
おかしくない、難しいグループに
なったと思います。

— 初戦は、オランダとの対戦に
なります。

森保 どのような大会でも初戦
は難しいものですから、われわれ
はこれまでと変わらず、目の前の
対戦相手を分析し、対策を講じて
臨みます。とはいえ、初戦を世界
トップ基準で戦い、良い手応えを
つかめば、その後は自信を持って
戦っていけると思っています。

— 今大会は過去最多の48チ
ムが出場します。ノックアウト
ステージは、これまでのラウンド
16ではなくラウンド32からのス
タートとなり、試合数が増えまし
た。

森保 われわれは優勝を目標に
していますから、8試合をどう戦
うか。これまでの国際親善試合
では原則、交代枠を最大限に活用
しながら戦ってきました。1試
合の中で選手を入れ替えながら
最大のパワーを発揮して高いレ
ベルを維持できるように、つない
で勝つ、ということが重要です。
ですから選手選考においても、レ
ギュラー、サブという考え方は

なく、交代枠も含めて試合全体を
考え、先発でも交代出場でも個々
の良さを発揮しながらチームと
してつないで勝利に貢献できる
ということが大切になってきま
す。

— 8試合を戦う上ではこれま
で以上にコンディション調整が
重要になります。ベースキャン
プ選びなど環境面についてはど
うお考えでしょうか。

森保 チームスタッフは何度も
ワールドカップを経験し、どのよ
うな環境がチームにとって良い
か理解してくれていますので、基
本的には任せています。こちら
からの要望は、一つ例を挙げると
すれば、快適に過ごせるホテルと
集中してトレーニングができる
グラウンドが近い距離にあるこ
とです。

GSを戦うアメリカのダラス
とメキシコのモンテレイは気温
が高いので、暑熱対策は最優先
事項です。ダラスのスタジアム
は閉閉式の屋根を備えていて空
調の効いた中で試合ができます
が、GSを勝ち抜いた後のこと
なども考えると、やはりしっか
りと準備をしなければならな
いですね。



見よう、最高の景色を

森保一監督100試合 PLAYBACK

2018年7月、SAMURAI BLUE (日本代表)の指揮官に就任した森保一監督。
2025年11月18日のキリンチャレンジカップ2025をもって、指揮する国際Aマッチが通算100試合を数えた。
これは日本代表監督として史上初の記録となる。
その軌跡を振り返る。

2022年11月23日



FIFAワールドカップカタール2022のグループステージ初戦、4度の優勝経験(西ドイツ時代を含む)を誇る強豪ドイツと対戦。前半に先制されたが、後半に交代出場した堂安律と浅野拓磨の2得点で大逆転。ドイツから歴史的な初勝利を挙げて好スタートを切る。

2022年7月27日



日本で開催されたEAFF E-1サッカー選手権2022決勝大会で4大会ぶり2度目の優勝。森保監督体制で初タイトルを獲得する。代表経験のまだ少ない選手たちが国際舞台で大きな足跡を残した。

2018年9月11日



北海道胆振東部地震の影響で9月7日のチリ戦が中止となり、同11日のキリンチャレンジカップ2018(コスタリカ戦)が初陣に。初得点は相手のオウンゴールだったが、南野拓実と伊東純也が追加点を挙げて3-0の白星を飾った。

2022年12月1日



ワールドカップ・カタール大会、勝てば無条件でグループステージ突破が決まる第3戦、グループ首位のスペインに先制を許すも、後半に堂安律と田中碧が得点を決めて2-1の逆転勝利。グループ首位に立って2大会連続のベスト16進出を果たした。

2022年6月



6年ぶりのキリンカップサッカー2022が開催。南米の強豪チリ、アフリカ勢のガーナとチュニジアを迎え、ワールドカップに向けて選手の組み合わせを試すなどチーム全体の底上げを図る大会となった。

2019年2月



森保監督体制で挑んだ初の公式大会、AFCアジアカップは2大会ぶりに決勝へ進出。大会史上最多を更新する5度目の優勝はならなかったが、6試合を通して「1試合ごとにいるいろいろな戦い方をしながらステップアップでき、チームづくりのベースとなる積み上げができた」と森保監督。

2023年9月9日



ワールドカップから約10カ月後、アウェイでドイツと再び対戦。伊東純也、上田綺世、浅野拓磨、田中碧の得点で4-1と快勝する。

2022年3月24日



FIFAワールドカップカタール2022に向けたアジア最終予選(Road to Qatar)の第9節、アウェイで迎えたオーストラリアとの一戦、途中交代の三笥薫が後半に2点を決めて日本が勝利。オーストラリアにアウェイ戦初勝利を挙げ、1試合を残して7大会連続7度目のワールドカップ出場を決める。

2019年6月



20年ぶりにCONMEBOLコパアメリカ(ブラジル)に出場。初戦はチリに敗戦、続くウルグアイ、エクアドルとの2試合も勝ち星は挙げられず、グループステージ敗退を喫した。



森保一監督100試合一覧 [69勝14分け17敗(勝率69%)]

試合日	スコア	対戦相手	試合会場(都市)	試合会場(国/競技場)	大会名	
1	9月11日	○ 3-0	コスタリカ	吹田	パナソニック スタジアム 吹田	キリンチャレンジカップ2018
2	10月12日	○ 3-0	パナマ	新潟	デンカビッグスワンスタジアム	キリンチャレンジカップ2018
3	10月16日	○ 4-3	ウルグアイ	さいたま	埼玉スタジアム2002	キリンチャレンジカップ2018
4	11月16日	△ 1-1	ベネズエラ	大分	大分スポーツ公園総合競技場	キリンチャレンジカップ2018
5	11月20日	○ 4-0	キルギス	豊田	豊田スタジアム	キリンチャレンジカップ2018
6	1月9日	○ 3-2	トルクメニスタン	アブダビ	アラブ首長国連邦	AFCアジアカップUAE2019 グループステージ
7	1月13日	○ 1-0	オマーン	アブダビ	アラブ首長国連邦	AFCアジアカップUAE2019 グループステージ
8	1月17日	○ 2-1	ウズベキスタン	アルイン	アラブ首長国連邦	AFCアジアカップUAE2019 グループステージ
9	1月21日	○ 1-0	サウジアラビア	シャルジャ	アラブ首長国連邦	AFCアジアカップUAE2019 ラウンド16
10	1月24日	○ 1-0	ベトナム	ドバイ	アラブ首長国連邦	AFCアジアカップUAE2019 準々決勝
11	1月28日	○ 3-0	イラン	アルイン	アラブ首長国連邦	AFCアジアカップUAE2019 準決勝
12	2月1日	● 1-3	カタール	アブダビ	アラブ首長国連邦	AFCアジアカップUAE2019 決勝
13	3月22日	● 0-1	コロンビア	横浜	日産スタジアム	キリンチャレンジカップ2019
14	3月26日	○ 1-0	ボリビア	神戸	ノエビアスタジアム神戸	キリンチャレンジカップ2019
15	6月5日	△ 0-0	トリニダード・トバゴ	豊田	豊田スタジアム	キリンチャレンジカップ2019
16	6月9日	○ 2-0	エルサルバドル	利府	ひまわりスタジアム宮城	キリンチャレンジカップ2019
17	6月17日	● 0-4	チリ	サンパウロ	ブラジル	CONMEBOLコパアメリカブラジル2019 グループステージ
18	6月20日	△ 2-2	ウルグアイ	ホルアグレ	ブラジル	CONMEBOLコパアメリカブラジル2019 グループステージ
19	6月24日	△ 1-1	エクアドル	パロリゾンテ	ブラジル	CONMEBOLコパアメリカブラジル2019 グループステージ
20	9月5日	○ 2-0	パラグアイ	鹿嶋	茨城県立カシマサッカースタジアム	キリンチャレンジカップ2019
21	9月10日	○ 2-0	ミャンマー	ヤンゴン	ミャンマー	FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選AFCアジアカップ中国2023予選
22	10月10日	○ 6-0	モンゴル	さいたま	埼玉スタジアム2002	FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選AFCアジアカップ中国2023予選
23	10月15日	○ 3-0	タジキスタン	ドゥシャンベ	タジキスタン	FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選AFCアジアカップ中国2023予選
24	11月14日	○ 2-0	キルギス	ビシュケク	キルギス	FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選AFCアジアカップ中国2023予選
25	11月19日	● 1-4	ベネズエラ	吹田	パナソニック スタジアム 吹田	キリンチャレンジカップ2019
26	12月10日	○ 2-1	中国	釜山	韓国	EAFF E-1 サッカー選手権 2019 決勝大会
27	12月14日	○ 5-0	香港	釜山	韓国	EAFF E-1 サッカー選手権 2019 決勝大会
28	12月18日	● 0-1	韓国	釜山	韓国	EAFF E-1 サッカー選手権 2019 決勝大会
29	10月9日	△ 0-0	カメルーン	ユトレヒト	オランダ	国際親善試合
30	10月13日	○ 1-0	コートジボワール	ユトレヒト	オランダ	国際親善試合
31	11月13日	○ 1-0	パナマ	グラーツ	オーストリア	国際親善試合
32	11月17日	● 0-2	メキシコ	グラーツ	オーストリア	国際親善試合
33	3月25日	○ 3-0	韓国	横浜	日産スタジアム	国際親善試合
34	3月30日	○ 14-0	モンゴル	千葉(アウェイ)	フクダ電子アリーナ	FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選AFCアジアカップ中国2023予選
35	5月28日	○ 10-0	ミャンマー	千葉	フクダ電子アリーナ	FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選AFCアジアカップ中国2023予選
36	6月7日	○ 4-1	タジキスタン	吹田	パナソニック スタジアム 吹田	FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選AFCアジアカップ中国2023予選
37	6月11日	○ 1-0	セルビア	神戸	ノエビアスタジアム神戸	キリンチャレンジカップ2021
38	6月15日	○ 5-1	キルギス	吹田	パナソニック スタジアム 吹田	FIFAワールドカップカタール2022アジア2次予選AFCアジアカップ中国2023予選
39	9月2日	● 0-1	オマーン	吹田	市立吹田サッカースタジアム	アジア最終予選 (Road to Qatar)
40	9月7日	○ 1-0	中国	ドーハ	カタール	アジア最終予選 (Road to Qatar)
41	10月7日	● 0-1	サウジアラビア	ジッダ	サウジアラビア	アジア最終予選 (Road to Qatar)
42	10月12日	○ 2-1	オーストラリア	さいたま	埼玉スタジアム2002	アジア最終予選 (Road to Qatar)
43	11月11日	○ 1-0	ベトナム	ハノイ	ベトナム	アジア最終予選 (Road to Qatar)
44	11月16日	○ 1-0	オマーン	マスカット	オマーン	アジア最終予選 (Road to Qatar)
45	1月27日	○ 2-0	中国	さいたま	埼玉スタジアム2002	アジア最終予選 (Road to Qatar)
46	2月1日	○ 2-0	サウジアラビア	さいたま	埼玉スタジアム2002	アジア最終予選 (Road to Qatar)
47	3月24日	○ 1-0	オーストラリア	シドニー	オーストラリア	アジア最終予選 (Road to Qatar)
48	3月29日	△ 1-1	ベトナム	さいたま	埼玉スタジアム2002	アジア最終予選 (Road to Qatar)
49	6月2日	○ 4-1	パラグアイ	札幌	札幌ドーム	キリンチャレンジカップ2022
50	6月6日	● 0-1	ブラジル	東京	国立競技場	キリンチャレンジカップ2022
51	6月10日	○ 4-1	ガーナ	神戸	ノエビアスタジアム神戸	キリンカップサッカー2022
52	6月14日	● 0-3	チュニジア	吹田	パナソニック スタジアム 吹田	キリンカップサッカー2022
53	7月19日	○ 6-0	香港	鹿嶋	茨城県立カシマサッカースタジアム	EAFF E-1 サッカー選手権 2022 決勝大会
54	7月24日	△ 0-0	中国	豊田	豊田スタジアム	EAFF E-1 サッカー選手権 2022 決勝大会
55	7月27日	○ 3-0	韓国	豊田	豊田スタジアム	EAFF E-1 サッカー選手権 2022 決勝大会
56	9月23日	○ 2-0	アメリカ	デュッセルドルフ	ドイツ	キリンチャレンジカップ2022
57	9月27日	△ 0-0	エクアドル	デュッセルドルフ	ドイツ	キリンチャレンジカップ2022
58	11月17日	● 1-2	カナダ	ドバイ	アラブ首長国連邦	国際親善試合
59	11月23日	○ 2-1	ドイツ	ドーハ	カタール	FIFAワールドカップカタール2022 グループステージ
60	11月27日	● 0-1	コスタリカ	アルラヤン	カタール	FIFAワールドカップカタール2022 グループステージ
61	12月1日	○ 2-1	スペイン	ドーハ	カタール	FIFAワールドカップカタール2022 グループステージ
62	12月5日	△ 1-1	クロアチア	ドーハ	カタール	FIFAワールドカップカタール2022 ラウンド16
63	3月24日	△ 1-1	ウルグアイ	東京	国立競技場	キリンチャレンジカップ2023
64	3月28日	● 1-2	コロンビア	大阪	豊田スタジアム	キリンチャレンジカップ2023
65	6月15日	○ 6-0	エルサルバドル	豊田	豊田スタジアム	キリンチャレンジカップ2023
66	6月20日	○ 4-1	ペルー	吹田	パナソニック スタジアム 吹田	キリンチャレンジカップ2023
67	9月9日	○ 4-1	ドイツ	ヴォルフスブルグ	ドイツ	国際親善試合
68	9月12日	○ 4-2	トルコ	ゲンク	ベルギー	キリンチャレンジカップ2023
69	10月13日	○ 4-1	カナダ	新潟	デンカビッグスワンスタジアム	MIZUHO BLUE DREAM MATCH 2023
70	10月17日	○ 2-0	チュニジア	神戸	ノエビアスタジアム神戸	キリンチャレンジカップ2023
71	11月16日	○ 5-0	ミャンマー	吹田	パナソニック スタジアム 吹田	FIFAワールドカップ26アジア最終予選AFCアジアカップサウジアラビア2027予選
72	11月21日	○ 5-0	シリア	ジッダ	サウジアラビア	FIFAワールドカップ26アジア最終予選AFCアジアカップサウジアラビア2027予選
73	1月1日	○ 5-0	タイ	東京	国立競技場	TOYO TIRES CUP 2024
74	1月14日	○ 4-2	ベトナム	ドーハ	カタール	AFCアジアカップカタール2023 グループステージ
75	1月19日	● 1-2	イラク	アルラヤン	カタール	AFCアジアカップカタール2023 グループステージ
76	1月24日	○ 3-1	インドネシア	ドーハ	カタール	AFCアジアカップカタール2023 グループステージ
77	1月31日	○ 3-1	バーレーン	ドーハ	カタール	AFCアジアカップカタール2023 ラウンド16
78	2月3日	● 1-2	イラン	アルラヤン	カタール	AFCアジアカップカタール2023 準々決勝
79	3月21日	○ 1-0	朝鮮民主主義人民共和国	東京	国立競技場	FIFAワールドカップ26アジア最終予選AFCアジアカップサウジアラビア2027予選
※	3月26日	○ 3-0	朝鮮民主主義人民共和国		没収試合	FIFAワールドカップ26アジア最終予選AFCアジアカップサウジアラビア2027予選
80	6月6日	○ 5-0	ミャンマー	ヤンゴン	ミャンマー	FIFAワールドカップ26アジア最終予選AFCアジアカップサウジアラビア2027予選
81	6月11日	○ 5-0	シリア	広島	エディオンピースウイング広島	FIFAワールドカップ26アジア最終予選AFCアジアカップサウジアラビア2027予選
82	9月5日	○ 7-0	中国	さいたま	埼玉スタジアム2002	FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
83	9月10日	○ 5-0	バーレーン	リファーン	バーレーン	FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
84	10月10日	○ 2-0	サウジアラビア	ジッダ	サウジアラビア	FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
85	10月15日	△ 1-1	オーストラリア	さいたま	埼玉スタジアム2002	FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
86	11月15日	○ 4-0	インドネシア	ジャカルタ	インドネシア	FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
87	11月19日	○ 3-1	中国	廈門	中国	FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
88	3月20日	○ 2-0	バーレーン	さいたま	埼玉スタジアム2002	FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
89	3月25日	△ 0-0	サウジアラビア	さいたま	埼玉スタジアム2002	FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
90	6月5日	● 0-1	オーストラリア	パース	オーストラリア	FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
91	6月10日	○ 6-0	インドネシア	吹田	市立吹田サッカースタジアム	FIFAワールドカップ26アジア最終予選 (3次予選)
92	7月8日	○ 6-1	ホンコン・チャイナ	龍仁	韓国	東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国
93	7月12日	○ 2-0	中国	龍仁	韓国	東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国
94	7月15日	○ 1-0	韓国	龍仁	韓国	東アジアE-1サッカー選手権2025決勝大会 韓国
95	9月6日	△ 0-0	メキシコ	オランダ	アメリカ	国際親善試合
96	9月9日	● 0-2	アメリカ	コロンバス	アメリカ	国際親善試合
97	10月10日	△ 2-2	パラグアイ	吹田	パナソニック スタジアム 吹田	キリンチャレンジカップ2025
98	10月14日	○ 3-2	ブラジル	調布	東京スタジアム	キリンチャレンジカップ2025
99	11月14日	○ 2-0	ガーナ	豊田	豊田スタジアム	キリンチャレンジカップ2025
100	11月18日	○ 3-0	ボリビア	東京	国立競技場	キリンチャレンジカップ2025

※2024年3月26日の朝鮮民主主義人民共和国戦は没収試合となり試合が開催されなかったため含めない

2025年11月18日



2025年の締めくくりとなったキリンチャレンジカップ2025は、国立競技場でボリビアと対戦。3-0で完勝を収め、森保監督が指揮する国際Aマッチ100試合目に花を添えた。

2025年10月14日



東京スタジアムで開催されたキリンチャレンジカップ2025でブラジルに3-2の逆転勝利。ワールドカップ優勝5回のブラジルから14度目の対戦にして国際Aマッチ初勝利を挙げる。

2025年3月20日



ホームで迎えたFIFAワールドカップ26アジア最終予選(3次予選)の第7節、バーレーンから2-0の白星を挙げ、3試合を残して最終予選を突破。世界最速で8大会連続のワールドカップ出場を決めた。

2024年1月14日



AFCアジアカップカタール2023グループステージ第1戦はベトナムに4-2の勝利。森保監督が国際Aマッチで指揮した試合数は74を数え、長沼健の73試合を上回って歴代最多を更新(50勝10分け13敗)。さらに国際Aマッチ歴代最多の10連勝を記録した。

molten®
feel the emotion



Pelada

第6世代
「ペレーダ」誕生。

詳しくはこちら▼





それがワールドカップ どの選手も目の色が変わる

特集・見よう、最高の景色を

日本代表
OBに聞く

岡崎慎司さん

(FCバサラ・マインツ監督/ドイツ)

2010年の南アフリカ大会、2014年のブラジル大会、2018年のロシア大会と3大会連続でFIFAワールドカップ出場を果たした岡崎慎司さん。3大会を振り返りながら、ワールドカップを勝ち抜く上でのポイント、現在のSAMURAI BLUE(日本代表)への期待などについて語ってもらった。

○オンライン取材日・2025年12月17日

勝ち進んでいける 可能性はあった

—FIFAワールドカップ初出場は2010年の南アフリカ大会でした。ご自身がピッチに立つことを意識したのはいつ頃でしたか。

岡崎 本当に直前でした。ずっとメンバーに入りたいとは思っていましたが、そもそも日本代表の一員になること自体が自分にとっては遠いことでした。2008年の北京オリンピックではU-23日本代表のメンバーに選ばれましたが、レギュラーではなかったのです。

—南アフリカ大会のメンバーに選出されたときは驚きの方が大きかったですでしょうか。

岡崎 そうですね。そこまでの流れ的にも自分は絶対的な存在ではなく、メンバーに入れるとは正直思っていなかったんです。選ばれてしばらくは心の準備ができていなくて、勝手にプレッシャーを感じていたように思います。あの頃は(長友)佑都もその一人でしたが、北京オリンピックが終わってから、周りのみんなが一気に日本代表へと上

がっていきました。でも自分は気持ちがいかなかった。じん麻疹が出たり、朝起きると唇が腫れていたりと身体に異変が出るようになってしまつて……。まだ大会前でしたがストレスがあったのかもしれない。

—初戦のカメルーン戦を迎えるときには、気持ちを整えられていたのですか。

岡崎 整えるというか、初戦に至るまでが長かった記憶があります。先発で出る覚悟はできていましたが、準備の段階でチームがうまくいかず、イングリランドやコートジボワールとのテストマッチでも何もできず、最後の最後で岡田(武史)さんがやり方をパッと変えました。自分は先発から控えに立場が変わった一人で、試合の前々日に監督と話をする機会があつて、「自分だけじゃないんや」とは思いつつも、すごく悔しくて。けれど、大会ではサイドで起用されることになり、逆に思い切った試合に入ることができました。

—南アフリカ大会で、日本はラウンド16まで4試合を戦いました。ご自身はグループステージ3戦目のデンマーク戦で



ゴールを決めています。

岡崎 「途中出場でもゴールを決めてやる」という気持ちを持ち、チームに貢献したいと必死でした。先発を外れて悔しいのは一時の感情であって、サイドのポジションになってやるのがシンプルになり、ハードワークすることに集中していました。途中からチームに勢いを与えるようなプレーをできていたのではないかと思います。

——ラウンド16のパラグアイ戦は拮抗した展開ながらPK戦で敗れました。

岡崎 勝ち進んで

いける可能性はあったし、それを感じられる大会だったと思います。日本はこういう戦い方をしたら強い、というものを見つけられたのではないかと。チーム全体の重心は低

いけれど、シンプルにしっかりと守備をしてボールを奪ったら前に預けて、前線の選手がスピードを持って攻撃を仕掛けるという形が強みになっていました。現在の代表チームは、その強化版というか、ボールを奪って早く攻める部分は共通するものを感じます。

結果よりも内容にフォーカスしてしまった

——4年後のブラジル大会にも出場されました。振り返っていかがでしょうか。

岡崎 本当に最後まで良い準備ができていたので、自分たちのやってきたことをぶつけるというイメージを持って臨みまし

た。そういう意味では南アフリカ大会とは全く逆のパターンで、大会前までは良かったけれど、大会では結果が出なかった。自分たちを過信していた部分もあったと思います。展開によっては、引いて守る時間帯があっても良かったと思いますが、それができませんでした。

(グループステージ初戦の)コートジボワール戦で、(ディエ・ドログバが途中から入ってきて一気に雰囲気が変わったときも冷静に対処することができなかった。当時はまだ海外でプレーしている選手がディフェンスラインに少なく、それも影響したかもしれません。

——ご自身は南アフリカ大会後に海外移籍を果たされ、多くの経験を積まれたと思います。

岡崎 海外のクラブに移籍し、シュツットガルト(ドイツ)で約2年半プレーして、苦労もしながらようやく自分の形が出来上がってきたと感じていました。調子も良くて、良い状態でブラジル大会に入ることができました。ただ、自分がクラブでプレーしていたポジションはどちらかというとフォワードで、代表で

はサイドをやることが多く、その難しさはありましたね。それでも4年間で成長できたと思いますし、ワールドカップに向けて結果を残せるという自信もあつた。にもかかわらず、その成長や自信を大会で100%発揮する方法が少し違ったというか。

——初戦のコートジボワール戦を落とし、ギリシャに勝ち切れず、勝たなければならぬコロンビア戦は岡崎選手のゴールがありながらも勝利をつかめず、グループステージ敗退。十分に力を発揮できなかった。

岡崎 ブラジル大会はアルジェリア代表が快進撃を見せていましたが、最終的に優勝するドイツとの対戦をテレビで見たときに、大接戦を演じていました。内容うんぬんではなくて、激しさや割り切り、そういうものを自分たちももっと発揮しなければならなかったと感じました。もちろん勝つつもりで臨んでいましたが、足りないものがあったことは事実。結果よりも内容にフォーカスしてしまった大会だったように思います。

ワールドカップは国と国との戦いで、それまでの親善試合やクラブ同士の戦いとは異なりま

す。試合内容で思い通りにいかなかったとしても何とか対処していく方法や、勝ち切る力を持つことが重要だと痛感した大会でした。

タフな舞台で戦うことを理解しておかなければならない

——18年のロシア大会を目指すチームでは、そのアルジェリア代表を率いていた(ヴァイツド・ハリルホジッチさんが日本代表監督に就任しました)。

岡崎 自分はアジア予選が終わり、テストマッチを行う中で徐々にメンバーから外れていった印象です。代表に呼ばれていませんでしたし、所属するレスター・シティ(イングランド)でも出場機会が少なくなっていました。そういうタイミングでハリルさんから西野(朗)さんに監督が代わり、試合を見に来てくれたときに「岡ちゃんの力が必要だ」と言われ、その思いに応えたいと思いました。当時はずっと試されている感じで、なかなかそういう信頼を感じるというようないことがなかったときだったんです。だからより一層心



チーム全体として自信を持って臨んだブラジル大会だったが、グループステージ敗退に終わった



から出られていたら…そういう悔しさがあります。結局、チームの役に立つことができなかつたので。

——ワールドカップと他の大会の違いは何でしょうか。

岡崎 ピッチに立つ選手の表情を見れば分かりますけど、ヨーロッパのチャンピオンズリーグに出たり、プレミアリーグ(イングランド)でプレーしたりしている選手でも、ワールドカップに出場しているときは目の色が違うんですね。22年のカタール大会のオランダ対アルゼンチンは「何枚カードが出るんだ」というくらい激しかった。あれが全てを物語っていると思います。ワールドカップは国と国の威信を懸けた戦いです。それだけタフな舞台で試合をするんだということを選手は理解しておかなければいけないと思います。

——選手にとっては特別な舞台なんです。

岡崎 海外でプレーしても、代表で何点とっていても、ワールドカップで結果を出せなかったら「意味ないやん」と僕自身は思っていました。選手は、大小あるにしても、みんなワールド

カップに出たいと思っっているはずですよ。日本代表に入りたかつたのも、そのためですから。

——サムライブルーは、今大会で8大会連続8回目の出場になります。どのような結果を期待しますか。

岡崎 南アフリカ大会の頃は海外でプレーする選手が数人しかいませんでした。今では国内でプレーする選手が数人という逆の状況です。その分、チームも強くなっていると思いますし、ヨーロッパのスタンダードがチームのスタンダードになりました。FIFAランキングで18位(2025年12月発表時点)にいるのも、なるべくしてなつたと思います。

グループステージの対戦相手が決まり、オランダはヨーロッパの中でも厳しいチームだと思っていますけど、今の日本代表がこつぱんにやられるようなことではないのかなと。日常的に切磋琢磨している中で、対戦相手の名前に驚くこともありませんし、誰が出て同じ、というレベルになつてきている。日本の総合力は間違いなく高くなつているので、良い勝負になると思います。

——今大会は史上最多の48チームが出場します。戦い方が変化が生まれるでしょうか。

岡崎 戦い方は変わらないかもしれませんが、グループステージ初戦がダメでも、(3位通過に向けて)まだ2試合あると思えるのは今までは違います。ただ、ワールドカップはやはり何が起るかわからない特別な場所なんです。他の試合や大会

との違いを理解して臨まないといけないです。前回大会の経験者が多いのでそれは分かっていると思います。

現役時代、ワールドカップの舞台を目指すことで、間違いなく自分の世界が広がりました。選手として満足のいく活躍はできなかつたですけど、いつか監督になつてワールドカップに出たい。それが僕の今の目標です。



2022年のカタール大会のオランダ対アルゼンチン。岡崎さんは「あの試合がワールドカップの全てを物語っていると思う」と話す

サッカーファミリー広場

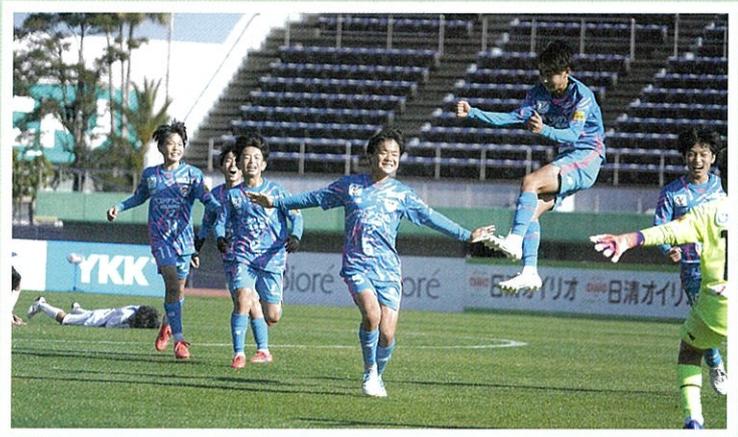


今月の風景

JFA 第49回全日本U-12サッカー選手権大会の決勝は、PK戦にもつれ込む大接戦となりました。サガン鳥栖U-12とソレッシン熊本U-12の九州勢対決となった一戦は互いに譲らず、スコアレスのまま延長戦を終えてPK戦へ。「一人で蹴るんじゃなくてみんなの力でネットを揺らすんだぞ」という荒木亮次監督の言葉を受けてPK戦に向かった鳥栖の選手たちは3人全員が成功させ、初の全国優勝に輝きました。

PK戦の後、鳥栖のGK秋吉駿佑選手が、熊本GKの満永心粋選手に寄り添うシーンも。最後まで全力を尽くして戦い抜いた両チームの選手たち。決勝はグリーンカードが5枚提示される好ゲームとなりました。

※大会レポートは91ページに掲載



JFA.jp 『TOP RECOMMENDATION』更新中！

JFA公式ウェブサイト「JFA.jp」では、TOP RECOMMENDATION ページでさまざまな情報を発信中！

<https://www.jfa.jp/special/>



【最新記事】

- 【会長メッセージ】次のステージに駒を進める大切な1年になる～宮本恒靖会長
- 【SPECIAL】新春インタビュー 清水梨紗選手（リバプールFC / イングランド）
- 【SPECIAL】初春インタビュー 谷口彰悟選手（シントトロイデンVV / ベルギー）
- 【ホットピ！～ HotTopic ～】指導を学ぶことが純粋に面白い～近賀ゆかりさん（A ジェネラルライセンス取得）インタビュー



『ツネログ』vol.16、17発行

宮本恒靖会長のコラムや主な活動を伝える『ツネログ』。2025年12月発行のvol.16では全国高等学校体育連盟サッカー専門部の玉生謙介部長、2026年1月発行のvol.17では長野県サッカー協会のマキナリー浩子会長と対談。

https://www.jfa.jp/about_jfa/president/tsunelog/



ツネログ #16



サッカーファミリー復興支援金

日本サッカー協会（JFA）は、東日本大震災で被災した地域のサッカーファミリーが、これまで通り、サッカーを楽しむことができるよう、サッカー環境の復興を目的に「サッカーファミリー復興支援金」口座を開設しています。集まった復興支援金は、運用細則に基づいて運用されます。

銀行口座 三菱UFJ銀行（0005）渋谷支店（135）
普通預金 口座番号 0290451 公益財団法人日本サッカー協会
サッカーファミリー復興支援金口
※ご利用金融機関が設定する振込手数料はご負担願います。

「暴力等根絶相談窓口」を設置しています

日本サッカー協会（JFA）は、サッカーの活動現場で生じた暴力行為に関する通報を受け付ける窓口として「暴力等根絶相談窓口」を設置しています。

【フォーム】 https://forms.office.com/pages/responsepage.aspx?id=jpDYk_b8f0-0_dkmS7IjH3cFKGINHkNBpVZIXhRIR4VUNidQNFJDMFRORDU2NihFU0M2TkpLUFJPUS4u

利用方法の詳細は、JFA公式ウェブサイトをご確認ください。
https://www.jfa.jp/violence_eradication/



JFAセーフガーディングポリシーの推進 ～サッカー、スポーツを安心・安全に楽しむ権利と その環境を守るために

セーフガーディングとは、子どもや弱い立場にある人が安心して活動できる環境をつくり、暴力や差別、搾取などから守る仕組みや考え方のこと。「JFAセーフガーディングポリシー」では、あらゆる暴力や暴言、差別、ハラスメント、誹謗中傷を排除し、子どもたちが安心してスポーツを楽しめる環境を広げ、子どもたちをエンパワーする具体的な指針を記しています。

JFAとしては、子どもたちに多様な選択肢を与え、彼らの安全と健康を守りながら健やかな成長を後押しすることが、われわれ大人たちの役割であり、責務だと考えます。JFAは、このセーフガーディングポリシーを全てのサッカーファミリー/ステークホルダーと共有し、子どもたちを含め、誰もが目的やレベルに合わせ、楽しく、伸び伸びとサッカーをプレーできる、健全なスポーツ環境を広げていきます。



●JFAセーフガーディングポリシー

https://www.jfa.jp/respect/safe_guarding.html



アクセス・フォー・オール ～誰もがサッカーにアクセスできる社会へ

JFAは2024年、あらゆる人々がサッカーに親しむ多様な「機会」と「選択肢」を得られるよう、「アクセス・フォー・オール宣言 (AfA)」を発表しました。これは、人権に特化したJFAの姿勢を示すもので、「あらゆる人々」とは、障がい者やLGBTQ+、在留外国人、貧困など、異なる背景や特性を持つ人たちが活動に参加する権利や恩恵を十分に受けていない人たちを含む全ての人々を指します。グラスルーツからエリートまで、誰もがサッカーの「する」「見る」「関わる」にアクセスできる機会と選択肢を、確実に、持続的に届けるための行動指針となるものです。

AfAを実現するための第一歩は、サッカーにアクセスすることを阻害する障壁に気づくこと、そして、サッカーファミリーや自治体、パートナー企業、あるいは他のスポーツ団体など多くの人々とAfAの考えを共有し、課題克服に向けて行動を起こすことです。

このアクセス・フォー・オールの考えを広く社会に伝えるために制作したハンドブックが「誰もがサッカーにアクセスできる社会へ Access for All」です。JFAはあらゆる人々をつなげる中核となってその輪を広げ、インクルーシブなサッカー界を築いていきます。

●アクセス・フォー・オールハンドブック

https://www.jfa.jp/about_jfa/accessforall/



スモールサイドゲームガイドライン ～子どもたちの成長に即したゲーム環境を

JFA技術委員会は、小学4年生以下の年代に応じたゲーム形式を明確に示すため、「JFAスモールサイドゲームガイドライン」を作成。「小学校1～4年生のゲーム環境整備」の一環としてガイドラインの普及に取り組んでいます。

●内容

1. はじめに
2. ガイドラインの基本的な考え方
3. 各年代での心身の特性とゲーム
4. ピッチマネージャーの配置・役割
5. 8人制との比較
6. スモールサイドゲームガイドラインに基づいた事業開催
7. 指導者の関わり的重要性

https://www.jfa.jp/coach/guidelines_smallsidegame.html



JFA育成年代でのヘディング習得のための ガイドライン (幼児期～U-15)

JFAは、ヘディングを「禁止」するのではなく、正しく恐れることによって適切な方法によるヘディングの習得を目指しています。そこで、幼児期から段階的にヘディングを習得するためのガイドラインを作成。子どもの安全を守るために、全ての指導者にこのガイドラインを理解していただきたいと考えています。なお、ヘディングに関わるリスクについては医・科学研究の報告をフォローし、本ガイドラインも逐時アップデートしていきます。

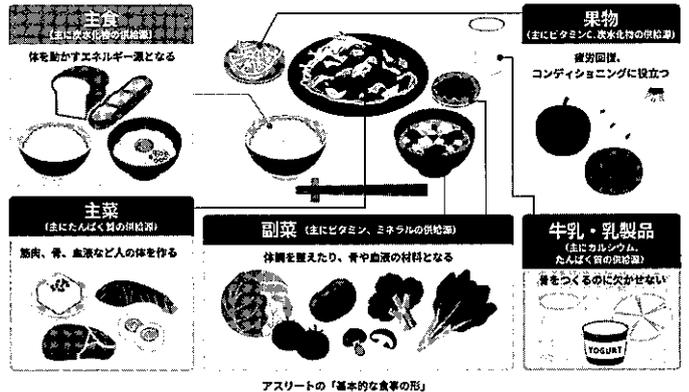
https://www.jfa.jp/coach/pdf/heading_guidelines.pdf



JFA栄養ガイドラインを改訂

JFA医学委員会の栄養サポート部会が2018年8月に策定した「JFA栄養ガイドライン」が、8年ぶりに改訂されました。

サッカー選手にとって、栄養は練習と同じくらい重要なもの。元気にプレーするためのエネルギー摂取、筋肉や骨を丈夫にする体づくり、そしてコンディションを整える源は、普段の食事にあります。栄養ガイドラインをぜひチェックしてみてください。



[主な内容]

- ・戦うためのからだづくり
- ・食事の重要性と水分補給
- ・成長期のからだ
- ・成長期の食事
- ・SAMURAI BLUE (日本代表) の補食
- ・JFA栄養ガイドラインQ&A

<https://www.jfa.jp/medical/nutrition.html>



サッカー活動中の落雷に注意しましょう! 地域によっては冬季も注意を

温暖化や環境変化の影響に伴い、全国での落雷件数が増加しています。屋外でサッカー活動をする際は、落雷による事故防止対策に努めましょう。冬季も大気の状態が不安定になった場合には落雷に注意が必要です。

原則①: 危険・兆候が確認されたら公式戦・練習にかかわらず躊躇なく中止すること。

原則②: 周辺で雷注意報・兆候がある場合、専門的なウェブサイトで常時天候情報を確認すること。

●サッカー活動中における落雷事故防止対策について

https://www.jfa.jp/about_jfa/report/PDF/h20240523_02.pdf



●冬季の雷 (北陸地方の天候) [気象庁]

https://www.data.jma.go.jp/cpd/j_climate/hokuriku/column03.html



デフサッカー男子日本代表

素晴らしい選手たちと代表エンブレムを
背負って戦えたことが、何よりの誇り

日本で初開催された第25回夏季デフリンピック競技大会 東京2025（略称、東京2025デフリンピック）で史上最高の銀メダルを獲得した。デフサッカー男子日本代表の指揮を執った齋藤監督に大会閉幕までの約4カ月の奮闘を振り返ってもらった。

取材日：2025年12月15日

※大会レポートは前号94・95ページに掲載

代表監督を引き受ける決意
楽しいサッカーを目指そう

—東京2025デフリンピックで男子は銀メダルでした。どのように振り返りますか。

齋藤 ファイナルの舞台上立つことができ、選手たちにメダルをかけてあげることができてほっとしています。チームの目標は世界一でしたから悔しさももちろんありますが、監督に就任して以降、その責任の重さを痛感していたので、メダルを取れたことはうれしいです。

—ご自身は障がい者サッカーとどのように関わってこられたのでしょうか。

齋藤 デフサッカーのスタッフになるまで関わりはありませんでした。ただ、指導者仲間に知的障がい者サッカーの元日本代表監督がいて、国際大会で対戦した他国の代表チームからは「なぜ日本のチームはサッカー日本代表と同じユニ

フォームを着ていないんだ？」と疑問を投げかけられたと聞きました。私も同じサッカー仲間として、同じ国の代表チームなのにユニフォームが異なることがおかしいと思っ

ていて、ユニフォームが統一されたときは部外者ながらうれしく思いました（デフサッカー・フットサルは2023年からサッカー日本代表と同じユニフォームを着用）。

—当時の想像もしていませんか？

齋藤 たが、その後、自分も障がい者サッカーに関わるようになり、今大会でサムライブルー（日本代表）と同じエンブレムを着けて指揮を執れたことは実に誇らしいことでした。

—デフサッカーとの出会いを教えてください。

齋藤 東京都サッカー協会でユースダイレクターと指導者養成講習会のチューターをしていたのですが、あるとき聴覚障がいのお子さんを持つ受講者から補聴器について相談を受けたんです。そ

れが始まりです。補聴器を着用してのプレーは危険だとみなされ、外さなければサッカーの公式戦に出場できないんだと。しかし実際、補聴器を外してプレーする方が、音が聞こえなくなるため危険が増します。私の孫も聴覚障がいがあるので、補聴器を着ければプレーしやすくなることは容易に想像できましたし、

補聴器の装着がダメとなれば、聴覚障がいのある選手は健聴者と一緒にサッカーをすることができなくなってしまう。そうした状況を何とかしたいと思いました。つてをたどっていくうちに、デフサッカーに関わっている大学の後輩に行き着いたんです。一緒にいろいろんな事例を調べた結果、イングランドでは、補聴器を着けるか否かは「本人及び保護者が判断すべきもの」とされていることが分かりました。そうこうしているうちに、日本ろう者サッカー協会（JDFFA）の技術委員長の話はい

ただきデフサッカーに関わるようになったわけです。それが25年5月のことですね。

—男子日本代表の監督に就任したのは、デフリンピック本番のわずか4カ月前です。どのような思いで引き受けられたのでしょうか。

齋藤 デフリンピックを約4カ月後に控えたタイミングで体制が刷新されることになり、技術委員長としてJDFFAの強化育成部長と話し合いました。デフサッカーに精通していない人が監督を務める



齋藤登
デフサッカー男子
日本代表監督

のは難しいという共通認識はありましたが、新監督の適任者には心当たりがない。しかし本番まで時間もない。そこで、デフサッカーの知識はまだあまりありませんでしたが、私がやりますと、引き受ける決意をしました。

——7月に監督に就任され、大会までの活動は月1回の合宿と事前合宿の5回でした。

齋藤 毎月の合宿は2泊3日です。で日数としては計2週間。代表チームをつくり上げていく期間としては厳しいものがありました。

デフサッカー男子日本代表の試合は映像で見たことがある程度でしたので、最初の合宿で選手たち



齋藤監督と共に目指すサッカーを追求し続けた選手たち。初の銀メダルを獲得した

©Haruo.Wanibe/JDFA

に「君たちのサッカーを見せてくれ」と話し、紅白戦をしました。当時の戦い方は、ロングボールを前線に大きく蹴るといったサッカーでした。その夜のミーティングでは「見る人たちにとつてもっと面白いサッカーをしよう」と投げかけ、自分たちでサッカーを構築するボゼッションサッカーを目指すことにしました。とはいえ、選手たちに判断力やテクニクが備わっていないければ、やりたいサッカーは実現しません。デフリンピック本番で素晴らしいパフォーマンスを見せられたのは、育成の段階から選手たちに関わってこられた指導者の皆さんのおかげです。

ゼロからのチームづくり 素晴らしい時間になった

——具体的に日本代表のスタイルをどのように築いていかれたのでしょうか。

齋藤 実際、大会ではボールを保持し、パスをつないで相手の守備を崩していくサッカーで決勝まで勝ち進みました。ロングボールを多用する戦い方は、高さのある海外チームに対しては不利で、自らボール保有権を放棄してしまっているようなものです。われわれが選択すべき戦い方ではない、ということをまずは選手たちに理解してもらいました。同時に、彼らは耳が聞こえないだけでサッカーのプレーは健聴者と同じという私の思いもありました。

トレーニングは守備の練習から始めました。守備の精度を高め、そこを基盤にしつかりとボールを保持してポジショニングや判断力を築き上げ、その後はビルドアップ、中盤の組み立て、そこから崩し方やサイドアタックというように一つ一つを積み上げていきました。

——デフリンピックでは参加国が減り、開幕直前に再抽選によって組み合わせが変わりました。日本はオーストラリア、メキシコ、イタリヤと同組になり、初戦でオーストラリアを8-0で下して白星発進。予選を無失点で1位通過しました。

齋藤 13チームが4グループに分かれて総当たりの予選リーグを行ったわけですが、2試合しかないチームがある中、日本は3試合を戦いました。一日置きに試合が行われるスケジュールだったので大きなハンデがあると感じていました。それでも、初戦で当初のイギリスではなく、われわれに分のあるオーストラリアと対戦することになり、8得点を挙げて勢いに乗ることができたのは幸いでした。

——初めてノックアウトステージに進み、史上初の2位という成績でした。

齋藤 準々決勝のイギリスは当初、開幕戦で対戦する予定だったので対策はできていたものの、高さがあまり前半はリードされ、苦しい展開になりました。しかし、ハーフタイ

ムで選手たちを落ち着かせ、ロングボールを放り込んでくる相手にうまく対応し、逆転で勝利しました。中1日で行われた準決勝もアメリカに勝利し、トルコの決勝は中2日で迎えましたが、けが人もいて全員が万全な状態ではなく、途中交代せざるを得ない選手もいて残念な結果になってしまいました。しかし、選手たちは試合ごとに成長しました。今回の銀メダル獲得によって競技の認知度も上がったと思うので、これから新たな選手を代表に引き上げ、将来的にチームが新陳代謝しながら強くなっていくような循環ができてくれたらと思っています。

——デフサッカー男子日本代表を指導された4カ月はどのような時間でしたか。

齋藤 今までこんなに気持ちのよいチームを指導したことはありません。それほど素晴らしい選手ばかりでした。振り返れば、最初の練習はピッチに入っても、きこえない・きこえにくい選手にうまく説明が伝わらず、円陣でトレーニング内容を説明しているうちに時間ばかりが過ぎていきました。そこから指導方法を変え、事前にパワーポイントを使って練習メニューやそのオーガナイズ、選手の動きなどを図や映像で見せ、さらに伝えたいことを全て文字に起こして、説明してからピッチに出るようにしました。戦術を伝える際はアニメーションを設定し、それを動かしながら説明

するのですが、月2泊3日の合宿の資料作成のために残りの27日を費やすほど時間がかかることもありましたが、でも、そうした作業も楽しむことができました。選手たちや手話通訳スタッフからミーティング前に資料を見ておきたいと要望があったり、個別に質問してくる選手もいたり、もっと理解を深めたいというサッカーに対する渴望感みたいなものを感じました。選手たちは監督である私の指示を全て受け止め、実践してくれました。指導者としてこれほどうれしいことはありません。2027年にはデフサッカーワールドカップがあります。選手たちともう一度、世界一を目指したいですね(*)。

*2025年12月26日に齋藤監督の続投が発表された。任期は2027年デフサッカーワールドカップ(オーストラリア)まで。



トルコの決勝は同点に一度追いつきながらも1-2の敗戦。「優勝を目指して挑んだ大会だけに選手たちの悔しさは想像以上だった」と齋藤監督

©Haruo.Wanibe/JDFA

デフサッカー女子日本代表

自国開催での特別な経験、

世界一を目指したからこそ見えた強みと課題

デフサッカー女子日本代表は第25回夏季デフリンピック競技大会東京2025（略称、東京2025デフリンピック）で決勝に進出。デフリンピック競技大会ではチーム史上初のメダルを獲得した。デフフットサル女子日本代表監督を兼任する山本典城監督に大会での収穫と課題を聞いた。

取材日・2025年12月15日

※大会レポートは前号94〜95ページに掲載

攻守に数的有利をつくる
アメリカ戦はミスが敗因に

——デフサッカー女子日本代表は決勝で絶対王者のアメリカに敗れたものの、銀メダルに輝きました。

山本 金メダルを目指していたので2番だった悔しさは残っています。ですが、選手たちは最後まで諦めることなく、持てる力の全てを出してくれました。選手たちを本当に誇りに思っています。

——日本で初開催となった大会はいかがでしたか。

山本 自国開催は特別でした。特に大会中、会場のJヴィレッジには多くの人が応援に来てくれて、それが大きな力になりました。スタンドでは、きこえない・きこえにくい人も、きこえる人も一つになってエールを送ってくれました。この応援の形こそ、デフリンピックがテーマの一つに掲げている共生社会につながるものではないかと感じました。

——女子はデフフットサルと掛け持ちで活躍している選手が多いです。その背景を教えてください。

山本 私は2013年からデフフットサル女子日本代表監督を務めています。もともとフットサル一本で勝負している選手はほとんどおらず、デフサッカーをやったことがある選手がデフフットサル女子日本代表になって両方の競技をプレーしていました。

デフフットサルは、2019年のワールドカップ（スイス）の準々決勝で敗れたことを機に、明確に世界一を目指す方向にシフトしました。そうなると日々の競技環境も見直さなければなりませんから、選手たちはフットサルに一本化するようになりました。

その後、チーム強化も功を奏し、デフフットサル女子日本代表は23年のワールドカップ（ブラジル）で優勝を果たしました。24年に日本ろう者サッカー協会（JDF A）の体制が変わった際に東京デフリンピックに向けた強化体制も見直され、それまで、サッカーとフットサルは別々のグ

ループとして動いてきたのですが、自国開催のデフリンピックでメダルを取るためには、フットサルで世界一になった選手たちの力も必要だということになり、そこで私がデフサッカー女子日本代表の指揮を執ることになりました（24年11月に就任）。

——デフフットサル、デフサッカーを通じ、監督として意識して取り組まれてきたことはありますか。

山本 デフの女子カテゴリーが発展していくためには、選手がサッカーとフットサルを兼任するハイブリッド方式が、今のタイミングとしてはベストなのではないかと考え、監督を引き受けました。競技の掛け持ちは、それぞれの選手が国際大会で経験を踏めるなどのメリットがあります。ただし、普通に考えれば日本代表で掛け持ちはかなり難しいことだと思えます。例えば、フットサルに集中する場合、フットサルのチームに所属して年間を通して国内のリーグ戦に出場することになります。その中でサッカーもするのは現実的ではありません。

また、フットサルの所属チームからすれば、デフフットサルの代表活動だけでなく、チームを抜けてデフサッカーの活動にも参加するわけですから、一筋縄ではいかないはずですから、選手が所属しているチー



山本典城
デフサッカー女子
日本代表監督



銀メダルを獲得した選手たち。手話を学んで信頼関係をつくってきた山本監督は「選手たちの成長を実感できることが監督としての最大のやりがい」と話す ©Haruo.Wanibe/DFA

ムの監督や関係者の皆さんと密にコミュニケーションを取り、できるだけ気持ちよく送り出してもらえるよう理解を求めてきました。日本開催のデフリンピックが終わり、今後どのように環境をつくっていくか課題は残ります。

——選手やスタッフとのコミュニケーションはどのように工夫されていますか。

山本 信頼関係がチームマネジメントの土台となるので、自ら手話も勉強しながらコミュニケーションを図っています。私自身が手話を学ぶことは聴覚障がいやデフスポーツを理解するためにも有効でした。

デフというカテゴリーでは、技術的な部分においても、障がいがある

るからここまでしかできないという感覚はまったくありません。いちアスリートとして全力を尽くすことで、見ている人たちに「耳が聞こえないのにすごい」という感想を超えた何かを感じてもらいたいと思っています。

——大会ではブラジルが辞退し、日本は、アメリカ、イギリス、オーストラリアと総当たりの予選を戦うことになりました(ケニアは不参加)。

初戦はアメリカに0-5と黒星でしたが、決勝での対戦は前半を0-1で粘り、見せ場をつくりました。

山本 アメリカ戦はこれまで、自陣に引いてボールが来たらクリアし、亀の甲羅のように守る戦い方が多かったのですが、今大会は優位性を持つて戦うサッカーをテーマにしました。1対1の競り合いは小柄な日本の選手には分が悪いので、ボールに対して相手よりも数的有利な状況をつくってボールを保持しながらゴールに近づき、相手の裏を狙っていく。守備でも、ボールを持つている相手選手に対して数的優位をつくって奪いにいくといった積み上げをしてきました。

予選ではイギリスやオーストラリアに対し、日本の俊敏さを生かしてボールを運べたと感じましたが、アメリカ戦はパスをつながなければならぬと、簡単にボールを奪われたり、自分たちのミスでボールを失ったりする場面が多かった。特に決勝は、その回数も多く、結果的にピンチになったことが0-4で敗れ

た一番の要因だと思っています。前半は0-1で悪くなかったのですが、後半のスタートで簡単に失点を許してしまったことが流れを引き寄せられなかったポイントになったかなと思います。

技術面での強みも生かし再び世界一を目指す

——日本が強化すべき点はどこでしょうか。

山本 一つはフィジカルフィットネスです。フットサルの中では世界トップのフィジカルを持っていたとしても、サッカーでは走る距離も違えば、出すパスの距離も違う。サッカーに必要なフィジカルがまだまだ足りません。

——収穫についても教えてください。

山本 日本はフィジカルではアメリカに劣っていても、技術的には遜色ないと思っています。サッカー環境が豊かなアメリカでは、日本や他国のようにフットサルと掛け持ちでプレーしている選手はほとんどいません。フットサルの世界で戦ってきた選手が多くいる日本は、例えば人と人との距離が近い中で、連係や、あえてスペースを空けて2人目、3人目が狙うといった連係ができる点が強みです。サッカーに必要なフィジカルを鍛えるだけでは勝てませんから、そうしたストロングポイントを生かし、ボールを前に進めるサッカーを磨いていけば、

もっと面白いサッカーができるようになるはずですよ。

もっと面白いサッカーができるようになるはずですよ。

——今大会は、キャプテンでGKの伊東美和選手が脳震盪によるドクターストップで試合には出場できないといったアクシデントも立ちました(大会にはメンバーとして参加)。

山本 難しい状況でしたが、大会直前だったので残ったメンバーでどうやっていくかに目を向けるしかありませんでした。足元の技術がある伊東選手は、GKながらビルドアップの一端を担っていたわけですが、それができない。戦い方の変更を余儀なくされました。そんな中でもGK國島佳純選手が素晴らしいプレーを見せてくれたと思います。ほかにも、FWの杉本七海選手がけがで出場時間が限られるなど、いくつかのアクシデントもありました。それでも選手たちは自分自身に矢印を向けて行動してくれたので、チームとしてはネガティブにならず、最後までしっかり戦えたと思います。

——次の世界大会は、2027年のデフサッカーワールドカップ(オーストラリア)です。目指すは世界一でしょうか。

山本 もちろんです。しかし世界一になるためには、絶対王者のアメリカを倒さなければなりません。そのためには、競技との向き合い方や日常で求める基準、普段の食事、コンディショニングなどを含め、アスリートとしてのレベルを何段階も上げなければ難しいと思っています。選手はこれまでの日常を変えることが必要になるわけですが、どれだけ行動を変えられるかが、世界一を取るために重要になってくると考えます。

——デフフットサルも27年に冬季デフリンピック(オーストラリア)があります。

山本 二つの競技を同時に強化する体制がしばらく続きます。26年はフットサルの比重がやや多くなり、冬季デフリンピックが終わったからデフサッカーの合宿が多くなる予定です。女子カテゴリーの挑戦にも、引き続き注目してもらえたらうれしいです。

*2025年12月26日に山本典城監督の統投が発表された。任期は2027年デフサッカーワールドカップ(オーストラリア)まで。デフフットサル日本代表監督を兼任。



アメリカには予選で0-5、決勝は0-4で敗戦。「世界一を取るためには日常の環境も変えていかなければならない」と山本監督



鹿島アントラーズが 9年ぶり最多9度目の優勝!



2025 明治安田 J1 LEAGUE
CHAMPIONS

開幕前は、鹿島アントラーズが2007〜09年に成し遂げて以来となるヴィッセル神戸の3連覇に注目が集まった。神戸は首位争いに絡んだものの、京都サンガF.C.、サンフレッチェ広島、FC町田ゼルビアなどのライバルと共に終盤戦で優勝の可能性が消滅。最後の第38節を前に、タイトル争いは鹿島、柏レイソルの2クラブに絞られた。

第24節から14試合負けなし(9勝5分け)、第30節から首位をキープする鹿島に、5連勝で追い上げた柏が勝ち点1差で迫る。そして最終節、ホームに横浜F・マリノスを迎えた鹿島は「集大成という形で最後の最後に持ってこられた」(鈴木優磨)という充実の試合運びを見せ、レオ・セアラの2得点で2-1

の勝利。自力で9年ぶりにJ1制覇を果たし、最多優勝を9回に伸ばした。また、今シーズン通算21点を記録したレオ・セアラは、初の得点王に輝いた。柏も町田に1-0で競り勝ったものの、王座にはあと一歩届かなかった。

今シーズンの鹿島は、17年からの5年間で川崎フロンターレに4度のJ1優勝をもたらすなど、一時代を築いた鬼木達監督を招聘(しょうへい)し、プロ選手デビューした古巣でその手腕を発揮した鬼木監督は、2クラブをJ1優勝に導いた初の監督となっ

た。「感無量」と感想を述べた指揮官は「選手と一年やってきて伸びしろを感じた」と、名門復活への手応えを口にした。

柏も新たに就任したリカルド・ロドリゲス監督の下、2年連続で17位だった成績から大躍進。クラブ史上最高の3位という好成績を残した京都、カップ戦2冠の広島などと共に、首位戦線をにぎわせた。初のJ1を戦ったフアジャアーノ岡山

は、ホームゲームのホームエリアチケットが全試合で完売するというファン・サポートの熱量にも支えられて13位と健闘した。

一方、鹿島と同様に降格経験のない横浜FMは、一時

は最下位に沈むなど厳しい戦いを強いられた末、終盤戦で15位に浮上する意地を見せた。降格となったのは横浜FC、湘南ベルマーレ、アルビレックス新潟の3クラブで、来シーズンはJ2で戦うことになった。年をまたがずに行われる最後のシーズンとなったリーグ戦は、総入場者が80万7千357人、1試合平均が2万1千246人と、いずれも史上最多を記録した。

J1年間順位表

順位	チーム名	勝ち点	得失点差
1	鹿島アントラーズ	76	27
2	柏レイソル	75	26
3	京都サンガF.C.	68	22
4	サンフレッチェ広島	68	18
5	ヴィッセル神戸	64	13
6	FC町田ゼルビア	60	14
7	浦和レッズ	59	6
8	川崎フロンターレ	57	10
9	ガンバ大阪	57	-2
10	セレッソ大阪	52	3
11	FC東京	50	-7
12	アビスパ福岡	48	-4
13	フアジャアーノ岡山	45	-9
14	清水エスパルス	44	-10
15	横浜F・マリノス	43	-1
16	名古屋グランパス	43	-12
17	東京ヴェルディ	43	-18
18	横浜FC	35	-18
19	湘南ベルマーレ	32	-27
20	アルビレックス新潟	24	-31

※戦績表は80〜81ページに掲載

J1得点ランキング

順位	選手名	チーム名	得点
1	レオ・セアラ	鹿島アントラーズ	21
2	ラファエル・エリ阿斯	京都サンガF.C.	18
2	ラファエル・ハットン	セレッソ大阪	18
4	伊藤達哉	川崎フロンターレ	13
5	エリソン	川崎フロンターレ	12



2025明治安田J1リーグ最優秀選手賞を受賞した鹿島アントラーズの早川友基。GKの受賞としては史上2人目となった



水戸ホーリーホックが初優勝

V・ファーレン長崎とジェフユナイテッド千葉もJ1昇格



V・ファーレン長崎の攻撃の原動力となったマテウス・ジェズスが2025明治安田J2リーグ最優秀選手賞と得点王のダブル受賞を果たした

J2では、2位以内に与えられる自動昇格枠と3〜6位が獲得するJ1昇格プレイングアウト出場権をめぐる最終の第38節まで見応えのあるゲームが繰り広げられた。

最終節、優勝の可能性を残していたのは、V・ファーレン長崎、水戸ホーリーホック、ジェフユナイテッド千葉の上位3クラブ。長崎は徳島ヴォルティスと1-1で引き分け、水戸は大分トリニータを2-0で下して共に勝ち点70で並んだが、水戸が得失点差「2」で長崎を上回り、初優勝を成し遂げた。この大一番、水戸にとって大きかったのが、75分に山本隼大が挙げた追加点だ。森直樹監督は、これで「勝利、昇格、優勝に近づいた」と、その価値を認めた。千葉はFC今治に5-0で大勝

して勝ち点を69に伸ばしたものの3位は変わらず、優勝と自動昇格には届かなかった。

今シーズンの水戸は、堅守を基盤に15試合連続負けなし、8連勝など好調を維持し、後半戦では長い期間で首位をキープ。第37節の長崎との首位攻防戦に敗れて一時後退したが、最後は、今シーズン初めて1万人を超えたホームゲームで歓喜を味わった。日本フットボールリーグ(JFL)からJ2に昇格した2000年以來、昇格格なく戦い続けたクラブが次シーズン、初めてJ1の舞台に立つ。

徳島に勝てば優勝できた長崎は勝ち点1獲得にとどまるも、2位で8年ぶりの昇格を遂げた。前半戦は8位と伸び悩んだが、2度目の指揮を執ることになった高木琢也監督が6月に就任して復調。マテウス・ジェズスが19ゴールをマークし

て得点王となるなど、リーグ戦最多得点の攻撃力を生かして首位戦線に参入した。

J1昇格プレイングアウトには、千葉、徳島、ジュビロ磐田、RB大宮アルディージャの4クラブが出場。リーグ最終節では6位だったベガルタ仙台がいわきFCに敗れ、サガン鳥栖に勝利した磐田が5位に浮上した。そして、6度目のプレイングアウトで念願を果たしたのが千葉だった。大宮とのプレイングアウト準決勝で0-3と窮地に立たされたが、猛反撃を見せて4-3の逆転劇を演じる。決勝では徳島に1-0と競り勝ち、17年ぶりのJ1昇格を果たした。

昇格となったのはロアッソ熊本、レノファ山口FC、愛媛FCの3クラブ。リーグ戦の入場者は計337万7480人、1試合平均8888人と過去最多をマークした。

■J2年間順位表

順位	チーム名	勝ち点	得失点差
1	水戸ホーリーホック	70	21
2	V・ファーレン長崎	70	19
3	ジェフユナイテッド千葉	69	22
4	徳島ヴォルティス	65	21
5	ジュビロ磐田	64	8
6	RB 大宮アルディージャ	63	21
7	ベガルタ仙台	62	11
8	サガン鳥栖	58	3
9	いわきFC	56	11
10	モンテディオ山形	53	4
11	FC今治	53	0
12	北海道コンサドーレ札幌	53	-13
13	ヴァンフォーレ甲府	44	-8
14	ブラウブリッツ秋田	43	-16
15	藤枝 MYFC	39	-9
16	大分トリニータ	38	-17
17	カターレ富山	37	-15
18	ロアッソ熊本	37	-16
19	レノファ山口FC	36	-11
20	愛媛FC	22	-36

*戦績表は81ページに掲載

■J2得点ランキング

順位	選手名	チーム名	得点
1	マテウス・ジェズス	V・ファーレン長崎	19
2	マルクス・ヴィニシウス	FC今治	17
3	ルーカス・バルセロス	徳島ヴォルティス	14
4	渡邊新太	水戸ホーリーホック	13
5	ディサロ 藤シルヴァーノ	モンテディオ山形	11
5	カブリーニ	RB 大宮アルディージャ	11



参戦1年目の栃木シティが優勝

ヴァンラーレ八戸、テゲバジャーロ宮崎も初昇格

2025 MEIJI YASUDA J3 LEAGUE
TOCHIGI CITY



2025 明治安田 J3 LEAGUE
CHAMPIONS

J3で初優勝の歓喜に包まれたのは栃木シティだった。2位のヴァンラーレ八戸、J2昇格プレーオフを制して4位となったテゲバジャーロ宮崎と共に次シーズンは戦いの舞台をJ2に移す。この3クラブはいずれもJ2初昇格となった。

栃木Cはリーグ前半からFC大阪、八戸などと首位を争い、終盤の第35節でシーズン3度目の首位に立つ。そして第37節でAC長野パルセイロに3-0の快勝を収め、まずは自動昇格圏の2位以内を確定させた。続く最終節(第38節)では、SC相模原に5-0で勝って有終の美を飾った。今矢直城監督が植え付けた攻撃的なサッカーを志向するチームは、リーグ戦で最多タイとなる得点数をマーク。相模原戦で2得点を決めた吉田篤志は「栃木シティのサッカーで優勝をしっかりと成し遂げられ、心から良かった」と胸を張った。

2023年に関東サッカーリーグ1部に在籍していた栃木Cは、翌年の日本フットボールリーグ(JFL)優勝で昇格を決め、今シーズンはJ3で戦うようになったばかり。ピーター・ウタカ、マティ・ヨニツチといったJ1での経験も豊富なベテラン勢の加入もチーム力アップにつながるなど、J3、1年目にして快挙を達成。さらに上のカテゴリーへ

と快調に階段を駆け上がった。Jリーグ通算800試合以上を指揮した石崎信弘監督が率いる八戸の快進撃も話題を集めた。序盤戦こそ勝ち点が伸び悩むも、次第に調子は上向き、第22節で首位に躍り出る。最後の6試合は3分け3敗と足踏みしたが、リーグ戦最少失点の堅守に支えられて2位をキープ。19年のJ3参戦以来、初の昇格を成し遂げた。

もう一つの昇格枠は宮崎が手にした。J2昇格プレーオフ準決勝で鹿兒島ユナイテッドFCを2-0で破り、決勝では、リーグ戦25ゴールを挙げて得点王に輝いた橋本啓吾を欠きながらも、FC大阪に4-0と大勝した。また、J3・JFL入れ替え戦で、J3で20位のアスルクラロ沼津とJFL2位のレイラック滋賀が対戦。ホーム&アウェイの2試合合計で滋賀が4-3で勝利。沼津は、

JFLへの降格が決まった。なお、滋賀の昇格により、滋賀県に初のJクラブが生まれる。

リーグ戦の総入場者は142万人で、J1、J2同様、史上最多を記録した。

J3年間順位表

順位	チーム名	勝ち点	得失点差
1	栃木シティ	77	32
2	ヴァンラーレ八戸	72	23
3	FC大阪	71	22
4	テゲバジャーロ宮崎	67	16
5	鹿兒島ユナイテッドFC	66	25
6	ツエーゲン金沢	59	8
7	栃木SC	58	6
8	ギラヴァンツ北九州	56	5
9	奈良クラブ	56	4
10	福島ユナイテッドFC	56	-7
11	ガイナレ鳥取	51	-5
12	SC相模原	50	-12
13	FC岐阜	47	-8
14	ザスパ群馬	46	-3
15	松本山雅FC	43	-9
16	FC琉球	40	-16
17	カマタマーレ讃岐	38	-16
18	高知ユナイテッドSC	38	-20
19	AC長野パルセイロ	35	-28
20	アスルクラロ沼津	28	-17

※戦績表は82ページに掲載

J3得点ランキング

順位	選手名	チーム名	得点
1	橋本啓吾	テゲバジャーロ宮崎	25
2	澤上竜二	ヴァンラーレ八戸	12
2	土信田悠生	ツエーゲン金沢	12
2	島田拓海	FC大阪	12
2	富樫佑太	ガイナレ鳥取	12





JAPAN NATIONAL TEAM

Japan National Team would like to thank its partners for their support.

SAMURAI BLUE



©JFA/キリンチャレンジカップ2025 対ポリアビア代表戦 先発メンバー (2025.11.18)

JFA OFFICIAL TOP PARTNER



JFA OFFICIAL SUPPLIER



JFA MAJOR PARTNER



JFA NATIONAL TEAM PARTNER



My Coaching



ともぞう
長谷川 具三 さん
(ともぞうSC代表)

選手と対等に接することを心がけている



長谷川具三さん(写真左端)と長男でコーチを務める流星さん(左から2番目)。次女的美姫さん(写真右端)がベンチに入ることも

——クラブにご自身の名前をつけるのは珍しいケースだと思います。

長谷川 自分の名前にすればみんなに覚えてもらえると思ったのですが、漢字の「具三」だと誰も読めないの、ひらがなで「ともぞう」にしました。幸い皆さんはすぐ覚えてくれましたし、われわれのことを知らないチームはこの名前で少し油断するようです(笑)。

——指導方針について教えてください。

長谷川 ホンダルミノツ山に加入したとき、栃木県内のチームとの技術の差に驚きました。当時、栃木では「蹴って走る」サッカーが主流で、私もそういうスタイルしか知らなかったのですが、ホンダルミノツ山には静岡学園高校出身の選手もいて、シザーをしながらドリブルで抜いていくようなプレーをしていたんです。衝撃を受けました。その経験から栃木の子どもたちにも育成年代からテクニクをしっかりと教えて、県外に出ても驚かないようにしてあげたいと思ったのがベースにあります。テクニクを生かすためには相手の動きを見なければなりません。相手を見て判断するような、頭を使うトレーニングも取り入れています。フィジカルに恵まれていない選手が多いのですが、その分、頭を使って、テクニクで勝負するスタイルを目指しています。

——指導方法はどのようところで学ばれているのでしょうか。

長谷川 古い考えのままだと停滞してしまいますので、年代別日本代表のフィジカルコーチを務められていた津越智雄さん(現、V・ファレン長崎フィジカルアドバイザー)の指導法などいろいろなものを見て、新しいことを取り入れています。また、一緒にコーチをしている息子は現在25歳なのですが、大学でサッカーを学び、在学中に指導者Cライセンスを、卒業してすぐにBライセンスを取得して、今はともぞうSCや栃木県トレセンのコーチとして指導現場の第一線で活躍してくれています。私にとってはいろいろな助言をしてくれる良きアドバイザーですし、大会のときはともぞうSCに新しい戦術を提案し、それを浸透させています。

試合中はノーコーチング
選手たちに任せている

——選手と接する際に意識されていることを教えてください。

長谷川 子どもに対して決して上から目

県外の試合で驚かないように
テクニクをしっかりと教える

——長谷川さんがともぞうSCを設立した経緯を教えてください。

長谷川 高校卒業後、ホンダルミノツ山(埼玉)2011年をもって活動停止というセミアプロチームで7年間プレーし、そのあと地元の栃木SCで2年間プレーしま

栃木県宇都宮市で活動するともぞうSCは、昨夏のJFAパーモントカップ第35回全日本U-12フットサル選手権大会でベスト8入りを果たすなど、全国大会で存在感を発揮している。クラブの代表を務める長谷川具三さんに指導ポリシーを聞いた。

オンライン取材日・2025年10月29日

した。加入から2年目に選手としてプレーしながらスクールのコーチを務めるようになったのですが、3年目に入ろうというときに資金面の問題に直面し、それならば自分でサッカークラブを立ち上げようと考え、2002年にともぞうSCを設立しました。最初のスクール生は6人だけ。小学1年生が5人で、幼稚園の年長さんで入ってきた少年が現在、柏レイソルで活躍している手塚康平選手です。

線にならず、対等の立場で接するよう心がけています。息子をはじめコーチも何人かいますが、みんな子どもたちにとってはお兄ちゃんのような感じで、「同じ目線で接しています。また、コーチたちにはサングラスの着用やピアス、茶髪などはやめてもらっています。それらが悪いというわけではないのですが、影響されてしまう子が出てきてはいけませんので。身だしなみをきちんとするという意味では、以前はユニフォームもシャツに入れることを徹底させていました。夏場の猛暑下ではユニフォームの裾を出していると体温が1、2度下がるという分析結果があるようですので、今は個人の裁量に任せるようにしています。

——保護者との関係性において留意されていることはありますか。

長谷川 私は保護者と話をすべき立場ですが、他のスタッフは、保護者と深い話をさせないようにはしています。それは、子どもたちに自立を促すためです。全国大会に行くと、子どもたちと保護者の行動エリアを区切って、子どもたちだけで行動しなければならぬ場合もあります。そういった場面で自立した行動を取れるように、サッカーをやっているときはなるべく選手と保護者とのラインを引き、コーチに任せてもらうようにしています。保護者とコミュニケーションを取るべき場面では私が対応し、全体に共有するようにはしています。

——自立を促すために工夫されていることはありますか。

長谷川 まず、試合前のウォーミングアップは各自で自由にやらせます。みんなが集まったの準備体操はしません。私の現役時代の経験からくる部分もありますし、念入りにアツプすべき部分、足りない部分は人それぞれ違うと思いますからね。それが試合でのパフォーマンスに影響を与えることもありませんが、うまくいかなかった場合は何がいけなかったのかを話し合い、子どもたちが自身が工夫して改善するようにしています。また、試合中はノーコーチングです。

試合前に戦術について話したら、あとは選手たちに任せます。それで負けたとしても、選手たちは失敗を次への糧に思うので、試合中は静観しています。その分、練習ではボールの止めどころや相手を見てプレーできているかなど、かなり細かく指導しています。

——地域に寄り添いながら今まで以上に成長したい

冒頭で名前が挙がった手塚選手をはじめ、これまでにともぞうSCから4人のプロ選手が出ています。高い競技レベルを維持するための秘訣を教えてください。

長谷川 毎年のように全国大会に出場させていただいているので、各年代のチームがどこまでできるのかが分かるようになってきました。選手たちの能力を見極め、それに応じたトレーニングでレベルアップを図っています。戦術の基本となるのはハイプレスです。で、プレスの強度を高めることに

選手が育つように指導しています。

——クラブの展望をお聞かせください。

長谷川 設立から25年近くがたち、1期生は29歳から30歳の年齢になりました。彼らがクラブに戻って指導をしてくれるようになります。OBのお子さんがクラブに入るケースも出てきています。これからは地域に寄り添いながら、今まで以上に成長していければと考えています。

——今後、指導者として目指すところや夢を教えてください。

長谷川 私の子ども頃の夢は、サッカー選手になることとサッカーチームをつくることで、この二つを達成できました。今の夢は全国大会で優勝することと、自分たちのグラウンドをつくることです。そこで子どもたちに伸び伸びとサッカーをやらせてあげるためにも、より一層頑張らなければなりません。

——若い指導者や指導者への道に興味を持っている人へのメッセージをお願いします。

長谷川 指導者として成長するには、オーブンマインドであることが大切だと思います。時代に乗り遅れないよう、柔軟な考えを持つようにはしてください。その中で自分の信念を持ちながら指導し続けられれば、きっと何か大切なものを得られるはずです。



重点を置いて指導しています。一方、攻撃は選手たちの個性によって変えています。パスがうまい子がいたらパスを多用するスタイルになりますし、ドリブルがうまい子がいたら個人技でどんどん仕掛けていく。10人いれば10タイプの

人と人とのつながりを大事にして 富山県のサッカーを盛り上げていく

各都道府県サッカー協会(FA)で配置が進む「FAコーチ」。その活動にスポットを当てた連載企画第27回は、富山県サッカー協会の山口直哉FAコーチに話を聞いた。

○オンライン取材日・2025年12月18日

積極性やアイデア、工夫を引き出していききたい

——富山県サッカー協会(FA)のFAコーチに就任した経緯を教えてください。

山口 大学卒業後に富山県に移住し、YKK APサッカー部(現、カタレ富山)で20年近くプレーしました。現役引退後は、カタレ富山のトップチームのGKコーチやアカデミーで指導をしていたのですが、縁あって2020年1月に富山県FAの事務局長を務めることになりました。日本サッカー協会(JFA)がFAコーチの配置をスタートして以降、富山県FAでも適任者を検討する中で、私が指導者ライセンスを保持していること、富山県での選手としての経験、プロを指導していた経験などを踏まえて、技術委員長から声が掛かり、23年4月にFAコーチに就きました。

——就任以降、どのような活動を

してこれたのでしょうか。

山口 富山県FAには、技術委員長、ユースダイレクター、シニアチューター(指導者養成部会長)、FAコーチがそれぞれ配置されており、役割分担もできています。その中で、技術委員長からはトレセン活動と指導者養成を中心に、女子についても関わってほしいと言われていてます。特にトレセン活動では、県トレセンの全カテゴリーに顔を出し、トレーニング内容や選手との関わり方を見てアドバイスを送っています。国民スポーツ大会に向けた強化にも携わり、1年目は少年女子のコーチ、2年目は成年女子の監督を務めました。

富山県FAの皆さんは本業があり、仕事終わりや休日を中心にサッカーに関わっています。私は専任として動けますので、連絡事項の共有や事務作業などもできる限り対応するようにしています。

——FAコーチとして活動する中で感じられる富山県サッカー

の強みや弱みとは？

山口 真面目な人が多いですね。こちらが要求したことに対して一生懸命取り組んでくださいます。その一方で自分たちからアイデアや改善策を出していく形にはまだ至っていない印象を受けます。言葉を換えると、

失敗を恐れてしまうというか。例えば、指導者養成講習会の指導実践でも「私がやります」と積極的に手を挙げるのではなく、失敗したらどうしようとして少し引いた感じになってしまふ。積極性やアイデア、工夫を引き出すのも自分の役目だと認識しています。

主体的に賢く振る舞えるそんな選手を育てるために

——選手育成についてはいかがでしょうか。

山口 全国の優秀な選手が集まるナショナルトレセンで指導したり、視察したりすると、大都市圏の選手に比べて自分の特長を出し切れず、遠慮している印象があります。富山県からアンダーカテゴリー日本代表に選出される選手や、そこから先のフル代表につながる選手を輩出するためにも殻を破る指導者や選手を生み出していく必要性を感じています。

——選手育成の指針などはあるのでしょうか。

山口 技術委員会で検討を進め、22年に「Toyomas Way」という指針を掲げました。ボール保持の有無にかかわらず、自分たちからアクションを起こし、試合を優位に進めるために、主体的に賢く振る舞える

選手を育てていこうというものです。ただ、年々サッカーも変化していますので、アップデートしていかなければいけない時期に来ていると思っています。

——トレセン活動の現状を教えてください。

山口 県土が狭く、移動にあまり時間がかからないというメリットを生かして、県トレセンは平日の夜に開催しています。男子はU-11、16の各カテゴリー、女子はU-12、U-14、U-16と三つのカテゴリーに分け、県内のフットボールセンターを中心にそれぞれ月に1〜2回活動しています。

——県トレセンを視察する中で感じられることは？

山口 トレセンスタッフの人数が限られているせいか指導のマンネリ化も見られましたので、25年から3種のスタッフが4種を指導する、4種のスタッフが3種に関わるなどトレセンスタッフをローテーションさせました。それぞれのカテゴリーを担当することで、獲得すべき技術を落とし込んでもらったり、逆算して選手の成長を促したりすることができそうです。指導者が選手に要求する内容が変わり、トレーニングも活性化していますし、何より選手が生き生きとプレーする姿が見られるよ



富山県FAで活動する山口コーチ



指導者をローテーションさせながら県トレセンの充実を図っている

えています。

——トレセン活動の活性化が選手のレベルアップにつながってきます。

山口 雪国なので冬場は屋外で活動ができないこともあり

ます。26年から冬場の県トレセンの一環としてフットサルを取り組むことにしました。まずは男子のU13・14を対象に、フットサルのJFAコーチにも来てもらい、月2回フットサルでトレーニングする機会を創出します。今後選手がどう変わっていくかが楽しみです。

参加者と一緒の目線で指導者養成コースを実施

——指導者養成についても教えてください。

山口 私もチューターを務めており、県内の9人のチューターとも連携しながら指導者養成講習会を開催しています。25年度はCライセンスを2コース、Dライセンスを4コース開催し、Bライセンスコースも2年ぶりに開催することができました。C・Dライセンスは参加者が多数いますが、Bライセンスになると減ってしまうので、それが課題です。

——参加者を増やすために必要なことは？

山口 理由として、土日開催だと参加できない人が多いことが一つ。また費用面の負担に加え、Cライセンスさえ取得すれば良いという指導者が多いというのがあります。

指導者養成部会でもいろいろ意見を交わしており、対応策として、例えばCライセンスは平日の夕方から夜の開催に変更するなど、参加しやすいコースづくりを目指していますが、私自身も指導者養成講習会自体の魅力をもっと向上させていく必要があるなど、たくさんの方が受講したいと思えるコースにして上位ライセンスにもつなげていけるよう、今後も検討を重ねていきます。

——指導者養成全体で大事にしていることは何でしょうか。

山口 私が指導者ライセンスを取った頃は「このルールから外れたら不合格」という時代でしたが、今の指導者養成は違います。あるテーマに対して、どのように考え、どのようなゴール地点を設けていくかを、チューターがファシリテーターとして引き出す。サッカーの原理原則を踏まえつつ、〇か×ではなく、参加者の意図をくみ取りながら進めていくのがチューターの役割です。その内容を他のチューターとも共有し、参加者と一緒の目線に立つて

コースを進めていくことを意識しています。

——女子に関してどういったアプローチをされているのでしょうか。

山口 正直、自分にとって未知の領域だったのですが、県トレセンを中心に視察を行い、選手やトレセンスタッフと会話するうちに大きな伸びしろがあると感じました。分母が小さいカテゴリーですが、JFAなどでしこひるばなど地道な普及活動を続け、サッカーの楽しさを知って続けていく女の子を増やしたい。特に小学生では技術がある選手が多いので、中学校や高校に上がる段階でサッカーから離れないようにしていきたいですね。

——並行して女性指導者を増やす取り組みも重要になってきます。

山口 女性が女子選手を指導するメリットは大きいと思います。女性指導者を増やすために、女性だけのDライセンスコースを設けました。また、高校生など若年層からライセンスを取得できる仕組みになったので、高校女子サッカー部での指導者養成講習会の実施などに今後トライしていきたいと考えています。

——最後に、富山県のサッカーをさらに発展させていくために必要なことは何でしょうか。

山口 富山県FAでは2年に1回、指導者を対象にフットボールカンファレンスを開催しており、26年1月下旬に第9回を開催する予定です。そうした場で指導者に刺激を与えられればと思いますし、私自身は人と人とのつながりが大事だと思っていますので、サッカー談議を通して富山県のサッカーを一緒に盛り上げていければと考えています。子どもたちや選手たちと接するのは指導者です。指導者の成長が欠かせません。引き続き指導者と対話し、自分自身もヒントを得ながら、みんなで協力して進めていければと思います。



富山県FAでは女子も含めて普及活動を積極的に推進している。山口コーチは「サッカーを好きになる子どもたちが増えれば」と思いを語る

2015年の1月にオーストラリアでAFCアジアカップが行われたとき、メルボルンの「レクタンギュラー・スタジアム」で面白い光景に出合い、目を奪われました。

夜のゲームだったのですが、たくさんのカモメがプレー中のスタジアム内を低空で飛び回り、ときにプレーが行われていないエンドのピッチに何十羽もが舞い降りてしまうのです。プレーが近づいてくるといっせいに飛び立ち、逆のエンドに逃げていきま

す。しかし照明の下で緑に輝く芝が好きなのか、飛び去る気配はありません。

試合は準々決勝進出をかけたウズベキスタン×サウジアラビア。カモメなど気にしているヒマはないとばかりに、選手たちがまったく意に介さず、プレーに集中していたのにも感心しました。

「メルボルンは海に近く、スタジアムのすぐ南に海につながる大きなヤラ川が流れていて、それに沿ってカモメが飛んでくる。しょっちゅうこんな状況になるんだよ」

オーストラリア人の記者に聞くと、そんな解説をしてくれました。

さて、それから約2年後の2016年11月、このスタジアムでオーストラリアのFFAカ

いつも心に

連載 Vol.153

大住良之 リスペクト

(サッカージャーナリスト)



カップファイナルの激闘の中で

プの決勝戦が開催されました。日本であれば天皇杯の決勝戦です。「メルボルン・シテイ×シドニーFC」。この国を代表するビッグクラブ同士の対戦で、試合は白熱しました。

「事件」が起きたのは、メルボルンがFWティム・ケイヒルのヘディングシュートで先制した直後の後半13分でした。自陣でボールを保持したシドニーはゆつくりとビルドアップを始め、右センターバックのセバスチャン・ライオールが左にパス。そのボールが、芝生を歩いて餌を探していたカモメを直撃してしまつたのです。

ボールは味方に渡り、シドニーが攻撃を展開しようとしています。しかしそのとき、GKのダニー・ヴコヴィッチが両手を挙げて何かアピール。ボールに当たつたカモメが倒れたままだったのです。両チームのプレーの緊張が一瞬緩み、それを見たピーター・グリーン主審が笛を吹いて試合を止めます。

するとヴコヴィッチはグローブをはめたままの両手でカモメをそっと抱えると、小走りにタッチラインまで走っていきます。補助役員が受け取ろうと走り寄りますが、ヴコヴィッチはそれを制し、自分でタッチライン外の安全なところまで運んで芝生の上

にやさしく横たえたのです。

観客席からは、メルボルンのサポーターたちの間からも、盛大な拍手が送られます。そしてヴコヴィッチがポジションにつくと、グリーン主審はドロップボールで試合を再開しました。

前半から劣勢だったシドニー。ついに失点を喫し、チームとしては反撃に出なければならぬ時間でした。「カップファイナル」、1年に何度もない重要な試合です。その激闘のさなかの、小さな命を優先する心温まる光景。ヴコヴィッチが両手でカモメを大事そうにもって走る姿に、誰もがほほ笑んだ時間でした。

ダニー・ヴコヴィッチはシドニー出身。オーストラリアだけでなくトルコやベルギーの強豪クラブでプレーし、オーストラリア代表歴もあるゴールキーパーです。2014年3月には、シーズンオフとなったオーストラリアから当時J1のシズン中だったベガルタ仙台に移籍。しかしJ1リーグの出場はかなわず、ナビスコカップの2試合（アウェイ清水戦とホームFC東京戦）に出場しただけで、5月に帰国しました。

多くの人から称賛を浴びました。そしてこの決勝戦は、「メルボルン、カモメの決勝」として今でも語り継がれているそうです。

新しい年、2026年を迎えました。この一年が、笑顔と幸福感に満ちた、素敵な「サッカーの年」になりますように！

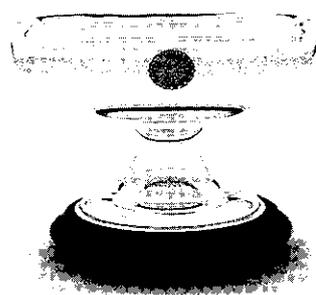


海に近いスタジアムを飛び交うカモメたち。ゴールを守るヴコヴィッチがカモメの命も守った試合は今も語り継がれている

カモメは、本部の役員がやさしくさすっている間に回復し、試合半ばで飛び立って仲間のもとに帰っていったそうです。重要な試合の白熱した状況の中でも人間的な優しさを失わず、プロサッカー選手というより一人の人間として行動したヴコヴィッチは、



JFAの所蔵品から ひもとく 日本サッカーの歴史



1948年7月に下賜された天皇杯。1951年から全日本選手権の優勝チームに授与されることに(写真は1966年に新たに下賜されたもの)

■日本最高とされていた 東西両学生リーグ対抗戦

天皇杯JFA第105回全日本サッカー選手権大会はFC町田ゼルビアがクラブ創設37年目にして初優勝を収め、キャプテンの昌子源選手が国立競技場(東京)のピッチで高々と純銀製の天皇杯を掲げた。

天皇杯全日本サッカー選手権大会の前身となるのはア式蹴球全国優勝競技会(以下、全日本選手権)だが、1948年に初めて下賜された天皇杯を獲得したのは、同年の東西両学生リーグ対抗戦(以下、東西対抗戦)覇者の早稲田大学だった。

24年1月に関西専門学校ア式蹴球リーグ(現、関西学生リーグ)が、同11月にア式蹴球東京コレツジリーグ(現、関東大学サッカーリーグ)がスタート。当時は大学サッカーが日本サッカーのリーダ的存在だったため、真の王者

天皇杯

文・JFAコミュニケーション部 藤ノ木 恵

を決する大会が必要との機運が高まり、29年から東西対抗戦が始まった。

翌30年に日本で開催された第9回極東選手権で初めて全日本選抜が編成され、東京帝国大学や早稲田大学などの大学生選手が選出された。34年の第10回極東選手権、36年のベルリンオリンピックチームも東西対抗戦で3連覇していた早大を中心とした選手で編成された。全日本選手権は大日本蹴球協会が設立した21年から始まっていたが、当時は大学が日本サッカーを支えており、リーグ戦王者同士の東西対抗戦の勝者こそが国内最強チームと位置づけられていたのである。37年に日中戦争が始まり、欧州では39年に第二次世界大戦が勃発。41年に入ると各種大会が軒並み中止となる。同年12月に日本は米英に対して宣戦布告

多くの学生が戦争に駆り出され、サッカーを行う状況ではなくなった。

■天皇杯下賜

45年に戦争が終わると、約半年後の46年2月には早くも東西対抗戦が再開された。5月には全日本選手権も復活し、「復興第1回全日本蹴球選手権大会」と銘打って行われた。

翌47年4月3日に、駐留アメリカ軍に接収され「ナイルキニックススタジアム」と呼ばれていた明治神宮競技場で行われた東西対抗戦を昭和天皇と明仁皇太子(現、上皇陛下)が観戦された。試合後、昭和天皇は選手らに「本日は良い試合を見せてもらってありがとう。戦後日本の復興発展はスポーツ精神の振興によるもの多大と思う。しっかりとやってほしい」と激励された。これを機に天皇杯が下賜されることになり、その翌年の7月に日本蹴球協会の高橋龍太郎会長が宮内府(現、宮内庁)に赴き、賜杯を受け取った。戦後、団体競技に下賜された天皇杯としては初めてのもので、前述の通り、東西対抗戦の優勝チームに授与された。

■全日本選手権優勝チームに 天皇杯

全日本選手権の優勝チームに

天皇杯が与えられるようになったのは、51年の第31回大会からで、大会名にも「天皇杯」が冠された。この頃から実業団チームが台頭して大学と拮抗するようになり、大学サッカーが「最高レベル」とは言えなくなった。また、日本蹴球協会も全日本選手権を国内最高峰の大会と位置づけた。

65年には日本サッカーリーグ(JSL)が発足し、この年の第45回から第51回大会までJSLと大学の代表チーム8チームによるノックアウト方式になる。66年には新しい天皇杯が下賜された。67年の第47回大会からは主催場が国立競技場に固定(2013年第93回大会)。さらに、次の第48回大会から決勝が元日開催となり、新年の風物詩となった。

72年の第52回大会で地域予選を実施。翌年には47都道府県大会と地域大会を実施して本格的なオープン化に踏み切った。参加チームは前年度の75チームから807となり、決勝大会は26チームが出場。93年のJリーグ開幕以降はプロとアマチュアが力を競うようになり、ジャイアントキリングなど新たな見どころも生まれる。96年の第76回大会から第2種チームにも門戸を広げ、決勝大会の出場枠は80に。第77回大会の予選には6千を超えるチームが参加した。2002年の第82回大会には国見高校(長崎)が、第83回大会でも市立船橋高校(千葉)

が予選大会を突破し、決勝大会で3回戦に進出する大健闘を見せた。2015年の第95回大会からは参加資格を従来の「第1種」に戻し、現在に至る。

■名実ともに日本最高峰の 国内大会に

初めて天皇皇后両陛下(現、上皇皇后陛下)のご臨席を仰いだのは99年の第79回大会で、両陛下は国立競技場で行われた名古屋グランパスエイト(当時)対柏レイソルの準決勝を観戦された。2019年度の第99回大会の決勝は、この年に完成した国立競技場のこけら落としを兼ね、同競技場初のスポーツイベントとして開催。第100回大会はJFA創設100周年の記念行事として行われるはずだったが、コロナ禍の影響でチーム数の削減や日程変更、感染対策など難しさが取りを迫られた。それでも観客数の制限なしで行われた第101回大会の決勝にはコロナ禍後の国内主要スポーツ行事では最多となる5万7785人の観客が来場した。

戦争や自然災害、感染症の流行といった不測の事態に直面しながらもそのたびに困難を乗り越えてきた天皇杯全日本サッカー選手権大会。燦然と輝く賜杯に数々の名勝負と感動的なドラマが刻まれている。

●出典:『日本サッカー協会百年史』
『天皇杯六十五年史』

日本サッカー協会

<https://www.jfa.jp/>

日本代表 2026年間スケジュールを発表

JFAは2025年12月19日、東京都内のホテルで2026年の日本代表各カテゴリーの年間スケジュールを発表した。

同日、JFAは年間スケジュールを発表するとともにトークセッションを開催。JFAオフィシャルトップパートナーであるキリンホールディングス株式会社から南方健志代表取締役社長COO（最高執行責任者）を招き、宮本恒靖JFA会長、森保一-SAMURAI BLUE（日本代表）監督とトークを繰り広げた。

2026年はFIFAワールドカップが6月から7月にかけて開催される。SAMURAI BLUE（日本代表）は3月に始動し、海外遠征を実施してイングランド代表と対戦。大会直前の5月31日には、国立競技場（東京都）でキリンチャレンジカップ2026が開催され（P33～34参照）、同大会を経て現地入りする。

大会後の9月にキリンチャレンジカップ2026が2試合、10月にはキリンカップサッカー2026が4年ぶりに行われる。キリンホールディングスの南方社長は、1978年からオフィシャルパートナーとして日本サッカーおよびサッカー日本代表を応援し続けてきたことに触れ、「当初はサッカーが日本でまだ注目されてない時期で冬の時代と言われた時期もあった。SAMURAI BLUEは今や間違いなく、世界の強豪国の一つ。良い時も苦しい時も、長きにわたって同じ夢を追い続け、共に歩み続けられてきたことを光栄に思っている」と話し、「ワールドカップで最高の景色を見るために日本中で応援の輪を広げ、SAMURAI BLUEの活躍を後押しするうねりをつくっていききたい」と引き続きのサポートを約束した。

宮本会長は同社のサポートに感謝を伝え、「ワールドカップに向けて



左からトークセッションに登壇した宮本会長、森保監督、南方社長

しっかりと準備し、最高の景色を見に行く。サッカーファミリーもその周りにいる人々も、たくさんの人を巻き込んでSAMURAI BLUEの試合を見てもらい、ワールドカップを楽しんでもらいたい。2026年も皆さんと一緒に日本サッカーを盛り上げていく」とコメント。監督として自身2度目のワールドカップに挑む森保監督は、「ワールドカップでは皆さんに喜んでもらえるような熱い戦いをし、勝利を目指す。日本一丸となってわれわれの戦いに共感、共鳴、そして共闘してもらいながら、世界一をつかみ取り、みんなで喜びたい」と意気込みを語った。

■日本代表 2026 年間スケジュール

https://www.jfa.jp/national_team/schedule2026.pdf

JFA こころのプロジェクト、「エコプロ2025」に出展

JFAは「JFAこころのプロジェクト」の活動を多くの人々に広く知ってもらうため、2025年12月10日から12日に東京ビッグサイトで行われたSDGs Week EXPO 2025「エコプロ」に出展した。エコプロステージでは、JFAこころのプロジェクトで夢先生を務める永島昭浩氏と協賛企業であるきらぼし銀行の担当者が登壇し、「『夢の力』が、子どもと企業の未来を照らす～JFAと考える“持続可能なESG経営”の在り方」をテーマにトークを繰り広げた。

【エコプロ2025】出展情報

開催日 : 2025年12月10日（水）～12日（金）
場所 : 東京国際展示場東京ビッグサイト
ブース内容 : 「夢の教室」の紹介、実際の授業の様子や「夢シート」などを紹介

SDGsの取り組み: JFAは創立100周年を迎えた2021年以降、社会貢献やSDGsの達成につながる活動を「アスパス!」と称して、重点領域とする「環境」「人権」「健康」「教育」「地域」に戦略的に取り組んでいる。サッカーの力とサッカーファミリ

ーの協力を得ながら社会課題の解決と持続可能な社会の実現に向けた取り組みを推進。上記5つの重点領域の中の「教育」において「夢の教室」を実施している。

【エコプロステージ】出演情報

開催日 : 2025年12月10日（水）
登壇者 : 永島昭浩氏、きらぼし銀行担当者、〔ファシリテーター〕朝日広告社 平川慶一氏
テーマ : 「夢の力」が、子どもと企業の未来を照らす～JFAと考える“持続可能なESG経営”の在り方
内容 : 「一人でも多くの子どもたちに夢の素晴らしさを伝えたい」という思いで発足したJFAこころのプロジェクト『夢の教室』。子どもの夢を支え、未来へのバトンをつなぐことは、今の社会を担うわれわれが取り組むべき課題。本講演では「元サッカー日本代表永島昭浩のデモ授業」を通して、CSR活動や人材採用・育成といった経営課題に活用できる“JFAメソッド”を体験してもらう。

第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会の大会協賛社が決定

第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会（2025年12月29日～2026年1月11日開催）において、ダイハツ工業株式会社、株式会社ナイキジャパン、株式会社マイナビ、株式会社モスフードサービス、加茂商事株式

会社、花王株式会社、株式会社ローソンエンタテインメントの協賛が決定した（2025年12月9日発表）。JFAは各社と共に高校女子サッカー界の日本一を決める大会を盛り上げていく。

皇后杯JFA第47回全日本女子サッカー選手権大会、株式会社SCOグループが決勝協賛社に決定

女子サッカー日本一を決する皇后杯JFA第47回全日本女子サッカー選手権大会の決勝を株式会社SCOグループが協賛することが決定した(2025年12月15日発表)。

同社は2024年から天皇杯 JFA 全日本サッカー選手権大会を特別協賛している。男子選手だけでなく、女子選手もライフステージに左右されることなく競技を続けられるよう、教育や育成環境の整備を推進することを目的に、今回初めて皇后杯決勝の協賛が実現した。

●SCOグループ:

テクノロジーで「105年活きる」を創造する」をビジョンに掲げ、歯科医療の未来を支える次世代の運用オペレーションシステムの開発・提供を行っている。全国の歯科医院に対して、キャッシュレスの導入支援、業務効率化、医療機器の調達支援など、多角的かつ実践的なソリューションを展開することで、歯科医師や歯科衛生士、スタッフが患者のためにその専門性を最大限に発揮できる環境づくりを支援。さらに、スポーツへの参画や支援活動にも積極的に取り組み、人々に「いきがい」や前向きな生き方を届けることで、心と身体の両面から健康を支える持続可能な社会の実現を目指している。

JFAが「HEROs AWARD 2025」を受賞

昨年12月5日、JFAが「HEROs AWARD2025」を受賞した。HEROs AWARDは日本財団が主催しているもので、社会の課題解決に挑むアスリートと団体を表彰・支援する制度。トップアスリートの発想と行動力で実現した成果を評価・発信し、新たなリーダーと具体的な活動を生み出すことを目的としている。JFAは、社会貢献活動のロールモデルとして同賞を受賞した。

2024年1月の能登半島地震発生後、JFAは多くの人々と手を携え、2025年11月時点で198回、延べ629人のアスリートが参加し、被災地の子ども約16,000人の心のケアをサポートする活動を行ってきた。JFAは今後も、被災地のニーズに沿った支援活動を続けていく。

●永島昭浩JFAリスペクト委員会防災・復興支援部会会長 コメント

このような素晴らしい賞をいただき、ありがとうございます。サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、人々の心身の健全な発達と社会の発展に貢献するというJFAの理念が(社会貢献活動の)真ん

中にあります。その中で、能登半島地震発生直後には、サッカー日本代表の森保一監督がオンラインで交流に参加してくれました。プレー面が目されるスポーツではありますが、代表監督が率先してそのように取り組んでくれることを私は本当にうれしく思っています。

●森保一 SAMURAI BLUE監督 コメント

サッカー日本代表の活動を通して、多くの人々に励ましの言葉を掛けたり、コミュニケーションを取ったりすることで、元気になってもらいたいという思いを常に抱いてきました。また、苦しんでいる人々に「ここからまた立ち上がれるよ」「立ち上がって、また前を向いて前進できることを信じているよ」という私の思いも伝えたいと思っています。

■HEROs AWARD 2025 受賞一覧

<https://sportsmanship-heros.jp/about/award/>



なでしこジャパン、再び世界一へ!

#未来のなでしこ育成プロジェクトが「クラウドファンディングアワード2025」スポーツ部門・年間大賞を受賞

JFAクラウドファンディング「なでしこジャパン、再び世界一へ! #未来のなでしこ育成プロジェクト」が「クラウドファンディングアワード2025 by CAMPFIRE」のスポーツ部門・年間大賞を受賞した(2025年12月18日発表)。

同アワードは、国内最大級のクラウドファンディングプラットフォーム「CAMPFIRE」を運営する株式会社CAMPFIREが主催するもので、クラウドファンディングを通じて生まれた「挑戦」を称える年間表彰企画。

スポーツ部門やクリエイティブ表現部門、ライフスタイル部門、地域拠点部門など10の部門と10の表彰部門が設けられており、対象期間内の約14,000件のプロジェクトの中から、上半期ベスト100件、下半期ベスト100

件が選出され、さらにその中から10組の年間大賞受賞者が発表された。

●佐々木則夫JFA女子委員長 コメント

クラウドファンディングアワード2025スポーツ部門・年間大賞に選出いただき、大変うれしく思います。本プロジェクトは、U-16/U-17/U-19日本女子代表の「強化・育成費用」のさらなる充実を目指すことに賛同いただいた多くの人々の支援により、目標金額を達成することができました。この場をお借りして、あらためて御礼を申し上げます。未来のなでしこジャパン入りを目指す若い選手たちが、これからも輝き続けられるよう、今後とも変わらぬご支援のほどよろしくお願いたします。

SAMURAI BLUE(日本代表)

<https://www.jfa.jp/samuraiblu/>



3月にイングランド代表と国際親善試合で対戦

SAMURAI BLUE(日本代表)が3月31日、イングランドのウェンブリー・スタジアムでイングランド代表と国際親善試合を行うことが決定した。開

催概要は次ページの通り(2025年12月10日発表)。

JFAリリースインフォメーション&活動報告

【開催概要】

試合日 : 2026年3月31日(火)
 キックオフ: 現地時間19:45(日本時間4月1日 3:45)
 会場 : ウェンブリー・スタジアム(イングランド/ロンドン)
 対戦 : イングランド代表 対 SAMURAI BLUE(日本代表)
 テレビ放送: 調整中

●森保一SAMURAI BLUE監督 コメント

世界でもトップクラスの実力と実績を誇るイングランド代表と、サッカーの聖地と呼ばれるウェンブリー・スタジアムで試合ができることをとてもうれしく思います。マッチメイクに尽力いただいた全ての関係者に感謝申し上げます。FIFAワールドカップ2026の組み合わせも決まり、

より具体的に本大会に向けてのシミュレーションとチーム強化を図り、トップオフトップの相手にも勝利を目指して戦いたと思います。また、日頃からヨーロッパのトップレベルのリーグでプレーしている日本代表選手たちのこれまでの活躍があってこそ、こういったクオリティの高い相手とアウェイでの対戦が実現するものだと感じています。選手たちのこれまでの活躍にも敬意を示すとともに、さらにチーム力の積み上げを目指します。

※参考: イングランド代表 関連データ

- ・FIFAランキング(2025年11月20日更新): 4位
- ・過去の対戦成績: 日本の0勝1分け2敗(3得点5失点)

なでしこジャパン(日本女子代表)

<https://www.jfa.jp/nadeshikojapan/>



6月に大阪府で国際親善試合を開催

JFAは6月6日、大阪府のヨドコウ桜スタジアムでなでしこジャパン(日本女子代表)の国際親善試合を開催する(2025年12月19日発表)。

【開催概要】

日時 : 2026年6月6日(土) キックオフ時間調整中
 対戦カード: なでしこジャパン(日本女子代表) 対 対戦国調整中
 会場 : 大阪/ヨドコウ桜スタジアム

主催 : 公益財団法人日本サッカー協会
 主管 : 一般社団法人大阪府サッカー協会
 JFAオフィシャルトップパートナー: キリンビール株式会社、
 キリンビバレッジ株式会社
 JFAオフィシャルサプライヤー : アディダス ジャパン株式会社
 テレビ放送: 調整中

フットサル日本代表

https://www.jfa.jp/national_team/futsal_2026/



11月に大分県で国際親善試合を2試合開催

JFAは11月6日と8日、大分県のクラサス武道スポーツセンターでフットサル日本代表の国際親善試合を開催する(2025年12月19日発表)。

【開催概要】

日時 : 2025年11月6日(金)および11月8日(日) キックオフ時間調整中
 対戦カード: フットサル日本代表 対 対戦国調整中

会場 : 大分/クラサス武道スポーツセンター
 主催 : 公益財団法人日本サッカー協会
 主管 : 一般社団法人大分県サッカー協会
 JFAオフィシャルトップパートナー: キリンビール株式会社、
 キリンビバレッジ株式会社
 JFAオフィシャルサプライヤー : アディダス ジャパン株式会社
 テレビ放送: 調整中

日本プロサッカーリーグ(Jリーグ)

<https://www.jleague.jp/>



鹿島アントラーズが日本プロスポーツ大賞「特別賞」を受賞

2025年12月17日、2025年度第55回内閣総理大臣杯日本プロスポーツ大賞の授賞式が東京都内で開催され、鹿島アントラーズが特別賞を受賞した。

●2025年度第55回内閣総理大臣杯
 日本プロスポーツ大賞 受賞者一覧
<https://jpsa.jp/award2025.html>



2026年6月期予算

Jリーグは2025年12月15日開催の社員総会で翌事業年度(2026年6月期)の予算を承認した。なお、シーズン移行に伴う決算期変更のため、翌事業年度は6カ月の変則決算となっている。

■2026年6月期予算 (単位:百万円)

科目	2025年12月期予算 (12カ月)	2026年6月期予算 (6カ月)
受取会費	1,400	700
協賛金収益	6,600	3,888
Jリーグ主管試合入場料収益	305	160

科目	2025年12月期予算 (12ヵ月)	2026年6月期予算 (6ヵ月)
公衆送信権利収益	21,916	10,959
映像事業収益	845	369
商品化事業収益	366	177
その他	1,395	1,144
経常収益計	32,828	17,397
①事業費	33,367	21,157
リーグ運営経費	3,796	4,137
クラブへの配分金	12,610	6,519
放送局対応費	1,941	1,092
ファン拡大施策費	1,601	1,346
ローカル露出戦略投資	1,105	784
映像事業費用	627	272

科目	2025年12月期予算 (12ヵ月)	2026年6月期予算 (6ヵ月)
その他	11,688	7,008
②管理費	971	539
経常費用計(①事業費+②管理費)	34,338	21,696
当期経常増減額	▲ 1,510	▲ 4,300
当期経常外増減額	0	0
当期一般正味財産増減額	▲ 1,510	▲ 4,300
一般正味財産期首残高	10,303	11,278
一般正味財産期末残高	8,792	6,978
指定正味財産期首残高	27	18
指定正味財産期末残高	27	18
正味財産期末残高	8,819	6,996

※ 百万円未満を四捨五入。端数調整なし。

2026/27シーズンからのホームグロウン制度

Jリーグは2026/27シーズンからのホームグロウン制度について、下記の通り、理事会で決議した(2025年12月15日発表)。

2026/27シーズンからのホームグロウン制度

2026/27シーズンより、以下の形式とする(下線が変更点)

	2026特別シーズンまで	2026/27シーズンから
登録基準	登録義務として各クラブ J1: 4名 J2: 2名 J3: 2名	登録推奨基準として各クラブ J1: 4名 J2: 2名 J3: 1名
登録基準に達しない場合の対応	不足人数分「A契約枠」を減じる	なし

	2026特別シーズンまで	2026/27シーズンから
ホームグロウンに関する表彰	なし	ホームグロウン表彰(仮称)を新設 ・HG選手の出場時間をカウント ・クラブの所属カテゴリー内の順位等に応じた表彰を実施
ホームグロウンの定義(期限付移籍時の扱い)	期限付移籍された期間は、期限付移籍元のJクラブの育成期間に算入	期限付移籍された期間は、期限付移籍先のJクラブの育成期間に算入

※本変更に関する補足

・ホームグロウンの定義において、AFCチャンピオンズリーグでは「15歳から21歳」を育成期間としているが、Jリーグでは3種年代の育成も重要視するため「12歳から21歳」のままとし、差異があることに留意する必要がある。

明治安田J2・J3リーグにおけるU-21選手の出場奨励金

2025シーズンの明治安田J2・J3リーグにおけるU-21選手の出場奨励金の支給対象クラブは下記の通り(2025年12月15日発表)。

奨励金支給対象クラブ(4クラブ) ※出場時間順

J2: いわきFC、FC今治、レノファ山口FC

J3: 松本山雅FC

U-21選手の出場時間

J2	出場時間	J3	出場時間
いわき	4,928	松本	4,363
今治	4,877	岐阜	2,948
山口	3,598	福島	2,926
札幌	3,127	群馬	2,841
大宮	2,565	北九州	2,818

J2	出場時間	J3	出場時間
水戸	1,846	鳥取	2,621
鳥栖	1,834	讃岐	2,284
熊本	1,272	宮崎	1,528
甲府	1,201	琉球	1,256
長崎	954	奈良	1,144
磐田	575	長野	1,038
愛媛	549	相模原	769
富山	478	高知	648
仙台	411	鹿児島	426
千葉	161	栃木SC	381
藤枝	124	沼津	171
大分	54	八戸	0
秋田	7	栃木C	0
山形	0	金沢	0
徳島	0	FC大阪	0
総計	28,561	総計	28,162

基準値: 年間3,420分以上(90分×38試合)

プロ契約締結の年齢制限変更

プロ契約を締結できる年齢制限の変更について右記の通り決定した(2025年12月15日発表)。本変更はJFA「プロサッカー選手の契約、登録および移籍に関する規則」に関するものであり、Jリーグ理事会における方針決議の後、JFA理事会にて正式に決議される。

変更の内容

2026年4月1日より、プロ契約を締結できる年齢制限について以下の通り変更する。

- ・変更前: 満16歳以上
- ・変更後: 満15歳に達した日以後の最初の4月1日以降

欧州キャンプ助成金制度の新設および対象クラブ

Jリーグは、Jクラブが2026/27シーズン以降、開幕前のキャンプを欧州で実施する場合において、新たに欧州キャンプ助成金制度を設けることを決定し、対象クラブを確定した(2025年12月15日発表)。

制度趣旨

・欧州クラブがJクラブの選手を認知することによる、選手およびJリーグ

自体の価値向上

- ・Jクラブが欧州スタンダードを認識し、プレー面やビジネス面で比較を行える機会の創出
- ・Jクラブによる欧州クラブの選手獲得に向けた、スカウティング機会の創出
- ・スタッフ間のネットワーク拡大による、欧州クラブの情報収集やスタッフの知見を蓄積する機会の創出

■制度概要

(1)助成金額

- ・2026/27シーズン(開幕前):1クラブ最大1,250万円(最大5クラブ程度を想定)
- ・2027/28シーズン(開幕前)以降:1クラブ最大1,000万円(最大7クラブ程度を想定)

(2)制度期間

- ・5年間で予定(2026/27シーズン開幕前から2030/31シーズン開幕前まで)
- ・5年間で1クラブ最大3回まで実施可能。ただし、2回目以降は最大助成金額を250万円ずつ減ずる

(3)主な条件

- ・対象はトップチームが実施する、シーズン開幕前の欧州キャンプに限定する
- ・対象クラブは実施計画、欧州キャンプを契機としたクラブ成長のための取り組み、各種協力内容(他クラブへの実施報告や視察受け入れ、取材・撮影協力など)をふまえ決定する

■2026/27シーズン(開幕前)助成対象クラブ

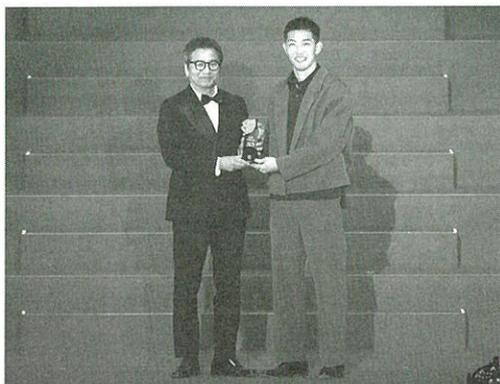
清水エスパルス、ガンバ大阪、ファジアーノ岡山、V・ファーレン長崎

2025Jリーグアウォーズ各賞受賞者が決定

Jリーグは昨年12月22日に2025 Jリーグアウォーズを横浜アリーナ(神奈川県)で開催し、各賞の受賞者を表彰した。また、J2とJ3リーグの各賞受賞者もそれぞれ12月22日、24日に発表した。

<2025Jリーグアウォーズ受賞一覧>

表彰	Pos.	受賞者・クラブ名	所属クラブ	受賞回数
最優秀選手賞	GK	早川 友基	鹿島アントラーズ	初
ベストイレブン	GK	早川 友基	鹿島アントラーズ	初
	DF	植田 直通	鹿島アントラーズ	初
	DF	古賀 太陽	柏レイソル	初
	DF	荒木 隼人	サンフレッチェ広島	初
	MF	小泉 佳穂	柏レイソル	初
	MF	稲垣 祥	名古屋グランパス	2
	MF	田中 聡	サンフレッチェ広島	初
	FW	レオ セアラ	鹿島アントラーズ	初
	FW	相馬 勇紀	FC町田ゼルビア	初
	FW	伊藤 達哉	川崎フロンターレ	初
FW	ラファエル エリアス	京都サンガF.C.	初	
得点王	FW	レオ セアラ	鹿島アントラーズ	初
最優秀ゴール賞	FW	レオ セアラ	鹿島アントラーズ	初
ベストヤングプレーヤー賞	MF	佐藤 龍之介	ファジアーノ岡山	-
優勝監督賞		鬼木 達	鹿島アントラーズ	5
優秀監督賞		リカルド ロドリゲス	柏レイソル	2
フェアプレー賞 高円宮杯		ヴィッセル神戸		2
フェアプレー賞		ヴィッセル神戸、サンフレッチェ広島、アルビレックス新潟		※反則ポイントが少ない順に記載
フェアプレー個人賞	GK	前川 黛也	ヴィッセル神戸	2
	GK	大迫 敬介	サンフレッチェ広島	3
最優秀主審賞		荒木 友輔		初
		三原 純		初
最優秀育成クラブ賞		FC東京(2025年12月25日発表)		5回目
功労選手賞		青山 敏弘、伊東 輝悦、イ ヨンジエ、柿谷 曜一朗、興梠 慎三、高萩 洋次郎、豊田 陽平、本間 幸司、丸橋 祐介、森脇 良太、山瀬 功治、ランゲラック		
功労審判員賞		西村 雄一、武田 光晴		
功労賞		今年度該当なし		
チェアマン特別賞		セルジオ越後、ラモス瑠偉、木村 和司		



2025 Jリーグ最優秀選手賞は早川友基選手が受賞

<2025 J2リーグ受賞一覧>

表彰	Pos.	受賞者・クラブ名	所属クラブ	受賞回数
最優秀選手賞	MF	マテウス ジェズス	V・ファーレン長崎	初
ベストイレブン	GK	田中 颯	徳島ヴォルティス	初
	DF	飯田 貴敬	水戸ホーリーホック	初
	DF	大森 渚生	水戸ホーリーホック	初
	DF	市原 吏音	RB大宮アルディージャ	初
	DF	山田 奈央	徳島ヴォルティス	初
	MF	高嶺 朋樹	北海道コンサドーレ札幌	初
	MF	齋藤 俊輔	水戸ホーリーホック	初
	MF	マテウス ジェズス	V・ファーレン長崎	2
	MF	山口 瑩	V・ファーレン長崎	初
	FW	渡邊 新太	水戸ホーリーホック	初
FW	マルクス ヴィニシウス	FC今治	初	
得点王	MF	マテウス ジェズス	V・ファーレン長崎	初
最優秀ゴール賞	MF	齋藤 俊輔	水戸ホーリーホック	初
		第29節 9月13日(土)仙台 vs 水戸(ユアスタ)17分		
優勝監督賞		森 直樹	水戸ホーリーホック	初
優秀監督賞		高木 琢也	V・ファーレン長崎	初
フェアプレー賞		カタレ雷山、愛媛FC、ロアッソ熊本		※反則ポイントが少ない順に記載
フェアプレー個人賞	GK	林 彰洋	ベガルタ仙台	2
	DF	松田 佳大	レノファ山口FC	初
	MF	藤井 皓也	ロアッソ熊本	初

<2025 J3リーグ受賞一覧>

表彰	Pos.	受賞者・クラブ名	所属クラブ	受賞回数
最優秀選手賞	FW	橋本 啓吾	テゲバジャーロ宮崎	初
ベストイレブン	GK	大西 勝悟	ヴァンラーレ八戸	初
	DF	藪田 広大	ヴァンラーレ八戸	初
	DF	マテイ ヨニッチ	栃木シティ	初
	DF	辻岡 佑真	ギラヴァンツ北九州	初
	MF	城定 幹大	福島ユナイテッドFC	初
	MF	岡庭 裕貴	栃木シティ	初
	MF	西谷 和希	ツエーゲン金沢	初
	MF	奥村 晃司	テゲバジャーロ宮崎	初
	FW	澤上 竜二	ヴァンラーレ八戸	初
	FW	田中 ハウロ淳一	栃木シティ	初
得点王	FW	橋本 啓吾	テゲバジャーロ宮崎	初
最優秀ゴール賞	FW	近藤 慶一	鹿児島ユナイテッドFC	初
		第7節 3月30日(日)宮崎 vs 鹿児島(いちご)90+8分		
優勝監督賞		今矢 直城	栃木シティ	初
優秀監督賞		石崎 信弘	ヴァンラーレ八戸	2
フェアプレー賞		福島ユナイテッドFC、AC長野パルセイロ、高知ユナイテッドSC		※反則ポイントが少ない順に記載
フェアプレー個人賞	GK	佐藤 久弥	FC琉球	初
	DF	マテイ ヨニッチ	栃木シティ	初
	DF	秋山 拓也	FC大阪	初



2025J2リーグ最優秀選手賞を受賞したマテウス ジェズス選手(右)



2025J3リーグJ3最優秀選手賞を受賞した橋本啓吾選手(右)

「J.LEAGUE Season Review 2025」公開

Jリーグはm2025 シーズンの出来事を速やかに振り返るため、「J.LEAGUE Season Review 2025 (Jリーグシーズンレビュー2025)」を2025年12月22日に公開した。

公開形態：J.LEAGUE Season Review 2025 特設サイトで公開

URL <https://aboutjleague.jp/seasonreview2025/>



■内容(一部抜粋)

・チェアマンインタビュー

- ・2025 J.LEAGUE (2025シーズンのダイジェスト、競技結果)
- ・2年連続の最多入場者数更新はなぜ実現できたのか? (インタビュー)
- ・ピッチ上の改革
- ・育成を通じてJリーグが見据えるもの (インタビュー)
- ・ホスピタリティ (プレミアム) ビジネスの拡大に向けて
- ・新スタジアム構想 (インタビュー)
- ・Jリーグの人材戦略
- ・MANAGEMENT (関連事業、Jリーグの財務報告、Jクラブの収支傾向、スタジアム、海外事業)

■懲罰決定

Jリーグは下記の件について裁定委員会に諮問し、高知ユナイテッドSCに対し、下記の通り懲罰を決定した。併せて高知ユナイテッドSCに対し、同種事案の再発防止を期すために必要な措置の実施を依頼した(2025年12月23日発表)。

1. 対象事案

高知ユナイテッドSC (以下「本件クラブ」という。)において、スタッフの大部分に法律上交付義務の課されている労働条件通知書を交付していなかったとする法令違反行為や、杜撰な労務管理等があった。

2. 懲罰内容

【本件クラブ】けん責(始末書をと、将来を戒める)

3. 懲罰の理由

前記1の労働条件通知書を交付していなかったとする事実(以下「本件違反行為」という。)は労働基準法に違反する行為であり、その他の杜撰な労務管理も含め、法律、命令、条例等を遵守し、社会的規範を尊重して行動しなければならないことを定めるJリーグ規約第3条第3項に違反することが明らかである。

4. 懲罰量定に際し参考とした事情

- (1)本件クラブは、本件の問題発覚後に代表取締役を追加選任し、組織体制の見直しを含むガバナンス強化、内部・外部相談窓口の設置を始めとする本件違反行為に関する是正措置を公表し、各相談窓口を既に設置したことに加え、新たに現場業務の責任者となるべき執行役員を配置する等のガバナンス改善に向けた取り組みに着手している。
- (2)各スタッフの業務軽減のために速やかなスタッフ増員に着手し、既に増員の具体的な見込みが立っていることに加え、同種事案の再発防止のための各種研修の実施等も予定している。
- (3)本件は、労務管理の基礎知識を有する職員を欠き、経営者も十分な知識を持たない中で、漫然と続けられてきた違法ないし杜撰な労務管理行為であり、これを監督すべき取締役会等も何らその役割を果せなかったというガバナンス不全に起因する事案であって、ガバナンス構築の課題は大きい。

5. 適用条項

Jリーグ規約第3条(遵守義務)第3項

第133条 [Jリーグにおける懲罰]第2号

第142条 [懲罰の種類]第2項

■懲罰決定

Jリーグは下記の件について裁定委員会に諮問し、黒田剛 (FC町田ゼルビア トップチーム監督、以下黒田監督)氏およびFC町田ゼルビアに対し、下記の通り懲罰を決定し、併せてFC町田ゼルビアに対し、同種事案の再発防止を期すために必要な措置の実施を依頼した(2025年12月23日発表)。

1. 対象事案

黒田監督は、2023年頃からFC町田ゼルビア(以下「本件クラブ」という。)に所属する選手らの前で、自らの意向に沿わない選手がいれば、造反者といった表現を用いて排除する意図を持った発言や、練習中に選手およびチームスタッフの前で特定のコーチに対して大声で怒鳴る行為、懇親会の場でのスタッフに対する暴言等の不適切な発言があった。

2. 懲罰内容

【黒田監督】けん責(始末書をと、将来を戒める)

【本件クラブ】けん責(始末書をと、将来を戒める)

3. 懲罰の理由

(1)黒田監督による前記1の事実(以下「本件違反行為」という。)は、指導者である監督として、自らの配下にある選手、コーチまたはスタッフに対して行った暴言ないし不適切な指導であり、指導者の選手その他チーム関係者に対する暴言を禁じる公益財団法人日本サッカー協会(以下

「JFA」という。)の指導者に関する規則第20条第7号および指導者による不適切な指導を禁じるJFA懲罰規程第34条第2項に違反するとともに、選手その他チーム関係者の尊敬および価値を尊重すべきことを定める同規則第20条第2号に違反し、JFAの定款およびこれに付随する諸規程を遵守する義務を定めるJリーグ規約第3条第1項に違反する。また、社会的規範を尊重して行動すべき義務を定める同条第3項に違反し、Jリーグの信用を毀損した点において、同条第2項にも違反する。

- (2)本件クラブは、Jリーグ規約およびJFAの定款並びにこれらに付随する諸規程を遵守する義務があり(Jリーグ規約第3条第1項)、配下の監督、選手等の関係者がこれらに違反しないよう管理監督し、仮に違反行為があれば、これを直ちに是正しなければならないところ、後述のとおり、本件クラブは、監督の業務執行を適切に管理・監督し、違反行為を早期に発見して是正するために必要な体制を整備しておらず、内部統制上の不備があったことは明らかである。

4. 懲罰量定に際し参考とした事情

- (1)黒田監督の本件違反行為に暴力等有形力の行使は含まれておらず、規律違反としての悪質性の程度が極めて高いものとはいえない。
- (2)黒田監督は、本件違反行為の存在を基本的に認めておらず、眞摯に反省しているとはいえない状況にあった上、本件違反行為を含む調査対

象となった言動に関し、多くのチーム関係者に真実を語ることを躊躇させるような発言を行った。

- (3)本件クラブは、本件違反行為を含む調査対象となった黒田監督の言動に関し、弁護士で構成される特別調査委員会により調査を行った。しかしながら、同委員会による当初の関係者のヒアリングに本件クラブの顧問弁護士を同席させ、黒田監督とヒアリング対象となるチーム関係者が通報内容に関してやり取りすること等を規制しなかったことにより、本件クラブが黒田監督を守ろうとしているとの印象を関係者が持つに至っている。これらは調査対応の不備と言わざるを得ず、チーム関係者の多くに率直な供述を躊躇させる結果となり、真相解明に支障をきたした。
- (4)本件クラブは、メールによる相談窓口を設置していたが、相談に係る事実の確認は本件クラブの経営陣が行うこととされており、本件クラブの経営陣が関与する事象について相談できる相談体制を構築してい

なかった。

- (5)本件違反行為は強化部のメンバーやコーチ等がいるところでなされており、本件クラブには、早期に問題行為を把握して是正する機会があったのに、本件クラブの経営陣および強化部から黒田監督に対して注意する等のけん制機能が働かず、外部への通報が行われるまで問題行為が放置、継続された。

5.適用条項

- Jリーグ規約第3条〔遵守義務〕第1項、第2項、第3項
 第133条〔Jリーグにおける懲罰〕第2号
 第142条〔懲罰の種類〕第1項、第2項
 第146条〔両罰規定〕

- JFA指導者に関する規則第20条〔遵守義務〕第2号、第7号
 JFA懲罰規程第34条〔違反行為〕第2項

日本女子プロサッカーリーグ(WEリーグ)

<https://weleague.jp/>



パーソルホールディングス株式会社とWE ACTIONパートナー契約を締結

WEリーグは、パーソルホールディングス株式会社とWE ACTIONパートナー契約を締結した(2025年12月10日発表)。

上のためにできることを共に考え、女性アスリート、そしてスポーツ業界からより良い働き方の実現へ向けた取り組みを実施していく。

WE ACTION パートナーとしてWEリーグとパーソルホールディングスの今後の取り組み予定

パーソルグループが実施する「はたらくWell-being」に関するプロジェクトとの協業

- ・「はたらくWell-being指標」を用いたWEリーグおよび各クラブ関係者の「はたらくWell-being」の調査や分析の実施
- ・調査結果に基づいた各クラブおよびWEリーグへのヒアリングとフィードバックの実施
- ・「はたらくWell-being」向上および普及につながるアクションづくり
 本プロジェクトを通じて「はたらくWell-being」の向上を実現し、WEリーグに関わる人々のモチベーション、エンゲージメント、パフォーマンスを高めることの実現を目指す。調査結果をもとに「はたらくWell-being」向

村澤典知パーソルホールディングス株式会社 グループコミュニケーション本部 本部長 コメント

パーソルグループは、これまでWEリーグの理念に共感し、女子サッカーの発展や女性アスリートの多様な「はたらく方」支援に取り組んできました。このたびWE ACTIONパートナーとして、WEリーグや各クラブの皆さまと協働できることを大変うれしく思います。

「はたらくWell-being」向上プロジェクトでは、スポーツ業界における「はたらくWell-being」の実態を分析し、すべての関係者がいきいきと力を発揮できる環境づくりを目指します。われわれパーソルグループは、「はたらく、笑おう。」のビジョンの下、WEリーグと共に、女性アスリートやスポーツ業界からより良い「はたらく」の未来を切り拓いてまいります。

タイトルパートナーであるSOMPOホールディングス株式会社と共に「OUR STORIES 未来共創セッション」を開催

WEリーグは2025年12月1日、JFAサッカー文化創造拠点blue-ing!でタイトルパートナーのSOMPOホールディングス株式会社と共に「OUR STORIES 未来共創セッション」を開催した。

スポーツをやめてしまう女子アスリートが多いことから、その課題解決に向けたアクションを推進している。

これは、女性スポーツの未来や社会とのつながりについて多角的な視点から語り合うイベントで、今回のイベントでは、全国のスポーツをしている女子高校生やスポーツ指導者らに実施した意識調査の結果を紹介するほか、藤枝順心高校女子サッカー部が「白いユニフォームは生理になったときに不安」という選手の声を受けてユニフォームのパンツを白から紺色に変更したことや、更衣室がない試合会場では屋外で着替えなければならない状況を解決するために静岡銀行と連携して災害用テントを活用している事例を共有。災害用テントは更衣室として使用するだけでなく、災害時に備えて避難所の学校に設置しておくことも有意義であることなどが発表された。

OUR STORIES未来共創セッション

日時：2025年12月1日(月)
 場所：JFAサッカー文化創造拠点 blue-ing!
 主な内容(抜粋)：

- [第1部]
- ・OUR STORIESプロジェクトの紹介
 - ・OUR STORIESアクション共有事例トーク
- 【#白ユニフォームに困る】
 藤枝順心高校女子サッカー部 / 中村翔 監督および選手数名
 サッカーショップKAMO / 平松潤也
- 【#女子更衣室がなくて困る】
 静岡銀行 地方創生部 地方創成グループ / 海野裕晃 課長

SOMPOグループは2025年3月より、「OUR STORIESプロジェクト」と題した、WEリーグとの共創アクション・プログラムを展開。10代でス

【女子スポーツ特有の悩みに関する意識調査 結果共有】

SOMPOホールディングス

【ゲストコメント】

WEリーグ／近賀ゆかり特任理事、スポーツ庁／河合純一 長官

【第2部】

・共創セッション(OUR STORIESの輪を広げるためのアイデアセッション)

■「OUR STORIES」展開の背景

SOMPOグループはWEリーグの活動理念などに共感し、2024年7月にタイトルパートナー契約を締結。社会活動の中ではさまざまな場面でジェンダーギャップが存在しており、サッカーもいまだに「男性のスポーツ」という固定観念がある。また、スポーツをやめる時期を男女で比較した場合、女子は10代でやめてしまう傾向にある(15歳未満でスポーツをやめてしまう女子は男子の2倍：UN Women調べ)。一方でこのような環境下でも、ひたむきにサッカーと向き合う10代の女子アスリートは少なくない。そこでSOMPOグループはWEリーグと協力し、女子サッカーの未来を担う若い選手たちが、生涯にわたって大好きなサッカーに親しめる社会をつくっていくこと、「OUR STORIES」を展開することにした。

●OUR STORIES：挑戦する「ひとり」の物語を起点に、WEリーガーや多様なステークホルダーがつながり、「みんな」の力で夢を実現していく共

創アクション・プログラム。「あなたの声を、私たちみんなの物語に。」をスローガンに、世の中のさまざまな課題を「私たちみんなの物語」として捉え、行動へとつなげていく。第一弾のテーマは「10代で女子はスポーツをやめちゃう問題」。2025年3月8日の国際女性デーに動画を発信し、同プロジェクトを始動させた。ジェフ千葉レディースに所属していた今田紗良選手(藤枝順心高校出身)、元ちふれASエルフェン埼玉の薊理絵氏、そして史上初の全日本高等学校女子サッカー選手権大会3連覇を果たした藤枝順心高校女子サッカー部と藤枝順心サッカークラブ(ジュニアユース)に所属する高校生、中学生が対話を通じてサッカーが大好きな10代アスリートの本音に迫る。その詳細動画は下記より視聴可能。

<https://www.youtube.com/watch?v=sMj-7DLPSgc>



●「10代女子は、なぜスポーツをやめてしまうのか？」意識調査結果(2025年12月1日、SOMPOホールディングス株式会社)

https://www.sompo-hd.com/-/media/hd/files/news/2025/20251201_1.pdf?la=ja-JP



日本フットボールリーグ(JFL)

<http://www.jfl.or.jp/jfl-pc/view/s.php?a=1>



2026年日本フットボールリーグ入会チーム

昨年12月7日・14日に行われた「2025 J3・JFL入れ替え戦」において、J3のアスルクラロ沼津がレイラック滋賀との対戦で合計1分け1敗で敗れたことにより、2026年からのJFLの参加が決定した(2025年12月14日発表)。

●アスルクラロ沼津(呼称：アスルクラロ沼津)

静岡県沼津市／2025明治安田J3リーグ20位

※12月4日に開催された2025年度第5回理事会では、Jリーグとの昇降格に関するルールに基づき、2025明治安田J3リーグ20位となり、2025 J3・JFL入れ替え戦で上記チームが敗れた場合はJFLに入会することを承認した。

2026-2027年日本フットボールリーグ開催期間

2026年から2027年5月までのJFLについて、下記の期間での開催が決定した(2025年12月20日発表)。JFL CUP(仮称)の第1節、第2節およびホーム開幕戦の日時と対戦カードは1月9日、試合会場は1月30日、また、大会方式の詳細と全日程は2月18日に発表予定。

■2026年度JFL CUP(仮称)について

●開催方式

JFL所属16チームを東西に分け8チーム×2グループで1回戦総当たりのリーグ戦7試合(ホーム・アウェイ 3または4試合)と各グループ1位同士および2位同士でホーム&アウェイの2回戦を行い、1~4位までを決定する。

●グループ分け(下記チーム名は2025年の表記、表記順は2025年の順位)

・東グループ：アスルクラロ沼津、プリオベッカ浦安・市川、ラインメール青森、いわてグルージャ盛岡、クリアソン新宿、Y.S.C.C.横浜、横河武蔵野FC、VONDS市原FC

・西グループ：Honda FC、FCティアモ枚方、ヴェルスバ大分、ヴィアティン三重、沖縄SV、ミネベアミツミFC、FCマルヤス岡崎、ジェイリースFC

●開催期間

・グループラウンド

第1節：3月20日(金・祝)・21日(土)・22日(日)～第7節：5月16日(土)・17日(日)

・プレーオフラウンド(順位決定戦)

第1戦：5月30日(土)・31日(日)【東グループホーム開催】

第2戦：6月7日(日)【西グループホーム開催】*3位決定戦は6月6日(土)の場合あり

■第28回JFLについて

●開催方式：16チームによる2回戦総当たりリーグ方式(ホーム&アウェイ方式)

●開催期間：第1節2026年8月29日(土)・30日(日)～第30節2027年5月23日(日)

※第28回JFL終了後は、従来のJFL・地域入れ替え戦は行わず、JFL下位2チームと全国地域サッカーチャンピオンズリーグ上位2チーム(3位以下の繰り上げはなし)は自動入れ替えとなる。



アスパス!

日本サッカー協会 (JFA) では社会貢献やSDGsの達成につながる活動を「アスパス!」と称し、サッカーファミリーの皆さんと一緒に取り組んでいます。

「アス」には、「明日 (=未来)」、「us=私たちにできること」、「Earth=地球」の3つの意味を込めています。

次の100年のサッカーが今と同じく健全に、安全に、多くの人々により楽しまれ、

JFAの理念・ビジョンが体现されていることを目指し、全てのサッカーファミリーが世代や時代を超えて

“パスを繋いでいく”という強い決意を込めています。



アスパス!で取り組む5つの大切なこと

環境

サッカーにおける様々な活動で気候変動による熱中症等を防ぎ温室効果ガスや廃棄物の削減でわたしたちの自然環境を守ろう

人権

差別や暴力のない自由で平等なスポーツの世界を一緒に築いて年齢・性別・障がいの有無等に関係なく輝ける社会をつくろう

健康

スポーツの楽しさを感じられるグラスルーツサッカーを広めて心身ともに健康的でいつまでも元氣と笑顔溢れる人生を送ろう

教育

スポーツで社会をよくするため必要な知識や技術を身につけてサッカーが持つ魅力を活かした持続可能な未来を築いていこう

地域

持続可能性に配慮して行動する地域の人々の様々なつながりをサッカーを通じてつくることで私たちの住みやすい街を守ろう



アスパス JFA 検索

活動内容などは「アスパス JFA」で検索

JFA STORE (日本サッカー協会 公式オンラインストア)

アスパス!みんなで一緒にサッカーを楽しむグッズはこちら





日本フットボールリーグ (JFL) 便り



第27回日本フットボールリーグ開幕

日本フットボールリーグ 事務局長 上保毅彦

<http://www.jfl.or.jp/>

昨季のJFLは、台風の影響や悪天候の中での試合もありましたが、延期試合は1試合もなく、ホーム&アウェイの2回戦総当たりのリーグ戦は11月23日に、そして11月30日にJFL・地域入れ替え戦を経て昨季の日程を無事に終えることができました。

昨季は初めてJ3からの入会2チーム (Y.S.C.C.横浜といわてグルージャ盛岡)を迎えました。元日本代表選手やJ1などで活躍した選手がJFLでプレーしたことや、JFL入会4年目のクリアソン新宿が前季に自らつくったJFL最多入場者数を更新したこと、アトレチコ鈴鹿が第15節で三浦知良選手プロ生活40周年記念試合を開催したことなど話題も多く、2024年シーズンより少し減少したものの年間で290,285人の方に来場いただき、1試合平均は1,210人となりました。さらに2026年からのJ3入会を目指すチームのうち3チーム (レイラック滋賀、ヴィアティン三重、クリアソン新宿)が平均2,000人以上を超えました。これもJFLを応援していただいたサポーターの皆さまやスポンサーの皆さま、報道関係者の皆さまのご支援ならびにチームを支えていただいた多くの関係者のご尽力のたまものと存じ、心より御礼申し上げます。

第27回大会もJFLは優勝争いとJ3入会争いが話題の中心となりました。J3入会を争う戦いでは、1年でのJ3復帰を狙うY.S.C.C.横浜といわてグルージャ盛岡の2チームをはじめ、ラインメール青森、ヴィアティン三重、アトレチコ鈴鹿、ヴェルスバ大分、クリアソン新宿、レイラック滋賀の8チームがJ3ライセンスを申請してJ3入会を目指しましたが、第1回からJFLを支えるHonda FCが2年ぶり11度目の優勝を決め、2位となったレイラック滋賀がJ3との入れ替え戦に進んでJ3のアスクラロ沼津相手に1勝1分けで勝ち、今季はJ3での活動となります。レイラック滋賀は2008年にJFLに入会 (当時はMIOびわこ草津)し、18年間の活動でリーグを支え盛り上げてい

ただき感謝しております。次のステージでの活躍を期待していること、全国各地から上を目指すチームの良きお手本として活躍していただくことを願っています。そして今後のチームのますますの発展をお祈り申し上げます。

そのほかでは、2024年の全国地域サッカーチャンピオンズリーグ (全国地域SCL)で優勝し、昨季からJFLでの活動となった飛鳥FCが16位となり、地域リーグに降格。2025年の全国地域SCLで優勝したジェイリースFCがJFL入会を決め、全国地域SCL2位のVONDS市原FCはJFL15位のアトレチコ鈴鹿相手に勝ちJFL入会を決めました。JFLで8年間活動し、初の女性監督の起用や三浦知良選手の加入などで多くの話題をつくったアトレチコ鈴鹿は来年地域リーグでの活動となります。

12月4日には都内のホテルで表彰式を開催しました。次回はそのときの模様と2つの入れ替え戦についてご報告させていただきます。



J3・JFL入れ替え戦・アスクラロ沼津 vs レイラック滋賀



第27回日本フットボールリーグで優勝したHonda FC



なでしこリーグ便り



サッカーチームと連携したまちの魅力

スペランツァ大阪 広報 中野真奈美

<https://www.speranzaafc.jp/>

スペランツァ大阪は2020年10月に大阪府河内長野市とのホームタウン契約を締結し、市の活性化や魅力向上、女子サッカーの普及・発展等のため、連携を進めてきました。まずは2021年から幅広い年齢層に対応したクラス別のサッカースクールをスタートし、同年にU-15年代、2025年にU-18年代のチームを立ち上げました。2025年はJFA第30回全日本U-15女子サッカー選手権大会 大阪府大会で優勝するなど、創部4年で初優勝を飾りました。

2024年にチームの本拠地を河内長野市に移して以降、集中してトレーニングできる環境に恵まれた選手たちは、地域の皆さんと交流できるイベントに積極的に参加しています。また、現在は、2026年オープンを目指してスペランツァ大阪のホームスタジアムとなるサッカースタジアムを建設中です。

スタジアムができる南花台地区は、ニュータウン開発から40年が経過し、当時入居した世代が70歳を超えるなど高齢化。人口減少と少子化も進んでいます。そんな中、地域住民の暮らしを支える新しい移動手段として誕生したのが、地域主体で運営されるモビリティサービス「クルクル」です。買い物や通院、習い事への移動など、子どもから高齢者まで誰でも利用できるクルクルにスペランツァ大阪の選手が2024年11月から添乗員として乗車しています。2021年からは地域のイベントに参加し、ホームタウンの人々と絆を深めて

きました。今後も、積極的に多くの出会いの場をつくり、各小学校への巡回指導、各施設への訪問など地域交流を深めていきたいと考えています。

2026シーズンはなでしこリーグ2部からのスタートです。大きく選手を入れ替え、新体制での挑戦となります。新たにチームを率いるイエンス・ウィッシング氏を監督に迎え、コーチもフレッシュな顔ぶれとなっています。新たなスタイルでのスペランツァ大阪の戦いに期待していただけるよう全力で戦い抜きます。

夢・希望・元気・笑顔を多くの方々と共に共有し、地域とスポーツが共栄共存できるようチャレンジし続けます。



地域住民の暮らしを支える新しい移動手段「クルクル」

なでしこリーグ便り



13年の時を超えて。故郷・福島への帰還と新たな誓い

JFAアカデミー福島女子 監督 見汐翔太

https://www.jfa.jp/youth_development/jfa_academy/fukushima/

JFAアカデミー福島は、2006年に福島県の大葉地区教育構想と日本サッカー協会（JFA）のエリートプログラムの連携により開校しました。その設立理念は、社会をリードしていける真の世界基準の人材育成です。福島県、そして富岡町、楡葉町、広野町といった地元自治体の多大なご協力の下、Jヴィレッジに隣接した素晴らしい施設が建設され、私たちはそこを拠点にロジング（宿泊）形式の活動をスタートさせました。特に、地元の皆さまにはホストファミリーとして選手を受け入れていただき、地域社会との温かい交流に支えられながら順調な歩みを進めてきました。

ところが、2011年3月11日に発生した東日本大震災による津波と福島第一原子力発電所の事故の影響で私たちの活動は突如として福島県からの避難を余儀なくされました。活動の継続自体が危ぶまれる絶望的な状況の中、救いの手を差し伸べてくださったのが、静岡県のご支援でした。13年間という長きにわたり、株式会社時之栖さま、帝人株式会社さまをはじめ、御殿場市、裾野市、三島市、そして富岡地区サポートファミリーといった静岡県の皆さまの献身的な支えがあったからこそ、私たちは活動の火を絶やさず、現在につながることができました。この場を借りて、心より感謝申し上げます。

2024年、JFAアカデミー福島女子は、ついに故郷・福島への帰還を果たしました。避難中も「JFAアカデミー福島」という名前を守

り続け、地元の人々との帰還の約束を果たすことができました。帰還の年に開催されたアカデミー福島OG同窓会には、内堀雅雄福島県知事や初代スクールマスターの田嶋幸三名誉会長をはじめ、開校当初からアカデミーを支えてくださった大勢の方が列席されました。帰還した私たちが、あらためて福島のルーツと、地域との深い絆を確認する歴史的な機会となりました。

私たちは今、地域の温かいご支援を肌で感じながら、福島の復興の力になりたいという思いを胸に活動しています。JFAアカデミー福島女子は、これからも「未来のなでしこジャパン」を育てることはもちろん、サッカーを通じて人間性を高め、社会に貢献できる女性人材の育成を目指し、力強く歩み続けてまいります。サッカーが持つ「勇気と希望」を届ける力で、地域とともに成長していくことを約束します。



JFAアカデミー福島OG同窓会に参加した田嶋幸三名誉会長と懇談する選手たち



競技人口の拡大に向けて

中国フットサル連盟 理事/山口県フットサル連盟 横山裕樹

<https://www.jff-futsal.or.jp/>

山口県は少子化と若者の進学・就職による人の流出が大きい県です。競技人口は、社会人ではコロナ禍に減少したものの、コロナ禍以前程度までに回復しつつあり、大きな増減もなく推移しています。女子は非常に厳しい状態が続いています。第1回山口県女子フットサルリーグを実施した際の参加数は10チームを数えていたのですが、年々減少の一途をたどり、コロナ禍前には参加チームがなくなり、現在、リーグの存続ができない状態が続いています。女子選抜を編成して大会に出場するにも四苦八苦する状況となっており、毎年頭を悩ませています。

そんな中、以前から県サッカー協会と開催している山口県フットサル選手権の女子の部に徐々に参加チームが増え、昨年度は4チームで実施することができました。この大会はJFAの登録を不要としており、エンジョイ志向のチームに参加しやすい環境を提供して競い合う楽しさを知ってもらうと同時にレベルの違いを超えて、楽しく県ナンバー1を目指していく大会となっています。

この大会では一般の部(高校生可)とU-12の部を実施しています。U-12も少子化の影響で県内各地区のサッカー登録チームも減少しており、フットサル登録チームを増やすことは非常に困難な状況になりつつあります。厳しい状況ですが、女子の部と同様に、一般の部もU-12の部も参加しやすいよう登録を不要としています。その結

果、両カテゴリーで徐々に参加チームが微増しています。

この大会は地元テレビ局が共催し、大会の様子がニュース番組のスポーツコーナーや情報番組で紹介されます。こういった環境を最大限に生かし、また、他の地域や各都道府県の取り組みなどを参考にさせていただき、競技人口の拡大に向けて取り組んでいきたいと考えています。

もう一度原点に立ち返り、フットボールやフットサルが楽しいスポーツであることを再認識してもらえよう、山口県フットサル連盟一同、力を注いでいきます。



山口フットサル選手権2025女子の部優勝チーム



全国目指して!2日間計40試合、小学生たちによる砂の上のアツき戦い!

SONNE Kamogawa B.S. 代表 岡野大和

<https://jbsf.or.jp/>

昨年12月20・21日の2日間にわたり、鴨川令徳高校(千葉県鴨川市)内にあるビーチコートで第8回関東少年少女ビーチサッカー大会(主催:関東サッカー協会、主管:千葉県サッカー協会、関東ビーチサッカー連盟)を開催しました。大会運営は地元で活動するビーチサッカーチーム、ゾンネ鴨川BSが担当しました。

土曜の部、日曜の部に各8チームが参加。2グループに分かれ、4チーム総当たりの予選リーグを行った後、上位チームと下位チームでトーナメントを行って最終順位を決めました。各日の優勝・準優勝チームが3月開催予定のビーチサッカーU-12フェスティバル(主催:日本ビーチサッカー連盟)の出場権を獲得します。2日間で40試合を1コートで展開するという超過密日程でしたが、参加チームの協力により、オンタイムで大会を進行することができました。

U-12世代も年々レベルアップし、中にはオーバーヘッドキックを繰り出す選手も! 女子選手も参加し、体を張ったディフェンスには感動さえ覚えました。全国大会出場を懸けた準決勝で惜しくも敗れ、悔し涙を流す選手たちもいて、真剣さが伝わってきました。

土曜の部の優勝・CSA(神奈川県)、準優勝・御厨FC(栃木県)、日曜の部の優勝・ISO SOCCER CLUB(栃木県)、準優勝・アペーリヤス千葉FCセレソン(千葉県)が全国への切符を手に入れました。

ちなみに、われらが地元のSONNE STERN(千葉県)は土曜の部の

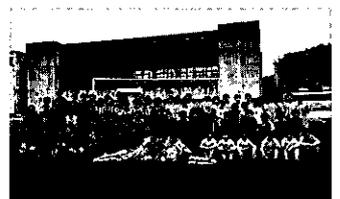
準決勝で惜しくも敗れたものの、小学校低学年を含む今大会最少の8人で果敢に戦い、3位決定戦を制して堂々の3位に輝きました。昨年は1勝もできなかったこの大会ですが、毎週スクール活動を積み重ね、見違えるほどの成長を遂げたのが印象的で、子どもたちのポテンシャルを感じました。

全世代において普及が目下の課題であるビーチサッカー界ですが、特にジュニア・ユース世代の大会はほとんどなく、今後も鴨川を会場として、U-12やU-15の大会を精力的に企画・開催していきたいと考えています。

併せて、ビーチサッカーの文化でもあるスポーツが本来持つ楽しさを感じてもらいながら、相手チーム、審判団、サポートして下さる人々に対してはもちろん、自チームの仲間たちをリスペクトできる子どもたちを砂の上で育てていけたら、と考えています。



土曜の部。暖かい一日となり、砂の上で子どもたちが躍動



日曜の部。雨模様の日だったものの、子どもたちは元気いっぱい



日本障がい者サッカー連盟便り

2025CPサッカー「アジア・オセアニア選手権」レポート

CPサッカー日本代表 コーチ(慶應義塾大学体育研究所・准教授) 福士徳文

<https://www.jiff.football/>

CPサッカー男子日本代表チームは、昨年11月11日から24日の日程で、インドネシアのスラカルタで行われた「2025 IFCPF Men's Asia-Oceania Championships (アジア・オセアニア選手権)」に出場しました。2年に1回開催されるこの大会は、2位までに入ると翌年度に開催されるCPサッカーワールドカップの出場権を獲得することができます。そのため、まずは決勝トーナメントに進出することを目標に大会に臨みました。

今大会の参加国は7チームで、2グループでの予選リーグの後、優勝を決める上位トーナメント(各リーグの1位、2位の4チーム)と下位リーグ(各リーグの3位、4位の3チーム)が行われるレギュレーションでした。日本は3チーム構成となったAグループに入り、開催国であるインドネシア、過去に一度も勝利したことのないオーストラリアと同組になりました。結果は1分け1敗(①インドネシア戦●0-1、②オーストラリア戦△1-1)で、勝ち点の並んだオーストラリアには総得点数で及ばず予選リーグ3位となり、下位リーグに進むこととなりました。

日本は一つでも良い順位で大会を終えるべく、再度気持ちを一つに試合に臨み、韓国に3-0、マレーシアに10-0と2連勝し、5位で終わりましたが、チームや個々の成長を随所に感じることができ、まだまだ伸びしろがあると期待を持てる大会になりました。

一方、試合に臨む上で感じるであろうさまざまなプレッシャーへの耐性、勝負強さといった、目に見えない世界との差を、日々のトレーニングあるいは緊迫した状況下での試合経験を積み重ねて、次の結果へとつなげていくべきであると新たな課題も明白になりました。CPサッカー男子日本代表チームは、現時点では来年度のワールドカップに出場できるかは分かりませんが、出場できた際には、昨年度で1勝もできなかった悔しさを払拭できるよう、選手・スタッフ共に日々さらに精進していきたいと思っております。最後になりましたが、この大会に参加するにあたり、ご理解、ご協力をいただいた皆さまにこの場をお借りして御礼申し上げます。ありがとうございました。今後とも皆さまの温かいご声援をよろしくお願いいたします。



予選リーグのオーストラリア戦で大会初ゴールを挙げた

全国専門学校サッカー連盟便り

専門学校サッカーの頂点を目指して 第35回全国専門学校サッカー選手権大会

全国専門学校サッカー連盟 事務局長 三谷直人

<https://www.jvfa.jp/>

専門学校サッカー日本一を決める「第35回全国専門学校サッカー選手権大会」が2025年10月5日から10日にかけて宮城県松島町の松島フットボールセンターで開催されました。「サッカーを通じ、学生の心身の健全な発達、体力の向上及びスポーツ精神の高揚を図り、併せて専門学校の教育の充実、親睦に寄与する」という目的に基づいて開催される同大会は、北海道から九州まで11ブロックに分けて予選を実施し、予選を突破した16校が頂点を目指して熱い戦いを繰り広げます。

今大会は、前回大会でルネス紅葉スポーツ柔整専門学校の3連覇を阻止した履正社スポーツ専門学校北大阪校が第1シード、前年度関西の牙城を崩しかけた東京スポーツ・レクリエーション専門学校が第2シード、そして出場回数29回を誇る前年度3位の北海道スポーツ専門学校が第3シードで、文部科学大臣杯をめぐる戦いがスタートしました。

ベスト4に勝ち進んだのは、第1シードの履正社、そして2年ぶりの優勝を狙うルネス、第2シードの東京スポレク、初優勝を狙う宮崎県代表の宮崎情報ビジネス専門学校となりました。宮崎情報は32回大会以来のセミファイナル進出で初のファイナルを目指します。

天候にも恵まれた準決勝は2試合とも熱く激しいプレーの連続でした。関西同士の戦いはルネスに軍配が上がり、東京スポレクと宮崎情報の対戦は、前後半延長でも決着がつかず、PK戦で宮崎情報が初のファイナル進出をつかみました。決勝は前半オウンゴールで先制し、後

半にも得点を重ねたルネスが2-0で勝利を収め、前回の雪辱を果たすとともに2大会ぶりの優勝を飾りました。

今大会全試合を通してイエローカードが19枚、レッドカードが1枚(2枚目のイエローカードによる)でした。暴言や暴力があったわけではありませんが、1試合平均1枚以上のカードが出ているので決して少なくはありません。くしくも大会前月の9月は日本サッカー協会のリスペクト・フェアプレーの強化月間でした。第36回大会はフェアでタフな戦いになることを期待したいと思います。次の大会でも選手の全プレー、最後の1分1秒まで諦めない姿を期待してください。

最後に、大会開催にあたり、ご支援いただきました関係者の皆さま、東北サッカー連盟、宮城県サッカー協会、松島フットボールセンター、出場校のスタッフの皆さまなど、大会に関わっていただきました全ての皆さまに感謝申し上げます。



2大会ぶりの優勝を果たしたルネス紅葉スポーツ柔整専門学校

サッカーなら、どんな障害も超えられる。

日本の人口の7%は障がい者です。その障がいは多様で、ひとつとして同じ在り方はありません。障がいがあっても、いつでも、どこでも、サッカーを心から楽しめる環境を。彼ら彼女らが社会にある"障害"を超えていききっかけづくりやサポートも、サッカーならできる。私たちはそう信じて、日本障がい者サッカー連盟を推進していきます。

障がい者サッカーの団体は、日本サッカー協会と提携し、サッカーを余り余りのために取り組まれます。



切断障がい



脳性麻痺



精神障がい



知的障がい



電動車椅子



視覚障がい



聴覚障がい

日本アンプティサッカー協会

アンプティサッカーとは、足や腕に切断障がいのある人が行う7人制サッカーです。日常生活で使用する義足・義手を外してロフトスタンドクラッチで体を支えながらプレーします。

日本CPサッカー協会

CPサッカーとは、脳の損傷によって運動障害がある人が行うサッカーです。Cerebral(脳からの)Palsy(麻痺)の頭文字をとり、そう呼ばれています。

日本ソーシャルフットボール協会

ソーシャルフットボールとは、精神障がいのある人が行うフットサルやサッカーです。基本ルールは健常者と同じで、フットサルでは女子選手を含む場合に最大6人がコートでプレーするなど、一部特別ルールを採用しています。

日本ブラインドサッカー協会

ブラインドサッカーとは、視覚障がいのある人が行う5人制サッカーです。転がると音が出るボールを使用し、まわりの声を頼りにプレーします。2004年からパラリンピックの正式種目です。弱視者がプレーするロービジョンフットサルもあります。

日本知的障がい者サッカー連盟

知的障がい者サッカーとは、知的障がいのある人が行う11人制サッカーです。フットサルも行っています。ルールは健常者のサッカー・フットサルと同じで、プレーヤーの障がいの度合いにより試合時間が異なります。

日本ろう者サッカー協会

デフサッカーと呼ばれる、聴覚障がいのある人が行うサッカーです。サッカーとフットサルがあり、審判は笛だけではなくフラッグも使用するなど、視覚情報を頼りにプレーします。

日本電動車椅子サッカー協会

国際的にはパワーチェアフットボールと呼ばれ、自立歩行が困難な重度の障がいのある人が多く行う4人制サッカーです。手やアゴでジョイスティック型のコントローラーを操り、電動車椅子でプレーします。



一般社団法人 日本障がい者サッカー連盟

支援団体

JIFFパートナー



日本サッカー後援会



Johnson & Johnson

住友ベークライト



東京海上日動

Nabtesco

Bewith

三菱商事

公益財団法人日本サッカー協会 2026年度事業計画

日本サッカー協会(JFA)は2025年12月20日の臨時評議員会において、「2026年度事業計画」について報告した。

※各種スケジュールは発表時のものであり、変更になる可能性もあります

<公益目的事業(サッカー普及振興事業)>

- I 日本代表関連事業
- II 競技会開催事業
- III 指導普及事業
- IV 社会貢献事業
- V 日本サッカーミュージアム運営事業
- VI 防災・復興支援事業
- VII JFAナショナルフットボールセンター事業
- VIII 各種事業の広報・プロモーション活動

<収益事業>

- I 建物の賃貸事業

<その他の事業>

- I 登録・オンラインシステム関連事業

※■は新規事業/試合日時は現地時間

活動期間 (日程未定).....茨城県
大会期間 (日程未定).....茨城県

4. U-18日本代表

- (1) Jヴィレッジカップ(3月)
活動期間 (日程未定).....福島県
- (2) 海外遠征(10月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (3) 2026 SBSカップ 国際ユースサッカー(12月)
活動期間 (日程未定).....静岡県
大会期間 (日程未定).....静岡県

5. U-17日本代表

- (1) HiFA 平和祈念2026 BMW CUP 広島国際ユースサッカー(2月)
活動期間 (日程未定).....広島県
大会期間 (日程未定).....広島県
- (2) 海外遠征(3月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (3) AFC U17アジアカップサウジアラビア2026(4~5月)
活動期間 4月20日(月)~5月24日(日).....サウジアラビア
大会期間 5月7日(木)~5月24日(日).....サウジアラビア
- (4) 海外遠征(6月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (5) 海外遠征/国内事業(9月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (6) 国際ユースサッカー in 新潟(10月)
活動期間 (日程未定).....新潟県
大会期間 (日程未定).....新潟県
- (7) FIFA U-17ワールドカップカタール2026
活動期間 (日程未定).....カタール
大会期間 (日程未定).....カタール

6. U-16日本代表

- (1) U16アルガルベカップ2026(2月)
活動期間 (日程未定).....ポルトガル
大会期間 2月10日(火)~2月18日(水).....ポルトガル
- (2) モンテギュー国際大会(3~4月)
活動期間 (日程未定).....フランス
大会期間 3月29日(日)~4月7日(火).....フランス
- (3) U-16日本代表候補 国内トレーニングキャンプ(10月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (4) U-16インターナショナルドリームカップ2026 JAPAN(6月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
大会期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (5) 海外遠征(8月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (6) U-16日本代表候補 国内トレーニングキャンプ(10月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (7) 海外遠征(11月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (8) U-16日本代表候補 国内トレーニングキャンプ(12月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)

7. U-15日本代表

- (1) 海外遠征(5月)
活動期間 5月17日(日)~5月26日(火).....クロアチア
- (2) 海外遠征(7月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)

<公益目的事業(サッカー普及振興事業)>

I. 日本代表関連事業

1. SAMURAI BLUE (日本代表)

- (1) FIFA インターナショナルウィンドウ(3月)
活動期間 3月23日(月)~3月31日(火).....(開催地未定)
- (2) 海外組トレーニング(5月)
活動期間 5月25日(月)~5月31日(日).....(開催地未定)
- (3) FIFA インターナショナルウィンドウ(6月)
活動期間 6月1日(月)~6月9日(火).....(開催地未定)
- (4) FIFA ワールドカップ26(6~7月)
活動期間 6月11日(木)~7月19日(日).....アメリカ、カナダ、メキシコ
大会期間 6月11日(木)~7月19日(日).....アメリカ、カナダ、メキシコ
第1戦 6月15日(月).....アメリカ/Dallas Stadium
SAMURAI BLUE vs オランダ代表
第2戦 6月21日(日).....メキシコ/Estadio Monterrey
SAMURAI BLUE vs チュニジア代表
第3戦 6月26日(金).....アメリカ/Dallas Stadium
SAMURAI BLUE vs 対戦相手未定
- (5) FIFA インターナショナルウィンドウ(9~10月)
活動期間 9月21日(月)~10月6日(火) 宮城県/キューアンドエースタジアム
みやぎ、広島県/エディオンピースウイング広島、神奈川県/横浜国際総合競技場、東京都/国立競技場
- (6) FIFA インターナショナルウィンドウ(11月)
活動期間 11月9日(月)~11月17日(火).....(開催地未定)
- (7) AFC アジアカップサウジアラビア2027直前合宿(12月)
活動期間 12月26日(土)~12月31日(木).....(開催地未定)

2. U-23/U-21日本代表(ロサンゼルスオリンピックチーム)

- (1) U-23日本代表 AFC U23アジアカップサウジアラビア2026(1月)
活動期間 2025年12月30日(火)~1月25日(日).....サウジアラビア
大会期間 1月6日(火)~1月24日(土).....サウジアラビア
- (2) U-21日本代表 海外遠征(3月)
活動期間 3月23日(月)~3月31日(火).....(開催地未定)
- (3) U-21日本代表 海外遠征(6月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (4) U-21日本代表 第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)(9~10月)
活動期間 9月12日(土)~10月3日(土).....愛知県
大会期間 9月16日(水)~10月3日(土).....愛知県
- (5) U-22/U-21日本代表 海外遠征(11月)
活動期間 11月9日(月)~11月17日(火).....(開催地未定)

3. U-19日本代表

- (1) 海外遠征(3月)
活動期間 3月23日(月)~3月31日(火).....(開催地未定)
- (2) モーリスレベロトーナメント(5~6月)
活動期間 (日程未定).....フランス
大会期間 5月31日(日)~6月13日(土).....フランス
- (3) 海外遠征(7月)
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (4) AFC U20アジアカップ2027予選(8~9月)
活動期間 8月23日(日)~9月7日(月).....(開催地未定)
大会期間 8月31日(月)~9月6日(日).....(開催地未定)
- (5) 海外遠征(11月)
活動期間 11月9日(月)~11月17日(火).....(開催地未定)
- (6) 茨城 Next Generation Cup(12月)

- 活動期間 1月15日(木)～1月18日(日)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (2) AFC フットサルアジアカップインドネシア2026(1～2月)
 - 活動期間 1月19日(月)～2月8日(日)……インドネシア
 - 大会期間 1月27日(火)～2月7日(土)……インドネシア
- (3) FIFA インターナショナルウィンドウ(4月)
 - 活動期間 4月6日(月)～4月15日(水)……(開催地未定)
- (4) FIFA インターナショナルウィンドウ(10月)
 - 活動期間 10月12日(月)～10月21日(水)……(開催地未定)
- (5) FIFA インターナショナルウィンドウ(11月)
 - 活動期間 11月2日(月)～11月9日(月)……(開催地未定)
 - 国際親善試合 11月6日(金)・11月8日(日)……大分県/クラサス武道スポーツセンター
- (6) FIFA インターナショナルウィンドウ(12月)
 - 活動期間 12月4日(金)～12月9日(水)……(開催地未定)

16. U-19フットサル日本代表

- (1) 海外遠征(6月)
 - 活動期間 6月21日(日)～6月30日(金)……クロアチア

17. U-18フットサル日本代表

- (1) U-18フットサル日本代表候補 トレーニングキャンプ
 - 活動期間 (日程未定)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド

18. フットサル日本女子代表

- (1) フットサル日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(4月)
 - 活動期間 (日程未定)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (2) フットサル日本女子代表候補 トレーニングキャンプ(8月)
 - 活動期間 (日程未定)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (3) 海外遠征
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)

19. ビーチサッカー日本代表

- (1) ビーチサッカー日本代表候補 トレーニングキャンプ(1月)
 - 活動期間 (日程未定)……沖縄県
- (2) 海外遠征(2月)
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)
- (3) 海外遠征(7月)
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)
- (4) ビーチサッカー日本代表候補 トレーニングキャンプ(10月)
 - 活動期間 (日程未定)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (5) AFC ビーチサッカーアジアカップタイ2026(11月)
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)
 - 大会期間 11月18日(水)～11月28日(土)……タイ

20. サッカーe日本代表

- (1) FIFAe フェスティバル
 - 開催期間 (日程未定)……(開催地未定)
- (2) FIFAe ワールドカップ2026
 - 開催期間 (日程未定)……(開催地未定)

II 競技会開催事業

21. 国内競技会(主催/1種)

- (1) 天皇杯 JFA 第106回全日本サッカー選手権大会
 - 1回戦 (日程未定)……全国各地
 - 2回戦 (日程未定)……全国各地
 - 3回戦 (日程未定)……全国各地
 - 4回戦 (日程未定)……全国各地
 - 準々決勝 (日程未定)……全国各地
 - 準決勝 (日程未定)……全国各地
 - 決勝・表彰式 (日程未定)……(開催地未定)
- (2) 明治安田 J1 百年構想リーグ
 - 開催期間 2月7日(土)～6月7日(日)……各ホームタウン
- (3) 明治安田 J2・J3 百年構想リーグ
 - 開催期間 2月7日(土)～6月7日(日)……各ホームタウン
- (4) 2026/27シーズン 明治安田 J1リーグ
 - 開催期間 8月8日(土)～6月6日(日)……各ホームタウン
- (5) 2026/27シーズン 明治安田 J2リーグ
 - 開催期間 8月8日(土)～5月23日(日)……各ホームタウン
- (6) 2026/27シーズン 明治安田 J3リーグ
 - 開催期間 8月8日(土)～5月23日(日)……各ホームタウン
- (7) 2026/27シーズン Jリーグ YBC ルヴァンカップ
 - 1stラウンド (日程未定)……各ホームタウン
 - プレオフラウンド (日程未定)……各ホームタウン
 - プライムラウンド
 - 準々決勝 第1戦 (日程未定)……(開催地未定)
 - 第2戦 (日程未定)……(開催地未定)
 - 準決勝 第1戦 (日程未定)……(開催地未定)

- (3) 海外遠征(11月)
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)

8. 全日本大学選抜

- (1) 海外遠征
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)

9. なでしこジャパン(日本女子代表)

- (1) AFC 女子アジアカップオーストラリア2026 直前合宿(2月)
 - 活動期間 2月23日(月)～2月27日(金)……オーストラリア
- (2) AFC 女子アジアカップオーストラリア2026(2～3月)
 - 活動期間 2月28日(土)～3月22日(日)……オーストラリア
 - 大会期間 3月1日(日)～3月21日(土)……オーストラリア
- (3) FIFA インターナショナルウィンドウ(4月)
 - 活動期間 4月7日(火)～4月20日(月)……(開催地未定)
- (4) FIFA インターナショナルウィンドウ(6月)
 - 活動期間 6月1日(月)～6月9日(火)……(開催地未定)
- (5) 第20回アジア競技大会(2026/愛知・名古屋)(9～10月)
 - 活動期間 9月10日(木)～10月3日(土)……(開催地未定)
 - 大会期間 9月19日(土)～10月4日(日)……愛知県
- (6) FIFA インターナショナルウィンドウ(10月)
 - 活動期間 10月5日(月)～10月15日(木)……(開催地未定)
- (7) FIFA インターナショナルウィンドウ(11～12月)
 - 活動期間 11月24日(火)～12月5日(土)……(開催地未定)

10. U-20日本女子代表

- (1) U-20日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ(2月)
 - 活動期間 2月23日(月)～2月26日(木)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (2) AFC U20女子アジアカップタイ2026直前合宿(3月)
 - 活動期間 3月23日(月)～3月29日(日)……(開催地未定)
- (3) AFC U20女子アジアカップタイ2026(3～4月)
 - 活動期間 3月30日(月)～4月19日(日)……タイ
 - 大会期間 4月2日(木)～4月18日(土)……タイ
- (4) 海外遠征(6月)
 - 活動期間 6月1日(月)～6月11日(木)……(開催地未定)
- (5) FIFA U-20女子ワールドカップポーランド2026直前合宿(8月)
 - 活動期間 8月24日(月)～8月31日(日)……(開催地未定)
- (6) FIFA U-20女子ワールドカップポーランド2026(9月)
 - 活動期間 9月1日(火)～9月29日(火)……ポーランド
 - 大会期間 9月5日(土)～9月27日(日)……ポーランド

11. U-17日本女子代表

- (1) 海外遠征(1月)
 - 活動期間 1月17日(土)～1月29日(木)……ポルトガル
- (2) AFC U17女子アジアカップ中国2026 直前合宿(4月)
 - 活動期間 4月24日(金)～4月26日(日)……(開催地未定)
- (3) AFC U17女子アジアカップ中国2026(4～5月)
 - 活動期間 4月27日(月)～5月18日(月)……中国
 - 大会期間 4月30日(木)～5月17日(日)……中国
- (4) U-17日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)
- (5) FIFA U-17女子ワールドカップモロッコ2026 直前合宿(10月)
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)
- (6) FIFA U-17女子ワールドカップモロッコ2026(10～11月)
 - 活動期間 (日程未定)……モロッコ
 - 大会期間 (日程未定)……モロッコ

12. U-16日本女子代表

- (1) U-16日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ(2月)
 - 活動期間 2月16日(月)～2月19日(木)……(開催地未定)
- (2) モンテギュー国際大会(3～4月)
 - 活動期間 3月26日(木)～4月7日(火)……フランス
 - 大会期間 3月28日(火)～4月5日(日)……フランス
- (3) U-16日本女子代表候補 国内トレーニングキャンプ
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)

13. U-15日本女子代表

- (1) 海外遠征
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)

14. 全日本大学女子選抜

- (1) DENSO CUP SOCCER 第4回大学女子日韓(韓日)定期戦
 - 活動期間 3月15日(日)……愛知県
- (2) トレーニングキャンプ
 - 活動期間 (日程未定)……(開催地未定)

15. フットサル日本代表

- (1) AFC フットサルアジアカップインドネシア2026直前合宿(1月)

1回戦	12月12日(土)	愛媛県、大阪府、山口県
2回戦	12月13日(日)	愛媛県、大阪府、山口県
準々決勝	12月20日(日)	大阪府
準決勝	12月25日(金)	東京都/味の素フィールド西が丘
決勝・表彰式	12月27日(日)	東京都/味の素フィールド西が丘

24. 国内競技会(主催/4種)

(1) JFA 第50回全日本U-12サッカー選手権大会

開会式	12月25日(金)	鹿児島県/宝山ホール
グループリーグ	12月26日(土)、27日(日)	鹿児島県/鹿児島ふれあいスポーツランド
ラウンド16	12月27日(日)	鹿児島県立サッカー・ラグビー場
準々決勝・準決勝	12月28日(月)	鹿児島県/白波スタジアム他
決勝・表彰式	12月29日(火)	鹿児島県/白波スタジアム

(2) 第40回全国少年少女草サッカー大会

プレミアカップ・プリンセスカップ	12月19日(土)~12月20日(日)	静岡県
プリンスカップ	12月26日(土)~12月28日(月)	静岡県

25. 国内競技会(主催/女子)

(1) 皇后杯 JFA 第47回全日本女子サッカー選手権大会

1回戦	2025年11月8日(土)・11月9日(日)	全国各地
2回戦	2025年11月15日(土)・11月16日(日)・11月19日(水)	全国各地
3回戦	2025年11月22日(土)・11月23日(日)	全国各地
準々決勝	2025年12月6日(土)・7日(日)	全国各地
準決勝	2025年12月14日(日)	京都府/サンガスタジアム by KYOCERA
決勝・表彰式	1月1日(木)	東京都/国立競技場

(2) 2025/26 SOMPO WEリーグ

競技期間	2025年8月9日(土)~5月16日(日)	各ホームタウン
------	-----------------------	---------

(3) 2026/27 WEリーグ(大会名未定)

競技期間	(日程未定)	各ホームタウン
------	--------	---------

(4) 2025/26 WEリーグクラシエカップ

競技期間	2025年10月25日(土)~4月29日(水)	各ホームタウン他
------	-------------------------	----------

(5) 2026/27 WEリーグカップ戦(大会名未定)

競技期間	(日程未定)	(開催地未定)
------	--------	---------

(6) 2026プレナスなでしこリーグ1部

競技期間	3月14日(土)~10月25日(日)	各ホームタウン
表彰式	(日程未定)	(開催地未定)

(7) 2026プレナスなでしこリーグ2部

競技期間	3月14日(土)~10月25日(日)	各ホームタウン
表彰式	(日程未定)	(開催地未定)

(8) 2026プレナスなでしこリーグ1部・2部入替戦

競技期間	(日程未定)	各ホームタウン
------	--------	---------

(9) 2026プレナスなでしこリーグ2部入替戦

競技期間	(日程未定)	各ホームタウン
------	--------	---------

(10) 2026プレナスなでしこリーグ2部入替戦予選大会

競技期間	(日程未定)	(開催地未定)
------	--------	---------

(11) JFA 第29回全日本U-18女子サッカー選手権大会

1回戦	1月3日(土)	大阪府/J-GREEN堺
準々決勝	1月4日(日)	大阪府/J-GREEN堺
準決勝	1月6日(火)	大阪府/J-GREEN堺
決勝・表彰式	1月10日(土)	大阪府/J-GREEN堺

(12) 高円宮妃杯 JFA 第31回全日本U-15女子サッカー選手権大会

1回戦	12月5日(土)	全国各地
2回戦	12月6日(日)	全国各地
準々決勝	12月12日(土)・12月13日(日)	全国各地
準決勝	12月25日(金)	東京都/AGFフィールド
決勝・表彰式	12月27日(日)	東京都/味の素フィールド西が丘

(13) JFA 第37回全日本O-30女子サッカー大会

競技期間	3月13日(金)~3月15日(日)	静岡県/時之栖スポーツセンター
決勝・表彰式	3月15日(日)	静岡県/時之栖スポーツセンター

(14) JFA 第37回O-40女子サッカーオープン大会

競技期間	3月6日(金)~3月8日(日)	福島県/Jヴィレッジ
------	-----------------	------------

(15) 第34回全日本大学女子サッカー選手権大会

1回戦	2025年12月23日(火)・24日(水)	大阪府、茨城県
2回戦	2025年12月25日(木)・26日(金)	大阪府、茨城県
準々決勝	2025年12月27日(土)・28日(日)	大阪府、茨城県
準決勝	1月4日(日)	東京都/味の素フィールド西が丘
決勝・表彰式	1月6日(火)	東京都/味の素フィールド西が丘

(16) 第34回全日本高等学校女子サッカー選手権大会

1回戦	2025年12月29日(月)	兵庫県
2回戦	2025年12月30日(火)	兵庫県
3回戦	1月3日(土)	兵庫県/三木総合防災公園
準々決勝	1月5日(月)	兵庫県/三木総合防災公園
準決勝	1月7日(水)	兵庫県/三木総合防災公園

第2戦	(日程未定)	(開催地未定)
決勝	(日程未定)	(開催地未定)

(8) JFL CUP

競技期間	3月20日(金)~6月7日(日)	出場チームホームタウン
------	------------------	-------------

(9) 第28回日本フットボールリーグ

競技期間	8月29日(土)~5月23日(日)	出場チームホームタウン
------	-------------------	-------------

(10) 第62回全国社会人サッカー選手権大会

競技期間	10月24日(土)~10月28日(水)	宮城県
------	---------------------	-----

(11) 第33回全国クラブチームサッカー選手権大会

競技期間	9月26日(土)~9月29日(火)	福島県/Jヴィレッジ
------	-------------------	------------

(12) 全国地域サッカーチャンピオンズリーグ 2026

1次ラウンド	11月13日(金)~11月15日(日)	群馬県/正田醤油スタジアム群馬
決勝ラウンド・決勝	11月25日(水)~11月29日(日)	兵庫県/五色台運動公園アスパ五色サッカー場
		大分県/ジェイリーススタジアム
		茨城県/水戸信用金庫スタジアム

(13) 第41回デンソーカップチャレンジサッカー

競技期間	2月下旬~3月上旬	(開催地未定)
------	-----------	---------

(14) 2026年度第75回全日本大学サッカー選手権大会

競技期間	12月	(開催地未定)
------	-----	---------

(15) 第10回全日本大学サッカー新人戦

競技期間	11月下旬	(開催地未定)
------	-------	---------

(16) 2026年度第50回総理大臣杯全日本大学サッカートーナメント

競技期間	9月上旬	(開催地未定)
------	------	---------

(17) 第24回インディペンデンスリーグ全日本大学サッカーフェスティバル

開催日程	11月下旬	(開催地未定)
------	-------	---------

(18) 2026年度全国専門学校総合体育大会 第35回全国専門学校サッカー選手権大会

競技期間	(日程未定)	(開催地未定)
------	--------	---------

(19) 第61回全国高等専門学校体育大会 兼 第59回全国高等専門学校サッカー選手権大会

競技期間	12月19日(土)~12月23日(水)	三重県
------	---------------------	-----

(20) 2027東京エネシカップ 第4回全国高専サッカー地域選抜大会

競技期間	3月中旬予定	(開催地未定)
------	--------	---------

(21) 日本スポーツマスターズ2025愛媛大会(サッカー競技)

競技期間	9月19日(土)~9月22日(火)	石川県小松市、能美市
開会式	9月18日(金)	石川県金沢市
決勝・表彰式	9月22日(火)	石川県小松市

22. 国内競技会(主催/2種)

(1) 第104回全国高等学校サッカー選手権大会

開会式	2025年12月28日(日)	東京都/国立競技場
1回戦	2025年12月29日(月)	首都圏
2回戦	2025年12月31日(水)	首都圏
3回戦	1月2日(金)	首都圏
準々決勝	1月4日(日)	神奈川県/Uvanceとどろきスタジアム by Fujitsu
		千葉県/フクダ電子アリーナ
準決勝	1月10日(土)	東京都/国立競技場
決勝・表彰式	1月12日(月)	東京都/国立競技場

(2) 第50回日本クラブユースサッカー選手権(U-18)大会

競技期間	12月23日(水)~29日(火)	広島県、山口県
決勝・表彰式	12月29日(火)	広島県

(3) 令和8年度 全国高等学校総合体育大会(サッカー競技 男子)

開会式	7月24日(金)	福島県/Jヴィレッジ
競技期間	7月25日(土)~8月1日(土)	福島県/いわき市、檜町、広野町
決勝・表彰式	8月1日(土)	福島県/Jヴィレッジスタジアム

(4) 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2026

競技期間	4月~12月	出場チームホームタウン
------	--------	-------------

(5) 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2026 プレーオフ

開催日程	12月	(開催地未定)
------	-----	---------

(6) 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2026 ファイナル

開催日程	12月	(開催地未定)
------	-----	---------

(7) 2026Jユースリーグ・第32回Jリーグユース選手権

競技期間	3月~12月	出場チームホームタウン
------	--------	-------------

23. 国内競技会(主催/3種)

(1) 令和8年度全国中学校体育大会/第57回全国中学校サッカー大会

開会式	8月18日(火)	広島県
競技期間	8月19日(水)~8月23日(日)	広島県
決勝・表彰式	8月23日(日)	広島県

(2) 第41回日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会

グループステージ	8月14日(金)~8月24日(月)	北海道
決勝・表彰式	8月24日(月)	北海道

(3) メニコンカップ2026 日本クラブユースサッカー東西対抗戦(U-15)

開催日程	9月	(開催地未定)
------	----	---------

(4) 高円宮杯 JFA 第38回全日本 U-15 サッカー選手権大会

- (6) 第52回全国自治体職員サッカー選手権大会
競技期間 7月24日(金)~7月29日(水).....栃木県宇都宮市
- (7) チビリンピック2026 JA全農杯 全国小学生選抜サッカー決勝大会
競技期間 5月3日(日)~5月5日(火)
.....神奈川県/日産フィールド小机、日産スタジアム
- (8) 第38回全国健康福祉祭埼玉大会(ねんりんピック彩の国さいたま2026)
総合開会式 11月7日(土).....埼玉県/熊谷スポーツ文化公園陸上競技場
競技期間 11月8日(日)~11月9日(月).....埼玉県内
総合閉会式 11月10日(火).....埼玉県/埼玉会館大ホール
- (9) 第42回全国選抜フットサル大会
競技期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (10) 日本トリム Presents 第18回全国女子選抜フットサル大会
競技期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (11) 第26回F地域チャンピオンズリーグ
競技期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (12) 第13回FUTSAL 地域女子チャンピオンズリーグ
競技期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (13) LUXPERIOR CUP 地域大学フットサルチャンピオンズリーグ
競技期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (14) 第12回 BeachSoccer 地域リーグチャンピオンシップ
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (15) 第8回 BeachSoccer 地域女子チャンピオンズカップ
競技期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (16) 第4回ビーチサッカーU-12フェスティバル
競技期間 (日程未定).....(開催地未定)

30. 国際競技会

- (1) AFC チャンピオンズリーグ Elite 2025/26
リーグステージ
第7節 2月10日(火) サンフレッチェ広島 vs ジョホール・ダルル・タクジム
.....広島県/広島サッカースタジアム
ヴィッセル神戸 vs FC ソウル
.....兵庫県/神戸市御崎公園球技場
上海申花 vs FC 町田ゼルビア
.....中国/Shanghai Stadium
第8節 2月17日(火) FCソウル vs サンフレッチェ広島
.....韓国/Seoul World Cup Stadium
FC 町田ゼルビア vs 成都蓉城
.....東京都/町田市立陸上競技場
ジョホール・ダルル・タクジム vs ヴィッセル神戸
.....マレーシア/Sultan Ibrahim Stadium
ラウンドオブ16 3月3日(火)~3月11日(水).....(開催地未定)
準々決勝~決勝 4月17日(金)~4月25日(土).....サウジアラビア
- (2) AFC チャンピオンズリーグ2 2025/26
ラウンドオブ16 2月11日(水)~2月19日(木).....(開催地未定)
準々決勝 3月4日(水)~3月12日(木).....(開催地未定)
準決勝 4月8日(水)~4月15日(水).....(開催地未定)
決勝 5月16日(土).....(開催地未定)
- (3) AFC チャンピオンズリーグ Elite 2026/27
競技期間 9月15日(火)~2027年5月1日(土).....(開催地未定)
- (4) AFC チャンピオンズリーグ2 2026/27
競技期間 9月16日(水)~2027年5月15日(土).....(開催地未定)
- (5) AFC 女子チャンピオンズリーグ2025/26
準々決勝 3月28日(土) または 3月29日(日).....(開催地未定)
準決勝・決勝 5月20日(水)~5月23日(土).....(開催地未定)
- (6) AFC 女子チャンピオンズリーグ2026/27
競技期間 (日程未定).....(開催地未定)

III 指導普及事業

31. 普及事業

- (1) 施設整備推進事業・施設整備助成事業
開催日程 1月1日(木)~12月31日(木).....全国各地
- (2) Jリーグシーズン移行施設整備助成事業
開催日程 1月1日(木)~12月31日(木).....全国各地
- (3) 地域サッカー協会支援事業
地域サッカー協会の自主的・自発的活動のための支援を実施している。
開催日程 1月1日(木)~12月31日(木).....各地域
- (4) 施設整備推進事業 ボット苗方式芝生モデル事業
全国の保育園、幼稚園、学校、スポーツ施設、空き地等から提供先を公募し、ティ
フン芝のボット苗を無償提供している。
開催日程 1月1日(木)~12月31日(木).....全国各地
- (5) 都道府県サッカー協会支援事業
都道府県サッカー協会の自主的・自発的活動のための支援を実施している。
開催日程 1月1日(木)~12月31日(木).....47都道府県
- (6) 加盟団体支援事業

- 決勝・表彰式 1月11日(日).....兵庫県/神戸総合運動公園ユニバー記念競技場
- (17) 令和8年度 全国高等学校総合体育大会(サッカー競技 女子)
開会式・1回戦 7月28日(火).....北海道旭川市
2回戦 7月29日(水).....北海道旭川市
準決勝 7月31日(金).....北海道旭川市
決勝・表彰式 8月1日(土).....北海道/リアルター夢りんご東光スポーツ公園球技場
- (18) (仮)U-18女子サッカープレミアリーグ 参入プレーオフ
競技期間 12月(予定).....(開催地未定)

26. 国内競技会(主催/シニア)

- (1) JFA 第20回全日本O-70サッカー大会
競技期間 (日程未定).....宮崎県宮崎市
決勝・表彰式 (日程未定).....宮崎県宮崎市
- (2) JFA 第26回全日本O-60サッカー大会
競技期間 (日程未定).....宮崎県宮崎市
決勝・表彰式 (日程未定).....宮崎県宮崎市
- (3) JFA 第25回全日本O-50サッカー大会
競技期間 6月27日(土)~6月29日(月).....兵庫県三木市
決勝・表彰式 6月29日(月).....兵庫県三木市
- (4) JFA 第14回全日本O-40サッカー大会
競技期間 (日程未定).....静岡県藤枝市
決勝・表彰式 (日程未定).....静岡県藤枝市

27. 国内競技会(主催/フットサル)

- (1) JFA 第31回全日本フットサル選手権大会
1回戦 3月14日(土).....静岡県、大阪府、福岡県、兵庫県
2回戦 3月15日(日).....静岡県、大阪府、福岡県、兵庫県
準々決勝 3月20日(金).....東京都/駒沢屋内体育館
準決勝 3月21日(土).....東京都/駒沢屋内体育館
決勝・表彰式 3月22日(日).....東京都/駒沢屋内体育館
- (2) Fリーグ2026-2027 ディビジョン1
開催日程 5月30日(土)~12月20日(日).....各ホームタウン
ファイナルシーズン 2027年1月15日(金)~2月7日(日).....(開催地未定)
- (3) Fリーグ2026-2027 ディビジョン2
開催期間 5月30日(土)~12月20日(日).....各ホームタウン
- (4) JFA 第13回全日本U-18フットサル選手権大会
競技期間 7月23日(木)~7月26日(日).....秋田県/ナイスアリーナ
決勝・表彰式 7月26日(日).....秋田県/ナイスアリーナ
- (5) JFA 第31回全日本U-15フットサル選手権大会
競技期間 1月10日(土)~1月12日(月).....栃木県/日環アリーナ栃木
決勝・表彰式 1月12日(月).....栃木県/日環アリーナ栃木
- (6) JFA 第16回全日本U-15女子フットサル選手権大会
競技期間 1月11日(日)~1月12日(月).....栃木県/日環アリーナ栃木
決勝・表彰式 1月12日(月).....栃木県/日環アリーナ栃木
- (7) JFA バーモントカップ 第36回全日本U-12フットサル選手権大会
競技期間 8月8日(土)~8月11日(火).....東京都/駒沢体育館、駒沢屋内球技場
決勝・表彰式 8月11日(火).....東京都/駒沢体育館、駒沢屋内球技場
- (8) JFA 第22回全日本女子フットサル選手権大会
競技期間 2月21日(金)~2月23日(日)
.....北海道/ウインドヒルくしろスーパーアリーナ
決勝・表彰式 2月23日(日).....北海道/ウインドヒルくしろスーパーアリーナ
- (9) 日本女子フットサルリーグ2026-2027
レギュラーシーズン 6月13日(土)~9月27日(日).....(各ホームタウン)
ファイナルシーズン 10月24日(土)~2027年2月21日(日).....(開催地未定)
- (10) 第22回全日本大学フットサル大会
競技期間 (日程未定).....大阪府/岸和田市総合体育館
決勝・表彰式 (日程未定).....大阪府/岸和田市総合体育館
- (11) JFA 第21回全日本ビーチサッカー大会
競技期間 (日程未定).....兵庫県/明石市大蔵海岸

28. 国内競技会(主催/その他)

- (1) 第80回 国民スポーツ大会(サッカー競技)
開催日程 10月10日(土)~10月14日(水)
.....青森県/八戸市、五戸町、十和田市、南部町

29. 国内競技会(後援)

- (1) 高円宮杯 JFA U-18サッカープリンスリーグ2026
競技期間 4月~12月.....全国各地
- (2) JFA U-15女子サッカーリーグ2026
競技期間 4月~11月.....全国各地
- (3) 全国高等学校定時制通信制体育大会 第36回サッカー大会
競技期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (4) 第59回全国自衛隊サッカー大会
競技期間 4月中旬.....東京都内
- (5) 第11回自衛隊女子フットサル大会
競技期間 4月中旬.....東京都内、埼玉県朝霞市

- (7) ナショナルトレセン女子U-13
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (8) 女子GKキャンプ
女子GKキャンプU-15 (日程未定).....(開催地未定)
エリートGKキャンプ① (日程未定).....大阪府/J-GREEN堺
エリートGKキャンプ② (日程未定).....福島県/Jヴィレッジ
- (9) フットサル育成U-18地域キャラバン
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (10) フットサル育成GKキャンプ
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (11) ビーチサッカータレント育成事業
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (12) エリートプログラムU-14 日韓交流戦
～JOC日韓競技力向上スポーツ交流事業～
活動期間 (日程未定).....韓国
- (13) JFA U-13 日韓交流戦～JOC日韓競技力向上スポーツ交流事業～
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (14) エリートプログラム女子U-14 トレーニングキャンプ
～JOC日韓競技力向上スポーツ交流事業～
活動期間 (日程未定).....(開催地未定)
- (15) エリートプログラム女子U-13 韓国遠征
～JOC日韓競技力向上スポーツ交流事業～
活動期間 (日程未定).....韓国
- (16) 全国技術委員長会議
開催日程 2月
- (15) FAコーチ研修会
開催日程 (日程未定)

33. 強化事業(選手育成/アカデミー)

- (1) JFAアカデミー福島
男子 1月1日(木)～12月31日(木).....福島県
女子 1月1日(木)～12月31日(木).....福島県
卒校式(男子) (日程未定).....福島県
卒校式(女子) 1月30日(金).....福島県
入校式 4月7日(月).....福島県
- (2) JFAアカデミー熊本宇城
事業期間 1月1日(木)～12月31日(木).....熊本県
卒校式 (日程未定).....熊本県
入校式 (日程未定).....熊本県
- (3) JFAアカデミー今治
事業期間 1月1日(木)～12月31日(木).....愛媛県
卒校式 (日程未定).....愛媛県
入校式 (日程未定)
- (4) JFAアカデミー堺
事業期間 1月1日(木)～12月31日(木).....大阪府
卒校式 (日程未定).....大阪府/J-GREEN堺
入校式 (日程未定).....大阪府/J-GREEN堺

34. 指導者養成事業(サッカー資格)

- (1) Proライセンス養成講習会 第1コース～第2コース
第1コース 2月2日(月)～2027年1月27日(水)
.....千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド他
第2コース 7月13日(月)～2027年7月28日(水)
.....千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド他
- (2) Aジェネラルライセンス養成講習会 第1コース～第8コース
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (3) エリートユースAライセンス養成講習会
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (4) ユースBライセンス養成講習会 第1コース～第3コース
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (5) Bライセンス養成講習会 第1コース～第3コース
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (6) Bライセンス養成講習会 JFA女性コース
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (7) Bライセンス養成講習会 47FAコース
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....47都道府県
- (8) Cライセンス養成講習会47FAコース
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....47都道府県
- (9) Cライセンス養成講習会 JFA女性コース
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (10) Dライセンス養成講習会47FAコース
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....47都道府県
- (11) キッズリーダー養成講習会47FAコース
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....47都道府県
- (12) ゴールキーパーAライセンス養成講習会

加盟団体の自主的・自発的活動のための支援を実施している。
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....各加盟団体

- (7) JFA スポーツマネジャーズカレッジ サテライト講座
自立した魅力あるスポーツ組織づくりを推進するスポーツマネジャーを養成している。
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....全国各地
- (8) 47FAカンファレンス
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (9) 9地域代表者会議
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....東京都/JFAハウス
- (10) JFAユニクロサッカーキッズ
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (11) キッズ巡回指導
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....全国各地
- (12) JFA チャレンジゲーム めざせクラック! / めざせファンタジスタ!
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....全国各地
- (13) JFAマジカルフィールド Inspired by Disney ファーストタッチ
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (14) JFA なでしこひろば
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....全国各地
- (15) JFA 女子サッカーデー
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (16) 女子サッカー普及コーディネーター研修会
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (17) ■小学校キャラバン(学校版なでしこひろば)
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (18) ■ガールズゲームU10トライアル
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (19) JFA シニアウォーキングフットボールカップ
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (20) JFA シニアサッカークリニック
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (21) JFA×KIRINキリンファミリーチャレンジカップ2026(ウォーキングフットボール)
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (22) ウォーキングフットボール コーディネーター講習会
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....全国各地
- (23) ウォーキングひろば
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木).....全国各地
- (24) 9地域障がい者サッカー連携会議
開催日程 (日程未定).....オンライン
- (25) FA/加盟団体向けセミナー
FA向け
■事務局員対象セミナー (日程未定).....(開催地未定)
施設活用セミナー (日程未定).....(開催地未定)
マーケティングセミナー (日程未定).....(開催地未定)
グラスルーツセミナー (日程未定).....(開催地未定)
加盟団体向け
■加盟団体対象セミナー (日程未定).....(開催地未定)
- (26) ■47FA活性化タスクフォース(仮称)
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (27) ■47FAメンター制度事業
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)

32. 強化事業(選手育成)

- (1) 47FA コースダイレクター研修会(集合)
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (2) ナショナルトレセンU-15
2月 2月23日(月)～2月27日(金).....福島県/Jヴィレッジ
4月 (日程未定).....(開催地未定)
6月 (日程未定).....(開催地未定)
9月 (日程未定).....(開催地未定)
- (3) ナショナルトレセンU-14
前期 (日程未定).....(開催地未定)
中期 (日程未定).....(開催地未定)
後期 (日程未定).....(開催地未定)
遅生 (日程未定).....(開催地未定)
- (4) ナショナルGKキャンプ
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (5) JFAコーチ[女子担当]研修会
開催日程 (日程未定).....(開催地未定)
- (6) ナショナルトレセン女子U-14
後期 1月22日(木)～1月25日(日).....福島県/Jヴィレッジ
前期 (日程未定).....(開催地未定)
中期 (日程未定).....(開催地未定)

- (21) フットサルBライセンスチューター研修会
開催日程 2月2日(月)～2月4日(水)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (22) フットサルCライセンスチューター研修会
開催日程① 1月23日(金)～1月25日(日)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
開催日程② 3月27日(金)～3月29日(日)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (23) フットサルGKライセンスチューター研修会
開催日程 3月22日(日)～3月24日(火)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド

37. 指導者養成事業(リフレッシュ)

- (1) eラーニングリフレッシュ研修会
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木)……オンライン
- (2) オンラインリフレッシュ研修会
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木)……オンライン
- (3) 集合型リフレッシュ研修会
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木)……(開催地未定)
- (4) Aライセンススキルアップ研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (5) Bライセンススキルアップ研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (6) 女性指導者スキルアップ研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)

38. 指導者養成事業(キッズ・学校体育)

- (1) 小学校体育サポート研修会
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木)……全国各地
- (2) 中学校体育サポート研修会
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木)……(開催地未定)
- (3) ■FIFA Football for School
開催日程 3月14日(土)……東京都/大田区総合体育館
- (4) ■JFA フェスティバル研修会
開催日程 (日程未定)……オンライン
- (5) 47FA フェスティバル研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)

39. 指導者養成事業(その他研修会)

- (1) JクラブおよびJクラブアカデミーフィジカル・コンディショニング担当者研修会
活動期間 (日程未定)……(開催地未定)
- (2) WE/なでしこクラブフィジカル担当者研修会
活動期間 (日程未定)……(開催地未定)
- (3) JFA・Jリーグ アナリスト/テクニカルスタッフ勉強会
活動期間 (日程未定)……(開催地未定)

40. 医事関連事業

- (1) 全国医学委員長会議
9地域FA・47都道府県FA医学委員長による会議。JFA医学委員会との情報共有を図り、47FA医学委員会の活動を活性化させている。
開催日程 1月12日(月)……ハイブリッド、東京都/JFAハウス
- (2) NF Representative会議
2025シーズンの課題等の抽出と2026シーズンに向けての準備と伝達を行う。
開催日程 1月31日(土)……ハイブリッド、東京都/JFAハウス
- (3) 第78回サッカードクターセミナー
全国の医師、歯科医師、アスレティックトレーナーを対象に行うセミナー。サッカーにおける外傷・障害の症例等を題材に、外部講師を招いて講義を行っている。
開催日程 2月21日(土)～2月22日(日)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (4) 第79回サッカードクターセミナー
全国の医師、歯科医師、アスレティックトレーナーを対象に行うセミナー。サッカーにおける外傷・障害の症例等を題材に、外部講師を招いて講義を行っている。
開催日程 10月24日(土)～10月25日(日)……奈良県/奈良市
- (5) アスレティックトレーナーセミナー
各地域・都道府県協会からの推薦者と各種連盟を対象に開催。最新の医学的情報を提供し、トレーナーとしてのさらなるレベルアップを目指している。
開催日程 2月8日(日)……ハイブリッド、千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (6) 代表チームドクター・トレーナー会議
各年代代表チームドクターとアスレティックトレーナーによる会議で、選手強化・育成のための情報共有および課題検討を行う。
開催日程 12月……ハイブリッド、東京都/JFAハウス
- (7) JFAメディカルセンター整形外科クリニックの運営
福島県/Jヴィレッジ隣接の診療所を運営し、トップアスリートから地域住民の外傷・運動機能障害の治療や健康増進を図る。医学委員会と連携して各種調査・研究を行い、全国に向けて情報の発信を行う。
事業期間 1月1日(木)～12月31日(木)……福島県
- (8) 日本サッカー協会診療所の管理
千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド内の診療所の管理を行っている。
事業期間 1月1日(木)～12月31日(木)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (9) 救命講習会
ピッチ上での突然死を根絶するため、BLS(Basic Life Support:一次救命処置)

- 開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (13) ゴールキーパーレベル3ライセンス養成講習会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (14) ゴールキーパーレベル2ライセンス養成講習会 第1コース～第3コース
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (15) ゴールキーパーレベル1ライセンス養成講習会 第1コース～第2コース
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (16) フィジカルAライセンス養成講習会 2026/2027(前期)
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (17) フィジカルBライセンス養成講習会 2026/2027(後期)
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (18) フィジカルBライセンス養成講習会 2026/2027(前期)
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (19) フィジカルCライセンス養成講習会 第1コース～第10コース
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)

35. 指導者養成事業(フットサル・ビーチサッカー資格)

- (1) フットサルAライセンス養成講習会
開催日程 (日程未定)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (2) フットサルBライセンス養成講習会 第1コース
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (3) フットサルBライセンス養成講習会 第2コース
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (4) フットサルBライセンス養成講習会 第3コース
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (5) フットサルCライセンス養成講習会 女性コース
開催日程 (日程未定)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (6) フットサルゴールキーパーCライセンス養成講習会 第1コース
開催日程 7月17日(金)～7月20日(月)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (7) フットサルゴールキーパーCライセンス養成講習会 第2コース
開催日程 12月17日(木)～12月20日(日)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド

36. 指導者養成事業(チューター)

- (1) Proライセンス/Aジェネラルライセンスチューター研修会
開催日程 (日程未定)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (2) エリートユースA・ユースBライセンスチューター研修会
開催日程 (日程未定)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (3) 継続Bライセンスチューター研修会
開催日程 3月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (4) CDライセンスチューター研修会(集合/47FA開催)
開催日程 1月～3月……47都道府県
- (5) Bライセンスチューター研修会 前期・後期(オンライン)
開催日程 (日程未定)……オンライン
- (6) 新規Bライセンスチューター研修会
開催日程 3月……(開催地未定)
- (7) Bライセンス新規GK担当チューター研修会
開催日程 6月……(開催地未定)
- (8) Bライセンス継続GKチューター研修会(オンライン)
開催日程 3月……(開催地未定)
- (9) コーチエデュケーションアドバイザー研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (10) 47FAシニアチューター研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (11) 新規CDライセンスチューター研修会
開催日程 3月、6月……(開催地未定)
- (12) Cライセンス継続GK担当チューター研修会(オンライン)
開催日程 3月……(開催地未定)
- (13) GKレベル3ライセンスチューター研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (14) GKレベル2ライセンスチューター研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (15) 新規GK-レベル1ライセンスチューター研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (16) 継続GK-レベル1ライセンスチューター研修会(オンライン)
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (17) フィジカルAライセンスチューター研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (18) フィジカルBライセンスチューター研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (19) フィジカルCライセンスチューター研修会
開催日程 (日程未定)……(開催地未定)
- (20) フットサルAライセンスチューター研修会
開催日程 2月2日(月)～2月4日(水)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド

- ナショナルトレセンU-14
 前期 5月……(開催地未定)
 中期 9月……(開催地未定)
 後期 11月……(開催地未定)

- (3) U-22審判員研修会
 TRAUM CUP 春季 3月中旬……茨城県/鹿島ハイ
 TRAUM CUP 夏季 8月下旬……茨城県/鹿島ハイ

- (4) U-22審判員全国大会派遣
 高校総体 7月……福島県/Jヴィレッジ
 クラブユースU-15 8月……北海道/札幌市

- (5) 地域推薦2級審判員全国大会派遣
 クラブユースU-18 12月……広島県、山口県
 高校総体 7月……福島県/Jヴィレッジ
 クラブユースU-15 8月……北海道/札幌市
 国民スポーツ大会 10月……青森県/十和田市ほか
 全国社会人サッカー大会 10月……宮崎県

- (6) 地域推薦2級女子審判員研修会
 全日本U-18女子大会 1月3日(土)~1月4日(日)……大阪府/J-GREEN堺
 全日本O-30女子大会 3月13日(金)~3月15日(日)
 ……静岡県/時の栖スポーツセンター
 全国高等学校総合体育大会(女子) 7月28日(火)~8月1日(土)……北海道旭川市
 全国中学校サッカー大会 8月18日(火)~8月22日(土)……広島県
 国民スポーツ大会 10月10日(土)~10月14日(水)
 ……青森県/八戸市、五戸町、十和田市南部町
 高円宮妃杯全日本U-15女子選手権大会 12月5日(土)~12月6日(日)……全国各地
 ■ルーキーリーグU-16……福島県/Jヴィレッジ

- (7) なでしこリーグ2部担当スキルアップ研修会
 第1回 2月14日(土)~2月15日(日)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 第2回 5月中旬……オンライン
 第3回 6月20日(土)~6月21日(日)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 第4回 7月中旬……オンライン

- (8) ■JFAフェリエーセレクション
 第1回 3月……福岡県/グローバルアリーナ
 第2回 3月……長崎県/島原市
 第3回 5月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 第4回 9月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 第5回 11月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド

43. 審判関連事業(育成)

- (1) 地域フェリエーアカデミー
 地域フェリエーアカデミー指導者研修
 オンライン研修会 4月・11月……オンライン
 アカデミーインストラクター研修会 7月……開催地未定
 アカデミーマスター研修会 12月5日(土)~12月6日(日)
 ……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 地域フェリエーアカデミー審判員研修
 オンライン研修会 5月・9月……オンライン
- (2) 大学女子スカウトキャラバン
 講師派遣 2月下旬……静岡県/時の栖スポーツセンター
- (3) J-VILLAGE CUP U-18女子
 研修および実技指導 2月6日(金)~2月8日(日)……福島県/Jヴィレッジ
 (4) Be a Referee
 審判活動の促進を目的とした都道府県サッカー協会との協働事業
 Be a Referee! 2月~12月……調整中

44. 審判関連事業(フットサル)

- (1) フットサル1級審判員研修会
 Fリーグ担当勉強会 1~3月、7~12月……オンライン
 女子フットサルリーグ担当勉強会 1~3月、7~12月……オンライン
- (2) Fリーグ担当審判員研修会
 第1回(開幕前) 4月~5月……オンライン
 5月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 第2回 10月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (3) 日本女子フットサルリーグ担当審判員研修会
 第1回(開幕前) 4月~5月……オンライン
 5月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 第2回 11月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (4) フットサル新1級審判員研修会
 第1回 4月下旬または5月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (5) フットサル1級審判員フィットネステスト
 地域開催 2月~3月末……9地域
 JFA開催 4月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 8月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- (6) フットサル2級・女子2級審判員強化研修会
 第1回 2025年12月下旬……オンライン
 第2回 1月10日(土)~1月12日(月)……栃木県/日環アリーナ栃木
 第3回 1月下旬
- (7) フットサル2級審判員強化研修会

の普及を目的とした簡易救命講習会と資格保持者の育成を目的としたスポーツ救命ライセンス講習会(BLS講習会)を全国各地で開催する。

- ① JFA+PUSHコース(簡易救命講習会)
 開催期間 1月1日(木)~12月31日(木)……全国各地
 ② スポーツ救命ライセンス講習会
 開催期間 1月1日(木)~12月31日(木)……全国各地
 ③ 指導者養成講習会
 開催日程 (日程未定)……(開催地未定)

41. 審判関連事業(1級)

- (1) J1担当審判員研修会
 第1回 1月……首都圏
 第2回 7月……(開催地未定)
 上記のほか、オンライン複数回
- (2) J2担当審判員研修会
 第1回 1月……首都圏
 第2回 7月……(開催地未定)
 上記のほか、オンライン複数回
- (3) J3担当審判員研修会
 第1回 1月……首都圏
 第2回 8月……(開催地未定)
 上記のほか、オンライン複数回
- (4) JFL 担当審判員研修会
 第1回 3月……首都圏
 第2回 8月……(開催地未定)
- (5) VAR研修会
 開幕前ブラクティカルTr 7月……首都圏
 シミュレーターTr 開催時期未定……首都圏
 上記のほか、オンライン複数回
- (6) VAR新規養成&フォローアップ
 セオリー・シミュレーターTr 1月……首都圏
 ブラクティカルTr 6月……首都圏
 ライブマッチTr 7月……首都圏

- (7) プロフェッショナルレフェリートレーニングキャンプ
 全17回 1月~12月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド他
 上記のほか、オンライン複数回
- (8) WEリーグ審判員研修会
 第1回 2月7日(土)~2月8日(日)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 第2回 7月18日(土)~7月19日(日)……福島県/Jヴィレッジ
- (9) WEリーグ審判員デブリーフィング
 第1回 1月下旬……オンライン
 第2回 3月下旬……オンライン
 第3回 4月下旬……オンライン
 第4回 5月下旬……オンライン
 第5回 6月下旬……オンライン
 第6回 10月下旬……オンライン
 第7回 11月下旬……オンライン
 第8回 12月下旬……オンライン
- (10) 1級女子審判員フィットネスフォローアップ研修
 第1回 4月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 第2回 10月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 第3回 11月……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド

- (11) なでしこリーグ担当審判員研修会
 第1回 2月7日(土)~2月8日(日)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 第2回 7月18日(土)~7月19日(日)……福島県/Jヴィレッジ

- (12) フィットネステスト
 JFA開催(J・JFL 担当)
 2025年12月14日(日)……大阪府/万博記念競技場
 2025年12月21日(日)……神奈川県/レモンガスタジアム平塚
 2月上旬……関東
 4月……関東
 JFA開催(女子審判員用) 1月24日(土)……神奈川県/日産フィールド小机
 JFA開催(女子審判員用) 2月7日(土)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 JFA開催(女子審判員用) 3月7日(土)……千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
 JFA開催(女子審判員用) 6月27日(土)~6月28日(日)……福島県/Jヴィレッジ
 JFA開催(女子審判員用) 7月18日(土)~7月19日(日)……福島県/Jヴィレッジ

42. 審判関連事業(2級)

- (1) U-18審判員研修会
 全日本U-18選手権 12月25日(金)~12月29日(火)……鹿児島県
 U-18審判員研修会(Rookie Cup U-16) 8月上旬……福島県/Jヴィレッジ
 高校選抜審判員研修会
 第1回 1月下旬……静岡県/時の栖スポーツセンター
 第2回 2月上旬……神奈川県/横浜市
 第3回 2月下旬……神奈川県/横浜市
 ■海外派遣 (日程未定)……(開催地未定)
- (2) U-20審判員研修会
 TRAUM CUP 春季 3月中旬……茨城県/鹿島ハイ

- 予備審査 4月.....オンライン
- 1次審査 7月～8月.....地域フットサルリーグ
- 2次審査 11月・2027年2月
.....(開催地未定、トリムカップ全国女子選抜フットサル大会・地域女子
チャンピオンズリーグ)

(8) JFA 推薦フットサル1級審判員認定審査

- 集合審査 1月.....千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- 実技審査 2月または3月.....(開催地未定)

(9) フットサル1級審判インストラクター認定審査

- 1次審査 6月.....オンライン
- 2次審査 8月.....(開催地未定)
- 3次審査 10月～12月.....(開催地未定)

48. 審判関連事業(資格更新)

(1) サッカー3級・4級審判員 更新講習会

- eラーニング 10月～3月

(2) フットサル3級・4級審判員 更新講習会

- eラーニング 10月～3月

(3) 審判インストラクターリフレッシュ講習会

- 1級審判インストラクター向け 3月～12月.....オンライン、開催地未定
- 1級～2級審判インストラクター向け 5月～12月.....オンライン、開催地未定
- 1級～3級審判インストラクター向け 5月～12月.....オンライン、開催地未定

49. 審判関連事業(国際)

(1) 指導者/委員会 欧州視察

- 地域指導者海外研修 (日程未定).....マレーシア

(2) 国際審判員国際交流プログラム

- 審判派遣(男女) (日程未定).....イングランド
- 審判受入(男女) (日程未定).....日本
- 審判派遣(男子) (日程未定).....ポランド
- 審判受入(男子) (日程未定).....日本
- 審判派遣(男子) (日程未定).....カタール
- 審判受入(男子) (日程未定).....日本
- 審判派遣(男子) (日程未定).....サウジアラビア
- 審判受入(男子) (日程未定).....日本
- 審判派遣(男子) (日程未定).....ドイツ
- 審判招聘(男子/イングランド) (日程未定).....日本
- 審判招聘(男子/ドイツ) (日程未定).....日本
- 審判招聘(男子/CONCACAF) (日程未定).....日本
- 審判招聘(男子/ベルギー) (日程未定).....日本

(3) JFAレフェリアアカデミー

- 第1回 (日程未定).....オンライン
- 第2回 (日程未定)
.....東京都/JFAハウス、千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- 第3回 (日程未定).....オンライン
- 第4回 (日程未定)
.....東京都/JFAハウス、千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- Jリーグプレシーズンキャンプ (日程未定).....(開催地未定)
- サニックス杯 3月11日(木)～3月15日(日).....福岡県/グローバルアリーナ
- 海外派遣 (日程未定).....インドネシア
- 海外派遣 (日程未定).....ホンコン・チャイナ
- 海外派遣 (日程未定).....マレーシア
- 海外派遣 (日程未定).....北アイルランド
- 海外派遣 (日程未定).....タイ
- 海外派遣 (日程未定).....アメリカ

50. 審判関連事業(全国審判委員長会議)

- 9地域審判委員長会議 日程未定.....オンライン
- 全国審判委員長会議 5月.....(開催地未定)

IV 社会貢献事業

51. JFAこころのプロジェクト

(1) JFAこころのプロジェクト「夢の教室」

小学5年生と中学2年生を対象に、さまざまな競技・専門の現役/OB・OG選手などを「夢先生」として学校へ派遣し、「夢を持つことや、それに向かって努力することの大切さ」「仲間と協力することの大切さ」などを伝える。
学校の正規授業時間内に、体育館で行う「ゲームの時間」(一部教室で行う「出会いの時間」)、教室で行う「トークの時間」を実施し、その後に夢先生と子どもたちがメッセージのやり取りをする「夢シート」で構成されている。
※一部オンラインでの実施、公募等による学校外実施あり
地方公共団体との連携 1,250回(日程未定)
支援企業による冠授業 150回(日程未定)
その他(JFA自主開催等) 36回(日程未定)
計 1,436回 連携自治体等全国各地
※冠授業では一部海外実施あり

(2) JFAこころのプロジェクト「ゆめのたねの教室」

小学3年生を対象に、さまざまな競技・専門の現役選手/OB・OG選手などを「夢先生」として学校へ派遣し、「夢を持つことの素晴らしさ」「夢につながる」好きなことを自分でみつける・認識することの大切さ」などを伝える。学校の正規授業

- 第1回 7月中旬.....オンライン
- 第2回 7月23日(木)～7月26日(日).....秋田県/由利本荘ナイスアリーナ
- 第3回 8月上旬または中旬.....オンライン

(8) フットサル2級審判員強化セミナー

- 5月～12月.....オンライン

(9) フットサル育成審判員研修会

- 第1回 7月下旬.....オンライン
- 第2回 8月8日(土)～8月11日(火).....東京都/駒沢体育館・駒沢屋内球技場
- 第3回 8月下旬.....オンライン

45. 審判関連事業(ビーチサッカー)

(1) ビーチサッカー審判研修会(巡回講習)

- 地域巡回 5月～8月.....9地域

(2) ビーチサッカー強化審判研修会

- 第1回 2月.....(開催地未定)
- 第2回 5月.....(開催地未定)
- 第3回 7月.....(開催地未定)
- 第4回 10月.....(開催地未定、Beach Soccer地域リーグチャンピオンシップ)
- 第5回 12月.....(開催地未定)

(3) ビーチサッカー審判研修会

- 第1回 9月上旬.....オンライン
- 第2回 9月中旬.....兵庫県/明石大蔵海岸
- 第3回 9月下旬.....オンライン

46. 審判関連事業(インストラクター)

(1) 審判アセッサー研修会

- J1担当アセッサー 2月.....オンライン
- J2担当アセッサー 2月、4月、6月、9月.....オンライン
- J3担当アセッサー 2月、4月、6月、9月.....オンライン
- JFL担当アセッサー 2月、5月、8月、9月.....オンライン
- WE担当アセッサー 2月、5月、10月.....オンライン
- なでしこ担当アセッサー 2月、5月、8月、9月.....オンライン
- プール担当アセッサー 5月、7月、10月.....オンライン

(2) JFL主審候補者プール担当アセッサー研修会

- 第1回 3月.....(開催地未定)

(3) 審判指導者モニタリング

- モニタリング 3月～12月.....各試合会場

(4) 審判指導者エデュケーター研修会

- 第1回9FA審判エデュケーター研修会 4月
.....千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- 第2回9FA審判エデュケーター研修会 8月
.....千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- 47FA審判エデュケーター研修会(分散開催).....関東・関西・九州

(5) フットサル1級審判インストラクター研修会

- 第1回 4月.....オンライン
- 第2回 4月.....開催地未定

(6) フットサル1級審判インストラクタースキルアップ

- モニタリング 6月～12月.....リーグ試合会場
- スキルアップ勉強会 年5回.....オンライン
- フットサル2級審判インストラクタースキルアップ
スキルアップ勉強会 年4回.....オンライン

47. 審判関連事業(資格審査)

(1) JFL主審候補者プール

- [集合プログラム]
- 第1回 3月13日(金)～3月15日(日).....千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- 第2回 11月28日(土).....千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- [競技規則テスト]
- 全5回 3月、5月、6月、8月、9月.....オンライン

(2) サッカー1級審判員 特別認定審査

- 1次審査 (日程未定).....オンライン
- 2次審査 (日程未定).....各地域
- 3次審査 (日程未定).....千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド

(3) サッカー1級審判員(なでしこリーグ担当)認定審査

- 認定審査 3月～11月.....各地域(都道府県)

(4) サッカー1級審判員インストラクター養成講習会

- モジュール1 5月.....千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド
- モジュール2 8月.....(開催地未定)
- モジュール3 11月.....(開催地未定)

(5) サッカー1級審判員インストラクター養成講習会トライアル

- 競技規則テスト 2025年12月.....オンライン
- 指導実践 1月.....千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド

(6) フットサル1級審判員認定審査

- 予備審査 4月.....オンライン
- 1次審査 6月～7月.....地域フットサルリーグ
- 2次審査 9月・2027年2月
.....(開催地未定、全国選抜フットサル大会・地域チャンピオンズリーグ)

(7) フットサル1級審判員(女子)認定審査

VI 防災・復興支援事業

56. 災害復旧支援事業

- (1) 東日本大震災復興支援活動
2011年3月11日に発生した東日本大震災の災害復興支援活動の実施
活動期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………全国各地
- (2) 令和2年7月豪雨(熊本豪雨)復興支援活動
令和2年7月に発生した豪雨災害(熊本豪雨)の災害復興支援活動の実施
活動期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………熊本県
- (3) 能登半島地震復興支援活動
2024年1月1日に発生した能登半島地震の災害復興支援活動の実施
活動期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………石川県ほか全国各地
- (4) コミュニティ防災教育推進事業
活動期間 年間……………全国各地

VII JFA ナショナルフットボールセンター事業

57. ナショナルフットボールセンター事業

- (1) 高円宮記念JFA夢フィールドの運営
高円宮記念JFA夢フィールドの管理運営を行っている。
事業期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………千葉県/高円宮記念JFA夢フィールド

VIII 各種事業の広報・プロモーション活動

58. 各種事業の広報・プロモーション活動

- (1) 機関誌「JFAnews」の発行
年12回発行(毎月発行)
主な送付先:登録チーム、47都道府県サッカー協会、各種連盟、日本サッカー後援会、日本代表を応援する自治体連盟など
- (2) アプリ(JFA Passport)、Webサイト(JFA.jp)、SNS、メールマガジンの運営
日本代表事業、国内競技会、指導者、審判、グラスルーツ、選手育成など各種事業の情報発信を公式アプリ、Webサイト、各SNSアカウント、メールマガジンで実施
開催日程 (日程未定)……………オンライン
- (3) サッカー露出拡大プロジェクト
より多くの露出を図りサッカーへの関心を高めるとともに、各都道府県における盛り上げや活動の活性化につなげるため、地方テレビ局において「サッカー応援番組 KICK OFF!」を通年で放送する。

<収益事業>

I 建物の賃貸事業

59. JFAハウスの賃貸事業

事業期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………東京都/JFAハウス

<その他の事業>

I 登録・オンラインシステム関連事業

60. 登録・オンラインシステム関連事業

チーム・選手等の登録および地域・都道府県サッカー協会のシステム維持・開発を行っている。
実施期間 1月1日(木)～12月31日(木)

時間内に、「ゲームの時間」「ゆめのたね探し」を実施する。
計100回(日程未定) 連携自治体等全国各地

52. アジア貢献、国際交流事業

- (1) FIFA・AFC加盟協会の役員、スタッフ、コーチ等の研修受け入れ
JFA、Jリーグ、Jクラブ、WEリーグ、WEクラブが行っている事業や施策の視察および研修を受け入れ、各国協会の組織力向上や各国の代表強化、ユース育成、指導者養成のレベルアップをサポートしている。
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木)……………(開催地未定)
- (2) AFC加盟協会の日本でのキャンプ受け入れ
日本でのキャンプ実施の要請があった場合、トレーニングマッチのアレンジを含めた受け入れ手配全般をコーディネートし、各国協会のチーム育成・強化をサポートしている。
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木)……………(開催地未定)
- (3) JFA公認指導者・インストラクター等のAFC加盟協会への派遣
JFA海外派遣指導者がアジアの各国/地域で代表監督や技術委員長、ユース育成ダイレクターなどを務め、チームや選手、指導者の育成・強化を行っている。
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木)……………アジア各地
- (4) アジアユース育成資金援助プログラムの実施
AFC加盟協会が財政的援助を必要としている協会を対象に、継続的かつ計画的なユース育成事業に対して資金援助を実施している。
実施期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………アジア各地
- (5) AFC加盟協会向けの国際ナショナルコーチングコースの開催
AFC加盟協会から20～30名の指導者を招待し、約1週間かけてJFAコーチがノウハウを提供する研修を開催している。
開催日程 (日程未定)……………(開催地未定)
- (6) 国際ユース大会:外務省対日理解促進交流プログラム「JENESYSプログラム」日ASEAN青少年サッカー交流大会の開催への協力
開催日程 (日程未定)……………(開催地未定)
- (7) 在留外国人向けサッカー交流大会の開催
開催日程 (日程未定)……………(開催地未定)

53. リスペクト委員会関連事業

- (1) JFAリスペクト・フェアプレーデイズ
開催期間 9月……………全国各地
- (2) JFAリスペクトシンポジウム
開催期間 9月……………東京都/オンライン
- (3) ウェルフェアオフィサー・ジェネラルチーフ会議
開催日程 10月……………(開催地未定)
- (4) ウェルフェアオフィサー・ジェネラル新規講習会
開催日程 11月……………(開催地未定)

54. サステナビリティ推進事業

- (1) アスバス!プロジェクト
サッカーを通じて持続可能な社会の発展に貢献するために、環境・人権・健康・教育・地域の5つの重要課題を設定し、取り組み改善や新たな事業の推進を行う。
活動期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………全国各地
- (2) 国連グローバル・コンパクトに関する活動
国連10原則やSDGsの推進に関する活動を行っている。
活動期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………全国各地
- (3) 国連フットボール・フォー・ザ・ゴールズに関する活動
国連のサッカーを通じたサステナビリティ推進イニシアチブへの賛同と関連する活動の実施
活動期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………全国各地
- (4) 子ども宅食プロジェクト
文京区が行う「子ども宅食」に対して、年3回前後の物品提供やイベント招待などの支援
活動期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………東京都文京区
- (5) 寄付月間への協力
寄付月間推進委員会が行う寄付文化醸成のキャンペーンである「寄付月間」への協力
活動期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………全国各地
- (6) JFA/WE女性リーダーシッププログラム
サッカー界・スポーツ界を牽引する女性役員・経営層を育成する。
開催日程 (日程未定)……………東京都/JFAハウス
- (7) キッズピッチ推進
開催日程 1月1日(木)～12月31日(木)……………全国各地

V ミュージアム運営事業

55. ミュージアム運営事業

- (1) JFAサッカー文化創造拠点「blue-ing!」運営事業
事業期間 1月1日(木)～12月31日(木)……………東京都文京区
- (2) 第22回(2026年度)日本サッカー殿堂舘額式典
開催日程 9月……………(開催地未定)

会議レポート



公益財団法人日本サッカー協会 2025年度第15回理事会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会（JFA）は2025年12月11日、2025年度第15回理事会をJFAハウスで開催した。決議、報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- 1 U-19日本代表監督の選任 P55
- 2 U-16/17日本女子代表監督の選任 P55
- 3 臨時評議員会 開催 P55

U-19日本代表監督の選任

FIFA U-20ワールドカップ2027出場を目指すU-19日本代表の監督を下記の通り選任する。

<プロフィール>

名前 : 山口智(やまぐち さとし)

生年月日: 1978年4月17日

出身地 : 高知県

選手歴(サッカー): 1994~1996年 ジェフユナイテッド市原ユース
1996~2000年 ジェフユナイテッド市原
2001~2011年 ガンバ大阪
2012~2014年 ジェフユナイテッド市原・千葉
2015年 京都サンガF.C.

指導歴 : 2017年 ガンバ大阪U-23 ヘッドコーチ
2018~2019年 ガンバ大阪 コーチ
2020年 ガンバ大阪 ヘッドコーチ
2021年 湘南ベルマーレ コーチ(~8月)
2021~2025年 湘南ベルマーレ 監督
指導者ライセンス: 2018年 JFA Aジェネラルライセンス 取得
2019年 JFA Proライセンス 取得

U-16/17日本女子代表監督の選任

FIFA U-17女子ワールドカップ2026出場を目指すU-16/17日本女子代表の監督を下記の通り選任する。

※U-16日本女子代表、U-17日本女子代表の2カテゴリーを担当

<プロフィール>

名前 : 白井貞義(しらい さだよし)

生年月日: 1981年1月4日

出身地 : 山形県

選手歴(サッカー): 1996~1997年 ITUANO・FC(ブラジル)
1998年 RIO CLARO FC(ブラジル)
1999年 モンテディオ山形ユース
2000年 モンテディオ山形

指導歴 : 2001~2009年 アスキー FC コーチ
2001~2009年 山形県トレセン コーチ

2009~2011年 ザスパ草津U-15吾妻 コーチ
2009~2011年 群馬県吾妻トレセン コーチ
2011~2012年 ザスパ草津U-15 コーチ
2011~2020年 群馬県クラブトレセン コーチ
2012~2013年 ザスパ草津U-15 監督
2013~2020年 ザスパ草津群馬レディース 監督
2013~2020年 群馬県女子U-15トレセン コーチ
2020~2022年 JFAコーチ(女子)関東/中国地域
2023~2025年 U-16/17日本女子代表 監督
指導者ライセンス: 2001年 JFA Cライセンス 取得
2012年 JFA Bライセンス 取得
2016年 JFA Aジェネラルライセンス 取得
2018年 JFA Proライセンス 取得

臨時評議員会 開催

下記の通り、臨時評議員会を開催する。

開催日時: 2025年12月20日(土)13:00 開始

開催方法: JFA会議室およびウェブ会議システム

議題 : ●決議事項

- (1) 評議員2名 選任の件
- (2) 定款変更の件
- (3) 「役員を選任及び会長等の選定に関する規程」改正の件
- (4) 役員等推薦委員会 設置の件

●報告事項

- (1) 2026年度事業計画および予算の件

報告事項

- | | |
|-----------------------------------|--|
| 1 各カテゴリー日本代表コーチングスタッフの選任…………… P56 | 4 審判員海外派遣…………… P57 |
| 2 第80回EAFF理事会(12月3日開催)…………… P56 | 5 フットサル2025/26 競技規則改正についての通達文発信…………… P58 |
| 3 指導者ライセンス認定の件:Proライセンス…………… P56 | 6 JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新)…………… P58 |

各カテゴリー日本代表コーチングスタッフの選任

各カテゴリーの日本代表のコーチングスタッフを、技術委員会(12月8日開催)にて下記の通り選任した。

- U-21日本代表(2028ロサンゼルスオリンピック出場を目指す)
コーチ:越智滋之(おち しげゆき)

- U-19日本代表(FIFA U-20ワールドカップ2027出場を目指す)
コーチ:菅原大介(すがわら だいすけ)
GKコーチ:高原寿康(たかはら としやす)
フィジカルコーチ:大塚慶輔(おおつか けいすけ)

- U-17日本代表(FIFA U-17ワールドカップ2026出場を目指す)
コーチ:山橋貴史(やまはし たかし)

第80回EAFF理事会(12月3日開催)

第80回EAFF理事会が2025年12月3日に韓国・天安で開催された。主な決定・報告事項は下記の通り。

- (1)第79回EAFF理事会(2025年7月15日/韓国・水原)の議事録を承認した。
- (2)2026年度のEAFF競技会を以下の通り承認した。
 - U15競技会の開催
 - U15女子競技会の開催
 - 東アジアE-1サッカー選手権予選大会(女子)の開催

- (3)2025年度修正予算を承認した。
- (4)2026年度予算案を承認した。
- (5)EAFFサービスレベルガイドラインを承認した。
- (6)第14回EAFF総会を2026年4月4日に韓国で開催することを承認した。
- (7)EAFF競技会委員会の委員長の交代を承認した。
- (8)中国・漳州で開催予定のEAFF U15選手権2025の大会進捗を報告した。
- (9)2026年AFCエンハンスプログラムへの申請を報告した。

指導者ライセンス認定の件:Proライセンス

Proライセンスコーチ養成講習会において、国内外インターンシップを含む全てのカリキュラムを修了し、全ての評価項目において合格した下記7名について、指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、Proライセンスを認定した。

【2025年度】

- (1)名前 : 小川佳純(おがわ よしづみ)
指導チーム: 明治大学体育会サッカー部
生年月日 : 1984年8月25日
資格 : 2023年 Aジェネラルライセンス 取得
指導歴 : 2020~2022年9月 FCティアモ枚方 監督
2023~2024年 サガン鳥栖 コーチ
2025年 明治大学体育会サッカー部 ヘッドコーチ
- (2)名前 : 河原和寿(かわはら かずひさ)
指導チーム: 愛媛FC
生年月日 : 1987年1月29日
資格 : 2022年 Aジェネラルライセンス 取得
指導歴 : 2020年 愛媛FC U-15 コーチ
2021~2022年 愛媛FC U-15 監督
2023年~ 愛媛FC コーチ
- (3)名前 : 橋本英郎(はしもと ひでお)
指導チーム: 履正社高校/大阪大谷大学
生年月日 : 1979年5月21日
資格 : 2022年 Aジェネラルライセンス 取得

- 指導歴 : 2022年 おこしやす京都AC ヘッドコーチ
2023年~ 大阪大谷大学サッカー部 コーチ
2023年~ 履正社高校サッカー部 コーチ

- (4)名前 : 深井正樹(ふかい まさき)
指導チーム: 駒澤大学体育会サッカー部
生年月日 : 1980年9月13日
資格 : 2016年 Aジェネラルライセンス 取得
指導歴 : 2017~2019年 ジェフユナイテッド千葉 スクールコーチ
2019年~ 駒澤大学体育会サッカー部 コーチ
- (5)名前 : 槇野智章(まきの ともあき)
指導チーム: 品川CC横浜
生年月日 : 1987年5月11日
資格 : 2023年 Aジェネラルライセンス 取得
指導歴 : 2023年 品川CCセカンド 監督
2024年~ 品川CC横浜 監督
- (6)名前 : 増嶋竜也(ますしま たつや)
指導チーム: SHIBUYA CITY FC
生年月日 : 1985年4月22日
資格 : 2024年 Aジェネラルライセンス 取得
指導歴 : 2021~2022年 船橋市立船橋高校 コーチ
2023年~ SHIBUYA CITY FC 監督

左ページ左上へ続く

(7)名前 : 矢島卓郎(やじま たくろう)
 指導チーム: 川崎フロンターレ
 生年月日 : 1984年3月28日
 資格 : 2023年 Aジェネラルライセンス 取得
 指導歴 : 2017~2018年 川崎フロンターレ スクール・普及コーチ
 2019年 川崎フロンターレ U-18 コーチ
 2020~2022年 川崎フロンターレ U-12 コーチ
 2023年 川崎フロンターレ U-15 等々力 コーチ
 2024年 川崎フロンターレ U-15 等々力 監督
 2025年~ 川崎フロンターレ アカデミー サポートコーチ

※2025年度Proライセンスコーチ認定者数: 7名/20名中(上記7名含む)

AFC-JFA Pro-Diploma Course for Asian Elite Female Coaches修了後、全ての評価項目において合格した下記6名について、指導者に関する規則第4条「ライセンスの認定」に基づき、Proライセンスを認定した。

(1)名前 : 川嶋珠生(かわしま たまい)
 指導チーム: スフィーダ世田谷FC
 生年月日 : 1988年6月6日
 資格 : 2022年 Aジェネラルライセンス 取得
 指導歴 : 2015~2016年 スフィーダ世田谷FC U-14 監督
 2016~2017年 スフィーダ世田谷FC コーチ
 2017~2018年 スフィーダ世田谷FC U-13 監督
 2018~2019年 スフィーダ世田谷FC U-15 監督
 2019~2021年 スフィーダ世田谷FC U-18 監督
 2021~2024年 スフィーダ世田谷FC コーチ
 2025年~ スフィーダ世田谷FC 監督

(2)名前 : 菅野博子(かんの ひろこ)
 指導チーム: FCゼブラレディース岩手
 生年月日 : 1981年3月29日
 資格 : 2023年 Aジェネラルライセンス 取得
 指導歴 : 2003~2006年 山形大学女子サッカー部 コーチ
 2007~2012年 つくばFCガールズ アシスタントコーチ
 2013~2020年 東北公益文化大学女子サッカー部 監督
 2015~2020年 山形県成年女子国体選抜 監督
 2017年 ユニバーシアード日本女子代表 コーチ
 2019年 ユニバーシアード日本女子代表 コーチ
 2021~2022年 山梨学院大学サッカー部女子 コーチ
 2023年~ FCゼブラレディース岩手 監督

(3)名前 : 桑原由恵(くわはら よしえ)
 指導チーム: 横須賀シーガルズFC
 生年月日 : 1990年2月23日
 資格 : 2022年 Aジェネラルライセンス 取得

指導歴 : 2015~2019年 横須賀シーガルズ U-15 監督
 2015~2021年 神奈川県女子トレセン 監督
 2019~2022年 横須賀シーガルズ U-18 監督
 2021年~ 横須賀シーガルズ 代表
 2022年 神奈川県国体少年女子 監督
 2023年~ JFAコーチ女子(関東担当)

(4)名前 : 鈴木香葉(すずき かな)
 指導チーム: FC今治レディース
 生年月日 : 1992年6月21日
 資格 : 2022年 Aジェネラルライセンス 取得
 指導歴 : 2015年 MYFCサッカースクール コーチ
 2016~2018年 愛媛県U-14女子トレセン コーチ
 2016~2019年 FC今治ひうちレディース コーチ
 2019~2023年 FC今治レディースNEXT 監督
 2022年~ JFAコーチ女子(四国担当)
 2024年~ FC今治レディース ヘッドコーチ

(5)名前 : 武末彩子(たけまつ あやこ)
 指導チーム: セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18
 生年月日 : 1985年11月17日
 資格 : 2022年 Aジェネラルライセンス 取得
 指導歴 : 2008~2017年 修徳中学校 監督・同高校 コーチ
 2018年 Essendon Royals U-15 コーチ
 2019~2020年 東京国際大学 コーチ
 2020~2024年 JFAアカデミー堺 コーチ
 2022~2024年 JFAコーチ女子(関西担当)
 2025年~ セレッソ大阪ヤンマーガールズU-18 監督

(6)名前 : 東依里(ひがし えり)
 指導チーム: 南葛SC WINGS U-15
 生年月日 : 1986年1月18日
 資格 : 2022年 Aジェネラルライセンス 取得
 指導歴 : 2010~2017年 吉備国際大学 Charme岡山高梁 コーチ
 2013~2015年 岡山県成年女子選抜 コーチ
 2018~2019年 吉備国際大学 Charme岡山高梁 監督
 2019~2021年 吉備国際大学 Charme岡山高梁 コーチ
 2021年 岡山県成年女子選抜 監督
 2022年 INAC神戸レオンチーナ コーチ
 2022~2023年 INAC神戸レオネッサ コーチ
 2023年~ INCAC東京レオンチーナ 監督

※AFC-JFA Pro-Diploma Course for Asian Elite Female Coaches認定者数(日本人): 6名/7名中(上記6名含む)

※Proライセンスコーチ認定者数: 614名(上記13名含む)

審判員海外派遣

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣(受け入れ)期間	場所
AFCチャンピオンズリーグエリート2025/2026 リーグステージ ウェスト AL GHARAFRA SC(カタール) vs AL HILAL SFC(サウジアラビア)	審判員	荒木友輔、三原純、渡辺康太、谷本涼、飯田淳平、山下良美	11月3日	アルラーヤン/カタール
AFCチャンピオンズリーグエリート2025/2026 リーグステージ ウェスト AL DUHAIL SC(カタール) vs SHABAB AL AHLI(アラブ首長国連邦/UAE)	審判員	聳城巧	11月3日	ドーハ/カタール

次ページ左上へ続く

委員会、大会、試合など	役職	名前	試合日または派遣(受け入れ)期間	場所
AFCフットサルレフェリーアカデミー バッチ1 イントロダクトリー モジュール2	審判員	脇田崇太、川守田美咲	11月3日～7日	クアラルンプール/マレーシア
FIFA U-17ワールドカップカタール2025	審判員	笠原寛貴、淺田武士、道山悟至	11月3日～27日	ドーハ/カタール
AFC女子チャンピオンズリーグ2025/26 グループステージ グループA	審判員	小泉朝香、一木千広	11月13日～19日	ホーチミン/ベトナム
AFC女子チャンピオンズリーグ2025/26 グループステージ グループB	審判員	山下良美、坊園真琴	11月13日～19日	武漢/中国
FIFAワールドカップ26アジア最終予選(アジアプレーオフ)第2戦 イラク vs UAE	審判員	荒木友輔、三原純、渡辺康太、谷本涼、飯田淳平、長峯滉希	11月18日	バスラ/イラク
FIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025	審判員	山本真理、齋藤香葉	11月21日～12月7日	マニラ/フィリピン
AFC U17アジアカップサウジアラビア2026予選 グループB	審判員	大橋侑祐、壺城巧	11月22日～30日	ビシュケク/キルギス
AFC女子チャンピオンズリーグ2025/26 グループステージ グループB	審判指導者(アセッサー)	山岸佐知子	11月13日～19日	武漢/中国
FIFA加盟協会レフェリーコース	審判指導者(インストラクター)	深野悦子	11月20日～24日	カトマンズ/ネパール

フットサル2025/26 競技規則改正についての通達文発信

フットサル2025/26 競技規則改正について、別資料の通り、報告する。
 ※詳細は右記のJFA公式ウェブサイト参照

<http://www.jfa.jp/laws/>



JFAロングパイル人工芝ピッチ公認(更新)

(1)申請者(施設所有者): 相馬市

施設名 : 福島県相馬光陽サッカー場 人工芝Dコート
 (福島県相馬市光陽三丁目3-1)

使用製品: MCCスポーツ株式会社 アストロピッチSL ProN-60

公認期間: 2025年12月14日～ 2026年12月13日

公認番号: 第149号

(2)申請者(施設所有者): 相馬市

施設名 : 福島県相馬光陽サッカー場 人工芝Eコート
 (福島県相馬市光陽三丁目3-1)

使用製品: MCCスポーツ株式会社 アストロピッチSL ProN-60

公認期間: 2026年1月16日～ 2027年1月15日

公認番号: 第156号



公益財団法人日本サッカー協会 2025年度臨時評議員会

公式URL https://www.jfa.jp/about_jfa/report/executive_committee.html



日本サッカー協会(JFA)は2025年12月20日、2025年度臨時評議員会をJFAハウスで開催した。報告された事項は、下記の通り。

決議事項

- 1 評議員2名選任 P58
- 2 定款変更 P59
- 3 「役員の選任及び会長等の選定に関する規程」改正 P59

評議員2名選任

下記の2名の評議員を選任する。

なお、評議員の交代については、一般社団法人および一般財団法人に関する法律ならびにJFA規則に基づき行うものとする。

(1)株式会社アルビレックス新潟

退任する評議員: 中野幸夫(なかの ゆきお)代表取締役社長

選任する評議員: 野澤洋輔(のざわ ようすけ)取締役

※2026年2月1日付で代表取締役社長に就任予定

(2)株式会社セレッソ大阪

退任した評議員: 宮島武志(みやじま たけし)取締役副社長

選任する評議員: 日置貴之(ひおき たかゆき)代表取締役社長

なお、任期の満了前に退任した評議員に代わって選任する評議員の任期は、定款第18条第2項の規定により、退任する評議員の任期満了の時までとなるため、2026年度に関する定時評議員会(2027年3月)の終結の時までとなる。

定款変更

「公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律（以下、公益認定法）」に記載されている、理事構成に関する認定基準を定款に明記することで適正化する。

●定款第26条への反映内容

変更前：（役員及び会計監査人の選任）

第26条 理事及び監事並びに会計監査人は、評議員会の決議によって選任する。

2. 会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

変更後：（役員及び会計監査人の選任）

第26条 理事及び監事並びに会計監査人は、評議員会の決議によって選任する。

2. 会長、副会長、専務理事及び常務理事は、理事会の決議によって理事の中から選定する。

3. 理事のうち、理事のいずれか1名とその配偶者又は三親等内の親族（これらの者に準ずるものとして当該理事と政令で定める特別の関係がある者を含む。）である理事の合計数は、理事総数の3分の1を超えてはならない。監事も同様とする。

【参考】

公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律
（公益認定の基準）

第5条

各理事について、当該理事及びその配偶者又は三親等内の親族（これらの者に準ずるものとして当該理事と政令で定める特別の関係がある者を含む。）である理事の合計数が理事の総数の三分の一を超えないものであること。監事についても同様とする。

「役員を選任及び会長等の選定に関する規程」改正

現行規定で定められている役員等推薦委員会の設置時期について、今期は役員等推薦委員会の設置を本臨時評議員会決議にて進行できるよう、また、今後も柔軟な判断・対応ができるように規程を改正する。

●改正のポイント

役員等推薦委員会の開催準備が整っている状況においては、規程により固定化された評議員の承認決議の時期や役員等推薦委員会の設置時期を柔軟に前倒し等の対応ができるよう改正する。

●改正内容

役員を選任及び会長等の選定に関する規程

①第21条〔役員等推薦委員会〕

改正前：

- 第2章の規定に従い会長予定者が選出された後、役員等の選出に関しては、改選期の2月に役員等推薦委員会を設置し、役員等の選出事務等について、役員等推薦委員会が管理・運営する。
- 役員等推薦委員会は、改選期の1月臨時評議員会による承認によって設置され、第29条の理事会の終結の時をもって解散する。

改正案：

- 第2章の規定に従い会長予定者が選出された後、役員等の選出に関しては、改選期の2月に役員等推薦委員会を設置し、役員等の選出事務等について、役員等推薦委員会が管理・運営する。
- 役員等推薦委員会は、改選期の1月又はそれより前に開催される臨時評議員会による承認によって設置され、第29条の理事会の終結の時をもって解散する。

②第22条〔役員等推薦委員〕

改正前：

1. 役員等推薦委員会は、次の役員等推薦委員をもって構成する。

- (1) 会長予定者
- (2) 理事のうち3名
- (3) 評議員のうち3名
- (4) 本協会から完全に独立した立場の有識者2名
～中略～

4. 本条第1項のうち、第2号の委員は1月理事会において選出し、第3号及び第4号の委員は同月末に開催される臨時評議員会において選出する。

改正案：

4. 本条第1項のうち、第2号の委員は1月又はそれより前に開催される理事会において選出し、第3号及び第4号の委員は1月又はそれより前に開催される臨時評議員会において選出する。

報告事項

- 1 2026年度 事業計画 P46
- 2 2026年度 予算 P60

2026年度 予算

■収支予算書内訳表（正味財産ベース）

2026年1月1日から12月31日まで

科 目	公益目的事業会計	収益事業等会計			法人会計	内部取引 消去	合計
		建物の賃貸事業	登録・オンライン システム事業	小計			
I 一般正味財産増減の部							
1. 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 基本財産運用益	7,789,000			0			7,789,000
② 登録料収益			1,176,872,000	1,176,872,000			1,176,872,000
③ 事業収益	19,908,247,000	106,311,000	244,000,000	350,311,000	0	0	20,258,558,000
<代表関連事業収益>	5,457,504,000			0			5,457,504,000
<競技会開催事業収益>	739,254,000			0			739,254,000
<指導普及事業収益>	1,181,061,000			0			1,181,061,000
<JFAフットボールセンター事業収益>	13,099,000	47,007,000		47,007,000			60,106,000
<機関誌収益>	130,150,000			0			130,150,000
<事業関連収益>	11,160,995,000			0			11,160,995,000
<競技会収益>	995,410,000			0			995,410,000
<日本サッカーミュージアム運営事業収益>	14,600,000	59,304,000		59,304,000			73,904,000
<社会貢献事業収益>	216,174,000			0			216,174,000
<登録関連事業収益>			244,000,000	244,000,000			244,000,000
④ 補助金等収益	786,412,000			0			786,412,000
⑤ 雑収益	225,493,000	4,166,000	41,000,000	45,166,000			270,659,000
経常収益計	20,927,941,000	110,477,000	1,461,872,000	1,572,349,000	0	0	22,500,290,000
(2) 経常費用							
① 事業費	20,058,894,000	25,027,000	1,286,599,000	1,311,626,000	0	0	21,370,520,000
<代表関連事業費>	8,307,871,000			0			8,307,871,000
<競技会開催事業費>	2,016,691,000			0			2,016,691,000
<指導普及事業費>	5,863,400,000		560,000,000	560,000,000			6,423,400,000
<JFAフットボールセンター事業費>	189,183,000	25,027,000		25,027,000			214,210,000
<機関誌事業費>	119,649,000			0			119,649,000
<事業関連費>	2,883,014,000			0			2,883,014,000
<日本サッカーミュージアム運営事業費>	230,221,000			0			230,221,000
<社会貢献事業費>	407,152,000			0			407,152,000
<登録関連事業費>			495,897,000	495,897,000			495,897,000
<オンラインシステム関連事業費>			230,702,000	230,702,000			230,702,000
<サッカーファミリー復興支援事業費>	41,713,000			0			41,713,000
② 管理費	3,667,497,905	71,248,365	141,887,482	213,135,847	250,534,248		4,131,168,000
経常費用計	23,726,391,905	96,275,365	1,428,486,482	1,524,761,847	250,534,248	0	25,501,688,000
当期経常増減額	△ 2,798,450,905	14,201,635	33,385,518	47,587,153	△ 250,534,248	0	△ 3,001,398,000
2. 経常外増減の部							
(1) 経常外費用							
① 寄附金				0	29,335,000		29,335,000
② 予備費	100,000,000			0			100,000,000
経常外費用計	100,000,000	0	0	0	29,335,000	0	129,335,000
当期経常外増減額	△ 100,000,000	0	0	0	△ 29,335,000	0	△ 129,335,000
他会計振替額	△ 249,044,854	△ 14,131,635	△ 16,692,759	△ 30,824,394	279,869,248		0
税引前当期一般正味財産増減額	△ 3,147,495,759	70,000	16,692,759	16,762,759	0	0	△ 3,130,733,000
法人税、住民税及び事業税		70,000		70,000			70,000
当期一般正味財産増減額	△ 3,147,495,759	0	16,692,759	16,692,759	0	0	△ 3,130,803,000
一般正味財産期首残高	22,831,433,723	67,274,126	1,299,782,499	1,367,056,625	0	0	24,198,490,348
一般正味財産期末残高	19,683,937,964	67,274,126	1,316,475,258	1,383,749,384	0	0	21,067,687,348
II 指定正味財産増減の部							
① 受取寄附金				0			0
② 一般正味財産への振替額				0			0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	19,683,937,964	67,274,126	1,316,475,258	1,383,749,384	0	0	21,067,687,348

※注

2026年度の予算は、正味財産ベースで収入225.0億円、支出256.3億円とした。特定資産からの計画的な支出を含んでおり、また、前年度同様に財政規律を維持して資金上では収支均衡を図った予算としている。

例年通り、47FAに対する施設整備助成や各カテゴリー日本代表の強化への投資を継続しつつ、収入面に関しては、各種大会や協賛等の収入拡大に努める。

なお、SAMURAI BLUE（日本代表）のFIFAワールドカップ出場に伴う代表活動の大きな支出とともに大会の賞金による収入も見込んでいる。

例年同様、期中における収益拡大と支出圧縮に努めながら、状況によって柔軟な運営判断ができるよう、収支状況を注意深くモニタリングしていくことにしている。



- ① U-22日本代表 IBARAKI Next Generation Cup 2025
- ② U-17日本代表 FIFA U-17ワールドカップカタール2025
- ③ U-15日本代表 The Gary Speed Tournament
- ④ U-15日本代表 EAFF U-15Championship2025
- ⑤ フットサル日本女子代表 FIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025
- ⑥ 2025ナショナルトレセンU-14 後期
- ⑦ 第9回全日本大学サッカー新人戦
- ⑧ ASTRO SPORTS presents 2025年度第74回全日本大学サッカー選手権大会
- ⑨ 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2025
- ⑩ 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2025 ファイナル
- ⑪ 高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2025 プレーオフ
- ⑫ 第60回全国高等専門学校体育大会サッカー競技 兼 第58回全国高等専門学校サッカー選手権大会

- ⑬ 高円宮杯 JFA 第37回全日本U-15サッカー選手権大会
- ⑭ JFA 第49回全日本U-12サッカー選手権大会
- ⑮ 高円宮妃杯 JFA 第30回全日本U-15女子サッカー選手権大会
- ⑯ JFA U-18女子サッカーファイナルズ2025
- ⑰ 2025明治安田J1リーグ
- ⑱ 2025明治安田J2リーグ
- ⑲ 明治安田 J1昇格プレーオフ2025
- ⑳ 2025明治安田 J3リーグ
- ㉑ 明治安田 J2昇格プレーオフ2025
- ㉒ 2025 J3・JFL入れ替え戦
- ㉓ FIFA U-17ワールドカップカタール2025
- ㉔ FIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025

※NCS: ナショナルコーチングスタッフ、JC: JFAコーチ/ VAR: ビデオアシスタントレフェリー、AVAR: アシスタントビデオアシスタントレフェリー

U-22日本代表 IBARAKI Next Generation Cup 2025

[スタッフ]

○監督: 大岩剛(NCS) ○コーチ: 羽田憲司(NCS)、越智滋之(NCS) ○GKコーチ: 佐藤洋平(NCS) ○フィジカルコーチ: 矢野由治(NCS) ○テクニカルスタッフ: 和氣昌平(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	小林将天	FC東京	MF	碓明日麻	ハノーファー96 (GER)
	ピサノ アレクサンドレ幸冬退尾※1	名古屋グランパス		矢田龍之介	筑波大学
DF	荒木琉偉	ガンバ大阪	佐藤龍之介	ファジアーノ岡山	
	濱崎知康※2	明治大学	嶋本悠大	清水エスパルス	
	塩川椋道※3	流通経済大学	川合徳孟	ジュビロ磐田	
	市原史音	RB大宮アルディージャ	FW	古谷柊介	東京国際大学
	高橋仁胡	セレッソ大阪		久米遥太	早稲田大学
	梅本怜	FC今治	齋藤俊輔	水戸ホーリーホック	
	関富貴太	桐蔭横浜大学	ンワディケ ウチェブライアン世雄	桐蔭横浜大学	
	永野修都	ガイナレ鳥取	横山夢樹	FC今治	
	土屋耀大	川崎フロンターレ	道脇豊	SKベフェレン (BEL)	
	岡部タリクカナイ颯斗	東洋大学	石橋潮風	湘南ベルマーレ	
森壮一朗	名古屋グランパス				
大川佑梧※2	鹿島アントラーズユース				
MF	大関友翔	川崎フロンターレ			
	小倉幸成	法政大学			
	石渡ネルソン	いわきFC			

<スケジュール>

12月21日~23日 トレーニング (JFA高円宮記念夢フィールド)
IBARAKI Next Generation Cup2025
準決勝 vs U-21関東大学選抜 (ケースデンキスタジアム水戸)
25日~26日 トレーニング (水戸ツインフィールド)
27日 決勝 vs U-21ALL IBARAKI (ケースデンキスタジアム水戸)

※全日本大学サッカー選手権大会に出場している選手は選別チームに合流
GER: ドイツ、BEL: ベルギー
※1: ケガのため途中離脱
※2: 追加招集
※3: ケガのため不参加

準決勝

U-22日本代表 **5** (前半1-1 後半4-0) **1** U-21関東大学選抜

●2025年12月24日 14:00 ●ケースデンキスタジアム水戸 ●試合時間:90分

日本(監督:大岩剛):[GK](23)荒木琉偉 [DF](2)永野修都<→42'(19)大川佑梧→81'(15)市原史音>(5)関富貴太<→HT(3)高橋仁胡>(21)土屋耀大<→HT(25)岡部タリクカナイ颯斗>(22)森壮一朗<→HT(27)碓明日麻> [MF](4)石渡ネルソン<→30'(16)小倉幸成>(14)大関友翔<→HT(6)嶋本悠大>(18)佐藤龍之介<→30'(13)川合徳孟> [FW](8)齋藤俊輔<→30'(9)横山夢樹→63'(11)石橋潮風>(17)久米遥太<→HT(10)古谷柊介>(24)道脇豊<→HT(20)ンワディケ ウチェブライアン世雄>

控え:(1)濱崎知康(12)小林将天(7)梅本怜(26)矢田龍之介

得点 29'失点(0-1)、37'川合徳孟(1-1)、52'古谷柊介(2-1)、72'オウンゴール(3-1)、79'古谷柊介(4-1)、85'ンワディケ ウチェブライアン世雄(5-1)

決勝

U-22日本代表 **6** (前半3-0 後半3-1) **1** U-21 ALL IBARAKI

●2025年12月27日 14:00 ●ケースデンキスタジアム水戸 ●試合時間:90分

日本(監督:大岩剛):[GK](12)小林将天 [DF](3)高橋仁胡<→HT(5)関富貴太>(15)市原史音<→32'(2)永野修都→76'(7)梅本怜>(25)岡部タリクカナイ颯斗<→HT(21)土屋耀大> [MF](13)川合徳孟<→HT(18)佐藤龍之介>(14)大関友翔<→HT(6)嶋本悠大>(16)小倉幸成<→HT(4)石渡ネルソン>(27)碓明日麻<→62'(19)大川佑梧> [FW](9)横山夢樹<→HT(11)石橋潮風>(17)久米遥太<→HT(10)古谷柊介→85'(8)齋藤俊輔>(20)ンワディケ ウチェブライアン世雄<→HT(24)道脇豊>

控え:(1)濱崎知康(23)荒木琉偉(22)森壮一朗

得点 9'ンワディケ ウチェブライアン世雄(1-0)、14'川合徳孟(2-0)、17'久米遥太(3-0)、75'石渡ネルソン(4-0)、80'道脇豊(5-0)、83'佐藤龍之介(6-0)、90+3'失点(6-1)

U-17日本代表 FIFA U-17ワールドカップカタール2025

※関連記事は92~95ページに掲載

【スタッフ】

○団長：城和憲 (JFA育成ダイレクター) ○監督：廣山望 (NCS) ○コーチ：大畑開 (NCS)、小野信義 (NCS) ○GKコーチ：山岸範宏 (NCS) ○フィジカルコーチ：佐藤哲哉 (NCS) ○テクニカルスタッフ：白石通史 (JFAテクニカルハウス)、引田真尋 (JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	平野稜太	大分トリニータU-18	MF	姫野誠	ジェフユナイテッド市原・千葉
	村松秀司	ロサンゼルスFC (USA)		長南開史	柏レイソル
	松浦大翔	アルビレックス新潟U-18		和田武士	浦和レッズユース
DF	田中義峯	浦和レッズユース	FW	瀬尾凌太※1	桐蔭学園高校
	竹野楓太	神村学園高等部		浅田大翔	横浜F・マリノス
	藤井翔大	横浜F・マリノスユース		吉田湊海	鹿島アントラーズユース
	藤田明日翔	川崎フロンターレU-18		マギージェラニー	FC琉球U-18
	メンディーサイモン	流通経済大学付属柏高校		谷大地※2※3	サガン鳥栖U-18
	元砂晏翔	鹿島アントラーズユース		北原積※2※3	FC東京U-18
MF	瀬口大翔	ヴェッセル神戸U-18		小林柚希※2	RB大宮アルディージャU18
	川本大善	柏レイソルU-18	USA : アメリカ		
	小林志紋	サンフレッチェ広島F.Cユース	※1 : ケガのため不参加		
	野口蓮斗	サンフレッチェ広島F.Cユース	※2 : 追加招集		
	平島大悟	鹿島アントラーズユース	※3 : ケガのため途中離脱		

25日 ドーハ経由、ドバイ着
トレーニング (Sevens Stadium)
26日~28日 トレーニング (Sevens Stadium)
29日 練習試合
30日 ドバイ (シャルジャ)発、ドーハ着
31日 トレーニング (Al Thumama)
11月1日 トレーニング (Al Erssal)
2日 トレーニング (Al Thumama)
3日 FIFA U-17ワールドカップカタール2025
グループステージ第1戦 vs U-17モロッコ代表
(Aspire Zone Pitch5)
4日~5日 トレーニング (Al Thumama)
6日 グループステージ第2戦 vs U-17ニューカレドニア
代表 (Aspire Zone Pitch 1)
7日 トレーニング (Al Erssal)
8日 トレーニング (Al Thumama)
9日 グループステージ第3戦 vs U-17ポルトガル代表
(Aspire Zone Pitch5)
10日 トレーニング (Al Erssal)
11日 トレーニング (Al Thumama)
12日~14日 トレーニング
Round of 32 vs U-17南アフリカ代表 (Aspire Zone)
15日 トレーニング
16日~17日 Round of 16 vs U-17朝鮮民主主義人民共和国代表
(Aspire Zone)
18日 トレーニング

<トレーニングパートナー> ※11月3日の初戦まで帯同

Pos.	名前	所属
	倉橋幸暉	鹿島アントラーズユース
	小枝朔太郎	ジュビロ磐田U-18
	相馬陸人※4	FC東京U-18
	齋藤太陽※4	名古屋グランパスU-18

※4 : 追加招集

<スケジュール>

10月22日~23日 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
24日 練習試合 vs 流通経済大学 (高円宮記念JFA夢フィールド)
練習試合 vs 東京国際大学 (高円宮記念JFA夢フィールド)
成田発

■グループステージ

順位	グループA	イタリア	南アフリカ	カタール	ボリビア	勝	分	負	得点	失点	差
1	イタリア		3○1	1○0	4○0	9	3	0	8	1	7
2	南アフリカ	1●3		1△1	3○1	4	1	1	5	5	0
3	カタール	0●1	1△1		0△0	2	0	2	1	2	-1
4	ボリビア	0●4	1●3	0△0		1	0	1	2	7	-6

順位	グループB	日本	ポルトガル	モロッコ	ニューカレドニア	勝	分	負	得点	失点	差
1	日本		2○1	2○0	0△0	7	2	1	0	4	3
2	ポルトガル	1●2		6○0	6○1	6	2	0	13	3	10
3	モロッコ	0●2	0●6		16○0	3	1	0	2	16	8
4	ニューカレドニア	0△0	1●6	0●16		1	0	1	2	22	-21

順位	グループC	セネガル	クロアチア	コスタリカ	アラブ首長国連邦	勝	分	負	得点	失点	差
1	セネガル		0△0	1○0	5○0	7	2	1	0	6	6
2	クロアチア	0△0		3○1	3○0	7	2	1	0	6	5
3	コスタリカ	0●1	1●3		1△1	1	0	1	2	5	-3
4	アラブ首長国連邦	0●5	0●3	1△1		1	0	1	2	9	-8

順位	グループD	アルゼンチン	ベルギー	チュニジア	フィジー	勝	分	負	得点	失点	差
1	アルゼンチン		3○2	1○0	7○0	9	3	0	0	11	9
2	ベルギー	2●3		2○0	7○0	6	2	0	1	11	8
3	チュニジア	0●1	0●2		6○0	3	1	0	2	6	3
4	フィジー	0●7	0●7	0●6		0	0	0	3	20	-20

順位	グループE	ベネズエラ	イングランド	エジプト	ハイチ	勝	分	負	得点	失点	差
1	ベネズエラ		3○0	1△1	4○2	7	2	1	0	8	5
2	イングランド	0●3		3○0	8○1	6	2	0	1	11	7
3	エジプト	1△1	0●3		4○1	4	1	1	1	5	0
4	ハイチ	2●4	1●8	1●4		0	0	0	3	16	-12

順位	グループF	スイス	韓国	メキシコ	コートジボワール	勝	分	負	得点	失点	差
1	スイス		0△0	3○1	4○1	7	2	1	0	7	5
2	韓国	0△0		2○1	3○1	7	2	1	0	5	3
3	メキシコ	1●3	1●2		1○0	3	1	0	2	3	-2
4	コートジボワール	1●4	1●3	0●1		0	0	0	3	2	-6

順位	グループG	ドイツ	コロンビア	朝鮮民主主義人民共和国	エルサルバドル	勝	分	負	得点	失点	差
1	ドイツ		1△1	1△1	7○0	5	1	2	0	9	7
2	コロンビア	1△1		2○0	0△0	5	1	2	0	3	2
3	朝鮮民主主義人民共和国	1△1	0●2		5○0	4	1	1	1	6	3
4	エルサルバドル	0●7	0△0	0●5		1	0	1	2	0	-12

順位	グループH	ブラジル	ザンビア	インドネシア	ホンジュラス	勝	分	負	得点	失点	差
1	ブラジル		1△1	4○0	7○0	7	2	1	0	12	11
2	ザンビア	1△1		3○1	5○2	7	2	1	0	9	4
3	インドネシア	0●4	1●3		2○1	3	1	0	2	3	-5
4	ホンジュラス	0●7	2●5	1●2		0	0	0	3	14	-11

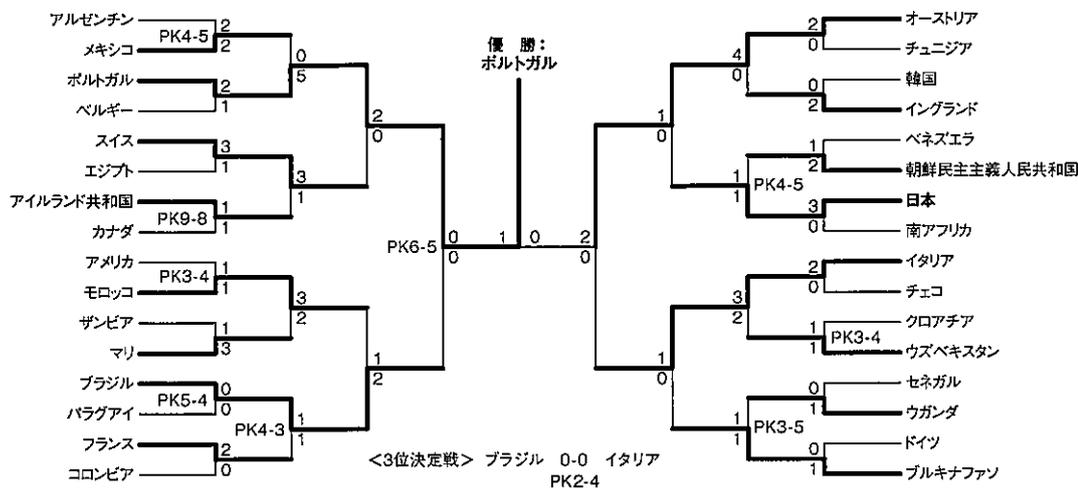
順位	グループI	アメリカ	ブルキナファソ	チェコ	タジキスタン	勝	分	負	得点	失点	差
1	アメリカ		1○0	1○0	2○1	9	3	0	0	4	3
2	ブルキナファソ	0●1		2○1	2○0	6	2	0	1	4	2
3	チェコ	0●1	1●2		6○1	3	1	0	2	7	3
4	タジキスタン	1●2	0●2	1●6		0	0	0	3	2	-8

順位	グループJ	アイルランド共和国	ウズベキスタン	パラグアイ	パナマ	勝	分	負	得点	失点	差
1	アイルランド共和国		2○1	0△0	4○1	7	2	1	0	6	4
2	ウズベキスタン	1●2		2○1	6○1	6	2	0	1	9	5
3	パラグアイ	0△0	1●2		2○1	4	1	1	1	3	0
4	パナマ	1●4	1●6	1●2		0	0	0	3	3	-9

順位	グループK	フランス	カナダ	ウガンダ	チリ	勝	分	負	得点	失点	差
1	フランス		0△0	0●1	2○0	4	1	1	1	2	1
2	カナダ	0△0		2○1	1●2	4	1	1	1	3	0
3	ウガンダ	1○0	1●2		1△1	4	1	1	1	3	0
4	チリ	0●2	2○1	1△1		4	1	1	1	3	-1

順位	グループL	オーストリア	マリ	サウジアラビア	ニュージーランド	勝	分	負	得点	失点	差
1	オーストリア		3○0	1○0	4○1	9	3	0	0	8	7
2	マリ	0●3		2○0	3○0	6	2	0	1	5	3
3	サウジアラビア	0●1	0●2		3○2	3	1	0	2	3	-2
4	ニュージーランド	1●4	0●3	2●3		0	0	0	3	3	-10

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)



■大会各賞

FIFA Fair Play Trophy: チェコ

adidas Golden Ball: MATEUS MIDE (ポルトガル)
 adidas Silver Ball: MOSER Johannes (オーストリア)
 adidas Bronze Ball: MAURO FURTADO (ポルトガル)

adidas Golden Boot: MOSER Johannes (オーストリア/8得点1アシスト)
 adidas Silver Boot: ANISIO CABRAL (ポルトガル/7得点1アシスト)
 adidas Bronze Boot: DELL (ブラジル/5得点1アシスト)

adidas Golden Glove: ROMARIO CUNHA (ポルトガル)

グループステージ第1戦

U-17日本代表 2 (前半0-0 後半2-0) 0 U-17モロッコ代表

●2025年11月3日 16:30 ●アスバイア・ゾーン ピッチ5 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]COLOMBO Andrea(ITA) [副審]PERROTTI Giuseppe(ITA) / BACCINI Giovanni(ITA) [第4の審判員]VAN DER EIJK Sander(NED)

日本(監督:廣山望):[GK](1)村松秀司 [DF](2)藤田明日翔(4)藤井翔大(5)元砂晏翔仁ウデンバ [MF](7)長南開史(13)平島大悟(14)川本大善(19)和田武士(20)瀧口大翔<-68'(15)姫野誠> [FW](10)吉田湊海(11)浅田大翔<-68'(18)マギージェラニー運>

控え:(12)松浦大翔(21)平野稜太(3)田中義峯(6)野口蓮斗(9)小林祐希(16)メンディーサイモン友(17)竹野楓太

モロッコ(監督:BAHA Nabil):[GK](1)BELLAAROUCH Chouaib [DF](4)BELLAHSEN Yousef(13)AIT CHEIKH Driss(15)HIDAQUI Ilyas(17)ZEKRI Moncef [MF](6)SAIDI Elyes<-67'(14)IBN SALAH Qualid>(8)OUAZANE Abdellah<-85'(11)MOUHOUB Ahmed> [FW](9)BAHA Ziyad<-75'(19)HADDANI Nahel>(18)EL KHALFIOU Zakari(20)EL AOUD Ismail<-67'(10)DARDAKE Wassim>(21)EDDAOUDI Abdelali<-85'(3)EL ARBAOUI Ilyas>

控え:(12)BAYOUMI Gibril(16)EL IDRISSE Soufiane(2)BOUHADDI Hamza (5)SOUKRAT Bilal(7)EL BAYADI Younes

得点:[日本]57'瀧口大翔(1-0)、90+8'平島大悟(2-0)

警告:[日本]90+6'元砂晏翔仁ウデンバ [モロッコ]90'MOUHOUB Ahmed

グループステージ第3戦

U-17日本代表 2 (前半2-0 後半0-1) 1 U-17ポルトガル代表

●2025年11月9日 16:30 ●アスバイア・ゾーン ピッチ5 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]VEJAR Fernando(CHI) [副審]SERRANO Juan(CHI) / POBLETE Carlos(CHI) [第4の審判員]CARRASCO Adonis(DOM) ●マッチコミッショナー:KIM Kyungrul(KOR)

日本(監督:廣山望):[GK](1)村松秀司 [DF](2)藤田明日翔(5)元砂晏翔仁ウデンバ(16)メンディーサイモン友 [MF](6)野口蓮斗(7)長南開史(8)小林志紋<-57'(10)吉田湊海>(13)平島大悟<-57'(18)マギージェラニー運>(19)和田武士(20)瀧口大翔<-75'(4)藤井翔大> [FW](11)浅田大翔<-88'(17)竹野楓太>

控え:(12)松浦大翔(21)平野稜太(3)田中義峯(9)小林祐希(14)川本大善(15)姫野誠

ポルトガル(監督:BINO):[GK](1)ROMARIO CUNHA [DF](2)DANIEL BANJAQUI (3)MARTIM CHELMIK<-75'(4) MAURO FURTADO >(5)JOSE NETO (14)RICARDO NETO [MF](6)RAFAEL QUINTAS(8)MIGUEL FIGUEIREDO<-HT(18)BERNARDO LIMA > [FW](10)MATEUS MIDE<-50'(20)ZEEGA >(11)STEVAN MANUEL(17)JOAO ARAGAO<-65'(7)DUARTE CUNHA >(19)TOMAS SOARES<-HT(9)ANISIO CABRAL >

控え:(12)ALEXANDRE TVERDOHLEBOV (21)DAVID RODRIGUES (13)GABRIEL DBOUK(15)YOAN PEREIRA(16)SANTIAGO VERDI

得点:[日本]35'和田武士(1-0)、45'瀧口大翔(2-0) [ポルトガル]80'ZEEGA(2-1)

警告:[ポルトガル]21'TOMAS SOARES

退場:[日本]71'長南開史

グループステージ第2戦

U-17日本代表 0 (前半0-0 後半0-0) 0 ニューカレドニア代表 U-17

●2025年11月6日 16:00 ●アスバイア・ゾーン ピッチ1 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]WILLIAMS Kwinsi(TRI) [副審]ROCHARD Ainsley(TRI) / CHARLES Kirt (TRI) [第4の審判員]FOTIAS Vasileios(GRE) ●マッチコミッショナー:KAMIL Megat (MAS)

日本(監督:廣山望):[GK](12)松浦大翔 [DF](3)田中義峯(4)藤井翔大(16)メンディーサイモン友(17)竹野楓太 [MF](6)野口蓮斗(9)小林祐希<-HT(11)浅田大翔>(14)川本大善<-56'(19)和田武士>(15)姫野誠<-56'(20)瀧口大翔> [FW](10)吉田湊海<-70'(13)平島大悟>(18)マギージェラニー運<-88'(8)小林志紋>

控え:(1)村松秀司(21)平野稜太(2)藤田明日翔(5)元砂晏翔仁ウデンバ(7)長南開史

ニューカレドニア(監督:LOPEZ Leonardo):[GK](21)KUTRAN Nicolas [DF](4)IOPUE Fabrice(5)HMAE Yvrick<-66'(8)BEARUNE Edhy>(12)DREUKO Typhan<-59'(14)MENANGO Andre> [MF](2)ATTAWA Yoel-Henry (3)HMALOKO Darryl<-HT(18)JELIPA Alexis>(7)CANEHMEZ Jean(13)PADOME Malik<-52'(6)KATRAWA Maurice>(20)ANDREW Steevy [FW](9)BOUAOU Wesley(10)WAMOWE Ezekiel<-66'(17)WASSINGALU Henrick>

控え:(1)IPEZE Sylva'n(16)HMEUN Kaie(15)LUEPAK Victor(19)IHMEILING Laurent-Jean

警告:[日本]27'姫野誠 [ニューカレドニア]45+2'PADOME Malik、73'ANDREW Steevy

ラウンド32

U-17日本代表 3 (前半0-0 後半3-0) 0 U-17南アフリカ代表

●2025年11月15日 16:30 ●アスバイア・ゾーン ピッチ3 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]MADRIGAL Steven(CRC) [副審]GRANADOS Luis(CRC) / VALVERDE Jeriel(CRC) [第4の審判員]DEREVINSKYI Oleksii(UKR) ●マッチコミッショナー:SALAS Christian(CRC)

日本(監督:廣山望):[GK](1)村松秀司 [DF](2)藤田明日翔(5)元砂晏翔仁ウデンバ(16)メンディーサイモン友<-29'(4)藤井翔大>(17)竹野楓太<-64'(15)姫野誠> [MF](6)野口蓮斗(8)小林志紋<-HT(10)吉田湊海>(13)平島大悟<-64'(9)小林祐希>(19)和田武士<-78'(14)川本大善>(20)瀧口大翔<-78'(3)田中義峯> [FW](11)浅田大翔

控え:(12)松浦大翔(21)平野稜太(18)マギージェラニー運

南アフリカ(監督:KHUMALO Vela):[GK](1)RADEBE Lwandiso<-58'(16)MORAKE Keabetswe > [DF](2)PAMA Sive (13)SEKGOTO Omphemetse [MF](6)MARELETSE Kamohelo<-83'(17)TAYLOR Joshua >(8)MLANGENI Teboho<-30'(19)DHLAMINI Lebhang > [FW](5)HENDRICKS Luke(7)STEVENS Selwyn<-69'(11)BOOYSEN Alwande >(9)ELS Shaun(10)WITBOOI Emile(12)MOTHAPO Tumi(15)BOHLOKO Neo<-69'(14)DLEKEDLA Abulele >

控え:(20)MOKHOBLO Sello(3)NOGOBO Lunje(4)MARTHINUS Liam(18)HENSON Will

得点:[日本]48'浅田大翔(1-0)、59'吉田湊海(2-0)、72'藤井翔大(3-0)

警告:[日本]76'姫野誠

ラウンド 16

U-17日本代表 1 (前半1-0 後半0-1) 1 U-17朝鮮民主主義人民共和国代表 PK5-4

●2025年11月18日 18:15 ●アスパイア・ゾーン ピッチ4 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]EL FARIQ Hamza(MAR) [副審]NASSIRI Hamza(MAR)/DHOUIOUI Ahmed(TUN) [第4の審判員]VAN DER EIJK Sander(NED) ●マッチコミッショナー:SALEM Ahmed(EGY)

日本(監督:廣山望):[GK](1)村松秀司 [DF](2)藤田明日翔(5)元砂晏翔仁ウデンバ(16)メンディーサイモン友(17)竹野楓太 [MF](8)小林志紋<→55'(11)浅田大翔>(14)川本大善<→55'(6)野口蓮斗<→90+1'(9)小林柚希>(19)和田武士(20)瀬口大翔 [FW](10)吉田湊海(18)マギージェラニー運<→73'(13)平島大悟>

控え:(12)松浦大翔(21)平野稜太(3)田中義峯(4)藤井翔大

朝鮮民主主義人民共和国(監督:RIM Chol Min):[GK](18)KIM Jong Hun [DF](3)CHOE Chung Hyok(12)PAK Ryong U(15)KIM Se Ung(17)RI Kyong Bong [MF](6)AN Jin Sok(7)RI Hyok Gwang(9)PAK Kwang Song(16)SO Jin Song<→90+2'(2)HAN Il Bok> [FW](10)KIM Yu Jin(11)RI Kang Rim

控え:(1)JONG Hyon Ju(21)MIN Chol Gyeong(4)PAK Ki Ryong(5)KANG Myong Bom(8)RI Ro Gwon(13)RI Tae Myong(14)KIM Tae Guk(19)PAK Ju Won(20)RI Kang Song

得点 [日本]6' マギージェラニー運(1-0)
[朝鮮民主主義人民共和国]67' RI Hyok Gwang(1-1)

警告 [朝鮮民主主義人民共和国]45+1' AN Jin Sok, 58'SO Jin Song

PK [日本](10)○(5)○(20)○(13)○(11)○
[朝鮮民主主義人民共和国]先(7)○(2)×(3)○(11)○(10)○

準々決勝

U-17日本代表 0 (前半0-0 後半0-1) 1 U-17 オーストリア代表

●2025年11月21日 15:30 ●アスパイア・ゾーン ピッチ3 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]PAULO ZANOVELLI(BRA) [副審]NAILTON OLIVEIRA(BRA)/LUANDERSON LIMA(BRA) [第4の審判員]MENDEZ Ivo(BOL) ●マッチコミッショナー: SALAS Christian(CRC)

日本(監督:廣山望):[GK](1)村松秀司 [DF](2)藤田明日翔(4)藤井翔大(16)メンディーサイモン友(17)竹野楓太<→HT(20)瀬口大翔> [MF](6)野口蓮斗<→61'(18)マギージェラニー運>(8)小林志紋<→HT(10)吉田湊海>(13)平島大悟<→70'(9)小林柚希>(15)姫野誠(19)和田武士 [FW](11)浅田大翔

控え:(12)松浦大翔(21)平野稜太(3)田中義峯(14)川本大善

オーストリア(監督:STADLER Hermann):[GK](21)POSCH Daniel [DF](2)FELDINGER Rafael(4)POKORNY Jakob(5)NDUKWE Ifeanyi(20)HOFMAN Florian [MF](8)WERNER Jakob<→68'(17)ALEKSIC Filip>(10)MARKOVIC Vasilije(18)WEINHANDL Luca(19)MOSER Johannes [FW](7)JOZEPOVIC Nicolas<→79'(14)FRAUSCHER Daniel>(9)DESHISHKU Hasan<→90+6'(13)NZOGANG Kenny>

控え:(1)SCHARNER Paul(12)KATZMAYR Christof(3)SAVIC Sergej(6)HUSIC Loris(15)GANSER Emil(16)HALMICH Julian

得点 [オーストリア]49'MOSER Johannes(0-1)

警告 [オーストリア]74'NDUKWE Ifeanyi

U-15日本代表 The Gary Speed Tournament

【スタッフ】

○団長:吉野伸彦(JFA技術委員) ○監督:平田礼次(NCS) ○コーチ:土橋正樹(JC) ○GKコーチ:吉岡慎輔(NCS) ○フィジカルコーチ:大塚慶輔(NCS)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	山下晴太郎	ヴィッセル神戸伊丹U-15	MF	遠藤優空	清水エスパルスジュニアユース
	小畑颯亮	ガンバ大阪ジュニアユース		橋元結仁	ソレック熊本
DF	酒井陽社	ジェフユナイテッド市原・千葉U-15		名和葵斗	モンテディオ山形ジュニアユース村山
	進藤新大	柏レイソルU-15		樋口健志	ガンバ大阪ジュニアユース
	林天音	大分トリニータU-15		花元蒼絆	ヴィッセル神戸U-15
	野田永輝飛	川崎フロンターレU-15等々力		原武大和	ロアッソ熊本ジュニアユース
	遠山越	柏レイソルU-15	FW	沢口栄太	横浜F・マリノスユース
	古木庸生	ウイングスSC		八色隼人	名古屋グランパスU-18
	渡部直宏	東京ヴェルディジュニアユース		城秀人	FC東京U-18
MF	梶山蓮翔	FC東京U-18		中野大虎	川崎フロンターレU-15生田

<スケジュール>

8月23日 トレーニング(高円宮記念JFA夢フィールド) 羽田着
24日 イスタンブール経由、バーミンガム着
トレーニング
25日 トレーニング
26日 The Gary Speed Tournament
第1戦 vs U-15ウェールズ代表(Colwyn Bay)
トレーニング
27日 第2戦 vs U-15北アイルランド代表(Ruthin)
28日 トレーニング
29日~30日 トレーニング
31日 第3戦 vs U-15ジブラルタル代表(Ruthin)
9月1日 バーミンガム発、イスタンブール経由
2日 羽田着

第1戦

U-15日本代表 2 (前半0-0 後半2-2) 2 U-15ウェールズ代表 PK8-7

●2025年8月26日 14:30 ●Colwyn Bay ●試合時間:90分、PK

日本(監督:平田礼次):[GK](1)小畑颯亮 [DF](4)酒井陽社<→64'(2)渡部直宏>(5)林天音(13)野田永輝飛<→85'(16)古木庸生>(14)進藤新大<→64'(3)遠山越> [MF](7)梶山蓮翔(15)原武大和<→63'(6)樋口健志>(19)遠藤優空<→80'(18)橋元結仁>(20)名和葵斗<→63'(8)花元蒼絆> [FW](10)八色隼人<→63'(9)城秀人>(11)沢口栄太<→63'(17)中野大虎>

控え:(12)山下晴太郎

得点 53', 71' 失点(0-1)(0-2), 73' 遠藤優空(1-2), 87' 梶山蓮翔(2-2)

第2戦

U-15日本代表 0 (前半0-0 後半0-1) 1 U-15 北アイルランド代表

●2025年8月28日 14:30 ●Ruthin ●試合時間:90分

日本(監督:平田礼次):[GK](1)小畑颯亮 [DF](2)渡部直宏(3)遠山越<→45'(13)野田永輝飛>(5)林天音(16)古木庸生<→76'(7)梶山蓮翔> [MF](6)樋口健志<→64'(19)遠藤優空>(8)花元蒼絆(18)橋元結仁<→64'(15)原武大和>(20)名和葵斗<→45'(14)進藤新大> [FW](9)城秀人<→76'(10)八色隼人>(17)中野大虎<→76'(11)沢口栄太>

控え:(12)山下晴太郎(4)酒井陽社

得点 53' 失点

第3戦

U-15日本代表 6 (前半1-0 後半5-0) 0 U-15 ジブラルタル代表

●2025年8月31日 15:30 ●Ruthin ●試合時間:90分

日本(監督:平田礼次):[GK](1)小畑颯亮 [DF](3)遠山越(4)酒井陽社(14)進藤新大<→45'(2)渡部直宏>(18)橋元結仁<→74'(13)野田永輝飛> [MF](7)梶山蓮翔<→60'(17)中野大虎>(8)花元蒼絆<→45'(6)樋口健志>(16)古木庸生<→45'(10)八色隼人>(19)遠藤優空<→60'(15)原武大和> [FW](9)城秀人<→87'(5)林天音>(11)沢口栄太<→60'(20)名和葵斗>

控え:(12)山下晴太郎

得点 33' 城秀人(1-0)47', 86' 八色隼人(2-0)(6-0), 55' 梶山蓮翔(3-0), 59' 沢口栄太(4-0), 84' 名和葵斗(5-0)

U-15日本代表 EAFF U-15Championship2025

【スタッフ】

○団長: 吉野伸彦(JFA技術委員会 強化部会員) ○監督: 平田礼次(NCS) ○コーチ: 和泉茂徳(JC) ○GKコーチ: 吉岡慎輔(NCS) ○フィジカルコーチ: 芝田貴臣(清水エスパルス)

<選手>

Pos.	名前	所属	Pos.	名前	所属
GK	大泉未来	流通経済大学付属柏高校	MF	浅田連	ヴィッセル神戸U-15
	山下晴太郎	ヴィッセル神戸U-15伊丹		米川祐輝	FC東京U-15むさし
DF	望月琉希	山梨学院高校		古木庸生	ウイングスSC
	川崎悠生	ヴィッセル神戸U-15		大橋晴一郎	JFAアカデミー福島U-15
	村上悠剛	V・ファーレン長崎U-15		七久保優	FCトリプレッタJrユース
	山川弘飛	FC岐阜U-15		末廣大翔※2	湘南ベルマーレU-15
	遠山越	柏レイソルU-15	FW	沢口栄太	横浜F・マリノスユース
	中西海音※1	パテオFC金沢ジュニアユース		川野聖	ガンバ大阪ユース
	鮫島充輝	FCグランリオ鈴鹿		飯田蒼生	F.C. DIVINE
	田村瑛人※2	大分トリニータU-15		磯部怜夢	鹿島アントラーズジュニアユース
MF	蛸島颯	横浜FCユース			
	嵯峨日向※1	前橋育英高校			

<スケジュール>

12月16日 成田発、廈門着
17日 トレーニング
18日 EAFF U-15Championship2025
第1戦 vs U-15中国代表 (Stadium)
19日 トレーニング
20日 第2戦 vs U-15香港代表 (A-05Pitch5)
21日 トレーニング
22日 第3戦 vs U-15韓国代表 (Stadium)
23日 廈門発、成田着

※1: ケガのため不参加
※2: 追加招集

第1戦

U-15日本代表 **3** (前半1-0 後半2-0) **0** U-15中国代表

●2025年12月18日 15:00 ●Stadium (Hooray International Football Training Base) ●試合時間:70分

日本(監督:平田礼次):[GK](1)大泉未来 [DF](2)山川弘飛<-59'(15)村上悠剛>(4)川崎悠生<-67'(3)遠山越>(6)鮫島充輝(16)田村瑛人<-67'(5)望月琉希> [MF](8)蛸島颯(14)米川祐輝<-49'(17)浅田連>(19)大橋晴一郎<-67'(7)末廣大翔>(20)古木庸生<-49'(18)七久保優> [FW](10)磯部怜夢<-59'(9)川野聖>(11)沢口栄太<-49'(13)飯田蒼生>

控え:(12)山下晴太郎

得点: 34' 沢口栄太(1-0)、50' 飯田蒼生(2-0)、55' 磯部怜夢(3-0)

警告: 47' 山川弘飛

第2戦

U-15日本代表 **2** (前半0-0 後半2-0) **0** U-15香港代表

●2025年12月20日 10:10 ●A-05Pitch5 (Hooray International Football Training Base) ●試合時間:70分

日本(監督:平田礼次):[GK](12)山下晴太郎 [DF](3)遠山越<-62'(2)山川弘飛>(4)川崎悠生<-44'(16)田村瑛人>(5)望月琉希(15)村上悠剛 [MF](7)末廣大翔(17)浅田連<-44'(20)古木庸生>(18)七久保優(19)大橋晴一郎<-44'(14)米川祐輝> [FW](9)川野聖(13)飯田蒼生<-44'(11)沢口栄太>

控え:(1)大泉未来(6)鮫島充輝(8)蛸島颯(10)磯部怜夢

得点: 39' 七久保優(1-0)、70+1' 磯部怜夢(2-0)

第3戦

U-15日本代表 **0** (前半0-1 後半0-2) **3** U-15韓国代表

●2025年12月22日 10:00 ●Stadium (Hooray International Football Training Base) ●試合時間:70分

日本(監督:平田礼次):[GK](1)大泉未来<-HT(12)山下晴太郎> [DF](3)遠山越(4)川崎悠生(6)鮫島充輝(16)田村瑛人 [MF](8)蛸島颯(14)米川祐輝<-HT(10)磯部怜夢>(17)浅田連(20)古木庸生<-44'(19)大橋晴一郎> [FW](9)川野聖<-44'(15)村上悠剛>(13)飯田蒼生<-44'(11)沢口栄太>

控え:(2)山川弘飛(5)望月琉希(7)末廣大翔(18)七久保優

得点: 21'、47'、55' 失点(0-1)(0-2)(0-3)

フットサル日本女子代表 FIFA フットサル女子ワールドカップフィリピン2025

※関連記事は96~99ページに掲載

【スタッフ】

○団長: 小西鉄平(JFAフットサルテクニカルディレクター) ○監督: 須賀雄大(NCS) ○コーチ: 藤田安澄(JFAフットサルチューター/湘南ベルマーレ) ○GKコーチ: 富澤孝(JFAフットサルGKプロジェクト/バルドラル浦安/東急スレイエスFC) ○フィジカルコーチ: 大森知(JFAフットサルフィジカルフィットネスプロジェクト/東急スレイエスFC) ○テクニカルスタッフ: 林誠晃(JFAテクニカルハウス)

<選手>

Pos.	名前	所属
GK	井上ねね	立川アスレティックFCレディース
	須藤優理亜	マリン・フットサル (ESP)
FP	PIVO	篠井りさ
	ALA	網城安奈
	ALA	宮原ゆかり
	FIXO	伊藤果穂
	INRESA	江口未珂
	FIXO	中村みづき
	PIVO	江川涼
	ALA	松本直美
	ALA	高橋京花
	FIXO	追野沙羅
	ALA	池内天紀
	PIVO	岩崎裕加

ESP: スペイン

<サポートメンバー> ※全日程チームに帯同

Pos.	名前	所属
GK	中田風咲	SWHレディース西宮

<スケジュール>

11月10日~11日 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
12日 練習試合 vs フウガドールすみだウイングス (U-15) (高円宮記念JFA夢フィールド)
13日 トレーニング (高円宮記念JFA夢フィールド)
14日 羽田発、マニラ着
15日 トレーニング
16日 練習試合 vs フットサルコロンビア女子代表
17日 トレーニング
18日 練習試合 vs フットサルイタリア女子代表
19日 トレーニング
20日 公式トレーニング (PhilSports Arena)
21日~22日 トレーニング (Ynares Coliseum Antipolo)

23日 FIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025
グループステージ第1戦 vs フットサルニュージーランド女子代表 (PhilSports Arena)
24日~25日 トレーニング (Ynares Coliseum Antipolo)
26日 グループステージ第2戦 vs フットサルポルトガル女子代表 (PhilSports Arena)
27日 トレーニング (Ninoy Aquino Stadium)
28日 トレーニング (Ynares Coliseum Antipolo)
29日 グループステージ第3戦 vs フットサルタンザニア女子代表 (PhilSports Arena)
30日~12月1日 トレーニング
2日 準々決勝 (PhilSports Arena) vs フットサルブラジル女子代表

■グループステージ

順位	グループA	アルゼンチン	モロッコ	ポーランド	フィリピン	勝	分	負	得点	失点	差	
1	アルゼンチン		6 0 0	3 0 2	5 0 1	9	3	0	0	14	3	11
2	モロッコ	0 ● 6		1 0 0	3 0 2	6	2	0	1	4	8	-4
3	ポーランド	2 ● 3	0 ● 1		6 0 0	3	1	0	2	8	4	4
4	フィリピン	1 ● 5	2 ● 3	0 ● 6		0	0	0	3	3	14	-11

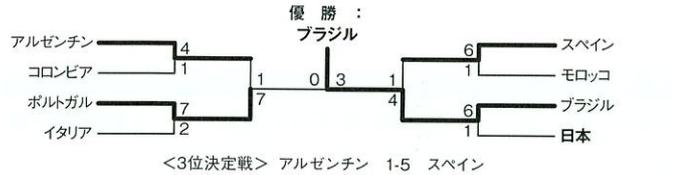
順位	グループB	スペイン	コロンビア	タイ	カナダ	勝	分	負	得点	失点	差	
1	スペイン		5 0 1	5 0 2	7 0 0	9	3	0	0	17	3	14
2	コロンビア	1 ● 5		4 0 1	2 0 0	6	2	0	1	7	6	1
3	タイ	2 ● 5	1 ● 4		6 0 3	3	1	0	2	9	12	-3
4	カナダ	0 ● 7	0 ● 2	3 ● 6		0	0	0	3	3	15	-12

順位	グループC	ポルトガル	日本	タンザニア	ニュージーランド	勝	分	負	得点	失点	差	
1	ポルトガル		3 0 1	10 0 0	11 0 0	9	3	0	0	24	1	23
2	日本	1 ● 3		9 0 0	6 0 0	6	2	0	1	16	3	13
3	タンザニア	0 ● 10	0 ● 9		4 0 2	3	1	0	2	4	21	-17
4	ニュージーランド	0 ● 11	0 ● 6	2 ● 4		0	0	0	3	2	21	-19

順位	グループD	ブラジル	イタリア	イラン	パナマ	勝	分	負	得点	失点	差	
1	ブラジル		6 0 1	4 0 1	9 0 0	9	3	0	0	19	2	17
2	イタリア	1 ● 6		3 0 1	17 0 0	6	2	0	1	21	7	14
3	イラン	1 ● 4	1 ● 3		6 0 2	3	1	0	2	8	9	-1
4	パナマ	0 ● 9	0 ● 17	2 ● 6		0	0	0	3	2	32	-30

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■ノックアウトステージ



■大会各賞

FIFA Fair Play Trophy: ブラジル

adidas Golden Ball: EMILLY (ブラジル)
adidas Silver Ball: DEBORA VANIN (ブラジル)
adidas Bronze Ball: LIDIA MOREIRA (ポルトガル)

adidas Golden Boot: EMILLY (ブラジル/7得点2アシスト)
adidas Silver Boot: CORDOBA Irene (スペイン/7得点1アシスト)
adidas Bronze Boot: LIDIA MOREIRA (ポルトガル/6得点3アシスト)

adidas Golden Glove: ANA CATARINA (ポルトガル)

■グループステージ第1戦

フットサル 日本女子代表 6 (第1ピリオド2-0 第2ピリオド4-0) 0 フットサルニュージーランド女子代表

●2025年11月23日 12:00 ●PhilSports Arena ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]ZAMBRANO Oriana(VEN) [第2審判]PINTO Maria(ARG) [第3審判]SCHULZ Anelize(BRA) [タイムキーパー]PAHIA Krystin(USA) ●マッチコミッショナー:DACOSTA Latoya(JAM) ●観衆:503人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
井上ねね	○	1	GK	GK	1	○	BRADLEY Danielle
須藤優理亜	△	2	GK	DF	2	○	ANTHONY Shivy
江口未珂	○	3	MF	W	3	△	VERDON Jessica
中村みづき	△	4	DF	W	4	△	EVANS Jamie
伊藤果穂	△	5	DF	DF	5	△	WILLIAMS Sophie
池内天紀	○	6	MF	W	6	△	MANAK Dayna
追野沙羅	○	7	DF	W	7	○	KRAAKMAN Hannah
宮原ゆかり	△	8	MF	W	8	○	BREMNER Jordana
江川涼	○	9	FW	P	9	△	BLOOMFIELD Alosi
網城安奈	△	10	MF	P	10	△	PRETTY Cat
筏井りさ	△	11	FW	W	11	○	NICHOLSON Briney-Lee
岩崎裕加	△	12	FW	GK	12	△	HEGARTY Hannah
高橋京花	△	13	MF	DF	13	△	JAMES Ella
松本直美	△	14	MF	DF	14	△	FIRTH Ellena
須賀雄大			監督				DOWNS Nic

得点 [日本]1'、26'追野沙羅(1-0)(5-0)、12'網城安奈(2-0)、23'筏井りさ(3-0)、26'江川涼(4-0)、31'宮原ゆかり(6-0)

警告 [ニュージーランド]12'BLOOMFIELD Alosi、19'KRAAKMAN Hannah、36'VERDON Jessica

○:先発、△:交代出場

■グループステージ第2戦

フットサル 日本女子代表 1 (第1ピリオド0-2 第2ピリオド1-1) 3 フットサルポルトガル女子代表

●2025年11月26日 15:30 ●PhilSports Arena ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]MORENO Tayana(VEN) [第2審判]SCHULZ Anelize(BRA) [第3審判]PAHIA Krystin(USA) [タイムキーパー]PINTO Maria(ARG) ●マッチコミッショナー:BENNETT Naea(TAH) ●観衆:435人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
井上ねね	○	1	GK	GK	1	○	ANA CATARINA
須藤優理亜	△	2	GK	DF	2	△	INES MATOS
江口未珂	○	3	MF	DF	3	△	HELENA NUNES
中村みづき	△	4	DF	DF	4	△	KAKA
伊藤果穂	△	5	DF	P	5	△	DEBORA LAVRADOR
池内天紀	○	6	MF	W	6	○	KIKA
追野沙羅	○	7	DF	DF	7	○	ANA AZEVEDO
宮原ゆかり	△	8	MF	P	8	△	JANICE SILVA
江川涼	○	9	FW	DF	9	△	FIFO
網城安奈	△	10	MF	P	10	△	MARIA PEREIRA
筏井りさ	△	11	FW	W	11	○	CAROLINA PEDREIRA
岩崎裕加	△	12	FW	GK	12	△	MARIA ROCHA
高橋京花	△	13	MF	W	13	△	MARTA TEIXEIRA
松本直美	△	14	MF	P	14	○	LIDIA MOREIRA
須賀雄大			監督				CONCEICAO Luis

得点 [日本]36'追野沙羅(1-2) [ポルトガル]15'、39'ANA AZEVEDO(0-1)(1-3)、15'KAKA(0-2)

警告 [日本]23'江口未珂

○:先発、△:交代出場

■グループステージ第3戦

フットサル 日本女子代表 9 (第1ピリオド3-0 第2ピリオド6-0) 0 フットサルタンザニア女子代表

●2025年11月29日 12:00 ●PhilSports Arena ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]ARAYA Yeraldin(CRC) [第2審判]MONTALVO Yendis(COL) [第3審判]VALVERDE Kimberly(CRC) [タイムキーパー]CACERES Maria(PAR) ●マッチコミッショナー:DACOSTA Latoya(JAM) ●観衆:314人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
井上ねね	○	1	GK	GK	1	○	WAZIRI Zuhura
須藤優理亜	△	2	GK	P	2	○	MANDUTA Nasma
江口未珂	○	3	MF	P	3	△	MAKAMBA Edina
中村みづき	△	4	DF	W	4	△	CHARLES Winfrida
伊藤果穂	△	5	DF	DF	5	○	ISSA Fatuma
池内天紀	○	6	MF	P	6	○	MBUGA Sabina
追野沙羅	○	7	DF	W	7	△	KARUKA Zainabu
宮原ゆかり	△	8	MF	W	8	△	KALUWA Yasinta
江川涼	○	9	FW	W	10	△	SIYAME Mary
網城安奈	△	10	MF	W	11	△	BUTEME Rehema
筏井りさ	△	11	FW	W	13	○	ATHUMAN Zawadi
岩崎裕加	△	12	FW	FW	14	△	MAFURU Shelda
高橋京花	△	13	MF				
松本直美	△	14	MF				
須賀雄大			監督				REID Curtis

得点 [日本]1'、33'江川涼(1-0)(9-0)、3'松本直美(2-0)、17'中村みづき(3-0)、23'伊藤果穂(4-0)、25'、26'岩崎裕加(5-0)(6-0)、27'高橋京花(7-0)、32'網城安奈(8-0)

警告 [タンザニア]10'MBUGA Sabina、11'CHARLES Winfrida、23'BUTEME Rehema、28'MANDUTA Nasma、31'MAKAMBA Edina、33'WAZIRI Zuhura

○:先発、△:交代出場

■準々決勝

フットサル 日本女子代表 1 (第1ピリオド0-5 第2ピリオド1-1) 6 フットサルブラジル女子代表

●2025年12月2日 20:30 ●PhilSports Arena ●試合時間:40分(プレーイングタイム) ●審判員:[主審]VALVERDE Kimberly(CRC) [第2審判]PAHIA Krystin(USA) [第3審判]ORESIC Marijana(CRO) [タイムキーパー]PICCOLO Martina(ITA) ●マッチコミッショナー:GARCIA Sergio(GUA) ●観衆:1,383人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
井上ねね	○	1	GK	GK	1	△	JULIA
須藤優理亜	△	2	GK	MF	2	△	DEBORA VANIN
江口未珂	○	3	MF	GK	3	○	BIANCA
中村みづき	○	4	DF	DF	4	○	TATY
伊藤果穂	△	5	DF	W	5	△	TAMPA
池内天紀	△	6	MF	MF	6	△	SIMONE
追野沙羅	○	7	DF	MF	7	△	DIANA
宮原ゆかり	△	8	MF	DF	8	△	LUANA RODRIGUES
江川涼	○	9	FW	W	9	○	EMILLY
網城安奈	△	10	MF	P	10	△	LUCILEIA
筏井りさ	△	11	FW	DF	11	△	CAMILA
岩崎裕加	△	12	FW	MF	12	○	AMANDINHA
高橋京花	△	13	MF	P	13	△	NATALINHA
松本直美	△	14	MF	P	14	○	ANA LUIZA
須賀雄大			監督				WILSON SABOIA

得点 [日本]35'オウンゴール(1-5) [ブラジル]3'、10'、38'EMILLY(0-1)(0-3)(1-6)、8'ANA LUIZA(0-2)、12'DEBORA VANIN(0-4)、13'LUANA RODRIGUES(0-5)

警告 [日本]12'網城安奈、38'追野沙羅

○:先発、△:交代出場

2025ナショナルトレセンU-14後期

概要：個の育成の充実を図るトレセンの役割は高いレベルの指導・環境と選手同士の刺激による活動から得たものを自チームに還元していくことや指導者へのJFAの発信機会として重要度を増している。

そこで、選手育成・強化の観点から、より多くの選手に質の高いトレーニング機会を与えるために、トレーニング、ゲーム、ポジション別トレーニング、レクチャー等を実施する。

目的：日本サッカーの強化・発展のため、優秀な選手の発掘・育成を図る
選手・指導者のレベルアップを図る

トレセン(トレーニングセンター)制度の充実・発展を図る

主催：公益財団法人日本サッカー協会

協賛：JFAオフィシャルトップパートナー：キリンホールディングス株式会社

JFAオフィシャルサプライヤー：アディダス ジャパン株式会社

JFAメジャーパートナー：全日本空輸株式会社、株式会社クレディセゾン、KDDI株式会社、三井不動産株式会社、株式会社みずほフィナンシャルグループ、MS&ADインシュアランスグループホールディングス株式会社、TOYO TIRE株式会社

JFAコンベティションパートナー：株式会社モルテン

指導：公益財団法人日本サッカー協会 技術委員会(技術委員・ナショナルコーチングスタッフ・JFAコーチ)
地域トレセンU-14 指導スタッフ

期間：2025年11月20日(木)～11月23日(日) 3泊4日

参加地域/開催場所

北海道・東北・関東・北信越・東海・関西・中国・四国/高円宮記念 JFA 夢フィールド

選手参加資格

①本協会加盟登録選手(外国籍選手でもその選手の参加が他の選手にプラスと考えられる場合、参加を承認する)

②20011(平成23)年1月1日以降出生の者

③日常的にトレセンで活動している者

※その他、スケジュール等の詳細についてはJFA公式ウェブサイト参照

【コーチ】

地域	役職	名前	所属
東北	コーチ	佐々木健太	一般社団法人秋田県サッカー協会
関東	コーチ	中島慶介	群馬県立太田高校
関東	コーチ(GK担当)	小井手杏太郎	山梨学院大学
北信越	コーチ	奥山達之	アルビレックス新潟U-15
東海	コーチ	佐藤文彦	ジュビロ磐田U-15 WEST
東海	コーチ(GK担当)	瀧川翔	清水エスパルスジュニアユース三島
関西	コーチ	山口敬介	守山市立守山中学校
関西	コーチ(GK担当)	渡邊貴之	木津川市立木津南中学校
中国	コーチ	田原俊輔	ボアソルテ美都フットボールクラブ
中国	コーチ(GK担当)	塩澤玲央	ファジアーノ岡山アカデミー
四国	コーチ	木村元彦	今治市立立花中学校
九州	コーチ	藤井祐	西南フットボールクラブ

【選手】

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
北海道	FP	下尚希	北海道	北海道コンサドーレ札幌U-15
北海道	FP	岩田禮嗣	北海道	北海道コンサドーレ室蘭U-15
北海道	FP	角田有芯	北海道	北海道コンサドーレ室蘭U-15
東北	FP	石川遥太	福島県	JFAアカデミー福島U-15
東北	FP	武藤結人	秋田県	ASP U-15
東北	FP	上野玲音	宮城県	ベガルタ仙台ジュニアユース
東北	FP	磯沼煌夕	青森県	Desenvolver F.U.T
関東	GK	上野煌太	東京都	三菱養和サッカークラブ巣鴨ジュニアユース
関東	GK	根本皓生	茨城県	鹿島アントラーズジュニアユース
関東	GK	富山優斗	埼玉県	浦和レッズジュニアユース
関東	GK	小林駿翔	神奈川県	横浜FCジュニアユース
関東	FP	三上尚絃	埼玉県	RB大宮アルディージャU15
関東	FP	岡上泰士	千葉県	VIVAIO船橋SC
関東	FP	佐藤直紀	東京都	FC東京U-15むさし
関東	FP	月見里遥希	神奈川県	川崎フロンターレU-15生田
関東	FP	栗田遊聞	茨城県	鹿島アントラーズノルテジュニアユース
関東	FP	久保田晴	栃木県	栃木SC U-15
関東	FP	多々野舜太	東京都	FC東京U-15むさし
関東	FP	佐藤勇良	東京都	横河武蔵野フットボールクラブU-15
関東	FP	石井虹	神奈川県	横須賀シーガルズFC
関東	FP	前田曉生	東京都	東京ヴェルディジュニアユース
関東	FP	伊藤大智	埼玉県	浦和レッズジュニアユース
関東	FP	増本隆	東京都	東京ヴェルディジュニアユース
関東	FP	高柳日翔	群馬県	MSCジュニアユース
関東	FP	上野快斗	神奈川県	横浜F・マリノスジュニアユース追浜
関東	FP	武田佳悟	神奈川県	東急SレイズFC U-15
関東	GK	明神健※1	-	湘南ベルマーレU-15
関東	FP	齊藤陸斗※1	-	横浜F・マリノスジュニアユース
関東	FP	小佐野修拓※1	-	ヴァンフォーレ甲府U-15
北信越	FP	山本称多	長野県	松本山雅フットボールクラブU-15
北信越	FP	足田拓	石川県	ツエーゲン金沢U-15
北信越	FP	堀川啓仁	富山県	カターレ富山U-15
北信越	FP	小谷藍路	福井県	武生フットボールクラブ・Jユース
東海	GK	高原玲於成	岐阜県	FC岐阜U-15

地域	Pos.	名前	都道府県	所属
東海	FP	松本宗史朗	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	土井陽向汰	愛知県	AS.ラランジャ豊川U15
東海	FP	吉弘波瑠翔	三重県	ヴェルデラッソ松阪 U-15
東海	FP	赤堀央平	愛知県	グランパスみよしFC
東海	FP	黒川鉄平	三重県	TSV1973四日市U-15
東海	FP	加藤慈現	岐阜県	FC岐阜U-15
東海	FP	清水謙年	愛知県	名古屋グランパスU-15
東海	FP	成澤勇牙	静岡県	清水エスパルスジュニアユース
関西	GK	森昂琉	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	田邊龍飛	大阪府	ガンバ大阪ジュニアユース
関西	FP	松尾成咲	大阪府	千里丘FC
関西	FP	中村光希	京都府	京都サンガF.C.U-15
関西	FP	岡本悠聖	和歌山県	セレッソ大阪 和歌山U-15
関西	FP	岡部遥希	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	松田拓士	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
関西	FP	土田欣晋	京都府	京都サンガF.C.U-15
関西	FP	高見琉生	兵庫県	ヴィッセル神戸U-15
中国	FP	桑本康聖	島根県	サンフレッチェくまびぎフットボールクラブU-15
中国	FP	落合稜史	広島県	サンフレッチェびんごジュニアユースフットボールクラブ
中国	FP	前直玖	広島県	サンフレッチェびんごジュニアユースフットボールクラブ
四国	GK	竹内亮介	徳島県	ブルミエール徳島サッカークラブ
四国	FP	高橋幸次	愛媛県	FC今治 U-15
四国	FP	廣地凛人	徳島県	徳島ヴォルティスジュニアユース
四国	FP	多田朱希	香川県	カマタマーレ讃岐U-15
九州	GK	門口優希	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	向井健太	佐賀県	サガン鳥栖U-15
九州	FP	長友丈	宮崎県	アリアFC
九州	FP	大石惇斗	鹿児島県	太陽スポーツクラブU-15
九州	FP	納富統生	福岡県	アビス福岡U-15
九州	FP	假屋明希	宮崎県	アリアFC
九州	FP	田金晴葵	大分県	大分トリニータU-15
九州	FP	切通武琉	鹿児島県	神村学園中等部
九州	FP	岸本泰河	沖縄県	FC琉球OKINAWA U-15

※1：ケガのため辞退

第9回全日本大学サッカー新人戦

本大会は、(一財)全日本大学サッカー連盟およびJFAが主催し、全日本大学サッカー連盟ならびにJFAに登録され、地域大学サッカー連盟より選出されたチームが参加した。今大会は2025年11月25日～29日、関東の会場で開催され、12チームが出場した。

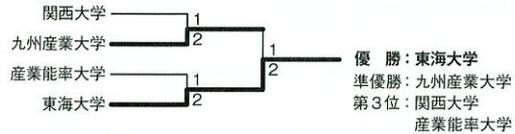
■グループリーグ

順位	グループA	関西	静岡産業	慶應義塾	高知	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	関西大学(関西1)		2○1	1●4	7○0	6	2	0	1	10	5	5
2	静岡産業大学(東海)	1●2		1○0	4○0	6	2	0	1	6	2	4
3	慶應義塾大学(関東1)	4○1	0●1		3○2	6	2	0	1	7	4	3
4	高知大学(四国)	0●7	0●4	2●3		0	0	0	3	2	14	-12

順位	グループB	東海	九州産業	新潟医療	札幌	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	東海大学(関東2)		0△0	2○0	6○4	7	2	1	0	8	4	4
2	九州産業大学(九州)	0△0		1△1	4○0	5	1	2	0	5	1	4
3	新潟医療福祉大学(北信越)	0●2	1△1		3○0	4	1	1	1	4	3	1
4	札幌大学(北海道)	4●6	0●4	0●3		0	0	0	3	4	13	-9

順位	グループC	産業効率	大阪体育	仙台	福山	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	産業効率大学(関東3)		1○0	2△2	6○1	7	2	1	0	9	3	6
2	大阪体育大学(関西2)	0●1		4○0	5○0	6	2	0	1	9	1	8
3	仙台大学(東北)	2△2	0●4		5○2	4	1	1	1	7	8	-1
4	福山大学(中国)	1●6	0●5	2●5		0	0	0	3	3	16	-13

■決勝トーナメント



○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

ASTRO SPORTS presents 2025年度第74回全日本大学サッカー選手権大会

本大会は、(一財)全日本大学サッカー連盟およびJFAが主催し、全日本大学サッカー連盟ならびにJFAに登録されている単独の大学の学生で構成されたチームに出場資格が与えられている。今大会は2025年12月6日～27日、予選ラウンドは全国、強化ラウンドは関東、決勝ラウンドは関東、関西、東海、九州の会場で開催され、地域大学サッカー連盟および当該年度開催の総理大臣杯より選出された28チームが出場した。

*大会レポートは87ページに掲載

■予選ラウンド

仙台大学	3-2	桐蔭横浜大学
新潟医療福祉大学	0-0	大阪体育大学
PK4-5		
明治大学	3-0	札幌大学
東海大学	2-0	中京大学
日本大学	3-2	桃山学院大学
常葉大学	2-0	松本大学
阪南大学	2-0	鹿屋体育大学
IPU・環太平洋大学	2-3	日本体育大学
高松大学	2-2	甲南大学
PK5-3		
九州産業大学	4-3	京都産業大学

■強化ラウンド

順位	グループ1	京都産業	新潟医療	環太平洋	富士	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	京都産業大学(関西4)		1△1	3○0	5○0	7	2	1	0	9	1	8
2	新潟医療福祉大学(北信越1)	1△1		1△1	1○0	5	1	2	0	3	2	1
3	IPU・環太平洋大学(中国1)	0●3	1△1		1○0	4	1	1	1	2	4	-2
4	富士大学(東北2)	0●5	0●1	0●1		0	0	0	3	0	7	-7

順位	グループ2	桐蔭横浜	広島経済	甲南	桃山学院	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	桐蔭横浜大学(関東6)		2○1	3○1	2△2	7	2	1	0	7	4	3
2	広島経済大学(中国2)	1●2		1○0	2○1	6	2	0	1	4	3	1
3	甲南大学(関西3)	1●3	0●1		3○0	3	1	0	2	4	4	0
4	桃山学院大学(関西5)	2△2	1●2	0●3		1	0	1	2	3	7	-4

順位	グループ3	松本	中京	札幌	鹿屋体育	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	松本大学(北信越2)		1○0	1○0	1△1	7	2	1	0	3	1	2
2	中京大学(東海3)	0●1		2○1	1○0	6	2	0	1	3	2	1
3	札幌大学(北海道)	0●1	1●2		3○1	3	1	0	2	4	4	0
4	鹿屋体育大学(九州3)	1△1	0●1	1●3		1	0	1	2	2	5	-3

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

<ノックアウトステージ>



■決勝ラウンド

順位	グループA	阪南	筑波	東海	常葉	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	阪南大学(関西2)		2○1	2○0	1△1	7	2	1	0	5	2	3
2	筑波大学(関東1)	1●2		4○0	1○0	6	2	0	1	6	2	4
3	東海大学(関東5)	0●2	0●4		1○0	3	1	0	2	1	6	-5
4	常葉大学(東海2)	1△1	0●1	0●1		1	0	1	2	1	3	-2

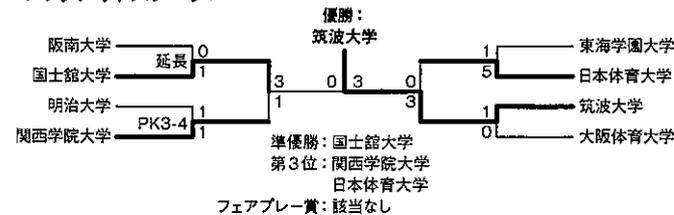
順位	グループB	日本体育	国士館	日本	福岡	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	日本体育大学(関東7)		1○0	1△1	2○1	7	2	1	0	4	2	2
2	国士館大学(関東2)	0●1		3○1	2○0	6	2	0	1	5	2	3
3	日本大学(関東6)	1△1	1●3		4○0	4	1	1	1	6	4	2
4	福岡大学(九州1)	1●2	0●2	0●4		0	0	0	3	1	8	-7

順位	グループC	大阪体育	関西学院	高松	仙台	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	大阪体育大学(関西6)		1○0	0△0	6○0	7	2	1	0	7	0	7
2	関西学院大学(関西1)	0●1		3○1	4○0	6	2	0	1	7	2	5
3	高松大学(四国)	0△0	1●3		9○2	4	1	1	1	10	5	5
4	仙台大学(東北1)	0●6	0●4	2●9		0	0	0	3	2	19	-17

順位	グループD	明治	東海学園	東洋	九州産業	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	明治大学(関東4)		2○0	2○1	4○0	9	3	0	0	8	1	7
2	東海学園大学(東海1)	0●2		2○1	1○0	6	2	0	1	3	3	0
3	東洋大学(関東3)	1●2	1●2		3○1	3	1	0	2	5	5	0
4	九州産業大学(九州2)	0●4	0●1	1●3		0	0	0	3	1	8	-7

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

<ノックアウトステージ>



準決勝

国士館大学 3 (前半1-1 後半2-0) 1 関西学院大学

●2025年12月24日 11:00 ●カンセキスタジアムとちぎ ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]木下心 [副審]加藤聖二/岩原豪 [第4の審判員]松下陸大 ●マッチコミッショナー:飛田晃典 ●観衆:324人

国士館(監督:前田隆司):[GK](1)渡辺勇樹 [DF](3)岡英輝<-86'(24)工藤珠凜>(15)川原颯斗(18)沖村大也<-61'(2)嶋村悠>(27)臼井春翔 [MF](8)吉岡優希(17)篠崎遥斗(28)村上竜規<-83'(10)高柳英二郎> [FW](7)後藤響<-54'(29)皆川春輝>(9)本間凜<-HT(19)小西脩斗>(11)須藤太一

控え:(12)矢野晃(5)橋本凜(13)井野佑優(26)百瀬健

関西学院(監督:早崎義晃):[GK](1)宮本流維 [DF](2)山本楓大(4)古田東也(14)田井力渡<-78'(13)村井清大>(20)福川暖大 [MF](7)篠原駿太<-63'(19)内田康介>(11)木場拓実<-HT(8)三宅凌太郎>(18)棟近慎規(28)米田和真<-78'(16)酒井柊維> [FW](10)小西春輝(27)山本吟侍<-70'(12)馬場悠斗>

控え:(21)成田三太郎(3)野中陸(5)西谷京祐(15)長滝谷洗斗

得点 [国士館]23'吉岡優希(1-0)、69'、76'皆川春輝(2-1)(3-1) [関西学院]28'小西春輝(1-1)

警告 [関西学院]68'山本吟侍

【参加選手】

<札幌大学> 監督:河端和哉

岡本歩夢、山口大翔、保坂善里、西村純一、小山巧登、原谷凌成、櫻井麻、谷口慧真、佐藤隼之丞、大藪慈生、山口莉生、町田憲信、大友海知、佐藤航、山岸武尊、榎山一生、曾我部修羽、野村光希、西田将也、植垣瑛人、岩本旭陽、成澤晏士、松本陽翔、清水彪雅、井波秀樹、倉田椿染、金内秀斗、齋藤辰

<仙台大学> 監督:吉井秀邦

鮎澤太陽、鈴木大翔、佐藤怜司、前田航星、櫻井涼太、都築卓、新谷一真、吉良優音、横溝広太、本田真斗、石山寛太郎、松野凌大、小松朝陽、山口春汰、三沢大和、石毛翼、阿部吉平、武田陸来、水津秀斗、小村晃太、玉木亜門、中野ブライアン奏、高橋太陽、相賀天晴、吉武皇雅、大畑魁、天野瑠成、渡部凪斗、川村紀史、小川聖風

<富士大学> 監督:嶋尾直軌

三浦悠斗、佐藤小次郎、青木大志、菊地レイ、小林陽天、齋藤太賀、佐々木悠磨、戸島混心、野村一颯、高倉太朗、伊藤俊輔、齋藤幸、村澤進太郎、小森琉己、蒲田陽向、林叶磨、則松卓人、平山陽樹、山田遥斗、佐立恭梧、安栗博志、福島楓大、石間陸、荻無里斗磨、眞中裕都、中島大誠、佐藤史矩、村上太一、伊東諭良、藤原陽優

<新潟医療福祉大学> 監督:佐藤裕和

加澤宙也、平良碧規、白石蓮、細井響、中野創介、向井俊貴、高足龍、武原幸之介、吉田晃盛、田澤夢積、上之平暉羅、藤村天洗、折原優介、若林来希、森駿人、村田楓太、漆館拳大、五来凌空、松浦魁空、吉田友樹、イルング侑良、白土弘汰、佐藤武流、立川遼翔、矢崎レイス、阪上聖恩、杉野太一、森健太郎、高橋響希、浅井隼大

<松本大学> 監督:齊藤茂

石見凜汰朗、木村幸太、柳原深羽、北野大和、河越大、迫川飛羽、辻龍之介、田畑葵、荻原大貴、早河森哉、村上慧斗、永井就斗、芹澤翼、早坂政宗、村上颯汰、久保田翼、雪本泰雅、柴田光流、秋山世成、向山悦生、柳橋優守、花形星矢、安藤大和、金子玲於、宮部賢治郎、石黒崇成、高橋圭太、山岡鼓人、今泉駿人、上田大稀、山岡凌空、平石聖太、折井耀斗

<筑波大学> 監督:小井土正亮

佐藤瑠星、池田春汰、五嶋夏生、小川遼也、鈴木遼、木元亨輔、小松悠太、清水大翔、小林俊瑛、山崎太新、篠田翼、宮野陽貴、佐野健友、徳永涼、浦部舜、野田愛斗、安食優斗、池谷銀姿郎、庄内航汰、相澤知哉、入江倫平、西村大希、大谷湊斗、菅久原陽平、布施克真、黒瀬直弥、古川千加良、矢田龍之介、山下景司、湯浅雅紀、種田逸真、山内大輔、花岡優太

<国士館大学> 監督:前田隆司

渡辺勇樹、嶋村悠、岡英輝、山田健太、橋本凜、菅澤剛、後藤響、吉岡優希、本間凜、高柳英二郎、須藤太一、矢野晃、井野佑優、田中社同、川原颯斗、小島珀、篠崎遥斗、沖村大也、小西脩斗、鈴木優真、石坂地央、三上倫広、川原良介、工藤珠凜、清水陽、百瀬健、臼井春翔、村上竜規、皆川春輝、山下ハル

<東洋大学> 監督:井上卓也

上村倫士、荒井涼、高橋愛翔、福原陽向、山之内佑成、田制裕作、鶴島暖歩、相澤亮太、村上力己、湯之前匡央、依田悠希、仲野隼斗、徳永崇人、高橋輝、中村琉聖、大橋斗唯、篠原佑吾、西村龍留、香取武、鄭志録、町田佳祐、磐井稜真、児平陽大、市川和弥、山本虎、宮本新、岡部タリクカナイ颯斗、手塚樹、瀬山航生、檜崎佑馬、藤原優希、東胡次郎、内藤天志

準決勝

日本体育大学 0 (前半0-1 後半0-2) 3 筑波大学

●2025年12月24日 14:00 ●カンセキスタジアムとちぎ ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]佐々木就將 [副審]関根翼/高浪遼太郎 [第4の審判員]諏訪文也 ●マッチコミッショナー:飛田晃典 ●観衆:492人

日本体育(監督:矢野晴之介):[GK](1)原田真透 [DF](5)小笠原広将(13)勝田大晴<-84'(11)赤井ウヰズリ-景太>(25)大村海心 [MF](2)井上斗嵩(4)田中暹稀(6)宮下直梧(22)近藤広琉 [FW](9)篠田大輝<-71'(33)松原海斗>(18)松山北斗<-47'(27)天野悠斗>(23)スタチオーリ ミケール

控え:(12)青山海(3)小林陸(14)大久保元泰(15)三輪陽斗(16)野村海翔(24)森龍ノ介

筑波(監督:小井土正亮):[GK](1)佐藤瑠星 [DF](2)池田春汰<-72'(5)鈴木遼>(4)小川遼也(18)池谷銀姿郎(25)布施克真 [MF](8)清水大翔<-70'(11)篠田翼>(10)山崎太新(14)徳永涼<-90+3'(29)山下景司>(23)大谷湊斗<-82'(7)小松悠太>(28)矢田龍之介<-72'(13)佐野健友> [FW](9)小林俊瑛

控え:(21)入江倫平(3)五嶋夏生(16)野田愛斗(17)安食優斗

得点 [筑波]10'清水大翔(0-1)、70'山崎太新(0-2)、90+1'小林俊瑛(0-3)

警告 [日本体育]90'スタチオーリ ミケール [筑波]89'布施克真

決勝

国士館大学 0 (前半0-0 後半0-3) 3 筑波大学

●2025年12月27日 12:00 ●栃木県グリーンスタジアム ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]岩本駿士 [副審]鈴木友也/高野壮太 [第4の審判員]岡本駿佑 ●マッチコミッショナー:植松孝博 ●観衆:5,256人

国士館(監督:前田隆司):[GK](1)渡辺勇樹 [DF](15)川原颯斗(18)沖村大也(24)工藤珠凜(27)臼井春翔 [MF](8)吉岡優希(17)篠崎遥斗<-83'(13)井野佑優>(28)村上竜規<-78'(19)小西脩斗> [FW](9)本間凜(10)高柳英二郎<-57'(29)皆川春輝>(11)須藤太一<-86'(5)橋本凜>

控え:(12)矢野晃(2)嶋村悠(7)後藤響(25)清水陽(26)百瀬健

筑波(監督:小井土正亮):[GK](1)佐藤瑠星 [DF](2)池田春汰<-59'(5)鈴木遼>(4)小川遼也(18)池谷銀姿郎(25)布施克真 [MF](8)清水大翔<-70'(11)篠田翼>(10)山崎太新(14)徳永涼(23)大谷湊斗<-89'(7)小松悠太>(28)矢田龍之介<-90+1'(13)佐野健友> [FW](9)小林俊瑛<-59'(29)山下景司>

控え:(21)入江倫平(3)五嶋夏生(17)安食優斗(27)古川千加良

得点 [筑波]69'大谷湊斗(0-1)、71'山下景司(0-2)、87'大谷湊斗(0-3)

警告 [国士館]33'村上竜規、51'須藤太一 [筑波]15'徳永涼、50'小林俊瑛

<明治大学> 監督:池上寿之

藤井陽登、稲垣篤志、小澤晴樹、小泉佳紘、川合陽、宇水聖凌、真鍋卓、高足龍、藤森颯太、島野怜、林晴己、泉原陸人、森田翔、三品直哉、大野海翔、芝田玲、小林亮太、龍谷空大、坂上輝、近野伸大、高橋楓、内山開翔、八巻涼真、石井陽、久保原心優、南稜大、伊達由次、田部健斗、松尾春希、濱崎知康、前澤拓城、柴田翔太郎、山端寧生

<東海大学> 監督:浅田忠亮

菊池悠斗、大戸太陽、田畑知起、桑子流空、丸山大和、中山竜之介、原田天、堤陽輝、小田咲平、星景虎、遠野翔一、鈴木将永、長木仁、渡邊翼、齋藤隼人、仲野文翔、玉田混喜、米谷社史、中尾悠吾、木村翔、寺島神太郎、田中玲音、佐藤裕、山崎勇誠、生駒匡恒、加藤大地、星慶次郎、谷川勇輝、文平千陽、西野心陽、桂田侑和、鶴巻俊輔、白田康太郎

<日本大学> 監督:川津博一

ドーリー大河、松本大地、アピッチ輝、山内恭輔、浅野良啓、植木颯、大久保帆人、関日向多、五木田季晋、田中慶汰、長谷川皓哉、沖野嘉統、齋藤航汰、石川晴大、野澤勇飛、阿部水帆、平尾勇人、牧田拓樹、白濱聡二郎、矢越幹都、小森春輝、陣田成琉、中川稔、平野颯汰、桑原晃大、村上樹、黒沢佑辰、小林健、國枝蒼空、岡本亜穂、中村駿太、吉田航太郎、竹村俊

<日本体育大学> 監督:矢野晴之介

原田真透、井上斗嵩、小林陸、田中暹稀、小笠原広将、宮下直梧、橋本マリーク識史、古澤希龍、篠田大輝、米陀大洋、赤井ウヰズリ-景太、青山海、勝田大晴、大久保元泰、三輪陽斗、野村海翔、中島魁、松山北斗、朝山大輝、三宅優翔、大淵咲人、近藤広琉、スタチオーリ ミケール、森龍ノ介、大村海心、弥染勇吾、天野悠斗、氏原幹太、柏木勇飛、遠藤秀恒、山下将真、倉尾都夢、松原海斗

<桐蔭横浜大学> 監督:安武亨

高橋一平、関富貴太、吾妻蒼太、高橋泰輝、飯島大地、永井大士、根本鼓太郎、池田柚生、梁俊虎、肥田野蓮治、櫻井勇斗、青木祐人、中島孝介、杉本英誉、船木大輔、ソフィア ウチエ プライアン世雄、岡崎寅太郎、佐藤雄、東界杜、久永瑠音、谷合善祇、木脇蓮苑、神保颯汰、藤野和樹、田島慎之佑、平川拓斗、井上隼汰、信澤孝亮、太田隼剛、田村陸人、原幸大、伊藤口ミオ、根岸優汰

<東海学園大学> 監督:安原成泰

笹崎翔矢、今村元紀、佐藤颯真、大磯竜輝、長谷比呂、八塚龍芽、香川太郎、上野潤太、久保周太郎、細井律、高木遥斗、大野啄未、大塚一希、守屋湧磨、井上詠登、吉田翔、中地壠人、宮之原翔、長谷部希星、諸木愛大、野村仁人、吉良元希、十河拓平、戸部栄史郎、手塚祐汰、伊藤健太郎、小笹凜、土屋桃夏、鶴澤渥、鈴木優也、山副生朱、倉畑鉄将、大島悠翔

<常葉大学> 監督:古橋達弥

宮澤樹、深澤空、黒田崇文、河田波大、野口楓太、太田成美、小西瑞樹、前田峻郎、奏心太郎、清水和馬、大内陽稀、阿部秀哉、木村優空、野間風希、松井胡太郎、後藤礼智、松岡空、前島新汰、猪谷悠太、向川典伽、田代湧二、中島楓太、梅木翔斗、吉田拓夢、高原瑛斗、原田十和、田代寛人、土橋陽、坂本陽斗、植田陸、杉田陽、竹田優星、西村竜輝

<中京大学> 監督:吉井直人

東下茅広、岩本悠庵、原田渉夢、出水志輝、田上涼太、荒井貴太、屋嘉比奏汰、那須健一、中嶋晃成、武藤寛、光本和馬、古瀬夢叶、小林嘉人、鬼木健太、小田村優希、増崎康清、田村聡佑、伊藤大和、西村海希、井上陽太、元木湊大、那須琳斗、西森悠斗、森田尚人、内丸寛太、中村将梧、篠田星風、小浦京之助、西森脩斗、黒田開生、宮本凌成、柿本優空、高木和

<関西学院大学> 監督:早崎義晃

宮本流維、山本楓大、野中陸、古田東也、西谷京祐、先田颯成、篠原駿太、三宅凌太郎、古田和之介、小西春輝、木場拓実、馬場悠平、村井清大、田井力渡、長滝谷洗斗、酒井裕維、金山耀太、棟近規規、内田康介、稲川暖大、成田三太郎、森本真幸、杉原優希、武田純都、鈴木慎之介、岩本悠也、山本吟侍、米田和真、前北直哉、横山志道、増田樹、古川大地、岡未來

<阪南大学> 監督:朴成基

高畑優太、後藤然、吉村駿輝、金子光汰、坂本直太郎、川端元、松井匠、工藤紫苑、松本楓悟、金本毅騎、大荒陽平、高月昂希、角田颯風、櫻井文陽、佐々木裕貴、田中晃誠、山田晃市、坪井風汰、村田一翔、中田有祐、須田遥斗、福島真斗、篠田純之助、伊藤洵太、高下麻実、阿部紘斗、松岡修大、松井空音、秋末翔也、リトビン、軒沢旭飛、妹尾俊兵、山崎遥人

<甲南大学> 監督:竹口清一

山田克樹、坂口叶夢、赤熊大和、有吉勇人、片山敬介、今富輝也、森勇聖、岡本大生、大西悠斗、泉彩稀、初田然、藤原登生、伊藤次郎、西村日陽、今森光有雅、舟見圭志郎、與田拓海、諏訪晃大、田中咲陽、濱田蒼太、足立優、泉光太郎、峰沢悠月、宮原貴太、野崎亮太、中原啓佑、宮崎陽、石大和、椎山寛大、歌野裕大、稲田慈之、藤井颯天、木村俊太

<京都産業大学> 監督:吉川拓也

徳若碧部、如田大輝、滝口晴斗、小野成夢、遠村健斗、田代純、皿立立輝、末谷誓梧、妹尾颯斗、伊藤翼、小瀨弘貴、中原碧琉、山村朔冬、長谷川染泰、沖野真之介、新田羽海、福永裕也、原田輝、福島健太、黒木一心、脇谷静香、北村雄河、大倉慎平、西川宙希、湯山大輔、高川諒希、森田皇翔、吉井泰生、太仁紫音、金鍾真、北村風月

<桃山学院大学> 監督:田村直弘

森脇勇人、國岡俊哉、田村遊吏、土井結介、井上秀悟、厚地陽賢、藤鉄航生、石橋聖也、藤枝康佑、李隆志、村上愛和、野津照太郎、田尻匠平、加藤緒、多賀滉人、田中裕翔、原田幹太、辻楓人、長谷川航世、野口響稀、首藤光翼、ユン ジョンミン、田村郁颯、大平青空、竹村龍太郎、平田大也、廣重壮真、郭原夏輝、藤本羅生、ユン ソンミン、齊藤丈流、足立琥来

<大阪体育大学> 監督:松尾元太

長野大河、高橋大空、辻耕大、池戸柊宇、西口大稀、山本修也、佐野竜真、野口楓真、上岡士恩、中津悠哉、佐藤陽成、野村寛礼、廣野大河、佐藤宏輝、竹川奏、三原拓也、三島拓人、西山隼矢、赤崎陵治郎、高萩優太、草野大地、豊田将大、島龍之介、今村彪悟、三島典征、山田一景、門田翔平、矢田幸紀斗、白田成那、山元敦琥、有竹翔吾、渡部颯斗、七星優斗

<IPU:環太平洋大学> 監督:桂秀樹

黒瀬朋希、山脇巧、櫻田琉、横山修也、北奥蓮、五十嵐蒼実、松岡響祈、児島亜流、若尾以心、田口涼太、李珍榮、堀之内隆正、久保公斗、入柿堅志、柴田匡、島田承馬、田代聡太、津川侑和、後藤雄平、尾崎輝、谷河樹、島袋滉大、藤川琉偉、山内創太、溝口飛和、森本匠、下西瑛太、笠原颯太、藤井永遠、中村成那、細川柊飛、田中純、右田魁聖

<広島経済大学> 監督:服部公太

屋敷拓海、野田朔大、児玉要、野島悠矢、松本大鷹、森川瑠空、光永大晟、河野陽斗、正岡恭平、浅野颯真、塚崎温大、岡本琉士、岸田紘季、松原原榮、高橋星那、橋本亮太、柳楽圭司、坂井洋樹、唐内涼、那須優稀斗、池田伊織、今村真仁、出原琉羽、向井秀斗、栗栖伊吹、高橋豊河、今岡煌星、目次康晟、成田創、森虹太郎、福田晃生、小川侑真

<高松大学> 監督:吉田明博

栗原拓也、赤星裕大、下江玄徳、辻岡招真、高見優成、松原亨輔、三好憂、田中友貴、岩本拓也、矢野瑛吉、多田侑磨、安部琥太郎、渡邊幸大、荒木大翔、久徳庵道、大西勇磨、奏隆斗、宇田健大、清水斗和、後藤大希、佐藤幸聖、安富匡祐、高橋翼、高島光、北村空、六車史音、松下新太、小松相太、小西珀、高野雷盛、高嶋瑛大、大倉浩睦、佐々木比呂

<福岡大学> 監督:児玉進二

吉本空雅、坂本翼、和田理央、坂井悠飛、岩本剛氣、竹田天馬、芳野凱斗、藤岡遥来、中山桂吾、合戸晴矢、岡留零樹、難波大和、稲田翼、山田蒼、風呂迫惠人、森榎舞、西村活輝、兼松将、潮山陽生、吉住気香、山田陽介、田中佑磨、白濱光人、日谷陵真、森部純、金城蓮央、高本幹大、杉本悠弥、吉田翔亮、福岡想太郎、高畑晴生、北健志郎、和田哉輝

<九州産業大学> 監督:高鷹雅也

齊藤謙二郎、岩崎海寛、平田龍治、伊藤励雅、加藤藤、船越将磨、岩永創太、森寧樹、緒方孝起、中山大耀、平古智也、荒井海聖、藤吉春翔、田中想楽、曾我寛人、田中遥一郎、田上康太郎、坂田榎、菊地幹太、姫野青空、藤井海人、青柳仰、福留綾人、佐伯駿介、田頭篤弥、高橋伊吹、平川日向、前田朔太郎、井手隼、小林永和、齊藤雄介、五十嵐洋来、亀井智次

<鹿屋体育大学> 監督:塩川勝行

小池朝陽、戸田峻平、島貴琢士、山下凜太郎、長尾ジョシュア典典、畠中健心、崎野隼人、宮川央佑、片山颯人、石崎祥摩、宇都宮翔菜太、重松陽、有馬康汰、吉川敬進、笠置潤、鈴木悠仁、行友祐翔、野村祐輝、田村勇人、黒木涼我、安藤則斗、松井悠集、江頭瀬南、松下永遠、大場章太郎

高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ2025
JFAが主催する本大会は、JFAに第2種登録した加盟チームもしくは準加盟チームに出場資格が与えられ、計24チームが出場。EAST・WESTに分かれてホーム&アウェイのリーグ方式で、4月5日～12月14日に全国各地で開催された。

■EAST 戦績表 ※試合レポートは85ページに掲載

Table with columns: 順位, チーム名, 鹿島, 前橋育, FC東京, 青森山, 流経柏, 川崎F, 横浜FC, 東京V, 柏, 昌平, 浦和, 市船橋, 勝点, 勝, 分, 負, 得点, 失点, 差. Rows include teams like 鹿島アントラーズユース, 前橋育英高校, FC東京U-18, etc.

H:ホーム、A:アウェイ / ○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

データボックス

WEST 戦績表

順位	チーム名	V神戸	鳥栖	広島	G大阪	神戸学	名古屋	大津	福岡	帝長岡	岡山	静岡学	東福岡	勝点	勝	分	負	得点	失点	差	
1	ヴィッセル神戸U-18	H	2 0 1	2 0 1	2 0 1	1 Δ 1	6 0 1	1 0 0	4 0 1	3 0 0	4 0 0	0 0 1	6 0 0	46	15	1	6	51	30	21	
		A	3 0 2	1 0 2	1 0 2	0 0 4	6 0 4	1 0 0	2 0 1	1 0 4	3 0 2	1 0 0	1 0 2								
2	サガン鳥栖U-18	H	2 0 3	3 0 2	2 0 0	0 0 5	1 0 3	1 0 0	2 0 0	7 0 0	4 0 0	3 0 0	1 Δ 1	41	13	2	7	46	31	15	
		A	1 0 2	1 0 2	2 0 1	2 0 3	3 0 2	2 0 1	1 0 2	3 0 1	1 0 0	2 Δ 2	2 0 1								
3	サンフレッチェ広島F.Cユース	H	2 0 1	2 0 1	2 0 1	1 0 2	3 0 1	3 0 1	1 0 0	5 0 2	3 0 1	3 0 1	1 Δ 1	1 0 0	40	12	4	6	40	31	9
		A	1 0 2	2 0 3	0 0 3	4 0 3	2 0 1	2 0 1	2 Δ 2	0 0 1	0 0 2	1 Δ 1	1 Δ 1								
4	ガンバ大阪ユース	H	2 0 1	1 0 2	3 0 0	4 0 0	3 0 0	1 0 2	3 0 0	5 0 2	1 Δ 1	3 0 0	0 Δ 0	39	12	3	7	40	22	18	
		A	1 0 2	0 0 2	2 0 1	0 0 1	0 0 1	1 0 3	1 0 0	2 0 1	2 0 1	3 0 0	2 Δ 2								
5	神戸学園高等部	H	4 0 0	3 0 2	3 0 4	1 0 0	0 0 1	1 0 2	2 0 1	3 0 1	7 0 0	0 0 2	0 Δ 0	38	12	2	8	49	29	20	
		A	1 Δ 1	5 0 0	1 0 3	0 0 4	4 0 2	3 0 0	0 0 4	0 0 1	4 0 1	1 0 0	6 0 0								
6	名古屋グランパスU-18	H	4 0 6	2 0 3	1 0 2	1 0 0	2 0 4	2 Δ 2	0 0 3	3 0 1	2 0 0	3 Δ 3	3 0 2	33	10	3	9	45	48	-3	
		A	1 0 6	3 0 1	1 0 3	0 0 3	1 0 0	3 0 1	2 0 1	1 0 3	4 0 2	4 0 0	2 Δ 2								
7	大津高校	H	0 0 1	1 0 2	1 0 2	3 0 1	0 0 3	1 0 3	3 Δ 3	1 0 2	3 0 1	0 0 3	1 0 0	30	9	3	10	32	30	2	
		A	0 0 1	0 0 1	0 0 1	2 0 1	2 0 1	2 Δ 2	2 0 0	2 0 1	2 0 0	1 Δ 1	5 0 0								
8	アビスパ福岡U-18	H	1 0 2	2 0 1	2 Δ 2	0 0 1	4 0 0	1 0 2	0 0 2	2 0 0	2 0 0	0 0 1	2 0 1	0 0 1	26	8	2	12	31	37	-6
		A	1 0 4	0 0 2	2 0 5	0 0 3	1 0 2	3 0 0	3 Δ 3	2 0 1	2 0 1	2 0 1	1 0 2								
9	帝京長岡高校	H	4 0 1	1 0 3	1 0 0	1 0 2	1 0 0	3 0 1	1 0 2	1 0 2	0 Δ 0	2 Δ 2	3 0 2	26	8	2	12	30	47	-17	
		A	0 0 3	0 0 7	1 0 3	2 0 5	1 0 3	1 0 3	2 0 1	0 0 2	1 0 4	2 0 1	2 0 0								
10	ファジアーノ岡山U-18	H	2 0 3	0 0 1	2 0 0	1 0 2	1 0 4	2 0 4	0 0 2	1 0 2	4 0 1	4 0 1	3 0 0	20	6	2	14	29	50	-21	
		A	0 0 4	0 0 4	1 0 3	1 Δ 1	0 0 7	0 0 2	1 0 3	1 0 0	0 Δ 0	3 0 5	2 0 1								
11	静岡学園高校	H	0 0 1	2 Δ 2	1 Δ 1	0 0 3	0 0 1	0 0 4	1 Δ 1	1 0 2	1 0 2	5 0 3	1 Δ 1	19	4	7	11	28	42	-14	
		A	1 0 0	0 0 3	1 Δ 1	0 0 3	2 0 0	3 Δ 3	3 0 0	1 0 2	2 Δ 2	1 0 4	2 0 3								
12	東福岡高校	H	2 0 1	1 0 2	1 Δ 1	2 Δ 2	0 0 6	2 Δ 2	0 0 5	2 0 1	0 0 2	1 0 2	3 0 2	19	4	7	11	21	45	-24	
		A	0 0 6	1 Δ 1	0 0 1	0 Δ 0	0 Δ 0	2 0 3	0 0 1	1 0 0	2 0 3	0 0 3	1 Δ 1								

H:ホーム, A:アウェイ/O:勝ち(勝ち点3), Δ:引き分け(勝ち点1), ●:負け(勝ち点0)

高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ2025 ファイナル

JFAが主催する本大会は、「高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ2025」(上記参照)のEAST優勝チームならびにWEST優勝チームの2チームによる1マッchetーナメント方式で行われる。今大会は12月21日、埼玉県の埼玉スタジアム2002で開催された。

※試合レポートは85ページに掲載

鹿島アントラーズユース 1 (前半1-0 後半0-1) 1 ヴィッセル神戸U-18 PK3-2

●2025年12月21日 13:30 ●埼玉スタジアム2002 ●試合時間:90分、延長20分、PK ●審判員:[主審]小林拓矢 [副審]宇田川恭弘/大藤翔平 [第4の審判員]北沢倫彦 ●マッチコミッショナー:布瀬直次 ●観衆:4,854人

鹿島(監督:中野洋司):[GK](21)大下幸誠 [DF](2)朝比奈叶和(3)元砂晏翔仁ウデンバ(4)大川佑梧 [MF](6)大貫琉偉(10)平島大悟<-84'(55)土井空芽>(14)中川天蒼<-73'(11)長疾風>(26)岩土そら(27)福岡勇和 [FW](15)高木輝人(40)吉田湊海

控え:(29)黒澤奨永(8)佐藤湧斗(9)正木裕翔(22)倉橋幸輝(25)林勘太(33)物井慈元(44)滝澤周生

神戸(監督:安部雄大):[GK](12)胡云皓 [DF](2)西川亜都(3)寺岡佑真(4)原蒼汰(24)西岡廉佑<-110'(14)片山航汰> [MF](6)藤本陸玖(8)瀬口大翔(10)濱崎健斗(16)上野颯太<-90+2'(35)井内亮太郎> [FW](11)大西湊太<-60'(9)渡辺準斗>(13)森分圭吾<-HT(15)川端彪英>

控え:(1)亀田大河(7)里見汰福(17)西村水岐(20)高嶋蒼和(32)西田翔

得点 [鹿島]37'平島大悟(1-0) [神戸]57'原蒼汰(1-1)

警告 [鹿島]55'大川佑梧、99'高木輝人 [神戸]94'川端彪英、97'寺岡佑真、102'原蒼汰

PK [鹿島]先(40)O(6)O(3)X(4)X(27)O [神戸](8)O(10)X(6)O(9)X(14)X

【参加選手】

<鹿島アントラーズユース> 監督:中野洋司

菊田修斗、大下幸誠、黒澤奨永、新垣祥大、三崎斗馬、朝比奈叶和、元砂晏翔仁ウデンバ、大川佑梧、大貫琉偉、近藤大祐、倉橋幸輝、林勘太、熊澤結人、大貫琉偉、佐藤湧斗、平島大悟、中川天蒼、三浦直人、上野瑛汰、岩土そら、福岡勇和、曾ヶ端輝、三好凌月、高木春翔、物井慈元、布袋田結太、正木裕翔、長疾風、高木輝人、吉田湊海、滝澤周生、石渡智也、土井空芽

<ヴィッセル神戸U-18> 監督:安部雄大

亀田大河、胡云皓、吉川裕汰、木全皓志郎、西川亜都、寺岡佑真、原蒼汰、武石大空、西村水岐、高嶋蒼和、西岡廉佑、上本佳生、山下翔吾、藤本陸玖、里見汰福、瀬口大翔、濱崎健斗、片山航汰、上野颯太、井ノ本歩夢、井内亮太郎、菊池謙剛、渡辺準斗、大西湊太、森分圭吾、川端彪英、土井立、前田凱吏、西田翔、木室幸心

高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ2025 プレーオフ

JFAが主催する本大会は、高円宮杯 JFA U-18 サッカープリンスリーグ2025の9地域(北海道、東北、関東、北信越、東海、関西、中国、四国、九州)成績上位の16チーム(プレミアリーグ所属チームのセカンドチームは含まない)が参加して、12月12日および14日、広島県で開催。来年度の高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグに参入する4チームを決定した。

※85ページに関連記事あり

■Aブロック

帝京高校(関東1/東京)	2	2	1	4	尚志高校(東北1/福島)
東山高校(関西2/京都)	3	0	0	0	岡山学芸館高校(中国2/岡山)

■Bブロック

日章学園高校(九州1/宮崎)	0	1	5	3	札幌大谷高校(北海道)
RB大宮アルディージャU18(関東3/埼玉)	1	1	4	4	ジュビロ磐田U-18(東海2/静岡)

■Cブロック

清水エスパルスユース(東海1/静岡)	0	1	2	0	阪南大学高校(関西1/大阪)
愛媛FC U-18(四国/愛媛)	PK1-3	0	1	1	ベガルタ仙台ユース(東北2/宮城)

■Dブロック

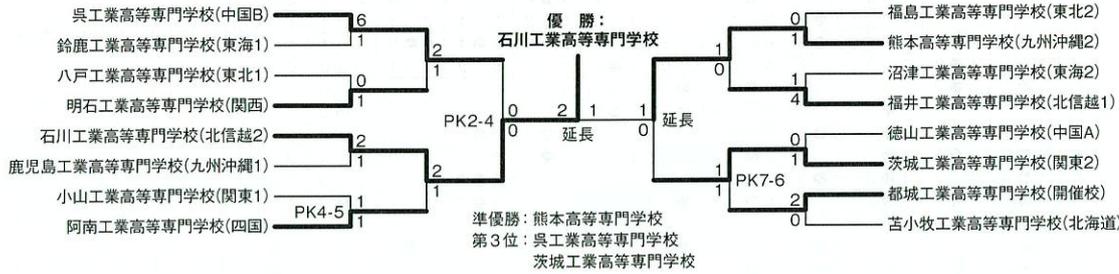
米子北高校(中国1/鳥取)	2	2	1	1	アルビレックス新潟U-18(北信越/新潟)
鹿児島城西高校(九州2/鹿児島)	0	延長	0	0	桐生第一高校(関東2/群馬)

⇒※東山高校、ジュビロ磐田U-18、ベガルタ仙台ユース、米子北高校は、「高円宮杯 JFA U-18 サッカープレミアリーグ2026」に参入。

第60回全国高等専門学校体育大会サッカー競技 兼 第58回全国高等専門学校サッカー選手権大会

一般社団法人全国高等専門学校体育協会とJFAが主催している本大会は、JFAに登録(第1種)し、全国高等専門学校サッカー連盟に加盟している高等専門学校のチームであり、その団体の一員として個人登録された学生に参加資格が与えられた。今大会は12月20日~24日、9地域の16チームが参加して宮崎県で開催された。

※ 88 ページに関連記事あり



準決勝

呉工業高等専門学校 0 (前半0-0 後半0-0) 0 石川工業高等専門学校
PK2-4

●2025年12月23日 10:17 ●KUROKIRI STADIUM 宮崎県山之口陸上競技場 ●試合時間:80分、延長20分、PK ●審判員:[主審]南園憲周 [副審]田口拓/黒木陽 [第4の審判員]後藤朋巳 ●観衆:100人

呉(監督:丸山啓史):[GK](1)大嶋廣紀 [DF](3)山下晃弥(4)下間太葵(5)寺岡竜生(18)原大智 [MF](7)小迫祥大(8)中岡崇人(10)十河快(16)高島司<->57'(15)小泉来斗> [FW](9)平岡耕我(11)園田涼介

控え:(12)集田洋志輝(2)中村仁哉(6)岡島諒典(13)中浦太智(14)中村海都(17)安井彰(19)為岡侑希(20)芝橋海音

石川(監督:松本剛史):[GK](1)畀田晃 [DF](4)大割悠也(6)谷悠斗(17)樋詰海翔<->52'(2)高戸連>(20)山崎颯稀 [MF](5)佐野慎哉<->延前前(2)高戸連>(7)荒磯柊也(8)上杉郁仁(13)出村陽向<->HT(18)敷田松司> [FW](10)津田涼成<->延前前(9)森田虎太郎>(14)喜多慧

控え:(12)井高蒼大(11)森春喜(15)山本颯真(16)中西建統(19)白江厚登

PK [呉](7)×(9)×(5)○(11)○ [石川](14)○(8)○(6)○(7)○

準決勝

熊本高等専門学校 1 (前半0-0 後半0-0) 0 茨城工業高等専門学校

●2025年12月23日 10:00 ●AKAKIRI FIELD 山之口運動公園陸上競技場 ●試合時間:80分、延長20分 ●審判員:[主審]吉田純平 [副審]甲斐理晋/長友聖史 [第4の審判員]福重安弘 ●観衆:50人

熊本(監督:堀本博):[GK](1)萬谷正義 [DF](2)熊谷龍義(3)飯塚大芽(6)塚崇真<->73'(4)坂田明優>(19)倉橋瑛太 [MF](7)佐藤杏祐(8)大山翔生<->52'(15)宮崎楓太>(10)前村謙介(11)植里伊織<->67'(12)畠山楓<->100+1'(16)萩原一晴>(13)竹元駿<->73'(14)田部雄輝> [FW](9)山口颯人

控え:(5)藤木翔太(17)東山大起(18)永野翔雅(20)水上康乃介

茨城(監督:関口直俊):[GK](17)石場健悟 [DF](2)小野瀬詩(3)菊池遥希(4)寺山晃弘(5)堀豪(18)田口歩武<->延前前(20)川口駿> [MF](6)武沢幸英(7)持丸朋貴(8)田所尚真(10)王前湊 [FW](19)小澤仁

控え:(1)安莉空(9)伊藤賢(12)湯浅伶王(13)竹中煌人(14)松本陽(15)陶伸大朗(16)梅澤由弥

得点 [熊本]83' 宮崎楓太(1-0)

警告 [茨城]62' 菊池遥希、79' 王前湊

【参加選手】

<苫小牧工業高等専門学校> 監督:長尾昌紀

小幡歩武、古賀優愛、井伊澤、森侑大、伊東風汰、稲井悠太、平田柁人、鈴木優志、和知悠人、橋本奏汰、後藤遼樹、住岡豪、吉田圭梧、曾我部拓摩、川村龍羽、山崎凜凜、折目悠、安藤佑太郎、上野稜真、竹谷智敬

<八戸工業高等専門学校> 監督:李善太

秋元哲太、松尾優輝、橋薫、小笠原公也、森田脩斗、相坂壬斗、ダムディンドルジェ・シーラブジャムツ、竹内心紋、橋良幸、沢野永真、工藤理彦、吉本陽葵、田中隼太郎、山田朝陽、吉崎航平、相坂斗蒼、泉山蒼太郎、櫻田菜大、種千秋悟、森崇真

<福島工業高等専門学校> 監督:大山俊之

飯尾暖、橋本昂晴、根本大雅、志賀和翔、西岡祥太、池田啓人、金子倫教、齊藤佑樹、丹野隼希、木村圭史、茂木彪翔、大平晟那、根本涼、小林怜央、三浦悠人、高木英孝、穂積拓和、川又寛生、加藤楓翔、山田壮真

<小山工業高等専門学校> 監督:上野哲

春名陽智、下村樹生、柿沼大介、馬上大輝、遠藤琥太郎、海老澤英英、岩崎俊典、濱野碧海、山崎佑史朗、柿沼波瑠、宮山佳那太、北出圭汰、菊地想生、宮山眞太、青木将真、渋谷亮太郎、猿渡健多、川俣海翔、熊倉海叶、秋澤龍之介

<茨城工業高等専門学校> 監督:関口直俊

安莉空、小野瀬詩、菊池遥希、寺山晃弘、堀豪、武沢幸英、持丸朋貴、田所尚真、伊藤賢、王前湊、竹垣景祐、湯浅伶王、竹中煌人、松本陽、陶伸大朗、梅澤由弥、石場健悟、田口歩武、小澤仁、川口駿

<福井工業高等専門学校> 監督:佐々和洋

井美颯大、河合晴斗、山口羽琉、大味修也、山田脩人、川越璃々夢、津田優志、吉崎央修、菅原颯汰、川上大智、前田隼男、田川陽大、高島佑誠、上嶋慶史、名倉壮太、佐々木颯真、池内咲飛、高木一磨、中橋泰星、齋藤優成

<石川工業高等専門学校> 監督:松本剛史

畀田晃、高戸連、九世竜成、大割悠也、佐野慎哉、谷悠斗、荒磯柊也、上杉郁仁、森田虎太郎、津田涼成、森春喜、井高蒼大、出村陽向、喜多慧、山本颯真、中西建統、樋詰海翔、敷田松司、白江厚登、山崎颯稀

<鈴鹿工業高等専門学校> 監督:民秋実

山中晏琉、下井聖、高瀬悠矢、河北煌煌、稲見大和、伊藤楓、別府愛斗、岡田太一、石田葉旺、山岡久辰、山田泰史、佐々木寛太、進士志星、水越駿、三村凱夢、池山十希弥、桑内将太郎、中川寛之、加納蓮史、萩野智生

決勝

石川工業高等専門学校 2 (前半0-0 後半1-1) 1 熊本高等専門学校

●2025年12月24日 10:00 ●KUROKIRI STADIUM 宮崎県山之口陸上競技場 ●試合時間:80分、延長20分 ●審判員:[主審]中井恒 [副審]藤本真樹/長友紳豊 [第4の審判員]甲斐理晋 ●観衆:300人

石川(監督:松本剛史):[GK](1)畀田晃 [DF](2)高戸連(4)大割悠也(6)谷悠斗<->89'(9)森田虎太郎>(20)山崎颯稀 [MF](5)佐野慎哉<->71'(3)九世竜成>(8)上杉郁仁(13)出村陽向<->36'(7)荒磯柊也> [FW](10)津田涼成(14)喜多慧(18)敷田松司<->84'(17)樋詰海翔>

控え:(12)井高蒼大(11)森春喜(15)山本颯真(16)中西建統(19)白江厚登

熊本(監督:堀本博):[GK](1)萬谷正義 [DF](2)熊谷龍義(3)飯塚大芽(6)塚崇真<->62'(4)坂田明優>(19)倉橋瑛太 [MF](7)佐藤杏祐(8)大山翔生(10)前村謙介<->62'(20)水上康乃介>(11)植里伊織<->32'(15)宮崎楓太>(13)竹元駿<->68'(14)田部雄輝> [FW](9)山口颯人

控え:(5)藤木翔太(12)畠山楓(16)萩原一晴(17)東山大起(18)永野翔雅

得点 [石川]54' 敷田松司(1-0)、100' 樋詰海翔(2-1) [熊本]82' 坂田明優(1-1)

警告 [熊本]59' 熊谷龍義

<沼津工業高等専門学校> 監督:天田剛史

久松和央、岩月亮篤、斎藤眞生、八田侑晟、権代祐輔、中田史樹、今村鴻之介、吉永廣景、鈴木琥史、今井龍太郎、濱井一慧、高原晴、小沼優呂、尾崎泰河、剣持航成、笠井浩翔、佐藤大心郎、田中琉斗、木村春喜、町拓磨

<明石工業高等専門学校> 監督:加藤隆弘

中山惠輔、野中誠斗、山田陸久、才木琢馬、石原聖椰、川窪大輝、崎野晃牙、三木澄人、萩原成太、ハーシューマン海翔、浜村恭尚、芦刈勇太、福田瑛翔、中山純心、長谷川裕佑、藤原円造、曾我風太、富田康士郎、椎名悠平、那波佳亮

<徳山工業高等専門学校> 監督:高橋祥吾

中村友亮、山本泰輝、伊藤聖真、松本諒大、井上望牙、清水葉平、福本陽崇、山本直人、喜舎場康太、田村誠多、小林大介、鳥本朔那、内山太貴、寺尾拓人、作野太樹、下村悠太、河村伊純、井澤潤久、河内山純斗、土居虎之介

<呉工業高等専門学校> 監督:丸山啓史

大嶋廣紀、中村仁哉、山下晃弥、下間太葵、寺岡竜生、岡島諒典、小迫祥大、中岡崇人、平岡耕我、十河快、園田涼介、集田洋志輝、中浦太智、中村海都、小泉来斗、高島司、安井彰、原大智、為岡侑希、芝橋海音

データボックス

<阿南工業高等専門学校> 監督:川畑成之

坂本将都、木下健心、西條一慶、鈴木煌大、向諒吾、金子大悟、榎谷璃久、中島煌蓮、矢野淳也、安部航太郎、前田哲夫、富永詢介、近藤桜介、藤倉一輝、八子陽太、濱崎暖也、南翔太、尾山凌斗、木村優斗、鎌田伊織

<鹿児島工業高等専門学校> 監督:北園裕一

久保蓮弘、伊藤翼、山下琳太郎、吉田雄剛、丸山隼翔、塩川春、脇智広、原永亮瑛、原田麗矢、東泊蔵人、松本心、佐藤謙介、斎藤風希、柴田夏希空、寺園武蔵、丸山黎恩、新山蓮音、山元陵平、岩下慶士、美川智紀

<熊本高等専門学校> 監督:堀本博

萬谷正義、熊谷龍義、飯塚大芽、坂田明優、藤本翔太、塙崇真、佐藤希祐、大山翔生、山口颯人、前村謙介、植里伊織、島山楓、竹元駿、田部雄輝、宮崎楓太、萩原一晴、東山大起、永野翔雅、倉橋瑛太、水上康乃介

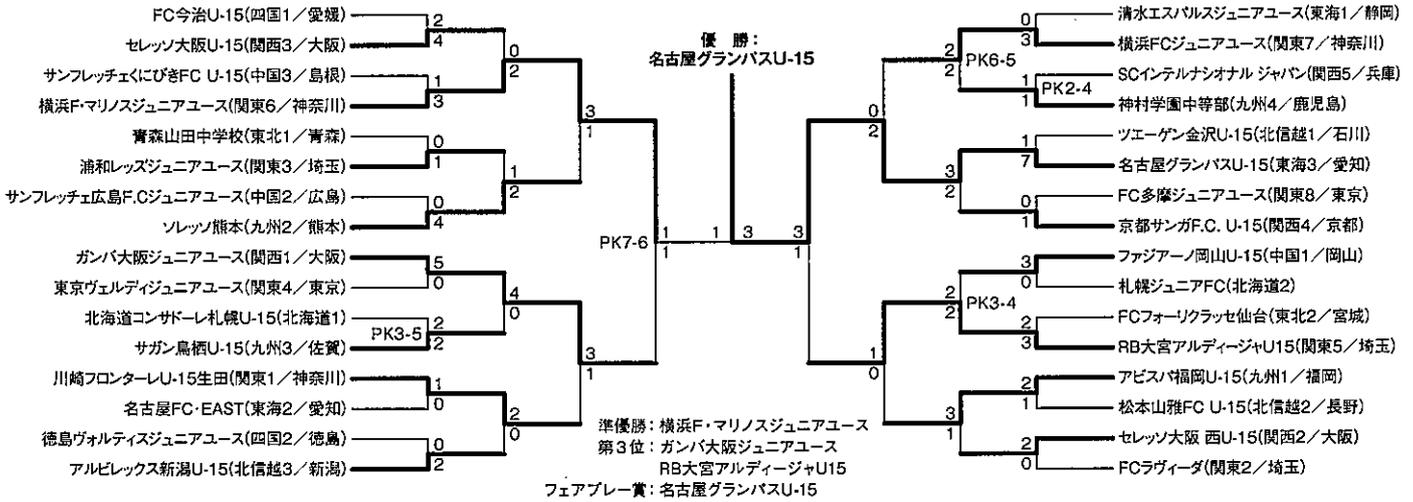
<都城工業高等専門学校> 監督:瀬川裕二

杉田康士郎、鮫島倅汰、柄本悠吾、大園想、杉村風太郎、西脇颯汰、佐伯悠雅、徳重悠斗、中村達人、安樂旺恰、東郷青空、日高和、津島優也、江藤鉄平、上園優己、前田聖空、石脇圭吾、永井啓新、山下瑛暉、大塚翔馬

高円宮杯 JFA 第37回全日本 U-15サッカー選手権大会

JFAが主催する本大会は、JFAに第3種または女子登録した加盟チームもしくは準加盟チーム、および都道府県大会プレーオフ・地域大会プレーオフを通して他のチームで参加していない選手に出場資格が与えられた。今大会は、12月13日～27日に愛媛県・大阪府・山口県・東京都で開催された。

※試合レポートは89ページに掲載



準決勝

横浜F・マリノスジュニアユース 1 (前半0-1 後半1-0) 1 名古屋グランパスU-15
PK7-6

●2025年12月25日 11:00 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:80分、PK ●審判員: [主審] 眞尾龍 [副審] 柳田翔/白倉勝寿 [第4の審判員] 荒井碧 ●マッチコミッショナー: 漆間信吾 ●観衆: 487人

横浜FM (監督:梅津博徳): [GK] (1) 井上勇翔 [DF] (3) 関一成 (6) 瀬戸山玲音 [MF] (7) 井上玲央<-74' (11) 田中大雅> (8) 武田隼一 (13) 松井皓 (28) 三國準之助<-79' (5) 金沢利京> (34) 佐野翼 [FW] (10) 藤澤斗斗 (18) 山田凌斗<-79' (14) 木下樹> (19) 鈴木遼<-66' (9) 松尾健吾>

控え: (21) 金子隼人 (2) 長倉結人 (15) 村瀬勲 (17) 田上慶一郎 (22) 板東仁

G大阪 (監督:児玉新): [GK] (1) 小畑颯亮 [DF] (2) 西山瑛翔 (4) 竹原玲音 (5) 樋口健志 (19) 松下裕紀 [MF] (6) 藤井英翔 (7) 助川峻英 (8) 並井直樹 (9) 砂田暁一登 [FW] (10) 加賀野統 (14) 藤堂優心

控え: (16) 福田怜皇 (12) 安東瑛大 (13) 青山輝 (15) 金子卓豊 (17) 朝尾桜介 (18) 佐野央成 (22) 中本旬 (23) 吉川瑠 (24) 西出迅

得点 [横浜FM] 46' 鈴木遼 (1-1) [G大阪] 29' 砂田暁一登 (0-1)

警告 [横浜FM] 67' 松尾健吾

PK [横浜FM] 先 (8) ○ (10) ○ (6) ○ (7) ○ (5) ○ (2) ○ (9) × [G大阪] (10) ○ (6) ○ (11) ○ (13) ○ (8) ○ (3) ○ (14) ○

準決勝

名古屋グランパスU-15 3 (前半1-0 後半2-1) 1 RB大宮アルディージャU-15

●2025年12月25日 13:30 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:80分 ●審判員: [主審] 佐藤浩太 [副審] 橋本真光/三塚大貴 [第4の審判員] 渡邊温太 ●マッチコミッショナー: 横田智雄 ●観衆: 503人

名古屋 (監督:小山優): [GK] (1) 利田夏惟 [DF] (10) 竹内悠三 (13) 谷本来侍 (17) 稲浪颯士朗 [MF] (5) 田邊幹大 (6) 中嶋晃誠 (7) 深谷朔共 (8) 野村卓史 (18) 宮永尚空<-59' (9) 末永光基<-80' (32) 福田隼太> [FW] (11) 中根佳祐 (14) 塚本飛翔

控え: (16) 水谷来夢 (2) 伊藤隼翔 (4) 滝川林太郎 (12) 川村壇平 (15) 右田実生 (30) 戸田凌愛 (36) 渡邊涼季

大宮 (監督:中谷優介): [GK] (1) 新村和史 [DF] (5) 松下遥哉 (19) 佐藤希春 (52) 高橋征矢 [MF] (4) 清野然太 (7) 土谷光<-65' (17) 猪瀬るい> (10) 迫田凌和<-77' (8) 岡本翔太郎> (11) 狩野尚飛<-65' (18) 山田陽斗> (14) 藤田凌介 (40) 安井康真 [FW] (49) 龜山陽士<-77' (39) 加藤亜輝>

控え: (16) 藤森陸真 (3) 木村秀心 (6) 宮内琥太郎 (13) 池野航志郎 (15) 奥村颯斗

得点 [名古屋] 39' 塚本飛翔 (1-0)、46' 深谷朔共 (2-0)、80+4' 中根佳祐 (3-1) [大宮] 53' 安井康真 (2-1)

警告 [大宮] 80+2' 松下遥哉

決勝

横浜F・マリノスジュニアユース 1 (前半0-1 後半1-2) 3 名古屋グランパスU-15

●2025年12月27日 14:01 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:80分 ●審判員: [主審] 北沢倫章 [副審] 谷松樹/勝部健 [第4の審判員] 本多文哉 ●マッチコミッショナー: 大倉健史 ●観衆: 1,196人

横浜FM (監督:梅津博徳): [GK] (1) 井上勇翔 [DF] (3) 関一成 (6) 瀬戸山玲音 [MF] (7) 井上玲央<-59' (9) 松尾健吾> (8) 武田隼一 (13) 松井皓 (28) 三國準之助<-59' (5) 金沢利京> (34) 佐野翼 [FW] (10) 藤澤斗斗 (18) 山田凌斗<-70' (22) 板東仁> (19) 鈴木遼<-70' (11) 田中大雅>

控え: (21) 金子隼人 (2) 長倉結人 (14) 木下樹 (15) 村瀬勲 (17) 田上慶一郎

名古屋 (監督:小山優): [GK] (1) 利田夏惟 [DF] (10) 竹内悠三 (17) 稲浪颯士朗 [MF] (5) 田邊幹大 (6) 中嶋晃誠<-78' (2) 伊藤隼翔> (7) 深谷朔共 (8) 野村卓史 (18) 宮永尚空<-67' (30) 戸田凌愛> [FW] (9) 末永光基<-HT (4) 滝川林太郎> (11) 中根佳祐 (14) 塚本飛翔<-67' (32) 福田隼太>

控え: (16) 水谷来夢 (12) 川村壇平 (15) 右田実生 (25) 柳原秀 (36) 渡邊涼季

得点 [横浜FM] 62' 鈴木遼 (1-2) [名古屋] 19' 田邊 幹大 (0-1)、49' 竹内悠三 (0-2)、69' 福田隼太 (1-3)

【参加選手】

<北海道コンサドーレ札幌 U-15> 監督:中村拓朗

大西希空、山口風、宮坂航太郎、西垣篤音、木村颯志、永田泰誠、金谷海音、久世大雅、石丸大十、西山亜虎、下尚希、近藤賢斗、藤枝皇王、武田浩志、長谷川侑輝、堀井琉生、宮園蒼空、丹下璃空、松浦虎雅、遠田万里、佐藤彦斗、太田葉琉、青柳斗亜、内山留嘉、塚本陽己、丸井結人、田中唯音、中川青空、木屋颯斗、中家颯大

<札幌ジュニアFC> 監督:土門祐基

望月陽太、羽田成禮、木嶋郁仁、泉泊治郎、吉田琉人、刈野理仁、大浦杜樹、伊藤權、加藤一鷹、滝本恵吾、鶴岡隼、木嶋奏仁、若筋結聖、山本知良、菊池連太郎、山保英士、鈴木陽翔、清水泰斗、田嶋結心、岡部颯輝、榎方銀、横山敢大、浜田直生、種市奏斗、小川大翔、國澤瑛人、鈴木晴太、山木柚人、田中煌大、與儀旭

<青森山田中学校> 監督:成田篤晃

佐藤陽心、美馬空羽、倉澤按吏、米田隼、矢萩寿虎、中野颯馬、溝口陽月、佐藤大朗、大沼空雄、小笠原陽奏、黒澤慶多、鈴木路易、齊藤連介、菊池玲真、篠崎楓、古川瑛大、横川温大、坂本愛斗、吉田斗煌、加藤関羽、笹島淳平、八木橋篤哉、番澤珀斗、北原翼希、高田莉玖、伊藤勇磨、蒲池仁、越田輝虎、島崎純、財田幹太

<FCフォーリクラーセ仙台> 監督:飛奈優太

武田翔吾、内藤陽大、菅原快、菅生朔ノ介、秀島一輝、愛場大輝、千葉悠生、菊池陸斗、及川慧太、金木翔大、阿部将悟、黒澤成、庄司悠真、及川大登、佐藤颯之介、吉田駿也、中島大和、中平悠慎、大原一真、今野春翔、田村颯道、石井奏多、大友慶、瀬川嵩之助、福井樹、阿部幹大、三井守真、花坂優仁、菊地暁、諸清空

<川崎フロンターレU-15生田> 監督:久野智昭

小村風人、青木馨、中島嵩登、根岸佑成、中内晴士、出口翔太、對馬羽上、上野煌士郎、吉田琉海、森本信路、志田龍彦、月見里遥希、望月楓矢、荒井瑞樹、渡邊拓真、中野大虎、川上翔、夏目瑛斗、濱野礼、富田嵐丸、吉澤映杜、徳政岬、戸澤蓮太、新堀隼、笠倉連央、高橋一真、都島タケル、土肥瑠星、高越遼平、佐藤慶

<FCラヴィータ> 監督:村松明人

岩杉颯太、富居秀信、大鷲奏人、近藤大和、赤塚晴紀、鏡内颯真、中山織汰、山岸悠人、田中凜大、岡村和輝、北田天馬、鈴木天翔、鈴木陽翔、白井幹太、高田悠月、上杉玲王、掛水楓空、堀ノ内湊大、若尾悠羽、笠井作彌、矢野翔己、金子巴起、乾大我、水野咲翔、藤松碧士、オツコロ海桜、今井叶汰、長井隆之介、小林龍聖、鈴木想徠

<浦和レッズジュニアユース> 監督:萩村滋則

尾崎孝太郎、白川龍斗、高橋蒼、富山優斗、佐々木煌輝、戸所偉大、二唐琉真、細川泰斗、森井琉生、秋山大翔、片山蒼太郎、鐘水奏、児玉樹哉、中村純之介、野口蒼太、松元咲人、森泉迅、山崎歩、吉野登馬、伊藤大智、宇佐美飛斗、中山空、箕輪大世、山田輝、菊池大河、小松大馳、執行悠斗、福田誠人、ウチエフナ クリストファー、チゾバ、松下蒼空

<東京ヴェルディジュニアユース> 監督:坂谷春

福田誠太、牧岡奏佑、小野和紘、松岡瑛太、武本桜雅、渡部直宏、梅野琉南、朝倉啓介、鈴木蒼人、永橋大翔、永田遼、矢坂仁、田中理宇、ゼイナー大輝、小泉英寿、西田翔愛、松並木絆史、橋爪英太、澤邊奏平、児玉都武、岸綺人、増本陸、鄭源太、森岡亜陽、前田暁生、沼田晃人、石川大雅、大井然、丸山篤生、中山陽路

<RB大宮アルディージャU15> 監督:中谷優介

新村和史、藤森陸真、西郷凌央、藤ノ木翔太、西江凜人、児玉蓮、木村秀心、松下遥哉、池野航志郎、奥村颯斗、佐藤希春、三上尚紘、中川皇輝、高橋征矢、宮島佳佑、清野然太、宮内琥太郎、土谷光、迫田凌和、狩野翔飛、藤田湊介、猪瀬るい、安井康真、伊藤風央、安住琉星、岡本翔太郎、湯浅慧真、山田陽斗、加藤亜輝、亀山陽士

<横浜F・マリノスジュニアユース> 監督:梅津博徳

井上勇翔、佐藤良多、金子隼人、池永龍ノ介、増岡慶人、長倉結人、関一成、中山柊斗、金沢剛京、瀬戸山玲音、鈴木悠馬、田上慶一郎、渡辺玲央、今井恒、永井煌大、齊藤陸斗、井上玲央、武田隼一、田中大雅、松井皓、木下樹、村瀬勲、板東仁、三國準之助、佐野翼、松尾健吾、藤澤斗亜、山田湊斗、鈴木遼、金晟隆

<横浜FCジュニアユース> 監督:小野智吉

土居太一、伊坂虎士郎、日景奏太郎、小林駿翔、清水陽稀、吉田和都、原嶋竜、緒方莉雅、奥条海外、山邨悠斗、松沢奏生、油井宏希、佐藤佑翔、和田頼樹、大塚迪生、金子航大、古谷のかけ、徳久運太、中村兼殿、武田陽平、今井要介、小田アマニラザー、島海隼利主、安田浩陸、十文字大河、斎藤歩菜、土也恭平、菱沼京佑、竹花悠正、館利恩

<FC多摩ジュニアユース> 監督:平林清志

兼近倫太郎、田中佑輝、田中聡亮、阿部深夏、對知樹、福童丸隼矢、吉田龍生、小川大斗、江田悠亮、村松拓哉、立田爽真、高橋瑞樹、井上颯、藤真翔太、小坂雄大、福岡運大、平野理久、平山瑛大、新井翔太、小川斗真、滝澤斗真、鈴木奏英、鈴木奏英、中島陽、水澤陽真、河崎瑛斗、長谷川颯大、長嶺有晟、原田琉依、岸大河、堀川史人

<ツエーゲン金沢U-15> 監督:寺中克典

南谷大和、笹嶋希惺、上瀬夢翔、汐見弦太郎、北陸斗、浅田迅、竹松駿、山田樹生、横川太雅、永井健磨、干場春尚、半本和也、清水健斗、中野達仁、得永温太、下崎仁太、五島加偉、永野想大、浦冬真、若栗弥弥、川端天真、中村大絆、重田奏佑、仲島蒼大、小中連、新古悠貴、林大夢、赤田桜翔、国原大輝、足田拓

<松本山雅FC U-15> 監督:池崎諭

藤森悠真、相馬大輝、竹花日汰、長門拓空、首藤優和、太田湖、海江田凌史、征矢勘太、扇谷凌功、平林夢海、川崎怜生、儘田知宜、今溝大翔、林眞翔、牧内瑛、渡邊創太、高橋真平、内藤風士郎、田中大貴、井上はる、樺澤類、徳久翔汰郎、山本称多、宮本聖希、和泉佑希、吉澤風河、神野勇貴、中村裕ノ進、竹淵英都、西野匡亮

<アルビレックス新潟U-15> 監督:水野裕太

佐藤大知、青木輝功、高橋一粹、岩崎永暉、香野璃空、浅香郁斗、東屋敷明宏、佐藤豊輝、石山颯人、山崎泰知、嶋田翼、中村圭、奈良奏音、小川要、工藤駿佑、玉井良磨、本間陽光、陸海斗、小菅勢七、桑原真人、渡辺桜我、大森淳史、捧碧斗、南雲彩玖、山本怜生、捧夢音、成田颯太、菊地風蒼、塩本翼、長谷川樹

<清水エスパルスジュニアユース> 監督:岩下潤

小栗佑翔、瀧寧人、工藤大海、松尾悠生、後藤将真、清田理仁、蓮見遥、鈴木大牙、藤田凱斗、池野楓、田代琉偉、望月勘太郎、栗田大雅、福代成流、兵永大祐、遠藤優空、渡邊暉名、宮城島航輔、中井鳳雅、橋本勇人、杉浦玄理、山本新、栗田虎空、沙明、望月栄汰、谷武和、丸山翔、鈴木勝運、成澤勇牙、喜多川敦輔

<名古屋FC・EAST> 監督:中尾友也

渡辺虹太、春田耀生、大崎遼平、穴戸道大、平野翔唯、杉原連、藤瀬結大、加門旺志朗、伊能慈英、中西翔梧、藤内陽、河合柚輝、本坊頼輝、加藤育真、三輪晃太郎、馬場園鈴矢、小栗頼人、正木彩汰、奥津悠吾、杉本篤樹、伏見聖音、林優真、加藤絆人、神谷光騎、諸石圭翔、片桐英時、近藤蒼空、追平智真、河内来時、小山蒼太

<名古屋グランパスU-15> 監督:小山優

利田夏惟、水谷來夢、小林謙太、長谷川朝陽、戸取柊斗、伊藤隼翔、滝川林太郎、竹内悠三、谷本來侍、稲浪颯士郎、柳原秀、松本宗史朗、山本耀生、田邊幹大、中嶋晃誠、深谷朔共、野村卓史、川村壇平、右田実生、宮永尚空、伊藤翔、若田愛白、岡崎航汰、清水謙平、渡邊波季、末永光基、中根佳祐、塚本飛翔、戸田湊愛、福田隼太

<ガンバ大阪ジュニアユース> 監督:児玉新

小畑颯亮、福田怜皇、田口倅太郎、東一星エリック、西原嘉都、西山瑛翔、澄川葵士、竹原玲音、樋口健志、安東瑛大、金子卓豊、松下裕紀、西出迅、菅原大我、田邊龍飛、原田湊斗、藤井英翔、助川峻英、笠井直樹、砂田咲一登、朝尾桜介、佐野央成、中本旬、吉川珀、白井大翔、加賀野紘、坂井雄真、青山輝、藤堂優心、垂水陽

<セレッソ大阪 西U-15> 監督:竹元雄輝

渡邊隼、大家咲、伊芸有生、神宮大誠、廣田暖武、大平翔太郎、野山悠行、上原颯介、岡田丈琉、大島征之助、石津諒音、芝航平、河合烈那、村尾勇心、谷口怜音、鹿島正成、鈴木奏翔、山下陽叶、石井亮太、岡村隆希、下内壯太、石渡悠史、大村憲信、新保瑠唯、毛利玲央那、村上翔二郎、中杉環、川西将永、伊藤稜峨、平松大志

<セレッソ大阪U-15> 監督:久川直裕

船瀬慎斗、山口尚琉、石本悠人、小田海斗、権俊穂、鈴木湊斗、玄ラファ、米山志同、山本航太郎、丸岡仁、定本紘太郎、高田康志、柳原航高、竹添大祐、田中中央、眞木琉之介、篠原ジェアン、カルロス、金森類、藤原怜生、李昊亮、中瀬利旺、鎌田瑠叶、藤田大智、波床瑛士、山本大翔、紙谷勢虎、大田琉維、伊東雅葵、足立匠輝、熊野照大

<京都サンガF.C. U-15> 監督:高崎康嗣

加曾利悠馬、山崎新太、宮川達平、山本鳳太郎、上村知弘、西井玄篤、山下巧祐、金淳優、吉田脩真、中村将也、中村光希、藤井凌駕、北川穂夢、朝倉叶翔、片岡慎二朗、横谷彪輝、吉岡恵志、吉村洸堂、西途蒼、竹沢日向、仲辻徳、山本旺和、児玉智大、三輪万葉、因幡春臣、高本大志、杉本凌、関根実土、土田晋吾、山本龍星

<SCインテルナシオナル ジャパン> 監督:若原宏昌

山下大空、豊島貴輔、松尾我琥、仲上翔真、阿部吉哉、増田叶、喜多川瑠鈴、大林真翔、中村陸希、金子達志、炭川弥磨人、小澤智太郎、小林大輝、権藤永大、植村颯真、西田迅汰、高見真桜、原本海利、木田川怜詩、角友義、山本琉叶、小田瑛登、高橋航、松岡十和、三好大翔、松本侑羽、白石陸音、橋本律音、篠原瑠斗、吉田珠基

<ファジアーノ岡山U-15> 監督:猿田公章

橋田武蔵、鳴滝大悟、樋口遼、田中雄太、片岡幸希、大家誠、和田一太郎、中島蒼佑、浮田岳、丁野佑都、池田葵翔、竹内琉偉、石井奏貴、奥嶋繁、向井航太、万代瑛飛、赤塚悠史、森近真一斗、金子諒哉、金谷運仁、伊藤聖河、竹内咲翔、西岡雅貴、富田純心、西村惇希、藤原快新、松田風汰、西山翔太、兼山幹大、吉田駿

<サンフレッチェ広島F.Cジュニアユース> 監督:岡本知剛

高山一輝、野上紘矢、河野央貴、久本暁大、森田琉希、松川斗祈、森岡詩太、柴田葵生、橋本英知、西中颯大、坂藤龍之介、長尾昊馬、梶谷優伍、末岡祐陽、住岡励海、片山新、笹川秀斗、空文琉、西本展、榎木優汰、堀江葵斗、岩成浩和、田中怜汰、窪田京、貞森大雅、竹岡真叶、川辺和空、片山順三郎、山田晃士郎、駒野友春

<サンフレッチェくびきFC U-15> 監督:吉川公二

柳楽力哉、宮下幹大、竹内勇誠、矢野陽仁、玉川輝武、今井健太、梶谷蒼真、黒田仁稀、山口真広、石橋幹生、伊藤陽太、遠藤琉生、大塚躍雲、舟木大翔、二瀬悠月、宇田川七波、野坂亮太、錦織雄大、中島称大、森田響介、平田絆史、桑本康聖、北垣龍之介、福岡颯人

<FC今治U-15> 監督:柏木健太郎

冨田裕央、西原景、坂本新、大西琉輝、藤原秀晃、曾我優、村上大空、能瀬玄都、明比煌真、潮見由陽、行本康、岡岡海希空、松井泰雅、藤田実太郎、曾我部祥、曾我部晴、星野瑛太郎、早瀬蒼悟、川口凌人、仲渡紳平、高橋幸秋、山内陸翔、福田篤人、吉木琉翔、今吉琉斗、田鍋空、村上稀輝、渡部那津、毛利惇人、中路空流

<徳島ヴォルティスジュニアユース> 監督:佐藤隆

田岡尚未、佐々木陽都、長原碧音、大谷李斗、大久保遥翔、岡田啓次、佐野愛斗、森田海恒、秋山湘喜、美馬瑛汰、田中詩響、大本涼太、竹田結仁、宮本夢羅、外山遥仁、加藤秀彩、野村駿太、宇山彰、山水新大、岡崎飛雁、屋敷駿太、濱口胸斗、木村匠、西内陽人、竹中大運、平尾陽向、北山大翔、品川港登、廣地漢人、瀨下和雲

<アビスパ福岡U-15> 監督:宮本亨

青木将一郎、奥村諒介、武重智也、清水椋、森内雅也、久米愛斗、花田一翔、後藤彰吾、筒井志汰、西村翔雲、村上煌、川東幸治、納富統生、古賀颯来、竹信瑛治、長坂桜侍、堀結実、牛島弘貴、行徳真真、溝上順一郎、大塚希世仁、方海翔、篠田善太、永松優輝、天野学人、丸山裕誠、大津裕晃、伊藤漢人、ラマ・ブラウス、吉村陸希

<ソレックス熊本> 監督:広川龍介

庄村虎之亮、世戸結人、山下凌央、草野耀斗、田中駿佑、戴原聡次郎、上農崇斗、有田宇楽、宮嶋良治、吉田廉、後藤一颯、橋元結仁、前田七星、坂本瑛斗、小柳徹心、鹿笠遥、澤辺涼、千田和輝、野口志斗、米村心羽、前田蒼真、満原愛夢、太田翔月、佐藤涼翔、島中隆伍、太田晴都、前田鳳晴、辻村星翔、藤岡鉄大、松藤真生

<サガン鳥栖U-15> 監督:森恵佑

大坪那瑠、山田真羽、荒木崇秀、門口優希、荒木悠也、原口真斗、下村彩斗、高祖海斗、井上祐利、田中陽琉、蛸原悠月、八田航希、向井健太、東山準斗、喜久木昇吾、上杉迅、井上太陽、田中悠士郎、久保蒼真、川崎仁、太田凜空、有吉涉、下田翔太、東郷令和、曾根隆世、志水聡真、井上啓夢、村上瑛斗、宮本愛叶、梅津悠吏

<神村学園中等部> 監督:松本翔

石原碧己、田代晴都、東口葵音、細川龍之介、上野瑛人、ウェバー カイレン、内田虹音、鶴狩仁翔、高田海心、生野敦都、齋藤諒典、須賀友咲、加藤楓稀、山口慶太郎、外川内志誠、那須貴晶、江田國将、比嘉涉人、盛陽海、永山大陽、池村康晴、森岡蒼太、高浪蒼空、佐々木陽斗、岩崎太陽、渡部翔介、福田翔大、松元玲雄、野毛瑠志、切通武琉

JFA 第49回全日本U-12サッカー選手権大会

公益財団法人日本スポーツ協会、日本スポーツ少年団、読売新聞社、JFA が主催する本大会は、2025年度JFA第4種に加盟登録した単一チーム（準加盟チームを含む）で、当該チームに所属する選手に参加資格が与えられた。今大会は都道府県代表各1チームと前年度優勝チーム枠1チームの48チームが参加して12月26日～12月29日、鹿児島県で開催された。

※大会レポートは91ページに掲載

■1次ラウンド

順位	グループA	柏崎	アッズーロ	ブルーデ	高知横内	勝	分	敗	得点	失点	差
1	ジョガボラ柏崎FC(新潟県)	100	504	701	9	3	0	0	13	5	8
2	アッズーロ(滋賀県)	001	400	1300	6	2	0	1	17	1	16
3	ブルーデFC(広島県)	405	004	100	3	1	0	2	5	9	-4
4	FC高知横内(高知県)	107	0013	001	0	0	0	3	1	21	-20

順位	グループB	金沢	鹿島つくば	四日市	アスラン	勝	分	敗	得点	失点	差
1	ツエーガン金沢U-12(石川県)	201	301	300	9	3	0	0	8	2	6
2	鹿島アントラーズつくばジュニア(茨城県)	102	301	301	6	2	0	1	7	4	3
3	アフェラルセ四日市U-12(三重県)	103	103	201	3	1	0	2	4	7	-3
4	アスランFC(宮城県)	003	103	102	0	0	0	3	2	8	-6

順位	グループC	甲府	高田	琉球	山形庄内	勝	分	敗	得点	失点	差
1	ヴァンフォーレ甲府U-12(山梨県)	402	302	100	9	3	0	0	8	4	4
2	ディアブロッサ高田FC U-12(奈良県)	204	201	300	6	2	0	1	7	5	2
3	FC琉球U-12(沖縄県)	203	102	200	3	1	0	2	5	5	0
4	モンテディオ山形ジュニア庄内(山形県)	001	003	002	0	0	0	3	0	6	-6

順位	グループD	アンフィニ	那須野ヶ原	沖洲	東出雲	勝	分	敗	得点	失点	差
1	F.C.アンフィニ(岐阜県)	101	200	600	7	2	1	0	9	1	8
2	那須野ヶ原FCボジボラ(栃木県)	101	302	500	7	2	1	0	9	3	6
3	沖洲FC(徳島県)	002	203	201	3	1	0	2	4	6	-2
4	東出雲FC(島根県)	006	005	102	0	0	0	3	1	13	-12

順位	グループE	デサフィオ	山口	カティオーラ	京都長岡京	勝	分	敗	得点	失点	差
1	デサフィオCF(香川県)	403	202	100	7	2	1	0	7	5	2
2	クレアピオ山口FC(山口県)	304	401	101	4	1	1	1	8	6	2
3	カティオーラFC U-12(大分県)	202	104	403	4	1	1	1	7	9	-2
4	京都長岡京SS(京都市)	001	101	304	1	0	1	2	4	6	-2

順位	グループF	熊本	大阪門真	愛知	グロウズ	勝	分	敗	得点	失点	差
1	ソレックス熊本U-12(熊本県)	801	500	500	9	3	0	0	18	1	17
2	ガンバ大阪門真ジュニア(大阪府)	108	100	100	6	2	0	1	3	8	-5
3	FC.フルボール愛知(愛知県)	005	001	200	3	1	0	2	2	6	-4
4	FCグロウズ(岩手県)	005	001	002	0	0	0	3	0	8	-8

順位	グループG	柏TOR	太陽	カンビオーネ	いわき	勝	分	敗	得点	失点	差
1	柏レイソルA.A. TOR82(千葉県)	100	400	600	9	3	0	0	11	0	11
2	太陽SC U-12(鹿児島県)	001	400	802	6	2	0	1	12	3	9
3	FC.カンビオーネ福岡(富山県)	004	004	501	3	1	0	2	5	9	-4
4	いわきアビレーションジュニア(福島県)	006	208	105	0	0	0	3	3	19	-16

順位	グループH	レジスタ	長崎ドリーム	鳥取	武生	勝	分	敗	得点	失点	差
1	レジスタFC(埼玉県)	200	400	700	9	3	0	0	13	0	13
2	長崎ドリームFCジュニア(長崎県)	002	001	500	3	1	0	2	5	3	2
3	鳥取KFC U-12(鳥取県)	004	100	001	3	1	0	2	1	5	-4
4	武生FC・ブルーキッズ(福井県)	007	005	100	3	1	0	2	1	12	-11

順位	グループI	リバース	札幌	浅間	バルケ前橋	勝	分	敗	得点	失点	差
1	FCリバースjr(愛媛県)	400	102	600	6	2	0	1	11	2	9
2	北海道コンサドーレ札幌U-12(北海道)	004	200	300	6	2	0	1	5	4	1
3	アルティスタ浅間U-12(長野県)	201	002	000	4	1	1	2	3	1	-1
4	バルケFC前橋(群馬県)	006	003	000	1	0	1	2	0	9	-9

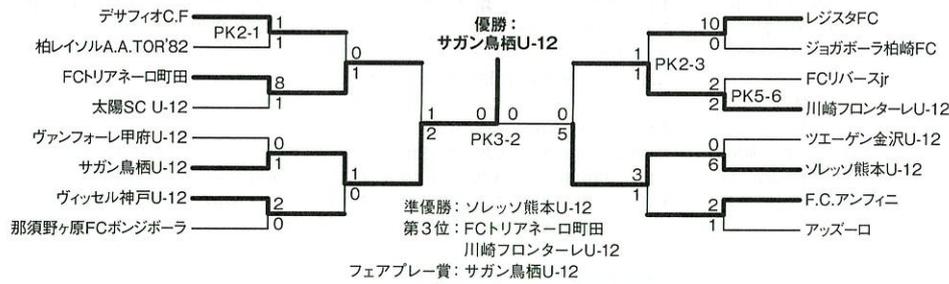
順位	グループJ	鳥栖	川崎	グランディール	青森	勝	分	敗	得点	失点	差
1	サガン鳥栖(佐賀県)	401	303	700	7	2	1	0	14	4	10
2	川崎フロンターレU-12(神奈川県)	104	603	900	6	2	0	1	16	7	9
3	グランディールFC(和歌山県)	303	306	300	4	1	1	1	9	9	0
4	青森FC U-12(青森県)	007	009	003	0	0	0	3	0	19	-19

順位	グループK	町田	小倉南	清水	ニカホウインズ	勝	分	敗	得点	失点	差
1	FCトリアネーロ町田(東京都2)	501	100	300	9	3	0	0	9	1	8
2	小倉南FCジュニア(福岡県)	105	301	501	6	2	0	1	9	7	2
3	清水エスパルスU-12清水(静岡県)	001	103	600	3	1	0	2	7	4	3
4	ニカホウインズFC(秋田県)	003	105	006	0	0	0	3	1	14	-13

順位	グループL	神戸	オオタ	東京V	仙台	勝	分	敗	得点	失点	差
1	ヴィッセル神戸U-12(兵庫県)	200	500	001	6	2	0	1	7	1	6
2	オオタFC(岡山県)	002	202	401	4	1	1	1	6	5	1
3	東京ヴェルディジュニア(東京都1)	005	202	201	4	1	1	1	4	8	-4
4	ベガルタ仙台ジュニア(宮城県)	100	104	102	3	1	0	2	3	6	-3

○:勝ち(勝ち点3)、△:引き分け(勝ち点1)、●:負け(勝ち点0)

■決勝ラウンド



準決勝

FCトリアネーロ町田 1 (前半1-0 後半0-2) 2 サガン鳥栖U-12

●2025年12月28日 14:00 ●白波スタジアム(鹿児島県立鴨池陸上競技場) ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]赤田健生 [補助審判]西村侑吾 ●観衆:1,213人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
西村俊亮		1	GK	FP	2	○	弓削大晴
田村洋空	○	3	FP	FP	3	△	安武夏熙
平尾快斗		4	FP	FP	4	○	北方一馬
福地溜斗	○	5	FP	FP	5	○	百武雅人
篠塚大輝		7	FP	FP	6	△	川本悠翔
永瀬快斗	○	8	FP	FP	7	○	神崎陽色
岡野純士	△	9	FP	FP	8		川原煌
東海林貴大	○	10	FP	FP	9	○	古賀睦基
森岡潤陽	○	11	FP	FP	10	○	網代時生
田島伊織		14	FP	FP	11	○	八尋皓太
田中颯太	○	15	FP	GK	12	○	秋吉駿佑
阿部綺翔	○	16	FP	FP	14		荒木咲磨
浜崎琉	○	21	GK	FP	18	△	古賀瑛麻
川井駿		22	FP	FP	20		簡井大琥
					22		中村蒼佑
					23		宮原右京
							荒木亮次

若山聖祐 監督 監督

得点 [町田]9' 東海林貴大(1-0) [鳥栖]24' 八尋皓太(1-1)、27' 網代時生(1-2)

グリーン [町田]試合後 チーム

カード [鳥栖]HT、試合後 秋吉駿佑、試合後 古賀睦基、試合後 百武雅人、試合後 チーム

○:先発 △:交代出場 空欄:出場なし

準決勝

川崎フロンターレU-12 0 (前半0-3 後半0-2) 5 ソレック熊本U-12

●2025年12月28日 15:20 ●白波スタジアム(鹿児島県立鴨池陸上競技場) ●試合時間:40分 ●審判員:[主審]宮崎碧 [補助審判]新井丈 ●観衆:1,006人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
チケ立野オケチュク	○	1	GK	GK	1	○	満永心稔
大野隆ノ介		2	FP	FP	2	△	霍田愁希
山村兜馬	○	3	FP	FP	3	△	佐多勇人
山本暖大	△	4	FP	FP	4	○	本田聖
下地勇人	○	5	FP	FP	5	○	山口夢友
岡西春樹	○	6	FP	FP	6	○	坂梨魁哉
佐藤雄吾		7	FP	FP	7	○	廣川央介
浅井玲央		8	FP	FP	8	△	松岡憂
久保田創大	△	9	FP	FP	9	○	福田海士
新堀葵	○	10	FP	FP	10	○	窪田淳平
桑原大河	○	11	FP	FP	11	△	前田廉太
戸部心暖	○	13	FP	GK	12	△	清永陽哉
芳賀廣人	△	15	FP	FP	13	△	村上結音
本野良一		16	GK	FP	14	○	高津蒼生
サイウンチャン	○	18	FP	FP	15	△	市村悠真
成瀬文哉	△	26	FP	FP	16	△	松田在真
大田和直哉							廣川靖二

監督 監督

得点 [熊本]6'、38' 福田海士(1-0)(5-0)、10' 高津蒼生(2-0)、15' 山口夢友(3-0)、30' 松田在真(4-0)

グリーン [川崎]試合後 チーム [熊本]試合後 チーム

カード

○:先発 △:交代出場 空欄:出場なし

【参加選手】

<北海道コンサドーレ札幌U-12> 監督:木崎拓也
菅原佑太、藤田紡、田中藍音、大野侑斗、金山空、伊藤盡飛、上居蒼、片岡翔生、山田晟、二津颯太、森教季、吉田翔之介、田谷環太、松浦聖空、館野翔平、大坂駿太

<青森FC U-12> 監督:伊藤豪
種市昊祐、田中瑛大、蒔苗栞平、種市空太郎、佐々木康成、須藤晴功、石山華義、我満崇介、山本大輝、五十洲倫之助、三上礼央、山田一心、瀬川琉空、三上弦心、中村怜音、川村咲久哉

<FCグロウズ> 監督:佐々木豪臣
畠山智幸、細田真式、斉藤杏慈、梅川空翔、平原旺佑、千葉大地、石塚健翔、佐々木直哉、佐倉颯、上澤柊斗、鈴木陽斗、中田虹太郎、照井澁太、長山輝市、中村空煌、須藤煌仁

<ベガルタ仙台ジュニア> 監督:近藤俊輔
菊池恵翔、津脇悠人、高橋颯空、鯉谷旭、信田湊斗、西城那々斗、皆川大凱、遠藤岳、清水星那、三塚翔太、霜鳥伶七斗、佐々木陽大、郡山結仁、千葉麟太郎、氏家笙、藤田湊和

<ニカハウインズFC> 監督:三船和美
佐藤陽翔、渋谷凌玖、佐藤旬之丞、佐藤煌晟、石垣誠史郎、阿部琉空、手嶋楓来、加川流偉、竹島陽汰、佐藤晴也、加藤洸也、住石幸翔、佐藤莉久、秋田海斗

<モンテディオ山形ジュニア庄内> 監督:前田玄
佐藤大心、湯澤諒、石川琉聖、本間晴琉、三田隼太郎、五十嵐大成、伊藤新大、帯谷理仁、野崎真司、田中浩斗、高田寛武、今野晃、本間陽、佐藤翔吾、佐藤曜、渡部尋

<いわきアピレーションジュニア> 監督:池田光忠
秋山寧輝、石綿斗理、桑島万理、下遠野佑、坂本誠馬、辻内孝旺、岡崎葵、大山将虎、石田来志、岡崎旭、山本陽基、板垣慧、川口敬叶、板垣颯、松永健吾

<鹿児島アントラーズつくばジュニア> 監督:那須川将大
萩原冨月、阿部樹、阿部隼士、藤井士道、菊地晃生、新井祐真、新國權士、加藤諒太、由見新、茨城真太朗、奥山柊弥、小野翼、飯田恵也、中島善登、谷口純、保坂太陽

<那須野ヶ原FC ボンジボーラ> 監督:鈴木隼巳
樋口惟翔、土金幸太郎、小平桜輔、室井奏次郎、佐々木大夢、國井結翔、小野心羽、水上陽太、藤沼憲吾、進紘輔、飯山權、森川大悟、大森陽平、トニオル・オタバヒオ、秋山陽希、岡野悠人

決勝

サガン鳥栖U-12 0 (前半0-0 後半0-0 延長0-0 延長後0-0 PK3-2) 0 ソレック熊本U-12

●2025年12月29日 9:30 ●白波スタジアム(鹿児島県立鴨池陸上競技場) ●試合時間:40分、延長10分、PK ●審判員:[主審]菊谷剛貴 [補助審判]松島憂蘭 ●観衆:2,519人

選手名	出場	番号	位置	位置	番号	出場	選手名
弓削大晴	○	2	FP	GK	1	○	満永心稔
安武夏熙		3	FP	FP	2		霍田愁希
北方一馬	○	4	FP	FP	3		佐多勇人
百武雅人	○	5	FP	FP	4	○	本田聖
川本悠翔	△	6	FP	FP	5	○	山口夢友
神崎陽色	○	7	FP	FP	6	○	坂梨魁哉
川原煌		8	FP	FP	7		廣川央介
古賀睦基	○	9	FP	FP	8	△	松岡憂
網代時生	○	10	FP	FP	9	○	福田海士
八尋皓太	○	11	FP	FP	10	○	窪田淳平
秋吉駿佑	○	12	GK	FP	11		前田廉太
荒木咲磨		14	FP	GK	12		清永陽哉
古賀瑛麻		18	FP	FP	13		村上結音
簡井大琥		20	FP	FP	14	○	高津蒼生
中村蒼佑		22	FP	FP	15		市村悠真
宮原右京		23	FP	FP	16	△	松田在真
荒木亮次							廣川靖二

監督 監督

グリーン [鳥栖]試合後 古賀睦基、試合後 北方一馬、試合後 チーム

カード [熊本]6' 福田海士、試合後 チーム

PK [鳥栖](10)○(11)○(9)○ [熊本]先(10)○(9)○(14)×

○:先発 △:交代出場 空欄:出場なし

<バルケFC前橋> 監督:大谷勇人

大豆生田啓心、太田理月、春原凜太郎、松田東、眞榮田大輝、矢内遼斗、近藤功輝、吉澤琉、古口生磨、稲村弦至、細野一太、近藤憲生、成瀬玄、関謙仁、野中優篤、鼓楽陽大

<レジスタFC> 監督:藤屋直博

清水政利、栗林虎大、熊井一幹、高山琉毅、眞白蒼空、中村碧、松元新太、坂本空歩、松澤旭秀、村上眞大空、中沢翼、岡枝琉朗、栗山漢護、笠島翔央、鈴木陽太、秋山瑛翔

<柏レイソルA.A.TOR'82> 監督:小鹿将宏

織部雄士、古田祐英、森井匠真、松永暁、山口遙大、山口結士、袴田世那、安田唯人、山下航輝、岩谷慧空、白澤颯大、中澤佑泰、山本空明、鷲巢泰聖、王佑昂、楨本葵

<東京ヴェルディジュニア> 監督:弦巻健人

小田島璃東、森眞道、後藤謙乃介、齊藤大貴、野口晴翔、下野夢奈、長澤諱磨、鈴木一大、間璃月、光村波留、平川航己、小嶋大翔、倉敷怜、岡村昇汰、池田啓太郎、吉澤諒真

<FCトリアネーロ町田> 監督:若山聖祐

西村俊亮、田村洋空、平尾快斗、福地瑠斗、篠塚大輝、永瀬快斗、岡野純士、東海林貴大、森岡潤陽、田島伊織、田中颯太、阿部翔輝、浜崎琉、川井駿

<川崎フロンターレU-12> 監督:大田和直哉

チケ立野オケチュク、大野隆ノ介、山村兜馬、山本暖大、下地勇人、岡西春樹、佐藤雄吾、浅井鈴央、久保田創大、新垣葵、桑原大河、戸部心暖、芳賀廣人、本野良一、サイ・ウンチャン、成瀬文哉

<ヴァンフォーレ甲府U-12> 監督:大橋正博

小林拓夢、古賀惺哉、川井佑真、梶原輔、津嶋蓮、遠山漣斗、有泉晴貴、太田大翔、寺島昂佑、石倉玄翔、秋山幸雅、久保田大喜、横谷咲、羽田優望、奥石宇希

<アルティスタ浅間U-12> 監督:平木良樹

戸塚真弥、武田航大、竹内一晟、堀内玄進、千葉慶祐、依田瑛太、竹内咲人、畠山裕翔、橋本幹空、柏崎優我、城下凱悠、堀川岳玖、井出維哉、井上怜、酒井結大、角田優太

<ジョガボラ柏崎FC> 監督:江口和雅

吉越翔太郎、阿部祐、茂野兼清、村山新、大下慧悟、大倉宇未、大矢壮流、頓所琉碧、熊田泰久、寺田将斗、阿部匠馬、高塚里空、川口大雅、高野遥斗、岡村豪、小暮初希

<FC.カンピオーネ福岡> 監督:山元信一

小野賢人、中山陽翔、北川凌太郎、平野剛、中谷律太、加藤智貴、平野駿、増田浩平、浅田智也、石倉輝弥、吉田孝誠、二塚一稀、和泉瑠成、有澤優芽、佐伯弦哉、上水翔太郎

<ツエーゲン金沢U-12> 監督:大石明日希

藤田晏季、吉田隼、毎川旭、山口瑛輔、下崎巧人、角田成、野田光来、穴戸真斗偉、飯野雄喜、山田善陸、米島晟、石田千季、香川大知、瀧廣介、山崎凱成、得永想太

<武生FC.ブルーキッズ> 監督:高木昭二

カセ谷彬、中村飛遊我、山岸蒼生、森陽生、山内葵、姉崎空悟、清水岳、小辻奏太、中山蒼士、細川大智、笹岡竜、大橋浩、山田凜太郎、藤井琉、廣木斗削、佐藤生歩己

<清水エスパルスU-12清水> 監督:太田貴光

長谷部匠亮、十亀颯斗、井上朔、権田泰千、鈴木開之、大塚駿、鈴木聖滉、横田涉、久保新、酒井琉衣、山本希新、小林聖之介、成澤佑騎、栗田都都、川守田嵩介、後藤翔聖

<FC.フェルボール愛知> 監督:畠山翔太

古本理揮、小池蒼馳、高井那琉、リュウ・ツアン・ニャットナム、猪野大和、渡辺理月、福澤晴、松本悠歩、中村言汰、小仲アジマン、ジュアン、山岡優真、中島広翔、ソウ・フェリックス、岡山和翔、水谷優歩、井上健

<アフェラルセ四日市U-12> 監督:北村隆雄

加藤大翔、佐藤晴琉、長田陸生、植村遼真、藤田雅功、坂脇志弥、加藤壮真、高橋旭、橘龍世、荒木海史、福本智悠、増田悠陽、兵連辰樹、中村全、山崎蒼空、森田桃也

<F.C.アンフィニ> 監督:志津健一

佐合希一、大東周平、籠橋凜、森一翔、伊藤隼真、遠山煌大、遠山稀大、岩崎大空、高田日々人、日浅偉力、福井琉聖、辻大陽、菊谷旺汰、岡本漢、眞壁海

<アッサーロ> 監督:古荘隆徳

岡崎悠聖、岩鼻颯斗、内倉眞真琉、川上大晴、垂田莉玖、寺嶋漢、古荘耀一郎、棚橋晴貴、村山巧、諸若祐利、久哲平、瀧廣将、野中渉真、山下運翔、瀬戸山椋、村田史匠

<京都長岡京SS> 監督:小嶋重毅

井上晴琉、大津喜一郎、中島理々斗、沖元凌空、中西奏優、末永龍心、植野剛、佐藤廉誠、森田黎、福井蒼心、中川昇輝、近原俊英、小林寛一郎

<ガンバ大阪門真ジュニア> 監督:服部和也

飯田航介、岡本侑、石川煌晴、乾圭吾、林成輝、森下凜太郎、加藤大凱、和田昇也、植松朱、山口福汰郎、松田颯介、水原佑晟、大槻琥太郎、生田咲空、西村結希、國本結響

<ヴィッセル神戸U-12> 監督:坪内秀介

小松太陽、宮本裕理、谷山奏琉、亀村統吾、和田大知、八十原圭偉、根津圭一郎、楠田司沙、米田将郎、正面詩季、デーキン龍武、福澤文太、吉元玖杜、三木連太郎、山下アリスター賢悟、西山陽翔

<ディアブロッサ高田FC U-12> 監督:乾良祐

周木陽、田中朱莉、伊藤奏人、伊藤真人、今西司、池上朔大、池田佑、池上昊大、杉本優空、吉井弥真人、多田颯斗、森本陽斗、後藤結太、山田大雅、川端時和、松岡幸輝

<グランディールFC> 監督:羽畑公貴

杉若柚斗、和田蒼羽、霧峯蒼士、安久舞大、中村颯、小上蒼太、飯下愛斗、芝崎央央、大林優斗、山本海祐、池田就真、霧峯蓮士、雑賀蓮、橋爪奏、藤田泰輔、井戸崎のの香

<鳥取KFC U-12> 監督:山本祐次

出澤拓武、金丸旺生、田中絆羽、鈴木莉生、建部惺哉、日下部純夢、谷本岳都、高木陽路、前田隼良、中本篤、田中瑛心、高快飛、吉中めぐる、堀旅陽、矢野巧海、谷口輝心

<東出雲FC> 監督:古藤幸二

藤井翔也、川見騎津士、山崎葉月、野津秋亮、小原煌希、米沢友翔、佐藤拓夢、岡田翔大、林山結都、嵐太亮、若槻晴、喜多村悠生、宇田川朔大、高橋我空、土江守、定秀将真

<オオタFC> 監督:今井大悟

田上史健、井上琥太郎、松永湊大、大隅稜太、山田廉翔、横山七翼、後中惺成、三村永遠、片岡波留、寺山瀬智、瀧本幸汰、山形宙夢、片岡優心、砂口結晴、武田陽翔、古谷龍大

<ブルーデFC> 監督:佐々木雄馬

代田フランスコ碧、中野杜馬、山名慶大、西江風、米沢奏汰、関屋大馳、住吉谷純平、山本蓮斗、浅野神菜、今田瑠輝、川上陽輝、徳永琥珀、豊田颯、田島裕唯、峠友輝、阿舍利手

<クレフィオ山口F.C.> 監督:辻野昌太郎

原井蓮、溝部佑真、湊要太、竹内碧良、大垣蒼空、島田壮真、赤間麗、入江陵斗、竹中哲晴、近藤鼓太郎、天野夢義、栗田涼太、小川瑠織、福永唯希、西村光稀、廣瀬心

<デサフィオC.F.> 監督:村松圭吾

井之川奏太、笹尾謙志、永安海翔、岡崎煌河、西森一颯、中塚真冬、三好央央、石垣斗羅、堀川諒多、鎌田正宗、福井統馬、南谷翔皇、田代丈太郎、斉藤和、藤本來斗、川田壮一郎

<沖洲FC> 監督:増金昌和

福田悠利、増井奏汰郎、前田新太、天羽慧汰、唐渡奏馬、森聡汰朗、福田直翔、森本佑、東遼大、尾田悠馬、松岡想真、平井奏太、豊野岳

<FCリバーズJr.> 監督:平家英紀

向居喜澄、酒巻翼、須田大翔、木山聡佑、岩崎橙真、大谷崇善、河崎裕真、高市理仁、中矢篤人、福井颯空、鶴川己進、小池爽瑠、山内祐輝、新良飛翔、小椋弥、徳重昂

<FC高知横内> 監督:小谷三男

田邊翔翔、楠瀬奏、平川稜司、永井新大、木村有杜、上總凜、中田銀、西井倫太郎、田淵有真、平野陽大、麻岡剛玄、芝崎光、芝崎琉偉、山村悠陽、小松敬汰

<小倉南FCジュニア> 監督:岩谷康平

藤田虎二郎、松下風凜、今浪颯琉、椛本喜知、脇悠仁、宮橋旺希、小林匠翔、岡村幸樹、祐将斗、川村悠翔、首藤理人、水原慶皇、松山朔、平松愛翔、井本駿、柴田斗稀

<サガン鳥栖U-12> 監督:荒木亮次

弓削大晴、安武夏熙、北方一馬、百武雅人、川本悠翔、神崎陽色、川原煌、古賀陸基、網代時生、八尋皓太、秋吉駿佑、荒木咲磨、古賀瑛珠、筒井大琥、中村蒼佑、宮原右京

<長崎ドリームFCジュニア> 監督:川瀬亮

竹田惺、江頭彩人、平井登理、阿部弘幸、藤崎叶夢、西岡稀惟、嶋田捷、高比良悠希、一瀬直人、西村柚希、井手口哲也、西岡丈太郎、菅原奏太、西田丞一郎、河野卓人、馬場一徹

<ソレック熊本U-12> 監督:広川靖二

満永心祥、霍田愁希、佐多勇人、本田聖、山口夢友、坂梨彪晟、廣川央介、松岡臺、福田海士、窪田淳平、前田廉太、清永陽哉、村上結音、高津蒼生、市村悠真、松田在真

<カティオーラFC U-12> 監督:篠田裕也

後藤悠真、横尾陸人、松尾一輝、黒木仁輔、齊藤蓮太郎、山本葵、木元星杏、高橋英斗、松岡陽奈、末永葵空、山崎勇人、山崎湊大、細木大聖、大久保柁、松本悠吏、濱崎翼

<アスランFC> 監督:葉山貴志

若松拓音、伊波琉翔、藤田敦士、前田康佑、田中大斗、黒木蓮穂、谷口碧音、兒玉淳平、濱砂颯志、山元サスケ、瀨尾瑠月、福田波音、吉田葵、有留大悟、椎陸斗

<太陽SC U-12> 監督:坂口周平

山元輝、高倉雅、大園翔、橋口龍諒、上園準平、濱田健、高吉蓮、西川翔、桑原豊空、坂元汰地、田下凜太郎、上平川智輝、上釜紅人、尾崎瑛準、海江田悠真、池田陽雄

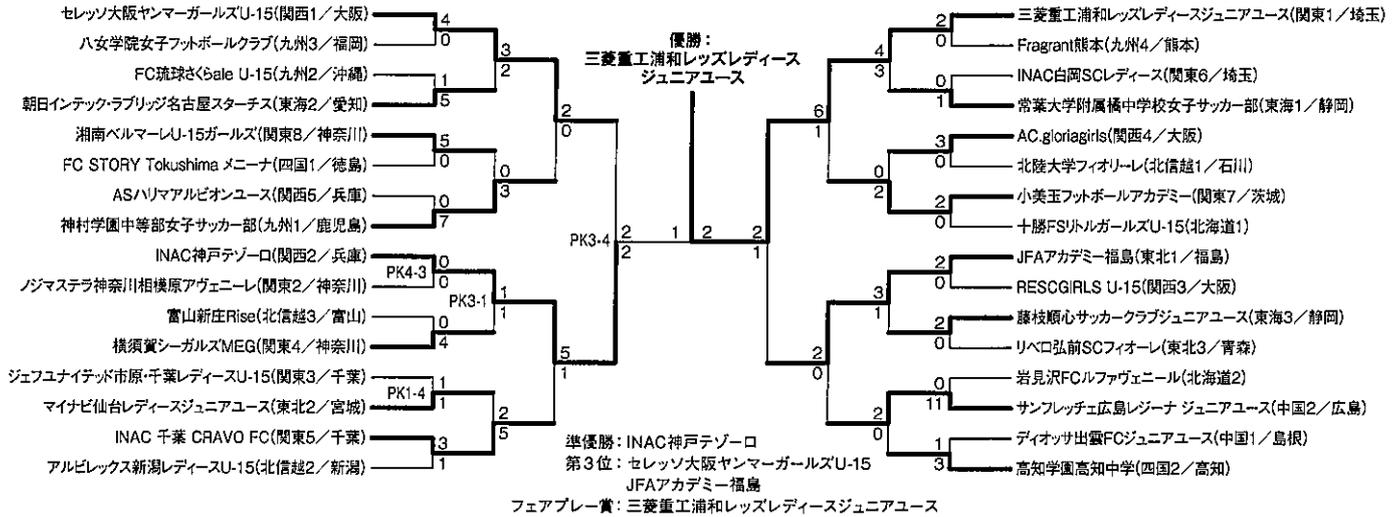
<FC琉球U-12> 監督:山城宏幸

浦添飛龍、新城光太郎、新井恋海、又吉佑真、宮城太一、新川諒人、久嶋兼斗、渡慶次快、神村賢早、宮里泉利、間間宏、呉屋仁太、仲稔優月、石川元博、比嘉陽晴、仲村一飛

高円宮妃杯 JFA 第30回全日本 U-15女子サッカー選手権大会

JFAが主催する本大会は、JFAに女子登録した加盟チームで、2025年11月12日までに登録（追加登録も含む）登録され、2010年4月2日から2013年4月1日までに生まれた女子選手に参加資格が与えられた。今大会は、12月6日～27日、32チームが参加して東京都、静岡県、三重県、岐阜県、大阪府、滋賀県で開催された。

※大会レポートは90ページに掲載



準決勝

セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15 **2** (前半1-2 後半1-0) **2** INAC神戸テゾーロ
PK3-4

●2025年12月25日 11:00 ●AGFフィールド(味の素スタジアム西競技場) ●試合時間:80分、PK ●審判員:[主審]多田美早希 [副審]長谷川也須子/加瀬田彰華 [第4の審判員]阿部なつき ●観衆:281人

C大阪(監督:関根麻里):[GK](41)坂田衣知花 [DF](18)寺田莉紗(29)岡田真帆(33)金井咲良(34)谷川来春 [MF](16)林祐未(20)林優明(26)山崎由莉(27)橋本海風 [FW](23)平田姫彩<->HT(32)瀧本菜乃花(28)瀬戸美里

控え:(51)瓦瑠希(19)酒本玖波(22)倉田紗菜(24)阪田ひかり(25)西藍花(30)山下瑠愛(35)岩佐梨乃花(37)石川姫彩

I神戸(監督:岸田茂樹):[GK](37)宮地絢花 [DF](46)松山優日菜<->68'(44)横山絆海(51)新名風結(58)山内うた [MF](34)大島杏里(47)下江世夏(57)八木美月(62)三枝莉子 [FW](39)沖口璃々花(56)青木唯奈<->48'(79)鈴木遥香<->68'(35)小池結芽(61)中原龍光

控え:(31)福岡栗乃(36)岡野琴実(40)梅本唯(42)櫻井詩織(55)西坂ななみ(68)中村美穂

得点 [C大阪]8'林優明(1-0)、60'寺田莉紗(2-2)
[I神戸]23'中原龍光(1-1)、24'下江世夏(1-2)

PK [C大阪]先(20)×(16)○(18)×(26)○(33)○
[I神戸](34)○(57)○(62)×(47)○(58)○

準決勝

三菱重工浦和レズレディースジュニアユース **2** (前半1-1 後半1-0) **1** JFAアカデミー福島

●2025年12月25日 13:30 ●AGFフィールド(味の素スタジアム西競技場) ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]千葉美咲 [副審]藤田ひなの/小柳理恵 [第4の審判員]澤井朋子 ●観衆:443人

浦和(監督:西谷冬樹):[GK](47)秋本悠真 [DF](43)岡本遥花(45)小柳はな(46)諏訪楓(53)葉袋胡乃花<->64'(69)小林花音> [MF](44)片岡葉菜(48)仙石みのり(52)増田彩衣里(55)浅野伶央<->80+3'(33)林花凜> (58)河合萌花<->80'(62)山田知怜> [FW](49)徳生花音<->64'(54)平出卓>

控え:(51)中上希優(34)森井咲(36)鷲谷心晴(56)池谷七南(59)前田心音

福島(監督:佐藤令治):[GK](21)立花実那 [DF](28)渡邊優奈(30)上田彩葉(31)宇佐美凜々愛 [MF](24)山路真白(25)小林羽留(33)村上輝星(40)大淵芽依<->HT(38)高澤恵夏> [FW](23)田中愛純香(29)緑川真生<->55'(27)高橋柚乃(35)鈴木朱莉<->69'(26)福田こまち>

控え:(41)植木愛琉(32)高畑希々花(34)河野薫子(36)三上さくら(37)小瀨彩心(39)加納瑠奈

得点 [浦和]34'仙石みのり(1-0)、80'小林花音(2-1) [福島]40+2'田中愛純香(1-1)

決勝

INAC神戸テゾーロ **1** (前半1-0 後半0-2) **2** 三菱重工浦和レズレディースジュニアユース

●2025年12月27日 11:00 ●味の素フィールド西が丘 ●試合時間:80分 ●審判員:[主審]千蔵るり [副審]斎藤清美/西念美紀 [第4の審判員]加茂靖子 ●観衆:841人

I神戸(監督:岸田茂樹):[GK](37)宮地絢花 [DF](44)横山絆海<->59'(46)松山優日菜(58)山内うた [MF](34)大島杏里(42)櫻井詩織<->59'(51)新名風結<->78'(45)古田光舞(47)下江世夏(57)八木美月(62)三枝莉子 [FW](39)沖口璃々花<->78'(79)鈴木遥香(56)青木唯奈(61)中原龍光<->69'(68)中村美穂>

控え:(31)福岡栗乃(35)小池結芽(55)西坂ななみ(59)高平莉沙良

浦和(監督:西谷冬樹):[GK](47)秋本悠真 [DF](43)岡本遥花(45)小柳はな(53)葉袋胡乃花<->HT(69)小林花音> [MF](44)片岡葉菜(46)諏訪楓(48)仙石みのり<->78'(62)山田知怜> (52)増田彩衣里(55)浅野伶央(58)河合萌花 [FW](49)徳生花音<->80+2'(54)平出卓>

控え:(51)中上希優(33)林花凜(34)森井咲(36)鷲谷心晴(56)池谷七南(59)前田心音

得点 [I神戸]21'青木唯奈(1-0) [浦和]42'増田彩衣里(1-1)、73'徳生花音(1-2)

【参加選手】

<十勝FSリトルガールズU-15> 監督:富浦友幸
河瀬莉、太田築羅、野口帆帆、谷口結来、前崎衣央、大塚来愛、藪内珠生、及川美空、吉田彩桜、大場詩奈、高橋優奈、戸水悠莉、服部心音、阿部陽莉、園子莉乃愛、佐藤香絵、清水美咲、進藤希桜、黒沼双葉、櫻井陽香、中野あみ、栗山凜花、高橋真奈、恩田海莉、飯山遥羽、岡田こはる、永野日葵、板垣しずく、鈴江菜都

<岩見沢FCルファヴェニール> 監督:鈴木一則
鈴木瑛紗、北夏来、中島千晴、薫原朱奈、大柳歩稀、加来笑音、松明志歩、佐武こども、吉井結愛、菊地咲結、岩淵奏空、遠藤和水、佐藤小梅、南原心春、阿部心、森内侑音、作井玲

<JFAアカデミー福島> 監督:佐藤令治
立花実那、植木愛琉、小林羽留、高橋柚乃、渡邊優奈、山路真白、福田こまち、緑川真生、上田彩葉、宇佐美凜々、高畑希々花、村上輝星、河野薫子、三上さくら、小濱彩心、高澤恵夏、加納瑠奈、大淵芽依、田中愛純香、鈴木朱莉

<マイナビ仙台レディースジュニアユース> 監督:佐藤亘
熊谷花、石塚暁葉、板元波風、小林桜空、小宮山碧羽、加藤咲耶、植村美月、伊藤心愛、八巻愛花、阿部心桜、小竹泉実、森屋凜子、木村南那、渡倉叶夢、菊地はれる、伊藤陽菜、角田帆希、引地怜、今西亜理紗、小野朱厘、織田花、瀬ノ上結愛、大友彩生、武士俣咲、中野美羽玲、今野友絵、伊吹凜咲、尾川凜、佐藤なぎさ

<リベロ弘前SCフィオーレ> 監督:住谷学
根本ひより、工藤彩、吉田伶来、番澤凜音、工藤優月、三上采寧、鳥湯涼子、三上絢寧、白取楓、木村彩愛、葛西咲花、澁谷由彩奈、籠林杏菜、櫻井陽望、後藤那智、村上舞桜、竹村純芳、秋田莉寧

<三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース> 監督:西谷冬樹
田中燈里、秋本悠真、中上希優、大坪美蘭、平澤夢真、鷲谷心晴、岡本遥花、小柳はな、薬袋胡乃花、前田心音、石原菊、山田知怜、大村遥夏、小林花音、森井咲、片岡菜葉、諏訪楓、仙石みのり、増田彩衣里、浅野伶央、池谷七南、石井穂来、河合萌花、宮脇彩、由利桃子、秋友羽羽、林花凜、徳生花音、平出昂、大隈亜子

<ノジマステラ神奈川相模原アヴェニール> 監督:菅田舜己
地主実来、小山結愛、谷口瑚葉、田中凜、杉幸夏、比嘉マキ、中田優沙、新本咲月、村上奏羽、信川結菜、藤田生穂、久木田姫愛、赤崎風海、石井こども、椿彩和、綿引夏希、齋藤蒼央、森山心風、野口みどり、藤野碧海、佐藤桜咲、平山樹歩、青木美桜、荒井庵、蘭牟田芽依、福永結子、鈴木美尋、松川明愛、金子瑠音、江川結緒

<ジェフユナイテッド市原・千葉レディースU-15> 監督:星野あかり
山田果歩、大崎詩、石井涼菜、深澤瑠那、大西真緒、金子日和、河野真優、岸本惠凛、原千花、増田果恋、佐藤よひ、近藤あまね、高橋楓、江藤はな、鈴木沙弥、小峯虹、中川咲歩、越川日葉莉、平野笑帆、岡崎かえで、吉岡奏碧、小田葵音、西澤琉愛、鈴木瑠菜、中村美優、吉川葵、上見遥香、新聞彩花、山下明日未、伊東空

<横須賀シーガルズMEG> 監督:小原由梨愛
鳥海唯花、松井彩笑歌、加藤らら、赤瀬紗来、福島晃、小野寺真帆、中島叶夢、七田真桜、田中来実、伊藤美桜、石野彩音、森田朱音、清谷祐佐、窪田心優、斎藤希子、橋本侘奈、脇田莉央、山本美雨、松井彩弥奈、澁谷紗菜美、丸林日和、長谷川紗良、柴田結月、阿部妃菜、吉崎小梅

<INAC 千葉 CRAVO FC> 監督:榎本裕太
金山藍、倉岡芽奈、鈴木唯愛、成瀬莉愛、牧野菜々、小石沙和、高橋芽生、松本瑛愛、河田七星、益川咲彩、オビアコ愛菜子オマ、寺田葵、本美はな、阿久津三希、中島萌花、飯岡真生、山田笑子、高橋菜愛、小松結、大若音波、林侑花、花村莉子、秋山心花、笹ノ間奈央、武井ふうこ、新居蒼生、浅野心都、水野怜咲、齊藤楓花

<INAC 白岡SCレディース> 監督:小島哲広
川島美桜、石川結愛、永野瑠花、肥田鞠咲子、松本くるみ、外山蒼良、金子愛依、長島心音、長坂七星、飯田玲遊、石川生望、番掛加奈、佐野希空、村部彩華、藤本優里、宇多和澄、石田祐輝、津久井小月、石井晴代、平田奈美、山崎日向葵、杉原芽依、中村美耶、大野結理、木内亜美、小倉那月、清水若葉、野村詩、江川千聖、木田花楓

<小美玉フットボールアカデミー> 監督:藤田晃人
村山夏蓮、高藤寧希、山本渚子、朝岡明希、樹森里彩、道坂楓、石川寛恵、森島めあり、青木碧音、五十嵐咲綾、山本和湖、吉村結奈、水越莉奈、鹿野吹、矢澤里緒、飯村叶愛、高柳凜歩、服部由華、大場愛菜、前川彩馨、川崎理桜、小橋由菜、沢尻和奏、黒羽優花、寺門絢音、中根望愛、郷原希恵、奥村心奏、北川花澄、星野陽葵

<湘南ベルマーレU-15ガールズ> 監督:山名真妃
平野真琴、小山真凜、松岡玲海、小倉南知花、森さくら、飯塚紗永、岩井翠星、吉井真夏、新田千穂、菊地菜々美、小島鞠菜、菊地沙愛、山田七海、茨田真侑、宮崎杏、島田莉梨花、矢内智華、藪下遥、中野日向、初鹿環奈、杉崎沙里、佐藤希穂、金子夕夏、佐藤楓、秋山莉世、小原美鈴、高田佑杏、秋本みちる、高橋杏莉、木川希夏

<北陸大学フィオーレ> 監督:神田和穂
福田芽依子、松本優菜、山元杏奈、東虹来、宮本虹心、白崎優里彩、竹内希羽、落合莉加、安井美蘭、崎山絆月、沖野仁湖、島島千紗、森川陽菜莉、高野紅葉、大石明依、金木心奈美、松川愛良、小島彩希、中村つばさ、得永野乃花、夷藤咲穂、保坂莉桜菜、西田衣織、永吉陽葵、下内芽里、小森侑莉愛、押田美虹、川井柚佳

<アルビレックス新潟レディースU-15> 監督:小穴康朋
鈴木まみ、小柳愛美、田澤澤、荒木帆希、梅津綾菜、川村心那、菊地結衣、下澤佳歩、西澤咲希、馬場梓里、若桑紗和、塩谷菜梨、樋口明莉咲、目黒紗奈、海老名祈、神谷佳苗、相馬夏季、丸山碧、梅沢雪乃、清水花恋、阿部麗羽、大島美桜、横木あづ、若槻莉桜、大竹つづみ、五十嵐千歳、小林香梅、佐藤真帆、小山莉花、丸山まどか

<富山新庄 Rise > 監督:石黒智久
川崎浩紗、金丸乃愛、中林琴乃、越智奈香、阿部妃奈乃、新田夏海、佐々木のみり、吉崎未愛、飯野愛菜、青木優奈、白川葵、辰尾環那、前田愛佳、寺山心陽、大畑由起

<常葉大学附属橘中学校女子サッカー部> 監督:谷口将基
天野美優、佐藤次美、鈴木美結、加藤里来、岩崎結月、深澤夏歩、長谷川愛麻、森日順、佐野友里、高山聖、渡辺瑠奈、秋山紗良、石内桜衣、堀江咲花、佐々木楓和、八木陽彩、酒澤梓乃、望月真鈴、村越杏那、遠藤結月、望月咲那、吉岡莉杏、梶台清音、新谷百亜那、標葉夢月、稲葉夏希、飯田七海、加持悠花、山口愛心、望月ほの香

<朝日インテック・ラブリッジ名古屋スターチス> 監督:江後賢一
篠原彩加、祖父江純奈、曾我部若菜、井戸和、遊佐明加里、岸本碧月、大澤叶、山下紗欄、敷島瑠璃、垣田かなな、今井優花、山本心春、永谷しずく、鈴木美織、林蘭花、小島々々巴、中川心晴、大宮那月、小澤こころ、中林ここ、森菜緒、加藤真央、山本望結、田中亜依、篠原愛加、神原佑菜、伊藤心南、高本温、金田穂空、小島希音

<藤枝順心サッカークラブジュニアユース> 監督:原田健人
標葉千夏、藤村凜、森垣七羽、谷崎咲月、本杉咲月、下村叶、長野心奈、佐野さくら、田中秀奈、上田歩里、片山葵、笹垣夏波、浅田雛、佐々木美空、杉山桃子、林愛珠、守屋和葉、谷澤莉媛、野中咲来、久保山真歩、杉山りのあ、内山夢萌、村田和花、花澤麻里衣、佐野そな、加藤咲緑、池田咲羽、森由依理、落合裕美、増井萌衣

<セレッソ大阪ヤンマーガールズU-15> 監督:関根麻里
坂田衣知花、瓦塚希、寺田莉紗、酒本玖波、倉田紗菜、西藍花、岡田真帆、山下瑠愛、金井咲良、石川姫彩、林祐未、林優明、阪田ひかり、山崎由莉、橋本海風、岩佐梨乃花、高木彩乃、井上杏、古川心都、井藤未来、平田姫彩、瀬戸美里、瀧本菜乃花、谷川来春、越智咲月

<INAC 神戸テゾーロ> 監督:岸田茂樹
福岡凛乃、宮地純花、岡野琴実、山口礼衣、横山絆海、古田光舞、松山優日菜、米村悠希、新名風結、山内うた、岸上令奈、大島杏里、小池結花、櫻井詩織、山崎花、下江世夏、西坂ななみ、八木美月、高平莉紗良、巽若奈、三枝莉子、山田花楓、中村美柚、平山凜、沖口璃々花、梅本唯、青木唯奈、中原艶光、西川一花、鈴木遥香

<RESCGIRLS U-15> 監督:谷口巧実
神谷唯香、宮本桃華、蛭川梅乃、甘中めばえ、河村優里、龜山明莉、一之瀬々々、竹中小鳥、前田彩羽、安藤成美、若田芽依、福元蒼子、中谷百花、藤田梨愛、佐伯有俐、西田莉登、西山美咲、矢野愛子、黒田侑愛、石井優萌、吉岡愛海、浦瀬心菜、廣瀬琴羽、傍島帆希、高橋咲良、坂本萌晴、楠本温、釜野夏帆、木村葉那、木山夏帆

<AC gloriagirls> 監督:三木利幸
村田まひる、清水朱音、長井凜乃、大野菜々海、服部真湖、小狼陽菜、竹村帆加、高辻菜那、村野風沙、大見陽乃、村田結、李鞠稀、伊藤千穂、杉澤怜奈、本間莉生子、相谷柚羽、松下りのか、別所あんり、上本恭子、稲森望菜、松阪莉央

<ASハリマアルビオンユース> 監督:柿川文
藤原汐那、加藤華凜、福永莉々奈、池島英優、日高心愛、河内菜穂、久松美桜、丸橋詩、柳井花、溝口心愛、貝原里奈、梅崎小鈴、黒木楓、河内実玖、石田菜夏歌、長尾紀穂、高原未愛、堀井あかり、北村玖瑠海、松尾愛来、千々岩優、松本希星、原田美空、中村樹菜、家氏優亜、三輪珠愛、松下愛花、松岡芽花、森川実玲、松崎安美

<ディオッサ出雲FCジュニアユース> 監督:高橋知也
見継菜白、金坂柚月、井上柳奈香、和田杏奈、金坂萌夏、高木菜望、椋木萌衣、田中うらら、田中りりい、米原結那、森山あづ、西尾知紗、川上真緒、藤丸璃子、岩田心、武田心花、柳原花南、細田心愛、門脇楓、川端杏奈、末次さくら、石橋希穂、松本悠愛、田和ななせ、土江潤梨香、村尾歩奏、石波杏菜、金坂紅葉、三代千紗、坂本陽菜子

<サンフレッチェ広島レジーナ ジュニアユース> 監督:山本侑生
島津羽音、宮田爽帆、柳川陽、松下七海、吉本菜津、桐生珠里、市川優来、小倉穂花、川口莉央、豊田杏菜、藤原結、関山麗月、田中心結、近藤音々、三角慈杏、田中優奈、中川風彩、下田芽依、吉田若菜、日比さくら、清水杏奈、小出彩乃、中原千尋、吉成沙和、大塩環奈、中川希花、國枝千愛、西森咲華、大塩芽咲、木曾美

<FC STORY Tokushima メニーナ> 監督:佐賀博幸
藤井真子、楠本心と、松本琴星、長尾花凜、宮尾梨愛、兵頭詩望、斎藤夢紗、大野衣央那、植谷虹心、紙上美春、山花彩葉、鷲尾柚希、一宮柚希、重谷朋華、三橋奏、松本陽和、吉本菜那、宮本菜月、木下桃歌、三宅桃香、佐藤穂果、秋岡芽依、井上紫羽、道上宙寧、原田更海、畠永紋加

<高知学園高知中学> 監督:名倉正倫
寺田望蓮、川原未夢、海老川萌花、岡村朋乃佳、竹田好花、横山智空、西本依愛、仙頭初菜、島中葉千、福見涼、植田馨、西山愛永、和田望乃子、田村依千華、白石美羽、平松伶菜、澤田莉子、李川莉依奈、野本暖里、中西和奈、市川優結

データボックス

<神村学園中等部女子サッカー部> 監督:今村龍介
前田星音、近藤愛子、南谷杏、野口莉紗、中村夏帆、江藤芽生、清本麗、辻本真歩、宮原朱迦、中原萌笑、長崎佳音、佐藤妃菜、平峯絆愛、三宅慈、新宅胡春、福留かずな、松澤唯空、池脇梨音、竹ノ内紗依、須納瀬希乃、金田耀花、中江萌杏、當眞ひか、瀬川瑠月、山野夢奈、松岡果歩、大藪紀紗、下地咲笑、永田由徠、行徳乃愛

<FC琉球さくらale U-15> 監督:塩川健勇
新垣友唯、古謝李実、新城颯花、栗園ひまり、小林紗季、大城歩志、金城妃乃、金城仁菜、岡本琉音、喜舎場かのん、フォークナー アデラー七美、天願千菜海、伊藤樹希、矢島心海、宇地原菜帆、洲鎌結愛、松尾瑚々、名嘉ひより、平安座りま、我如古美龍、仲村芽衣紗、屋良日葵、當銘美利愛、平良理葵、河上碧、金武かりな、山川潤、緒方笑真、新井藍、上地希佳

<八女学院女子フットボールクラブ> 監督:樋口貴史
檜崎小春、塚原愛留、菟毛めい、伊藤かの果、田上咲妃、伊藤咲耶、稲富柚華、柳谷百花、檜崎百合花、白水梓稀、森田さくら、恵深愛、衛藤愛菜、内田十愛、朝倉ひかり、山本芽依、小森胡璃、北島芽依、野口そら、加根魯あずみ、神谷杏南、瀬戸菜子、権藤美杏、川上夢乃、田中夢、下地優愛、奥本琉穂、田中優乃、鶴田七海、渡部凜花

<Fragrant熊本> 監督:船元真吾
太田奈々水、黒山花穂、西山芽紗、大塚梨央、竹下未宇、緒方睦、藤本実依、緒方董、林田美奈、嶋崎夏希、村上結寿、佐野晴那、入山姫月、山西凜歩、嶋田花風、堀田倅路、木下芽依、山頭美愛、岡崎幸愛、白崎衣乃、山口りり歌、森川愛菜、山内玲奈、入山莉愛姫、本田心乃、宇佐美莉帆、塘口結実、安藤心菜、中村羽希、岩本咲華

JFA U-18女子サッカーファイナルズ2025

JFAが主催する本大会は、JFAに女子の種別で登録したチームで、2025年12月9日までに登録した選手に出場資格が与えられた。今大会は「令和7年度全国高等学校総合体育大会」の優勝チームと「第7回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）の優勝チーム」の優勝チームの計2チームが参加して、12月21日に埼玉県の埼玉スタジアム2002で開催された。

※ 86 ページに関連記事あり

決勝

大商学園高校 2 (前半1-1 後半1-2) 3 JFA アカデミー福島

●2025年12月21日 10:30 ●埼玉スタジアム2002 ●試合時間:90分 ●審判員:[主審]荒川里実 [副審]佐藤颯音/友宗菜月 [第4の審判員]加瀬田彩華 ●観衆:1,460人

大商学園(監督:岡久奨):[GK](1)福田みのり [DF](2)中野梨緒(3)牧野生成(4)佐竹結愛(5)近藤花 [MF](6)近藤柚月(7)村上杏奈(8)上村真生子<→83'(20)白井心>(10)笠崎愛乃 [FW](9)佐藤ももサロワノウエキ(11)高山よぞら<→57'(14)花田ここな<→89'(16)中村美南>

控え:(12)西桃花(13)西村日花(15)福山ひなの(18)柴山温安

JFA アカデミー福島(監督:見汐翔太):[GK](1)福田真央 [DF](2)原ひばり(5)古川心尋(9)林椿(13)伊藤杏莉 [MF](4)佐野杏花<→81'(3)石井音羽>(10)榎愛花<→85'(7)松井望花>(14)花城恵唯(19)松下遥蘭(20)北島景子<→72'(17)野田美多葉> [FW](8)福島望愛

控え:(12)神田瑠伽(18)若月りる葉(6)松本有波(15)西ひまり

得点 [大商学園]10'中野梨緒(1-0)、68'佐藤ももサロワノウエキ(2-3)
[JFA アカデミー福島]30'松下遥蘭(1-1)、50'榎愛花(1-2)、63'福島望愛(1-3)

<大商学園高校> 監督:岡久奨
福田みのり、西桃花、東愛結、中野梨緒、牧野生成、佐竹結愛、近藤花、西村日花、福山ひなの、渡邊彩乃、小林絆愛、森田結衣花、浅井彩希、近藤柚月、村上杏奈、上村真生子、笠崎愛乃、中村美南、柴山温安、坂口里緒、土肥夕月、山田千咲紀、福田愛子、高橋佑里、桜井琴音、佐藤ももサロワノウエキ、高山よぞら、花田ここな、白井心、中村彩葉

<JFA アカデミー福島> 監督:見汐翔太
福田真央、神田瑠伽、若月りる葉、立花実那、植木愛琉、原ひばり、佐野杏花、古川心尋、松本有波、伊藤杏莉、西ひまり、小林羽留、高橋柚乃、渡邊優奈、石井音羽、林椿、榎愛花、高橋心花、松下遥蘭、北島景子、佐々木樹璃、山路真白、福田こまち、松井望花、福島望愛、鳥尾芽生、花城恵唯、野田美多葉、田中愛純香

データボックス

2025明治安田J1リーグ

20クラブによる2回戦総当たりリーグ戦（ホーム&アウェイ方式）で、全38節/380試合を実施した。

※ 22 ページに関連記事あり

戦績表

順位	チーム名	鹿島	柏	京都	広島	神戸	町田	浦和	川崎F	G大阪	C大阪	FC東京	福岡	岡山	清水	横浜FM	名古屋	東京V	横浜FC	湘南	新潟	勝ち点	勝	分	負	得点	失点	差
1	鹿島アントラーズ	H	302	304	1Δ1	100	100	1Δ1	201	0Δ0	301	200	1Δ1	102	100	201	100	400	201	300	201	76	23	7	8	58	31	27
	A	301	1Δ1	001	0Δ0	102	100	102	100	001	100	100	201	1Δ1	103	400	100	300	001	201								
2	柏レイソル	H	103	3Δ3	0Δ0	103	100	402	1Δ1	100	201	100	201	201	100	100	100	0Δ0	200	200	1Δ1	75	21	12	5	60	34	26
	A	203	1Δ1	1Δ1	0Δ0	003	200	4Δ4	500	1Δ1	1Δ1	100	102	200	200	201	300	1Δ1	100	301								
3	京都サンガF.C.	H	1Δ1	1Δ1	100	200	1Δ1	1Δ1	1Δ1	301	203	300	001	500	001	003	1Δ1	100	201	200	201	68	19	11	8	62	40	22
	A	403	3Δ3	1Δ1	1Δ1	201	102	100	102	201	400	2Δ2	002	201	300	201	001	100	1Δ1	201								
4	サンフレッチェ広島	H	100	1Δ1	1Δ1	001	201	300	102	100	201	0Δ0	201	001	0Δ0	100	102	201	100	201	001	68	20	8	10	46	28	18
	A	1Δ1	0Δ0	001	001	201	001	201	100	1Δ1	300	201	100	1Δ1	003	102	300	400	100	200								
5	ヴィッセル神戸	H	0Δ0	0Δ0	1Δ1	100	100	001	201	302	103	001	200	201	100	201	400	001	400	001	64	18	10	10	46	33	13	
	A	001	301	002	100	002	001	201	1Δ1	1Δ1	001	0Δ0	201	203	201	2Δ2	100	100	201	2Δ2								
6	FC町田ゼルビア	H	201	300	102	102	200	002	2Δ2	301	300	001	0Δ0	100	300	003	301	001	1Δ1	001	60	17	9	12	52	38	14	
	A	001	001	1Δ1	102	001	0Δ0	305	100	201	100	2Δ2	2Δ2	2Δ2	0Δ0	201	100	200	201	400								
7	浦和レッズ	H	001	002	201	100	100	0Δ0	400	001	0Δ0	302	0Δ0	100	201	301	201	200	201	401	59	16	11	11	45	39	6	
	A	1Δ1	204	1Δ1	003	0Δ0	200	2Δ2	001	1Δ1	203	001	100	0Δ0	004	102	0Δ0	201	102	1Δ1								
8	川崎フロンターレ	H	201	4Δ4	001	102	102	503	2Δ2	2Δ2	200	001	205	1Δ1	503	3Δ3	400	0Δ0	201	200	301	57	15	12	11	67	57	10
	A	102	1Δ1	1Δ1	201	102	2Δ2	004	102	002	300	201	0Δ0	1Δ1	300	403	001	100	201	1Δ1								
9	ガンバ大阪	H	001	005	201	001	1Δ1	001	100	201	205	200	201	003	100	301	200	401	302	400	402	57	17	6	15	53	55	-2
	A	0Δ0	001	103	001	203	103	100	2Δ2	100	003	001	002	0Δ0	002	200	100	1Δ1	504	3Δ3								
10	セレッソ大阪	H	100	1Δ1	102	1Δ1	1Δ1	102	1Δ1	200	001	1Δ1	200	201	402	100	1Δ1	201	103	102	301	52	14	10	14	60	57	3
	A	103	102	302	102	301	003	0Δ0	002	502	2Δ2	2Δ2	402	201	401	103	102	001	002	3Δ3	2Δ2							
11	FC東京	H	001	1Δ1	004	003	100	001	302	003	300	2Δ2	100	301	002	203	301	100	201	0Δ0	1Δ1	50	13	11	14	41	48	-7
	A	002	001	003	0Δ0	0Δ0	100	203	100	002	1Δ1	001	001	1Δ1	300	1Δ1	2Δ2	100	2Δ2	302								
12	アビスパ福岡	H	001	001	2Δ2	102	0Δ0	2Δ2	100	102	100	204	100	1Δ1	0Δ0	201	1Δ1	0Δ0	100	100	302	48	12	12	14	34	38	-4
	A	1Δ1	102	100	102	100	0Δ0	0Δ0	502	102	002	001	100	103	002	001	0Δ0	001	0Δ0	100								

順位	チーム名	鹿島	柏	京都	広島	神戸	町田	浦和	川崎F	G大阪	C大阪	FC東京	福岡	岡山	清水	横浜FM	名古屋	東京V	横浜FC	湘南	新潟	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
13	ファジアーノ岡山	H 1●2	2○1	2○0	0●1	1●2	2△2	0●1	0△0	2○0	1●2	1○0	0●1	△1	1△1	1○0	0●1	0●1	0△0	1○0	2○1	45	12	9	17	34	43	-9
14	清水エスパルス	H 1△1	0●2	1●2	1△1	3○2	2△2	0△0	1△1	0△0	1●4	1△1	3○1	1●2	●	1●3	0●3	1○0	2○0	3○0	2○0	44	11	11	16	41	51	-10
15	横浜F・マリノス	H 3○1	0●2	0●3	3○0	1●2	0△0	4○0	0●3	2○0	3○1	0●3	2○0	0●1	2○3	●	3○0	0△0	0△0	1△1	1△1	43	12	7	19	46	47	-1
16	名古屋グランパス	H 0●4	1●2	1●2	2○1	2△2	1●2	2○1	3●4	0●2	2○1	1△1	1○0	0△0	1△1	2○0	●	0△0	2○1	3○1	3○0	43	11	10	17	44	56	-12
17	東京ヴェルディ	H 0●1	0●3	1○0	0●3	0●1	0●1	0△0	1○0	0●1	1○0	2△2	0△0	4○2	0●1	1○0	2○1	●	2○0	0●2	1○0	43	11	10	17	23	41	-18
18	横浜FC	H 0●3	1△1	0●1	0●4	0●1	0●2	1●2	0●1	1△1	2○0	0●1	1○0	1○0	2○0	0●1	2△2	0△0	●	1○0	1○0	35	9	8	21	27	45	-18
19	湘南ベルマーレ	H 1○0	0●1	1△1	0●1	1●2	1●2	2○1	1●2	4●5	3△3	2△2	0△0	1△1	1○0	1△1	2○1	0●1	0●1	●	5○2	32	8	8	22	36	63	-27
20	アルビレックス新潟	H 1●2	1●3	1●2	0●2	2△2	0●4	1△1	1△1	3△3	2△2	2●3	0●1	1△1	0●1	1○0	0△0	2△2	0△0	2○1	●	24	4	12	22	36	67	-31

⇒※18位の横浜FC、19位の湘南ベルマーレ、20位のアルビレックス新潟は、「明治安田J2リーグ」に自動降格。

○:勝 ●:敗 △:引き分け、H:ホーム A:アウェイ

2025明治安田 J2リーグ

20クラブによる2回戦総当たりリーグ戦（ホーム&アウェイ方式）で、全38節/380試合を実施した。

■戦績表

※23ページに関連記事あり

順位	チーム名	水戸	長崎	千葉	徳島	磐田	大宮	仙台	鳥栖	いわき	山形	今治	札幌	甲府	秋田	藤枝	大分	富山	熊本	山口	愛媛	勝点	勝	分	負	得点	失点	差
1	水戸ホーリーホック	H ●	3○0	0●1	1△1	1●3	0●2	2△2	1○0	4○1	1○0	0△0	3○1	0△0	2○1	2○0	2○0	3○0	2○1	2△2	1△1	70	20	10	8	55	34	21
2	V・ファーレン長崎	H 2○1	●	1○0	1○0	1○0	3△3	0△0	0●2	3●4	1△1	1△1	2○1	4○0	5○1	2○1	1○0	1△1	3○2	1○0	1△1	70	19	13	6	63	44	19
3	ジェフユナイテッド千葉	H 2○1	0●2	●	1○0	0●1	1●2	0△0	0●2	2△2	3○2	5○0	2○1	3○1	1△1	1○0	2○0	2△2	0△0	5○1	●	69	20	9	9	56	34	22
4	徳島ヴォルティス	H 0●1	1△1	3△3	●	1△1	1○0	1○0	0●1	0●1	1○0	1○0	1●2	4○1	1△1	0●2	2○0	1○0	0△0	2○0	1○0	65	18	11	9	45	24	21
5	ジュビロ磐田	H 3○2	1○0	1○0	0●4	●	3○4	0●1	1○0	2○0	2△2	1○0	5○1	2○1	1●4	1○0	0●3	2○0	1△1	0●1	4○0	64	19	7	12	59	51	8
6	RB大宮アルディージャ	H 2○0	1●2	2○1	1●2	2△2	●	3○0	0△0	1●2	2○1	2●3	1○0	5○0	1○0	1○0	2△2	2△2	1○0	2○1	1△1	63	18	9	11	60	39	21
7	ベガルタ仙台	H 1△1	1△1	1○0	0●2	2●3	1●2	●	3○2	0●1	3○1	0△0	1△1	0△0	1○0	2○1	2○0	0●1	2○0	3○1	1△1	62	16	14	8	47	36	11
8	サガン鳥栖	H 2△2	1●2	1△1	0△0	1●2	1○0	0●1	●	1○0	2○1	1●4	2○1	0△0	1○0	1○0	2○1	1○0	4○2	2△2	2△2	58	16	10	12	46	43	3
9	いわきFC	H 0●1	1△1	2○0	1△1	3○1	2○1	1●2	1△1	●	0●1	1△1	2●3	1△1	3○1	4○0	3○1	5○1	0△0	2○1	●	56	15	11	12	55	44	11
10	モンテディオ山形	H 1●2	1●2	0●1	0△0	0△0	2△2	3●4	3○2	1○0	●	2○1	0●1	0●4	4○2	2○1	3○0	3○0	1△1	2○1	2●3	53	15	8	15	58	54	4
11	FC今治	H 0△0	1△1	0●5	0●1	0●1	3○2	0△0	4○1	1○0	1●2	●	2△2	0●1	2○1	0△0	1○0	1○0	2○1	1○0	3○2	53	13	14	11	46	46	0
12	北海道コンサドーレ札幌	H 0●1	2△2	1●3	1○0	2●4	1○0	0●3	1○0	1●5	1●2	2△2	●	0●1	0●2	2○1	3○1	2○1	3○2	1○0	3○0	53	16	5	17	50	63	-13
13	ヴァンフォーレ甲府	H 0●1	1△1	1●2	0●2	0●1	1○0	1●2	2●3	1○0	1●3	1○0	1●2	●	1△1	3△3	2○0	0●1	1△1	1○0	0△0	44	11	11	16	37	45	-8
14	ブラウブリッツ秋田	H 0●2	0△0	0△0	0●2	2○1	1●2	0△0	1●2	2○0	2●3	1●2	1●3	0●1	●	0△0	0△0	2△2	3○2	1○0	3○2	43	11	10	17	43	59	-16
15	藤枝MYFC	H 0●2	3○2	2●3	0●2	2○1	0●1	1△1	0△0	2○0	2○1	0△0	1●3	1△1	2○1	●	1△1	0●1	0●2	2△2	4○1	39	9	12	17	41	50	-9
16	大分トリニータ	H 0△0	1●2	0●1	1△1	0△0	0△0	0△0	1○0	0△0	1●2	0●1	2○0	2○1	1●2	1△1	●	2△2	1○0	1○0	0●3	38	8	14	16	27	44	-17
17	カタール富山	H 0●1	1●2	1○0	1●3	3○1	0●2	0●1	3○1	1●2	0△0	1●2	0●2	2○0	4○1	0●1	1△1	●	0●1	2△2	1△1	37	9	10	19	34	49	-15
18	ロアッソ熊本	H 2○1	1●3	0△0	2○1	2○0	0●4	0●1	3○1	0●2	1●3	0●1	3○0	0△0	1●2	2○1	0●1	0△0	0●1	0△0	0●1	37	9	10	19	41	57	-16
19	レノファ山口FC	H 1●2	2△2	2○1	0△0	1●2	3○2	2△2	1●2	2△2	1○0	1●2	2○0	0●1	1△1	0△0	1△1	1○0	0●1	●	1△1	36	7	15	16	36	47	-11
20	愛媛FC	H 1●3	0●4	0●1	0●2	1●3	0●3	1△1	0●1	1△1	1●3	2●3	1●2	0△0	1●2	2●4	0●1	0●1	1△1	2○0	●	22	3	13	22	35	71	-36

⇒※1位の水戸ホーリーホック、2位のV・ファーレン長崎は、「明治安田J1リーグ」に自動昇格。

○:勝 ●:敗 △:引き分け、H:ホーム A:アウェイ

※3位~6位のうち、J1ライセンスが付与されている3位・ジェフユナイテッド千葉、4位・徳島ヴォルティス、5位・ジュビロ磐田、6位・RB大宮アルディージャは、「明治安田J1プレーオフ」に出場(次ページ参照)

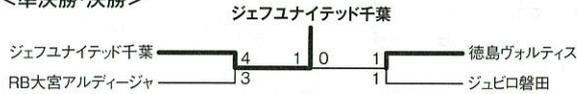
※18位のロアッソ熊本、19位のレノファ山口FC、20位の愛媛FCは、「明治安田J3リーグ」に自動降格。

明治安田 J1昇格プレーオフ2025

各1試合のトーナメント方式(計3試合)にて実施。明治安田 J2 リーグ年間順位 3~6位のクラブでトーナメントを行う。準決勝の組み合わせは、3位 vs 6位、4位 vs 5位。

<準決勝・決勝>

※ 22 ~ 23 ページに関連記事あり



※ジェフユナイテッド千葉が、「明治安田J1リーグ」に昇格。

2025明治安田 J3リーグ

20クラブによる2回戦総当たりリーグ戦(ホーム&アウェイ方式)で、全38節/380試合を実施した。

■戦績表

※ 24 ページに関連記事あり

順位	チーム名	栃木C	八戸	FC大阪	宮崎	鹿児島	金沢	栃木SC	北九州	奈良	福島	鳥取	相模原	岐阜	群馬	松本	琉球	讃岐	高知	長野	沼津	勝5点	勝	分	敗	得点	失点	差	
1	栃木シティ	H 100 A 0△0	100 0△0	201 001	302 1△1	201 001	102 001	001 1△1	100 301	300 102	2△2 001	100 500	201 002	100 002	1△1 002	302 100	302 2△2	301 100	300 500	300 201	0△0 504	77	23	8	7	69	37	32	
2	ヴァンラーレ八戸	H 0△0 A 001	0△0 001	1△1 001	201 0△1	100 1△1	200 100	200 001	102 1△1	1△1 100	100 1△1	102 100	100 001	102 100	501 100	200 400	200 0△0	100 1△1	001 102	302 0△0	100 100	100 100	72	21	9	8	46	23	23
3	FC大阪	H 100 A 102	100 1△1	000 0△0	0△0 0△0	102 102	001 001	001 001	1△1 1△1	100 100	201 201	201 201	302 302	002 002	1△1 1△1	100 100	300 300	201 201	0△0 0△0	201 201	0△0 201	201 201	71	21	8	9	55	33	22
4	テゲバジャーロ宮崎	H 1△1 A 203	100 102	0△0 0△0	0△0 002	1△1 302	1△1 201	203 1△1	103 100	2△2 100	301 102	201 401	402 001	302 302	201 0△0	100 201	100 1△1	402 501	100 1△1	302 401	100 201	201 100	67	19	10	9	61	45	16
5	鹿児島ユナイテッドFC	H 003 A 102	1△1 001	201 003	200 1△1	200 1△1	200 204	002 002	1△1 1△1	200 200	2△2 2△2	0△0 0△0	200 301	300 302	502 302	100 1△1	100 100	102 102	201 1△1	102 401	301 600	1△1 1△1	66	18	12	8	69	44	25
6	ツエーゲン金沢	H 102 A 201	001 002	201 001	203 1△1	402 201	200 100	001 102	201 102	201 100	200 102	200 1△1	0△0 100	401 100	103 100	100 102	100 001	102 100	201 1△1	102 1△1	301 301	301 103	59	18	5	15	53	45	8
7	栃木SC	H 1△1 A 100	001 002	100 100	102 302	200 001	001 002	001 0△0	1△1 0△0	100 0△0	201 2△2	102 102	001 001	100 100	100 100	1△1 1△1	301 1△1	401 102	100 104	100 100	100 400	302 0△0	58	17	7	14	42	36	6
8	ギラヴァンツ北九州	H 103 A 001	100 201	100 300	1△1 301	1△1 001	101 100	0△0 100	001 004	102 001	102 203	1△1 100	102 001	102 102	001 100	100 200	102 102	201 401	200 203	002 203	200 1△1	100 301	56	17	5	16	46	41	5
9	奈良クラブ	H 201 A 003	1△1 1△1	1△1 2△2	001 201	002 102	201 1△1	0△0 100	400 100	001 102	1△1 102	100 1△1	102 102	1△1 1△1	002 003	200 200	002 002	203 203	001 001	001 001	001 001	001 001	56	15	11	12	50	46	4
10	福島ユナイテッドFC	H 2△2 A 2△2	001 001	001 107	201 103	2△2 005	001 102	2△2 001	100 201	2△2 2△2	100 201	100 201	300 100	3△3 403	204 204	100 3△3	100 402	303 402	302 304	104 104	1△1 1△1	1△1 1△1	56	16	8	14	60	67	-7
11	ガイナレ鳥取	H 100 A 001	1△1 203	102 001	104 102	0△0 103	1△1 002	201 102	302 201	201 001	102 003	001 001	100 100	201 402	300 002	301 001	0△0 100	200 100	100 0△0	100 100	200 1△1	403 003	51	15	6	17	44	49	-5
12	SC相模原	H 005 A 102	001 201	102 200	100 204	002 003	100 0△0	100 201	101 1△1	101 102	101 3△3	100 102	001 001	100 100	005 1△1	100 002	401 002	100 002	1△1 002	100 100	1△1 1△1	0△0 0△0	50	13	11	14	38	50	-12
13	FC岐阜	H 200 A 001	001 105	203 1△1	203 102	103 203	102 104	001 201	100 100	1△1 100	1△1 304	002 003	204 500	1△1 001	005 1△1	100 001	100 101	100 100	1△1 1△1	100 301	1△1 201	302 201	47	13	8	17	52	60	-8
14	ザスバ群馬	H 200 A 1△1	004 002	200 304	0△0 201	203 205	001 301	001 100	002 001	200 103	102 402	200 103	1△1 102	1△1 102	001 301	1△1 203	602 301	0△0 203	3△3 102	2△2 100	0△0 203	0△0 201	46	12	10	16	56	59	-3
15	松本山雅FC	H 001 A 203	0△0 002	1△1 001	102 0△0	1△1 203	201 001	1△1 103	201 201	102 102	001 001	0△0 0△0	001 001	1△1 1△1	206 206	001 001	100 100	103 103	1△1 300	005 200	05 1△1	200 1△1	43	11	10	17	41	50	-9
16	FC琉球	H 2△2 A 203	1△1 001	001 003	1△1 204	102 1△1	100 201	001 104	002 102	001 3△3	001 002	100 002	100 104	100 001	100 0△0	302 100	003 001	003 001	1△1 001	201 1△1	200 200	203 200	40	10	10	18	41	57	-16
17	カマタマレ讃岐	H 001 A 103	201 100	003 102	003 001	105 1△1	0△0 102	1△1 001	104 002	200 304	102 204	102 001	100 1△1	100 001	100 3△3	100 201	100 1△1	100 100	102 200	001 001	100 1△1	100 1△1	38	10	8	20	41	57	-16
18	高知ユナイテッドSC	H 005 A 003	0△0 203	102 001	102 203	2△2 104	1△1 201	001 001	302 200	302 003	100 403	0△0 001	001 1△1	100 1△1	103 2△2	001 500	101 102	101 201	002 201	001 001	100 100	001 001	38	10	8	20	40	60	-20
19	AC長野パルセイロ	H 102 A 003	001 001	0△0 003	001 100	103 006	103 001	004 002	1△1 002	100 002	200 401	1△1 002	1△1 102	102 102	302 0△0	100 2△2	1△1 002	100 100	001 001	001 001	201 0△0	201 0△0	35	9	8	21	29	57	-28
20	アスルクラロ沼津	H 405 A 0△0	001 001	102 103	001 102	0△0 1△1	301 103	0△0 203	0△0 001	103 001	100 1△1	103 304	300 103	0△0 203	102 0△0	102 002	1△1 002	102 302	1△1 001	400 100	0△0 102	0△0 102	28	6	10	22	40	57	-17

○:勝 ●:敗 △:引き分け、H:ホーム A:アウェイ

⇒※1位の栃木シティ、2位のヴァンラーレ八戸は、「明治安田J2リーグ」に自動昇格。

※3位~6位のうち、J1ライセンスが付与されている3位・FC大阪、4位・テゲバジャーロ宮崎、5位・鹿児島ユナイテッドFC、6位・ツエーゲン金沢は、「明治安田J2プレーオフ」に出場(下記参照)

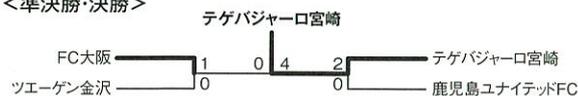
※20位のアスルクラロ沼津は、「2025 J3・JFL入れ替え戦」に出場(下記参照)

明治安田 J2昇格プレーオフ2025

各1試合のトーナメント方式(計3試合)にて実施。明治安田 J3 リーグ年間順位 3~6位のクラブでトーナメントを行う。準決勝の組み合わせは、3位 vs 6位、4位 vs 5位。

<準決勝・決勝>

※ 23 ~ 24 ページに関連記事あり



※テゲバジャーロ宮崎が、「明治安田J2リーグ」に昇格。

2025 J3・JFL 入れ替え戦

ホーム&アウェイ方式の2試合にて実施。明治安田 J3 リーグ年間順位 20位のクラブと日本フットボールリーグ (JFL) 年間順位 2位のクラブで行う。

※ 24 ページに関連記事あり

レイラック滋賀FC 3-2 アスルクラロ沼津
アスルクラロ沼津 1-1 レイラック滋賀FC

⇒ ※レイラック滋賀は、「明治安田J3リーグ」に入会。

データボックス

FIFA U-17ワールドカップカタール2025

※92～95ページに関連記事あり

■グループステージ 試合結果

グループ	日時		対戦結果		会場	
A	11月3日	18:45	カタール	0-1 (0-1)	イタリア	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Mufтах
		15:30	南アフリカ	3-1 (1-0)	ボリビア	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
	11月6日	18:45	カタール	1-1 (1-1)	南アフリカ	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Mufтах
		15:30	ボリビア	0-4 (0-2)	イタリア	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
	11月9日	18:45	ボリビア	0-0	カタール	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Mufтах
B	11月3日	18:45	イタリア	3-1 (1-1)	南アフリカ	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
		16:30	日本	2-0 (0-0)	モロッコ	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan
	11月6日	18:15	ニューカレドニア	1-6 (1-1)	ボルトガル	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
		16:00	日本	0-0	ニューカレドニア	Aspire Zone - Pitch 1 - Mohammed Ghanim
	11月9日	16:30	ボルトガル	6-0 (4-0)	モロッコ	Aspire Zone - Pitch 8 - Mahmoud Soufi
C	11月3日	16:00	セネガル	0-0	クロアチア	Aspire Zone - Pitch 1 - Mohammed Ghanim
		15:30	コスタリカ	1-1 (0-0)	アラブ首長国連邦	Aspire Zone - Pitch 8 - Mahmoud Soufi
	11月6日	18:45	セネガル	1-0 (1-0)	コスタリカ	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
		18:15	アラブ首長国連邦	0-3 (0-2)	クロアチア	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
	11月9日	17:45	アラブ首長国連邦	0-5 (0-3)	セネガル	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
D	11月3日	17:45	クロアチア	3-1 (1-0)	コスタリカ	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
		18:45	アルゼンチン	3-2 (1-1)	ベルギー	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
	11月6日	16:30	アルゼンチン	6-0 (2-0)	フィジー	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
		17:45	アルゼンチン	1-0 (0-0)	チュニジア	Aspire Zone - Pitch 5 - Adel Malalla
	11月9日	15:30	フィジー	0-7 (0-3)	アルゼンチン	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
E	11月4日	18:15	イングランド	0-3 (0-2)	ベネズエラ	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
		16:30	ハイチ	1-4 (1-3)	エジプト	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan
	11月7日	15:30	イングランド	8-1 (3-1)	ハイチ	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
		16:30	エジプト	1-1 (0-1)	ベネズエラ	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan
	11月10日	18:45	エジプト	0-3 (0-1)	イングランド	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Mufтах
F	11月4日	18:45	ベネズエラ	4-2 (2-1)	ハイチ	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
		16:00	メキシコ	1-2 (1-1)	韓国	Aspire Zone - Pitch 1 - Mohammed Ghanim
	11月7日	15:30	コートジボワール	1-4 (0-2)	スイス	Aspire Zone - Pitch 8 - Mahmoud Soufi
		17:45	メキシコ	1-0 (0-0)	コートジボワール	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
	11月10日	15:30	スイス	0-0	韓国	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
G	11月4日	17:45	ドイツ	1-1 (1-0)	コロンビア	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
		18:45	朝鮮民主主義人民共和国	5-0 (2-0)	エルサルバドル	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
	11月7日	16:00	ドイツ	1-1 (0-0)	朝鮮民主主義人民共和国	Aspire Zone - Pitch 1 - Mohammed Ghanim
		15:30	エルサルバドル	0-0	コロンビア	Aspire Zone - Pitch 8 - Mahmoud Soufi
	11月10日	16:30	エルサルバドル	0-7 (0-3)	ドイツ	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan
H	11月4日	15:30	ブラジル	7-0 (4-0)	ホンジュラス	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
		18:45	インドネシア	1-3 (1-3)	ザンビア	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Mufтах
	11月7日	18:45	ブラジル	4-0 (3-0)	インドネシア	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Mufтах
		18:45	ザンビア	5-2 (3-1)	ホンジュラス	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
	11月10日	17:45	ザンビア	1-1 (1-0)	ブラジル	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
I	11月5日	18:15	アメリカ	1-0 (0-0)	ブルキナファソ	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
		15:30	タジキスタン	1-6 (0-4)	チェコ	Aspire Zone - Pitch 8 - Mahmoud Soufi
	11月8日	17:45	アメリカ	2-1 (1-1)	タジキスタン	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
		15:30	チェコ	1-2 (1-1)	ブルキナファソ	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
	11月11日	17:45	チェコ	0-1 (0-0)	アメリカ	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
J	11月5日	17:45	ブルキナファソ	2-0 (0-0)	タジキスタン	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
		16:00	パラグアイ	1-2 (0-2)	ウズベキスタン	Aspire Zone - Pitch 1 - Mohammed Ghanim
	11月8日	15:30	パナマ	1-4 (0-2)	アイルランド共和国	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
		18:15	パラグアイ	2-1 (0-0)	パナマ	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
	11月11日	18:45	アイルランド共和国	2-1 (1-1)	ウズベキスタン	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
K	11月5日	16:30	アイルランド共和国	0-0	パラグアイ	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan
		16:30	ウズベキスタン	6-1 (0-0)	パナマ	Aspire Zone - Pitch 1 - Mohammed Ghanim
	11月8日	18:45	フランス	2-0 (0-0)	チリ	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Mufтах
		18:45	カナダ	2-1 (0-1)	ウガンダ	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
	11月11日	16:30	フランス	0-0	カナダ	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan
L	11月5日	15:30	ウガンダ	1-1 (0-1)	チリ	Aspire Zone - Pitch 8 - Mahmoud Soufi
		15:30	ウガンダ	1-0 (1-0)	フランス	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
	11月8日	15:30	チリ	2-1 (0-1)	カナダ	Aspire Zone - Pitch 8 - Mahmoud Soufi
		17:45	マリ	3-0 (1-0)	ニュージーランド	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
	11月11日	16:30	オーストラリア	1-0 (0-0)	サウジアラビア	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan

■ノックアウトステージ 試合結果

	日時	対戦結果		会場		
ラウンド32	11月14日	17:45	アルゼンチン	2-2 (1-0) PK4-5	メキシコ	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
		18:45	アメリカ	1-1 (1-0) PK3-4	モロッコ	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Mufтах
		18:45	ブラジル	0-0PK5-4	パラグアイ	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
		16:00	スイス	3-1 (2-0)	エジプト	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan
		18:15	アイルランド共和国	1-1 (0-0) PK9-8	カナダ	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
		16:30	フランス	2-0 (1-0)	コロンビア	Aspire Zone - Pitch 1 - Mohammed Ghanim
		15:30	ザンビア	1-3 (0-0)	マリ	Aspire Zone - Pitch 8 - Mahmoud Soufi
		15:30	ボルトガル	2-1 (2-1)	ベルギー	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal

	日時	対戦結果			会場	
ラウンド32	11月15日	18:45	オーストリア	2-0(0-0)	チュニジア	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan
		16:00	イタリア	2-0(0-0)	チェコ	Aspire Zone - Pitch 1 - Mohammed Ghanim
		15:30	セネガル	0-1(0-1)	ウガンダ	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Muftah
		18:15	ベネズエラ	1-2(0-2)	朝鮮民主主義人民共和国	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
		16:30	日本	3-0(0-0)	南アフリカ	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
		17:45	ドイツ	0-1(0-1)	ブルキナファソ	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
		18:45	クロアチア	1-1(0-1) PK3-4	ウズベキスタン	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
ラウンド16	11月18日	15:30	韓国	0-2(0-2)	イングランド	Aspire Zone - Pitch 8 - Mahmoud Soufi
		16:00	メキシコ	0-5(0-1)	ポルトガル	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
		18:45	オーストリア	4-0(0-0)	イングランド	Aspire Zone - Pitch 9 - Adel Malalla
		15:30	イタリア	3-2(1-0)	ウズベキスタン	Aspire Zone - Pitch 8 - Mahmoud Soufi
		18:45	モロッコ	3-2(2-1)	マリ	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Muftah
		16:30	ブラジル	1-1(0-1) PK4-3	フランス	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
		15:30	ウガンダ	1-1(0-0) PK3-5	ブルキナファソ	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Salman
準々決勝	11月21日	18:15	朝鮮民主主義人民共和国	1-1(0-1) PK4-5	日本	Aspire Zone - Pitch 4 - Khaled Salman
		17:45	スイス	3-1(0-0)	アイルランド共和国	Aspire Zone - Pitch 1 - Mohammed Ghanim
		17:45	ポルトガル	2-0(1-0)	スイス	Aspire Zone - Pitch 2 - Ibrahim Khalfan
		15:30	オーストリア	1-0(0-0)	日本	Aspire Zone - Pitch 3 - Bader Bilal
		16:30	イタリア	1-0(0-0)	ブルキナファソ	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan
準決勝	11月24日	18:45	モロッコ	1-2(1-1)	ブラジル	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Muftah
		19:00	ポルトガル	0-0PK6-5	ブラジル	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Muftah
3位決定戦	11月27日	16:30	オーストリア	2-0(0-0)	イタリア	Aspire Zone - Pitch 5 - Khaled Ballan
		15:30	ブラジル	0-0PK2-4	イタリア	Aspire Zone - Pitch 7 - Mansour Muftah
決勝	11月27日	19:00	ポルトガル	1-0(1-0)	オーストリア	Khalifa International Stadium

■FIFA U-17ワールドカップカタール2025で日本人審判員が担当した試合

※キックオフ日時は現地時間

- グループA(開幕戦) 南アフリカ vs ポリビア 主審: 笠原寛貴 副審: 浅田武士、道山悟至
 グループA イタリア vs 南アフリカ 主審: 笠原寛貴 副審: 浅田武士、道山悟至
 グループC セネガル vs コスタリカ 主審: 笠原寛貴 副審: 浅田武士、道山悟至
 グループF メキシコ vs コートジボワール 4th: 笠原寛貴 5th: 道山悟至
 グループH ブラジル vs ホンジュラス 4th: 笠原寛貴 5th: 浅田武士
 ラウンド32 フランス vs コロンビア 4th: 笠原寛貴 5th: 浅田武士

FIFA フットサル女子ワールドカップフィリピン2025

※96~99ページに関連記事あり

■グループステージ 試合結果

グループ	日時	対戦結果			会場	
A	11月21日	18:00	モロッコ	0-6(0-4)	アルゼンチン	PhilSports Arena
		20:30	フィリピン	0-6(0-2)	ポーランド	PhilSports Arena
		18:00	アルゼンチン	3-2(3-0)	ポーランド	PhilSports Arena
	11月24日	20:30	フィリピン	2-3(2-3)	モロッコ	PhilSports Arena
		18:00	ポーランド	0-1(0-0)	モロッコ	PhilSports Arena
		20:30	アルゼンチン	5-1(5-0)	フィリピン	PhilSports Arena
B	11月22日	17:00	コロンビア	2-0(1-0)	カナダ	PhilSports Arena
		19:30	スペイン	5-2(3-2)	タイ	PhilSports Arena
		18:00	カナダ	3-6(2-3)	タイ	PhilSports Arena
	11月25日	20:30	スペイン	5-1(4-0)	コロンビア	PhilSports Arena
		18:00	タイ	1-4(1-2)	コロンビア	PhilSports Arena
		20:30	カナダ	0-7(0-5)	スペイン	PhilSports Arena
C	11月23日	12:00	日本	6-0(2-0)	ニュージーランド	PhilSports Arena
		14:30	ポルトガル	10-0(6-0)	タンザニア	PhilSports Arena
		13:00	ニュージーランド	2-4(1-1)	タンザニア	PhilSports Arena
	11月26日	15:30	ポルトガル	3-1(2-0)	日本	PhilSports Arena
		12:00	タンザニア	0-9(0-3)	日本	PhilSports Arena
		14:30	ニュージーランド	0-11(0-7)	ポルトガル	PhilSports Arena
D	11月23日	17:00	イタリア	17-0(4-0)	パナマ	PhilSports Arena
		19:30	ブラジル	4-1(2-0)	イラン	PhilSports Arena
		18:00	パナマ	2-6(1-3)	イラン	PhilSports Arena
	11月26日	20:30	ブラジル	6-1(2-1)	イタリア	PhilSports Arena
		17:00	イラン	1-3(1-0)	イタリア	PhilSports Arena
		19:30	パナマ	0-9(0-7)	ブラジル	PhilSports Arena

■ノックアウトステージ 試合結果

	日時	対戦結果			会場	
準々決勝	12月1日	18:00	アルゼンチン	4-1(3-1)	コロンビア	PhilSports Arena
		20:30	スペイン	6-1(3-1)	モロッコ	PhilSports Arena
	12月2日	18:00	ポルトガル	7-2(2-1)	イタリア	PhilSports Arena
		20:30	ブラジル	6-1(5-0)	日本	PhilSports Arena
準決勝	12月5日	18:00	アルゼンチン	1-7(0-6)	ポルトガル	PhilSports Arena
		20:30	スペイン	1-4(0-2)	ブラジル	PhilSports Arena
3位決定戦	12月7日	17:00	アルゼンチン	1-5(0-1)	スペイン	PhilSports Arena
決勝	12月7日	19:30	ポルトガル	0-3(0-1)	ブラジル	PhilSports Arena

■FIFAフットサル女子ワールドカップフィリピン2025で日本人審判員が担当した試合

※キックオフ日時は現地時間

- グループA アルゼンチン vs ポーランド 第2審判: 山本真理 第3審判: 齋藤香菜
 グループB スペイン vs コロンビア 主審: 齋藤香菜
 グループB カナダ vs スペイン タイムキーパー: 山本真理
 グループD パナマ vs ブラジル 主審: 齋藤香菜 第2審判: 山本真理

データボックス



鹿島が10年ぶり2度目の日本一に

高円宮杯 JFA U-18サッカープレミアリーグ2025は12月14日にリーグ最終節が行われ、**EASTは鹿島アントラーズユース(茨城県)、WESTはヴィッセル神戸U-18(兵庫県)が優勝した。**ファイナルでは鹿島が勝利し、10年ぶり2度目の日本一に。プレーオフでは来季から参入する4チームも決まった。

※戦績表などは70~71ページに掲載

WESTは神戸が劇的戴冠

プレミアリーグEASTは、開幕からの6試合で4勝2分けと好調の波に乗った流通経済大学付属柏高校(千葉県)に、FC東京U-18(東京都)や前橋育英高校(群馬県)、鹿島が追隨する形で序盤戦が展開される。鹿島は第7節終了時点で4勝3敗とやや不安定だったが、第8節以降に6連勝するなど12戦無敗の快進撃を見せ、2位以下との差を離していく。迎えた第19節で川崎フロンターレU-18(神奈川県)に勝利し、現行形式になつてから3度目のEAST制覇を達成した。

WESTでは開幕5試合で4勝1敗の神戸、開幕4連勝を飾った名古屋グランパスU-18(愛知県)が勢いを見せ、ガンバ大阪ユース(大阪府)やサンフレッチェ広島FCユース(広島県)、サガン鳥栖U-18(佐賀県)が追いかける形に。第12節以降は神戸と鳥栖のマッチレースの様相を呈し、第21節で両者の直接対決が実現。劇



プレミアリーグファイナルでは鹿島と神戸が熱戦を繰り広げた

的な逆転勝利を飾った神戸が3度目のWEST王者となった。

ファイナルはPK戦決着 鹿島が10年ぶりの王者に

12月21日に埼玉スタジアム2002で行われたプレミアリーグファイナルは、鹿島と神戸が熱戦を繰り広げた。前半は、ハイプレスからの多彩な攻撃を見せる鹿島が主導権を握り、37分に平島大悟が先制点を奪う。しかし後半に入ると一転して神戸のペースとなり、57分にはFKから原蒼汰のヘディング弾で同点に。その後はスコアが動かないまま90分間が終了。20分間の延長戦でも決着はつかず、PK戦を3-2で制した鹿島が10年ぶり2度目のファイナル制覇を達成した。

プレミアリーグプレーオフは12月12日、14日に広島県で行われ、各地域の高円宮杯JFA U-18サッカープリンスリーグ2025で上位に入った16チームが4ブ

ロックに分かれてトーナメントを戦い、プレミアリーグに昇格する4枠を争った。Aブロックからは東山高校

から、Bブロックではジュビロ磐田U-18(東海2/静岡県)が3年ぶりのプレミアリーグ復帰を果たし、ベガルタ仙台ユース(東北2/宮城)はCブロックを勝ち抜き昇格。Dブロックでは米子北高校(中国1/鳥取県)が延長戦までもつれ込んだアルビレックス新潟U-18(北信越/新潟県)との決勝を制し、降格から1年でのプレミアリーグ復帰を果たした。

プレミアリーグ順位

EAST			WEST		
1	鹿島アントラーズユース(茨城県)	1	ヴィッセル神戸U-18(兵庫県)		
2	前橋育英高校(群馬県)	2	サガン鳥栖U-18(佐賀県)		
3	FC東京U-18(東京都)	3	サンフレッチェ広島FCユース(広島県)		
4	青森山田高校(青森県)	4	ガンバ大阪ユース(大阪府)		
5	流通経済大学付属柏高校(千葉県)	5	神村学園高等部(鹿児島県)		
6	川崎フロンターレU-18(神奈川県)	6	名古屋グランパスU-18(愛知県)		
7	横浜FCユース(神奈川県)	7	大津高校(熊本県)		
8	東京ヴェルディユース(東京都)	8	アビスパ福岡U-18(福岡県)		
9	柏レイソルU-18(千葉県)	9	帝京長岡高校(新潟県)		
10	昌平高校(埼玉県)	10	フジアン岡山U-18(岡山県)		
11	浦和レッズユース(埼玉県)	11	静岡学園高校(静岡県)		
12	市立船橋高校(千葉県)	12	東福岡高校(福岡県)		

■プレミアリーグファイナル出場、■プリンスリーグ自動降格

プレーオフ結果

ブロック	1回戦	2-3	東山高校
A	帝京高校	2-3	東山高校
	尚志高校	4-0	岡山学芸館高校
決勝	東山高校	2-1	尚志高校
	日章学園高校	0-1	RB大宮アルディージャU18
B	札幌大谷高校	3-4	ジュビロ磐田U-18
	決勝	RB大宮アルディージャU18	1-5
C	清水エスパルスユース	1-1(PK1-3)	愛媛FC U-18
	阪南大学高校	0-1	ベガルタ仙台ユース
決勝	愛媛FC U-18	1-2	ベガルタ仙台ユース
	米子北高校	2-0	鹿児島城西高校
D	アルビレックス新潟U-18	1-0	桐生第一高校
	決勝	米子北高校	2-1 延長



プレーオフを勝ち上がり、プレミアリーグ復帰を決めた米子北

3年ぶりのタイトル獲得 JFAアカデミー福島が接戦を制し、



大商学園高校	2-3	JFAアカデミー福島
10'中野梨緒	(1-1)	30'松下遥蘭
68'佐藤ももサロワンウエキ		50'榊愛花
		63'福島望愛

※公式記録は80ページに掲載

JFA U-18女子サッカーファイナルズ2025が、昨年12月21日に埼玉スタジアム2002で開催された。今大会は、高円宮杯JFA U-18サッカープレミアリーグ2025ファイナルと同日・同会場で行われ、令和7年度全国高等学校総合体育大会を制した大商学園高校（大阪）と、第7回日本クラブユース女子サッカー大会（U-18）で優勝したJFAアカデミー福島（福島）が激突した。

序盤、大商学園が押し気味に試合を進める。佐藤ももサロワンウエキが「前線から強くプレスを掛ける自分たちの良さを出せた」と試合を振り返ったように、佐藤自身を含めた前線の選手たちがハイドワークしてハイプレスを掛け、ac福島のパスワークを寸断していく。10分には左サイドを突破した中野梨緒のクロスからゴール前は混戦に。そこからのこぼれ球に中野が詰めて大商学園に先制点をもたらした。

対するac福島も失点后、徐々に大商学園を押し込んでいく。30分には「ゴール前に味方が見えたので、決めてもらおうだけのボールを入れた」という榊愛花の丁寧なクロスボールを松下遥蘭がヘディングで決めて同点に迫っていく。後半開始早々には、松下のドリブル突破がペナルティエリア内での相手のファウルを誘ってPKを獲得。これを榊が冷静に沈めて勝ち越しに成功する。さらに63分、相手のバックパスを拾った福島望愛がGKの足を抜くワンタッチシュートを決めて、リードを2点に広げた。

しかし、大商学園も粘りを見せる。68分、自陣からのロングボールを相手クリアできず、スプリントをかけていた佐藤の元にこぼれると「打ったら入ると思った。ゴールだけを見て落ち着いて蹴った」という佐藤の一撃がゴールネットを揺らし、大商学園に勢いをもたらす。それでも堅実な守備で対応したac福島が1点のリードを守り抜き、勝利を収めた。惜しくも1点差で敗れた大商学園の岡久斐監督は「ハイレベルで緊張感のある試合ができたことはありがたい」と今大会の意義を語り、3年ぶり2度目の優勝を遂げたac福島の見汐翔太監督は「リーグ戦などで取り組んできたことを（今日も）発揮してくれた」と選手たちをたたえた。

大接戦を演じ、最後までac福島ゴールを目指した大商学園高校

前半、中野（中央）のゴールで大商学園が先制する

先制されたac福島は徐々に主導権を握り、前半に松下のヘディングで同点に

榊のPKで2-1としたac福島は、相手の隙を逃さなかった福島が3点目を挙げる

ASTRO SPORTS presents 2025年度第74回全日本大学サッカー選手権大会

【大会概要】

2025年12月6日に20チームによる予選ラウンドを実施。勝利10チームと地域大学サッカー連盟から選出された6校(シード校)を加えた16チームが決勝ラウンドへ、敗者10チームに全日本大学サッカー連盟理事会推薦枠の2チームを加えた12チームは強化ラウンドに進出し、それぞれグループステージ、ノックアウトステージによって順位を決定する。



筑波大学が8大会ぶり10回目の頂点に立つ

第74回を迎えた全日本大学サッカー選手権大会が2025年12月6日から27日に行われた。今年度も前年度の大会方式を採用。一発勝負の予選ラウンドでは、前年度準優勝で、2025年度の総理大臣杯全日本大学サッカー選手権大会も準優勝だった新潟医療福祉大学(北信越1)や第71回大会優勝の桐蔭横浜大学(関東8)が敗れて強化ラウンドに回る波乱があった。なお、強化ラウンドはこの両チームが決勝で対戦し、新潟医福大が勝利して次年度の出場地域枠を獲得した。

決勝ラウンドのノックアウトステージには関東勢4チーム、関西勢3チーム、東海勢1チームが進出した。大会連覇と総理大臣杯との二冠を目指していた東洋大学(関東3)は、グループステージを3位で終えて敗退。九州学生リーグを無敗で制した福岡大学(九州1)も3連敗を喫して大会を後にした。

準決勝では、国士舘大学(関東2)が関西学院大学(関西1)を3-1で破った。1-1で折り返した後半、途中出場の皆川春輝が2ゴールを決める活躍を見せて、チームを決勝に導く。準決勝のもう一試合は、筑波大学(関東1)が日本体育大学(関東7)に3-0で快勝。決勝は、2019年度以来となる関東1位と2位との顔合わせに決まった。

12月27日の決勝、会場の栃木県グリーンスタジアムには5,256

人の観衆が詰めかけた。注目の一戦は、筑波大と国士舘大が互いに得点を奪えないまま後半も中盤に差し掛かった69分、筑波大が大谷湊斗のゴールでついに先制する。71分には右CKからニアで合わせた山下景司が追加点を決めて突き放すと、87分には大谷が自身2点目を挙げて、筑波大が3-0で完勝。8大会ぶり10回目(東京教育大学時代の4回を含む)の優勝を決めた。一方、25大会ぶり5回目の優勝を目指した国士舘大は、関東リーグに続いて筑波大に苦杯をなめた。

鹿島アントラーズがJ1リーグを、水戸ホーリーホックがJ2リーグで優勝した2025シーズンの日本サッカー界だが、大学サッカーも茨城県に所在する筑波大が日本一を飾った。同校の小井土正亮監督も「茨城ファミリーとしても結果を残せたことがうれしい」と誇らしげに話した。また、決勝で2得点を決めて大会MVPに輝いた1年生の大谷も「4年生もいる中で自分を(先発メンバーに)選んでもらえたことがうれしい」と笑顔を見せた。



準優勝の国士舘大。前半から積極的に攻撃を仕掛けて筑波大ゴールを目指した



国士舘大は準々決勝の延長後半、キャプテンの吉岡優希が決勝点を決める。吉岡は準決勝でも先制点を挙げた



筑波大は準決勝、日本体育大に流れが行きそうなところ、キャプテン山崎太新(写真右)が2点目を決めて大きなリードを奪う



決勝で先制点を含む2得点を決めた筑波大の大谷。1年生ながら大会MVPに選出された

第60回全国高等専門学校体育大会サッカー競技 兼 第58回全国高等専門学校サッカー選手権大会

【大会概要】

2025年12月20日～24日、宮崎県都城市で開催。9地区から選出された15チームと開催校1チームの計16チームが参加し、ノックアウト方式で優勝を争う(3位決定戦は行わない)。試合時間は80分間。勝敗が決しない場合は20分間の延長戦を実施し、なお決しない場合はPK戦を行う。



全国高等専門学校体育大会 全国高等専門学校サッカー

石川高専が初優勝！ 激闘の延長戦を制す

第60回全国高等専門学校体育大会サッカー競技兼第58回全国高等専門学校サッカー選手権大会は、9年ぶりに出場した石川高専(北信越2)が初優勝に輝いた。

14校が宮崎県都城市に集い、ノックアウト方式で頂点を目指した今大会、前回大会優勝の呉高専(中国B)が安定した戦いで準決勝に進出する一方で、他の常連校は苦戦。前回大会で準優勝した苫小牧高専(北海道)は1回戦、福井高専(北信越1)は2回戦で敗退し、呉以外は優勝経験のないチームが4強に名を連ねた。準決勝では石川と呉、茨城高専(関東2)と熊本高専熊本(九州沖縄2)が対戦。いずれも80分では決着がつかず、石川はPK戦までもつれる試合を制して決勝へ。もう一つの試合も延長戦で熊本が茨城を破った。

小雨が降る中で行われた決勝は石川が序盤からペースを握り、10分には津田涼成の縦パスから背後に抜け出した敷田裕司がゴール至近からシュートを放つ。オフサイドにはなったが、石川は前線を生かす攻撃を継続。54分に均衡を破り、右からのグラウンダーのクロスに再び敷田が合わせて先制した。

1点を追う熊本は後半アディショナルタイム、途中出場の坂田明優が左からドリブルで仕掛けると、「途中からの出場だった

ので流れを変えたかった。ちょうど良いところにボールを置いたので利き足の左足で強く狙った」と、迷わず足を振ってゴールイン。ようやくここで熊本がチャンスをもに

し、試合は延長戦に突入する。延長後半の終了間際に決着がつく。ヒーローになったのは、途中出場してゲームを組み立てていた石川の樋詰海翔だ。相手陣内の中央でボールを保持すると、前方にいるFWへのパスではなく、シュートを選択。意表を突いた樋詰のループシュートはGKの頭上を越え、ゴールに吸い込まれた。そして、そのゴール直後にタイムアップ。樋詰は「イメージとは違うボールになったが、決まって良かった。先輩たちが人数の少ない中でチームを支えてくれた。それが今年の強さになった」とチームメートをたたえた。松本剛史顧問は「学生同士で声を掛け合い、成長しながら戦うことができた。いろいろな経験が卒業後にも生きるよう、また一生懸命に取り組んでもらいたい」と、選手たちの健闘に目を細めた。



高等専門学校体育大会 高等専門学校サッカー

接戦を制して初の決勝に進出した熊本。決勝でも同点に追いつく粘り強さを見せた



共に初優勝を懸けた決勝は一進一退の攻防に。石川は敷田(中央)ら前線の選手にボールを集めてチャンスをつくった



決勝、1点をリードされた熊本は坂田が左足のシュートを決めて同点とする



延長戦に突入した決勝、石川の樋詰(中央)が思い切ってシュートを選択。それが決勝ゴールとなり、チームにタイトルをもたらした

高円宮杯 JFA 第37回全日本U-15サッカー選手権大会



高円宮杯
JFA
U-15
CHAMPIONSHIP

【大会概要】

2025年12月13日~27日、1・2回戦は大阪府、愛媛県、山口県の各会場、準々決勝は大阪府のJ-GREEN堺、準決勝と決勝は東京都味の素フィールド西が丘で開催。各9地域サッカー協会から選出された32チームが参加し、ノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は80分(前後半各40分)。勝敗が決しない場合はPK戦で勝敗を決する(決勝のみ延長戦を実施)。



名古屋グランパスU-15が15年ぶり3度目の優勝に輝く!

高円宮杯JFA第37回全日本U-15サッカー選手権大会は4都府県で開催され、9地域協会から選出された32チームがノックアウト方式で頂点を争った。

今大会は、夏の日本クラブユースサッカー選手権(U-15)大会で準優勝したFCラヴィーダ(関東2/埼玉)が初戦で敗退し、前年王者の浦和レッズジュニアユース(関東3/埼玉)も2回戦で姿を消した。そんな波乱含みの中で躍進したのはソレシヨ熊本(九州2/熊本)だった。初戦でサンフレッチェ広島F.Cジュニアユース(中国2/広島)に4-0で快勝すると、2回戦は浦和を撃破。準々決勝は先制点を奪いながら逆転負けを喫したが、数少ないタウンクラブとして存在感を示した。

決勝に駒を進めたのは「クラブユースはベスト32で敗れて悔しい思いをしたので、3年生の集大成となる大会は絶対に優勝したかった」と主将の瀬戸山玲音が話した横浜F・マリノスジュニアユース(関東6/神奈川)と、初戦から複数得点を挙げて勝ち上がった名古屋グランパスU-15(東海3/愛知)だった。

横浜FMの背後にロングボールを入れ、前線のボールキープからチャンスをうかがう名古屋のペースで試合が進む。19分、左クロスのかぼれ球を宮永尚空がシュートし、ポストに当たっ

たボールを田邊幹大が押し込んで均衡を破った。後半も名古屋がペースをつかみ、49分には中根佳祐が上げた右CKを竹内悠三がヘディングで合わせ、2点目をマーク。62分に横浜FMの鈴木遼に1点を返されたが、69分には途中出場の福田隼太がゴールネットを揺らす。3-1で勝利した名古屋が15年ぶり3度目の日本一に輝いた。

今季の名古屋は、主力選手がU-18チームでプレーした影響もあり、東海リーグやクラブユースでは思い通りの結果を残せずにいた。しかし、試合を重ねるうちに選手が成長を遂げた。試合後、小山優監督は「勝てない時期が続いた中でも、選手たちは自分自身に矢印を向けてくれた。我慢してきたことが結果につながってうれしい」と笑顔を見せた。

主将の竹内も「夏の全国大会はベスト32で負けて悔しい思いをしたので、冬にやり返そうと思っていた。優勝という結果で終わることができてうれしい」と続けた。



名古屋グランパスU-15キャプテンの竹内悠三。守備の要としてチームをけん引し、決勝では追加点も挙げた



横浜F・マリノスジュニアユース(左)は着実に勝ち上がり、準決勝ではPK戦の末に決勝の切符をつかんだ



タウンクラブのソレシヨ熊本(中央)はサンフレッチェ広島F.Cジュニアユースと浦和レッズジュニアユースを破り8強に入る快進撃を見せた



今大会も初日から白熱した戦いが繰り広げられた。写真は1回戦・青森山田中学校(東北1/青森) vs 浦和レッズジュニアユース(関東3/埼玉)



高円宮妃杯 JFA 第30回全日本U-15女子サッカー選手権大会



【大会概要】

2025年12月13日～27日、1・2回戦は静岡県、三重県、岐阜県、大阪府の各会場、準々決勝は平和堂HATOスタジアム(滋賀県)、準決勝はAGFフィールド、決勝は味の素フィールド西が丘(共に東京都)で開催。各地域サッカー協会から選出された32チームがノックアウト方式で優勝を争う。試合時間は80分(前後半各40分)。勝敗が決しない場合はPK戦で勝敗を決する(決勝のみ延長戦を実施)。



三菱重工浦和レッズレディースジュニアユースが6年ぶり8度目の優勝を果たす！

高円宮妃杯JFA第30回全日本U-15女子サッカー選手権大会は9地域の32チームが参加し、ノックアウト方式で日本を争った。

前年度の上位勢が勝ち上がる中、サンフレッチェ広島レジーナジュニアユース(中国2/広島)が3度目の出場で大大会初白星を挙げて8強入り。神村学園中等部女子サッカー部(九州1/鹿児島)も、準々決勝で敗れたが初戦から2試合連続で大勝し、中体連チームとしての意地を見せた。

決勝に駒を進めたのは、初戦から3度のPK戦を乗り越えたINAC神戸テゾーロ(関西2/兵庫)と、準優勝で終わった前回大会を知る選手が多く残る三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース(関東1/埼玉)だった。

序盤は前線から果敢にプレスをかけた神戸が主導権を握り、21分には右サイドの高い位置でボールを奪った青木唯奈が左足でシュートを決めて先制する。前半は思い通りに前進できなかった浦和も、後半からは「球際の強さやウェービングと呼んでいる後ろからのビルドアップが特徴」(増田彩衣里)という持ち味を発揮し、相手陣内で試合を進めた。

後半開始直後の42分、浦和は相手のクリアボールを拾った

仙石みのりがゴール前にスループスを入れると、抜け出した増田が同点弾をマーク。73分には片岡菜葉の左クロスから徳生花音がヘディングシュートを決めて勝ち越す。見事な逆転劇で2-1とした浦和が、6大会ぶり8度目の頂点に輝いた。

浦和は世界に羽ばたく選手を育てるため、シンガポールとアメリカへの遠征を実施。「世界基準を体感し、日頃からこだわってきた球際や切り替えの意識がさらに強くなった」と話すのは西谷冬樹監督で、今大会はプレー強度の高さが躍進を支えた。

岡本遥花と共に主将としてチームを支えた増田は試合後、「社会人の県リーグ、関東リーグ、高円宮妃杯の三冠を取ろうと監督と約束していたので、勝つことができ本当に良かった」と笑顔を浮かべた。



徳生花音のゴールが決勝点となり優勝をつかんだ三菱重工浦和レッズレディースジュニアユース。前回大会の雪辱を果たした



サンフレッチェ広島レジーナジュニアユース(中央)は3度目の出場で8強入りを果たした



攻撃力を発揮して1・2回戦を突破した神村学園中等部女子サッカー部(左)



3試合をPK戦で制するなど粘り強さを見せて勝ち上がった神戸。決勝でも最後までゴールを目指した

JFA 第49回全日本U-12サッカー選手権大会



【大会概要】

2025年12月26日～29日、鹿児島県鹿児島市で開催。1次ラウンドは、都道府県代表のチームと前年度優勝枠の1チームの計48チームが参加し、4チームずつ12グループに分かれてリーグ戦を行う。決勝ラウンドは、1次ラウンド各グループ1位の12チームと、2位のうち上位4チームの計16チームによるノックアウト方式で順位を決する(3位決定戦は行わない)。



サガン鳥栖U-12が初戴冠！九州対決をPKで競り勝つ

JFA第49回全日本U-12サッカー選手権大会は、サガン鳥栖U-12(佐賀)がPK戦でソレック熊本U-12(熊本)に勝利して初の頂点に立った。

今大会はレジスタFC(埼玉)やFCトリアネーロ町田(東京2)など優勝経験のあるチームが多く出場した一方で、初出場も10チームに上り、12グループに分かれて行う1次ラウンドでは経験値の差からスコアが開く試合が続いた。ノックアウト方式の決勝ラウンドは大会常連チームが過半数を占めたが、初出場のジョガボーラ柏崎FC(新潟)と那須野ヶ原FC(栃木)が16強入り。いずれもラウンド16で敗退したが、貴重な経験を持ち帰った。

2年ぶりの優勝を目指して初戦からエンジン全開だったのが熊本だ。細かな連係をベースに、ボールを動かせない局面では長身の松田在真を起点とするスタイルに変えるなど臨機応変に対応して得点を重ねる。準決勝では川崎フロンターレU-12(神奈川)に5-0で快勝して決勝に進んだ。その熊本と好対照だったのが鳥栖で、ラウンド16から準決勝までの3試合をいずれも1点差で勝利。準決勝の町田戦では先制を許すも後半に立て直して逆転勝ちした。

大会史上初の九州勢対決となった決勝は、接戦を制してきた鳥栖が持ち味を発揮する。鳥栖はアンカーの網代時生、トップ下の

百武雅人を意図的にアップダウンさせ、攻守に人数を割きやすいシステムを採用。網代は熊本の松田を抑えたり、奪ったボールを落ち着いて動かしたりと中心的な役割を果たし、鳥栖が優勢を保って試合を進める。

とはいえ、日ごろから顔を合わせ、手の内をよく知るチーム同士。どちらも守備陣が相手の特長に確実に対応し、試合は両者共にゴールネットを揺らせないまま進む。延長戦に突入してもにらみ合ったまま、決着は3人制のPK戦に委ねられた。

PK戦では鳥栖が、網代を含む3人が全員成功させ、さらに5年生のGK弓削大晴(鳥栖)が巧みな駆け引きで熊本の2人目をファインセーブし、16回の出場を誇る常連チームに初優勝をもたらした。試合後、鳥栖の荒木亮次監督は鹿児島で九州対決がなかったことを念頭に「九州にとっても良い対戦になった。選手たちが決勝を経験できたことはU-15での成長にもつながる」と感慨深げに語った。



九州対決となった決勝は、互いに譲らない熱い展開になった



那須野ヶ原FC(右)は初出場です決勝ラウンドに進出。思い切りの良いプレーを随所に見せた



初出場のジョガボーラ柏崎FC(左)は初出場ながら堂々としたプレーで1次ラウンドを全勝で突破。ベスト16入りを果たした



ソレック熊本U-12は持ち前のコンビネーションを生かした攻撃で勝利を重ねて決勝に進出した

U-17日本代表、堂々のベスト8

装いを新たにスタートしたFIFA U-17ワールドカップカタール2025でのU-17日本代表の戦いを振り返る。

フェスティバル形式で 親交を深めるきっかけに

日本サッカーの未来を担う若き選手たちが世界一を目指し、FIFA U-17ワールドカップカタール2025に臨んだ。2年に一度、24カ国が出場していた大会は、今大会から大幅にフォーマットが変更され、出場枠が48に拡大されて、毎年開催となった。チーム数の増加に伴い、グループステージは4カ国が12グループに分かれて行われ、各組の上位

2カ国と、3位の中から成績上位の8チームがノックアウトステージに進むことに。また、決勝を除く全試合は、ドーハにあるスポーツ複合施設「アスパイア・ゾーン」を舞台にフェスティバル形式で行われた。

宿泊となるホテルも各チームに割り当てられ、U-17日本代表が指定された宿舎には、開幕時に最大10チームが滞在。日本の選手団は、食事会場が近かったメキシコと友情を育んだ。くしくも今大会のキャプテンを務めた村松秀司(ロサンゼルスFC)がメキシ

コの選手と面識があったことから、試合日には互いにハイタッチで送り迎えをするなどして交流。その様子がSNSでも拡散され、メキシコが帰国する際にはささやかなお別れ会が行われるほど親交を深めた。また、帰国後、日本チームは、東京千代田区にある在日メキシコ大使館に招待され、そのフレンドシップを称えられた。

世界の厳しさを学んだ後 第3戦で欧州王者に勝利

刷新されたU-17ワールドカップで日本は目覚ましいパフォーマンスを見せる。アフリカ王者のモロッコとの初戦はアグレッシブな姿勢で主導権を握り、サイドアタック主体の攻撃で相手を圧倒。2-0で制して幸先の良いスタートを切った。続くニューカレドニアとの第2戦はメンバーを大幅に入れ替えて臨み、日本は40本近いシュートを放つ。だが、相手の粘り強い守備を崩せず、スコアレスドローに終わった。

「相手はワールドカップで戦う喜びを全身で表現していた」と廣山望監督が語った通り、ニューカレドニアの選手たちは気持ちの入ったプレーを披露。引き分けた瞬間に選手たちはまるで優勝したかのように感情を爆発させた。

世界で戦う厳しさを味わった後に迎えた



©2025 FIFA



グループステージの第1戦と第3戦でゴールを挙げた瀬口(写真中央)

ポルトガルとの第3戦。勝利をつかめば首位通過が決まる一戦で、日本は欧州王者に対して勇敢に立ち向かう。パワーとスピード、高い技術力を有する相手に対し、前線の組織的なプレスと献身的なプレーで主導権を握った。35分に、3列目から相手のペナルティーエリアに攻め上がった和田武士(浦和レッズユース)がシュートを決めると、45分には左ウイングバックの瀬口大翔(ヴィッセル神戸U-18)が加点。最高の形で前半を終えた。しかし、後半は相手の猛攻に遭い、自陣で守る時間が増えていく。71分には右ウイングバックの長南開史(柏レイソル)が退場となり、日本は残された時間を10人で戦うことになる。ゴール前で耐える中、日本はGKの村松を中心に体を張った守りで応戦。1点返されたが、リードを守り切った日本が首位でノックアウトステージ進出を決めた。



PK戦に向けた準備が実り 見事、ベスト8に進出

中5日で迎えたラウンド32の相手は南アフリカ。小柄ながらもテクニカルでスピードに長けた選手が並ぶアフリカの強豪に対し、日本は序盤から強度の高いプレーを發揮。相手のカウンターを封じながら、攻撃時はテンポの良いパス回しでチャンスをつくる。前半を無得点で折り返したが、後半開始早々に浅田大翔（横浜F・マリノス）が先制点を奪う。59分に吉田湊海（鹿島アントラーズユース）、72分にはCKから藤井翔大（川崎フロンターレU-18）が加点し、終わってみれば3-0の快勝で4大会連続となるグループステージ突破を決めた。

続くラウンド16の相手は、朝鮮民主主義人民共和国。AFC U17アジアカップサブアジアラビア2025でベスト4入りを果た



しており、同大会で準々決勝敗退の日本の上に行った。両利きの選手が多く、ゴールに向かう迫力は折り紙付き。試合前の握手の場面でも闘争心をむき出しにしていたが、日本は全く動じなかった。



マギー・ジェラニー連（写真右）は朝鮮民主主義人民共和国戦で先制点をマーク

試合開始4分、FWマギー・ジェラニー連（FC琉球U-18）がヘディングシュートでゴールネットを揺らす。

その後は相手のペースとなり、中盤の攻防でも後手を踏んだ。後半の半ばに同点とされ、それ以降も迫力のある攻撃に手を焼く。しかし、迎えたPK戦では、日本は5人全員がキックを成功させて勝利を手繰り寄せた。「1失点でこらえて、最後の最後、PK戦の末に勝ったことは素晴らしい」と廣山監督が振り返った通り、苦しい試合をものにした意味は大きい。PK戦の末の勝利は、ここ数年、国際親善試合などでPK戦を経験してきた成果ともいえる。

11年大会以来となるベスト8入りを果たした日本は、準々決勝でオーストリアと対戦。前半、一進一退の攻防が続く中でいくつかの決定機を決められずにいると、後半開始早々に失点。その後も試合の流れをつかめずに0-1の敗戦を喫し、初の4強入りは果たせなかった。

優勝を狙っていた日本にとって、今回のベスト8は悔しい結果だが、真剣勝負の舞台で6試合を戦ったことは選手にとって財産となる。廣山監督が目指していた通り、誰がピッチに立ってもチームの力は落ちなかった。選手たちのフィジカルコンディションでも疲労軽減を最優先した練習メニューを用いた結果、大会を通じて

良い状態を保つことができた。今回の取り組みや成果は次回大会につながる。大会後、「ここから勝負だ」と選手にエールを送った指揮官の思いも含め、貴重な経験を積んだ選手たちの今後に期待したい。



©2025 FIFA

4強入りをかけて臨んだオーストリア戦は善戦およばず惜しくも0-1で敗れた

試合結果（得点は日本のみ）

グループステージ

- 第1戦 11月3日 日本 2-0 モロッコ
得点者：瀬口大翔、平島大悟
◎PLAYER OF THE MATCH：平島大悟
- 第2戦 11月6日 日本 0-0 ニューカレドニア
◎PLAYER OF THE MATCH：吉田湊海
- 第3戦 11月9日 ポルトガル 1-2 日本
得点者：和田武士、瀬口大翔
◎PLAYER OF THE MATCH：和田武士

ノックアウトステージ

- ラウンド32 11月15日 日本 3-0 南アフリカ
得点者：浅田大翔、吉田湊海、藤井翔大
◎PLAYER OF THE MATCH：元砂晏翔仁ウデンバ
- ラウンド16 11月18日 朝鮮民主主義人民共和国 1-1 (PK 4-5) 日本
得点者：マギー・ジェラニー連
◎PLAYER OF THE MATCH：浅田大翔
- 準々決勝 11月21日 オーストリア 1-0 日本

※U-17日本代表メンバーおよび公式記録などは62～64ページ、大会結果一覧は83～84ページに掲載/所属は大会時

全員が素晴らしいプレーを見せてくれた

廣山望 U-17日本代表監督

U-17日本代表はFIFA U-17ワールドカップカタール2025でベスト8に入る活躍を見せた。チームを率いた廣山望監督に大会を振り返ってもらった。

○オンライン取材日・2025年12月10日



©2025 FIFA

**他国がホテルを去る中
日本は最後まで滞在**

— FIFA U-17ワールドカップカタール2025では2011年大会以来となるベスト8進出を果たしました。

廣山 率直に素晴らしい大会でした。FIFA U-17ワールドカップは今回から5大会続けてカタールで開催されることになり、出場チーム数も48カ国に増え、育成年代の選手が目指すべき場所として最高の舞台だと感じました。アジア最終予選を兼ねたAFC U17アジアカップでは悔しさも味わいましたが、本大会では自分たちの力を存分に発揮することができました。スタッフや選手も含めてアジアカップからワールドカップに向かって行く時間を最大限に生かした大会になりました。

— 大会フォーマットが変わったことで、全てのチームが同じ会場に集まって準決勝まで戦うことになりました。その結果、他国の選手たちと同じホテルに宿泊するなど、従来と異なる経験ができたのではないのでしょうか。

廣山 これまでの大会も選手の成

長を促し、経験値を積む舞台でしたが、今大会はもっとダイレクトに刺激を受ける環境にありました。例えば、試合後、バスに乗るまで待ち時間が少しあるのですが、着替えが早く終わった選手たちはそのわずかな時間に別のグループの試合を観戦していました。

— **自分の意思でほかの試合を見にいったわけですね。**

廣山 そこに意味があります。誰かに言われて行くのとは違って記憶にも残りやすい。実際、かなりのインパクトを受けたと思います。選手に話を聞くと、「自分たちはシユートの意識が足りない」とか「もっとスピード感が必要だと気づいた」という感想が返ってきました。応援に関しても、モロッコやインドネシアは本当に熱狂的なサポーターが駆けつけていて、選手たちはサッカーの素晴らしさや僕らが言葉や映像で伝えられない熱を感じたはずですよ。

— **現地でしか経験できないことですね。**

廣山 ホテルには最大10チームが滞在していて、大会が進むにつれて（敗れて）帰国していくわけです。

ノックアウトステージではフランスとクロアチアとメキシコとアイルランド、日本の5チームが残り、最後は日本だけになったんです。大会前、「ほかのチームが残っているのに、自分たちだけ帰るのは寂しいぞ」と選手に伝えていたのですが、われわれは最後までそこに残ることができました。とても大きな経験です。また、同じホテルにいたメキシコチームとの交流も深まり、大会後も日本のメキシコ大使館から招待を受けるなど、今も関係がながっているのは本当に喜ばしいことです。

**引き分けた一戦から
足りないものを学ぶ**

— 大会に臨むにあたり、負傷者が出たため背番号9を背負う選手を3度入れ替えるハプニングもありました。

廣山 入念に準備していただけに、招集した選手が負傷離脱を余儀なくされたのは本当に残念です。しかし、最終的に選んだメンバーに関しては、大会中、けがや体調不良などがある中で21人全員が素晴らしいプレーを見せてくれました。

— **グループステージではアフリ**

初の大舞台！ フットサル日本女子代表は ベスト8



第1回となるFIFAフットサル女子ワールドカップが2025年11月21日から12月7日、フィリピンで開催された。フットサル日本女子代表は準々決勝でブラジルと対戦し、1-6と無念の敗退。決勝はブラジルとポルトガルの顔合わせとなり、ブラジルが3-0で勝利し、初代女王に輝いた。

※フットサル日本女子代表メンバーおよび公式記録などは65、66ページ大会結果 覧は84ページに掲載/所属は大会時

©2025 FIFA

グループステージ

強豪ポルトガルに黒星も、グループ2位で突破

初のFIFAフットサル女子ワールドカップはフィリピンで開催され、世界各国から集まった16チームが国の誇りを懸けて真剣勝負を繰り広げた。

フットサル日本女子代表は、2025年5月のAFC女子フットサルアジアカップ（中国）で初優勝を成し遂げ、アジアチャンピオンとして出場。9月16日に行われたグループステージの組み合わせ抽選会で日本はFIFAフットサル女子ランキング5位でポット2に入り、抽選の結果、ポルトガル、ニュージーランド、タンザニアとグループCを戦うことになった。日本サッカー協会（JFA）は10月30日、大会に出場するメンバーを発表。須賀雄大監督は、アジアカップ優勝メンバーを中心とした14名（他トレーニングパートナー1人）を招集した。

チームは11月10日から高円宮記念JFA夢フィールドでトレーニングを行い、同14日にフィリピンへ出発。現地でコロナビア、イタリアと練習試合を行うなど大会に向けて最終調整した。

11月23日に迎えたグループステージ初戦、対戦相手はオセアニア代表のニュージーランド。日本は試合開始から主導権を握り、第1ピリオド1分に追野沙羅（西宮）が大会初得点を記録し、先制点を奪う。その後も攻守に安定した試合運びを見せて網城安奈（西宮）の追加点で第1ピリオドを2-0で

©2025 FIFA



グループステージ初戦、追野（中央）がワールドカップでの日本初得点を挙げる

終わると、第2ピリオドも着実にゴールを重ねて6-0で快勝した。

理想的な白星スタートを切った日本だったが、第2戦は欧州の強豪ポルトガルに苦戦する。須賀監督体制下では2度目の対戦で、前回（24年3月）は0-5で敗れている。慎重に試合に入った日本は、相手に主導権を握られながらも粘り強く応戦する。第1ピリオド終盤、セットプレーから失点を許すと直後にも連係の乱れを突かれ、連続失点を喫す。2点ビハインドで挑んだ第2ピリオド、日本は連動したプレスから徐々にペースをつかみ、シュートチャンスをつくり出していく。しかし、得点を奪えないまま戦局が進んだため、終盤にリスクを負ってパワープレー



カ王者のモロッコ、欧州王者のポルトガル、そしてニューカレドニアと同じ組になりました。

廣山 ポルトガルとは大会前に一度戦っていたというアドバンテージはありますが、真剣勝負の場で戦えたことは良かったです。分析スタッフの力も借りてチームを磨き、パワーを出し切ったことが、グループステージ突破の要因です。組み分けが決まったとき、大会の序盤に各大陸の王者と対戦しておくことが重要だと思っていましたし、そのスタンスを崩さずに本大会に臨んでよかったと思います。グループステージの3試合で多くの学びを得たからこそ、その先のノックアウト



日本は第3節にポルトガルを破ってグループステージ突破。選手たちは闘志あふれるプレーを見せた

©2025 FIFA

ステージでも思い切り戦い、勝ち進むことができたと考えています。

——ニューカレドニア戦での引き分けは、選手たちにとっては貴重な経験でした

廣山 堅守が持ち味の相手に苦しみ、スコアレスドローに終わったことに日本の選手たちはかなりショックを受けていました。得たものもあります。相手はワールドカップを戦う喜びを全身で表現していましたし、GKは顔を傷だらけにしながらもゴールを守り、試合後には「勝ち点1を獲得したぞ」と闘志を見せていました。自分たちにはそういう気迫が足りなかったというふうに気づきました。

23年大会で得た教訓をチームづくりに生かした

——今大会はグループステージを中2日で戦い、中5日でラウンド32を迎えました。そこからはまた中2日の戦いになりました。

廣山 厳しいグループに入ったこともあって、大会を勝ち上がるにはフィジカルとメンタルの調整が肝になると考えていました。同じメンバーで8試合を戦い抜くのは難しいですし、無理がある。全員で戦うチームにしたいと思っていました。実際、グループステージは誰が出ても一定のスタンダードを維持

することができ、ハーフタイムに選手を代えても前線からの守備を緩めずに戦うことができました。ディフェンスラインに関して複数のポジションをこなせる選手がいたことで、メンバーをローテーションしつつ戦い、最大限のチーム力を発揮できたと思います。

——メンバーを入れ替えることは勇気が伴います。

廣山 選手を信じるのが全てです。第2戦では初戦から大幅にメンバーを代えましたが、初戦で敗れていてもそうするつもりでした。とはいえ、最初から全てを決めていたのではなく、基本的には相手や選手の手コンディションを見てメンバーを選びました。柔軟な戦い方ができたのは、23年のFIFA U-17ワールドカップにコーチとして参戦した経験があったからです。あの大会での教訓を生かして今回のチームづくりを進められましたし、今回のU-17ワールドカップの2カ月前に開催されたリモージュ国際大会で二つのチームをつくって優勝したことも自信になりました。

——選手のコンディションはノックアウトステージでも落ちませんでした。

廣山 南アフリカ戦は内容が充実していましたし、朝鮮民主主義人民共和国との試合もPK戦の末に勝

つことができました。自分自身、大会のどこかでPK戦にもつれ込むだろうと踏んでいましたし、選手たちも当事者意識を持ってPKの練習に取り組んできました。U-17ワールドカップという大舞台でPKを蹴るといふ経験を5人にさせられたことは本当に良かったですし、その試合に勝ったということも後の自信につながるはずですよ。

——準決勝進出をかけたオーストリア戦は惜しくも0-1で敗れました。

廣山 1点に泣きましたね。日本は過去の大会でも決定力不足に泣かされてきましたが、今回は決定力以前の問題かもしれないと感じました。シュートは打たないと入らない、と言いますが、今大会ではシュートを打つチャンス逃すなど、シュートの決断をする準備ができていないと感じる場面がありました。これは、シュートを打つ習慣をつけて、

「いまがチャンスだ」という感性を磨かなければ解消されません。

——来年度の大会につながる部分もあったのでは。

廣山 これまで、日本サッカーは年別のワールドカップで経験したことを積極的に発信することで、育成年代の強化および全体の底上げにつなげてきました。その結果が今回のU-17ワールドカップにも表れたと思いますので、今大会で得たものを日本の持ち味としてさらに磨き、来年度以降の国際大会に生かせればと思います。



©2025 FIFA

準々決勝では決め手を欠き、惜しくもオーストリアに0-1で敗れた



© 2025 FIFA

黒星となったポルトガルとの第2戦。パワープレーで攻勢に出たがスコアはひっくり返せず



© 2025 FIFA

準々決勝進出を懸けた第3戦はタンザニアに9得点を挙げて快勝



© 2025 FIFA

ブラジルとの準々決勝、第2ピリオドに一矢報いたが力の差を痛感する一戦となった

ト8という世界での現在地を知るとともに、今後の成長を促す多くの経験を、得た大会となった。選手一人一人が、初の世界大会での経験と準々決勝で味わった悔しさを次につなげていくことが、日本女子フットサルの未来をつくっていくはずだ。



© 2025 FIFA

6試合で32得点4失点と圧倒的な強さで世界の頂点に立ったブラジル

に出ることを選択。フィールドプレーヤーの網域をGKに起用し、数的優位をつくって攻撃に出る。すると36分、追野が豪快なミドルシュートを決めて1点を返す。日本は試合の流れを引き寄せ、さらに攻勢を強めた。39分にはパスを奪われて無人のゴールに得点を決められ、1-3で敗れた。

第3戦は共に1勝1敗のタンザニアと対戦。準々決勝進出を懸けたこの重要な一戦、日本はいきなり試合を動かす。開始49秒、江川涼(西宮)が左サイドを突破し、左足で豪快なシュートをたたき込んだ。この先制点をきっかけに日本は主導権を握る。高い身体能力を武器に個の能力で攻めてくるタンザニアに対し、組織的な守備で対応。日本はボールを保持して多彩な攻撃から次々と得点を重ね、9-0で大勝を収めた。この結果、日本は2勝1敗でグループCを2位通過し、準々決勝進出を果たした。

第1ピリオドで5失点
ブラジルの壁は厚く

準々決勝の対戦相手は、ブラジルに決まった。女子フットサルで絶対的な強さを誇るブラジル。日本は24年3月の対戦でも1-5と敗戦を喫しており、その実力は分かっている。しかし、優勝を目指す上で避けて通れない相手だ。試合はブラジルが圧倒的に攻め込む展開となる。日本は必死で耐えるが、ピヴォ当てやサイド突破などブラジルらしい攻撃をかわすことができない。失点を重ねた日本は第1ピリオドのうちに0-5と大きくリードを広げられてしまう。パワープレーを試みたものの、相手の堅い守備に阻まれてゴールが遠い。

第2ピリオド、日本はパワープレーを解除し、3セットを組んでプレスの強度を高め

る。すると日本の守備が安定し、試合は膠着状態となった。残り10分を切ると日本は再びパワープレーを選択。また、守備時にGKを井上ねね(立川)から須藤優理亜(マリン)に代えて攻撃に転じるなど、総力戦を展開する。攻勢が実ったのは35分、中村みづき(立川)のシュートが相手に当たってゴールに吸い込まれ、オウンゴールで1点を返す。しかし直後に再び失点し、1-6で敗戦。日本の初めてのワールドカップはベスト8で幕を閉じた。

なお、決勝には、準決勝でアルゼンチンとスペインをそれぞれ破ったポルトガルとブラジルが進出。決勝に先駆けて行われた3位決定戦では、スペインが5-1でアルゼンチンに勝利。決勝はブラジルが3-0でポルトガルを退け、初代女王の称号を手にした。

初開催された女子フットサルのワールドカップ、日本女子フットサルにとってはベスト

大会結果 優勝 : ブラジル 3位 : スペイン
準優勝 : ポルトガル 4位 : アルゼンチン

日本の対戦結果 ※得点は日本のみ記載

●グループステージ

11月23日 日本 6-0(2-0) ニュージーランド
第1戦 得点=1'追野沙羅、12'網城安奈、23'篠井りさ、26'江川涼、26'追野沙羅、31'宮原ゆかり
◎PLAYER OF THE MATCH : 追野沙羅

11月26日 日本 1-3(0-2) ポルトガル
第2戦 得点=36'追野沙羅

11月29日 日本 9-0(3-0) タンザニア
第3戦 得点=1'江川涼、3'松本直美、17'中村みづき、23'伊藤果穂、25'岩崎裕加、26'岩崎裕加、27'高橋京花、32'網城安奈、33'江川涼
◎PLAYER OF THE MATCH : 江川涼

●ノックアウトステージ

12月2日 日本 1-6(0-5) ブラジル
準々決勝 得点=35'オウンゴール

須賀雄大フットサル日本女子代表監督

ワールドカップという舞台での真剣勝負 選手たちは覚悟を持って戦い抜いた

第1回となるFIFAフットサル女子ワールドカップが2025年11月21日から12月7日、フィリピンで開催された。フットサル日本女子代表は準々決勝でブラジルと対戦し、1-6と無念の敗退。決勝はブラジルとポルトガルの顔合わせとなり、ブラジルが3-0で勝利し、初代女王に輝いた。

○オンライン取材日・2025年12月25日

「自分たちはやれる」
勝ちに行く姿勢を貫いた

——FIFAフットサル女子ワールドカップが終了して少したちました。いま振り返って、どのような思いでいらっしゃいますか。

須賀 もうだいぶ前のことのようにも感じますが、準備期間を含めて本当に濃密なワールドカップだったと感じます。日々の作業量が非常に多く、常に次の試合、次の準備を考え続ける毎日で、緊張感が途切れる瞬間はほとんどありませんでした。その分、代表チームとして非常に充実した時間を過ごせた大会でした。

記念すべき第1回のワールドカップということで、結果だけではなく、「この大会にどう向き合い、どう記録を残すか」という意識が強くあり

ました。後に振り返ったとき、日本女子フットサルがこの舞台にどう立っていたのか、それを示す最初の一步を踏み出した大会になったと思います。

——初開催のワールドカップに日本はアジアチャンピオンとして臨みました。大会に向けて、どのようなマインドで準備を進めてくれたのでしょうか。

須賀 アジアチャンピオンとして臨むという点が非常に重要だと考えていました。初めての世界大会だからといって、世界との差を想定して最初から守りに入るのではなく、アジアで勝ち抜いた自分たちの良さを世界の舞台でどこまで出せるのかを示したい、と。もちろん、世界が相手ですから、できることとできないことははっきりしています。しか

し、最初から「できない」と決め込むのではなく、「自分たちはやれる」という強い自信を持って戦う。その姿勢をチーム全体で共有して大会に挑みました。

——5月のアジアカップからワールドカップまでの期間は約6カ月。この限られた時間でチームとして積み上げられた部分は？

須賀 アジアカップ後、実際に代表チームで活動できたのは国内キャンプの一度だけでした。そのため、大きく戦術を変える、あるいは新しいことを積み上げるというより、ワールドカップに向けて選手たちの「競争」を打ち出す、つまり誰が世界の舞台で戦えるのかを見極める選手選考の意味合いが強いキャンプになりました。結果的には、アジアカップでつくり上げたチームをベース

に、対戦相手を見ながら微調整して戦うという、現実的かつ再現性のある準備を進めていきました。

——大会はグループステージを2位で突破し、ベスト8という結果でした。この結果をどのように受け止めていらっしゃいますか。

須賀 FIFAランキング上位の

チームに対し、勝つ確率をどれだけ上げられるか、そして下位のチームにどう確実に勝つか、その二つが求められていました。アジアカップでは、自分たちが主導権を握る試合では、必要なマインドセットをしつかりとつくって戦うことができていました。また、課題に挙げていた、勝たなくてはならない相手からリード





ブラジルに1-6で敗れたワールドカップの強さを感じた選手たち。優勝したブラジルは、6試合連続でワールドカップを優勝した。

©2025 FIFA

を奪った後の展開も改善できていた。ワールドカップという大舞台でも、集中力と強度の高いフットサルを持続できたことは、結果以上に評価すべき点です。

——準々決勝で敗れたブラジルは優勝し、グループステージで対戦したポルトガルは準優勝でした。世界の2トップとの対戦をどう振り返りますか。

須賀 まず、その2カ国と真剣勝負できたこと自体が、日本女子フットサル界にとって非常にポジティブな出来事です。さらにわれわれにとつて最も重要なことは、その2カ国に対して「勝たなければ世界一にならない」という強いマインドでぶつかったこと。ブラジル、ポルトガルの強さは過去の対戦経験から分かっていたし、スカウティングでも日本

にとつて非常に厳しい相手であることは明白でした。しかし、負けて当然ではなく、本気で勝ちにいった結果だからこそ、得られたものがあります。覚悟を持って戦い抜いた選手たちを、私は心から誇りに思っています。

肌で感じた強度の高さ チームも成長を示した

——それら世界との差をどのような部分に感じましたか。

須賀 個人の技術、戦術理解、フィジカル、そして何より日常的に日本とは倍以上の試合をこなす「プロリーグ」があり、多くの国際経験を求められる環境など、日本の女子フットサル界との差は多くあります。しかし、ポルトガル戦では、以前は圧倒されていた定位置守備の局面で、かなり対応できていました。その半面、攻撃で相手陣内の深くまで押し込んでいられる時間はわずかでしただ。ゴール前でプレーする時間をどう増やしていくか、今後の大きな課題です。この「あと一段階」をどう越えるかが次の4年間のテーマになると思っています。

——世界各国の代表チームが参加した大会で印象に残ったことはありますか。

須賀 ブラジル、スペイン、ポルトガルとは1年半前に対戦しましたが、

ブラジルはそこで対戦したときとは異なる次元のチームになっていました。ワールドカップをどれだけ渴望し、どれだけにコミットしてきたのか。集中力とモチベーションの高さを痛感しました。大会前にはコロンビアとトレーニングマッチを行ったのですが、南米のチームはフィジカルの強度や守備の粘りが非常に高く、日本の国内リーグとは異なる物差しでプレーしていることを実感しました。こうした違いを試合で体感できたことは、今後の選手育成やリーグ運営を考える上で重要な材料になると思います。

——大会期間中のコンディションづくりにしても教えてください。

須賀 チームとして、精神面では「ファミリ」という意識を常に大切にしてきました。集団生活では、日常の何気ない言葉や行動が互いのパフォーマンスに影響を及ぼすこともありますから、それを全員で共有しながら活動してきました。

フィジカル面では、事前準備を含め、アジアカップでの経験を生かすことができました。選手たちはあまり経験がなかったと思うのですが、ワールドカップに向けて試合日にあえて積極的にリカバリーしてなるべく早く体を回復させる方法を取り入れたんです。それによって非常に良いコンディションで大会を迎え、過ごすことができました。どうす



©2025 FIFA
選手、コーチングスタッフ、フィジカルコーチ、メディカルスタッフの全員が「ファミリー」となってワールドカップを戦った

関係者が見に来ていて、その多くがそれを感じたはず。ブラジルとの試合を見て、「日本もこれを基準に目指さなければならぬんだ」という共通認識が生まれたことは、大きな変化です。目標が具体的に変わったことで、代表だけでなく、国内リーグや育成年代の現場においても、「世界基準」を意識した取り組みが少しずつ増えていくのではないのでしょうか。

——今大会を踏まえ、日本女子フットサル界とサッカーファミリーに伝えたいことをお聞かせください。

須賀 今回のワールドカップに参加した代表選手は15人（トレーニングパートナー含む）でしたが、これまで代表チームに携わってくれた50人以上の選手たち、そしてこれまで女子代表の歴史を紡いできた選手たちや関係者、現場で女子フットサルを支えられてきた指導者など全ての皆さんの積み重ねの上にわれわれの活動は成り立っています。

ワールドカップは、国の誇りを懸けた真剣勝負でした。その中で選手もスタッフも「もつと上を目指せ」と感じられたことが何より大きな収穫だと思います。この経験を次の4年につなげ、日本女子フットサル界全体でスタンダードを引き上げていく。その流れが生まれたこと自体が、この大会に出場した最大の意義だと感じています。

——初開催のワールドカップを経験したことで、日本女子フットサル界にどのような変化が生まれているでしょうか。

須賀 今大会を通じて、世界のトップがどれほど高い基準で戦っているかを、日本の多くの人が知るようになったと思います。実際、現地には日本から指導者や選手、フットサル

読者プレゼント

応募締切：2026年2月18日(水)当日消印有効

アディダス ジャパン(株) 提供

日本サッカー協会のオフィシャルサプライヤーであるアディダス ジャパン(株)より、「TIRO Competition グローブ」を1名様にプレゼント。



JFA STORE 提供

「JFA STORE」は、日本代表のグッズなどがそろったJFAのオフィシャルeコマースサイトです。さまざまなシーンや目的に合わせてグッズを確認できるページに加え、特集ページもご用意しました。

今号では「タオルマフラー(最高の景色を2026)」を1名様にプレゼントします。



JFA STORE



<https://official-store.jfa.jp/>

プレゼント応募方法

■Web

プレゼント応募URL

<https://forms.gle/hFEK7u3u3TeCkvTZA>

上記URLもしくはQRコードよりアクセスして
ご応募ください。



■はがき

〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部

「JFAnews プレゼント応募」係

①名前、②郵便番号・住所、③電話番号、④希望プレゼント名、⑤JFAnews
のご感想・ご意見などを明記の上、郵送でお送りください。

当選者の発表は発送をもって代えさせていただきます。発送は2026年3月中旬から下旬の予定です。

※収集した個人情報は厳重に管理し、他の目的には使用しません。また、お送りいただいたはがきは返却しません。

JFA公式アプリ JFAPassport

全てのサッカーファミリーのためのJFA公式アプリです。

- 会員限定で参加できるイベント情報が満載
- アプリでしか見られないオリジナル動画を配信
- お得なクーポンやプレゼント情報を紹介

<https://www.jfa.jp/jfapassport/>



【サッカークイズを毎月更新中】

フットボールにかかわるさまざまなクイズを毎月出題!

何問正解できるか挑戦しよう。

◎サッカーのルールを学べるクイズも配信中!

JFA DREAM FUND

JFAの基金窓口を開設。寄せられた寄付金はJFAの理念やビジョンに基づき、主にサッカーの普及や日本代表のさらなる強化に使用します。

<https://jfa.jp/dream-fund/>



JFAクラウドファンディング ～みんなの夢を応援しよう!

JFAがCAMPFIREと共に提供するサッカーに特化したクラウドファンディングサイトです。

<https://jfa.camp-fire.jp/>



<起案者のメリット>

- ✓ お得にクラウドファンディングを実施できる
- ✓ サッカー専用の無料セミナーがあり、初めてでも安心して始められる
- ✓ サッカーに関心がある人が集まるJFA公式サイトに掲載できる

<支援者のメリット>

- ✓ さまざまなサッカー活動の夢と挑戦を応援することができる
- ✓ サッカーに関連するリターンを得ることができる

公益財団法人日本サッカー協会 機関誌

JFA news

発行人：湯川和之

発行所：公益財団法人日本サッカー協会
〒112-0004

東京都文京区後楽1丁目4-18 トヨタ東京ビル

TEL.050-2018-1990(代)

URL <https://www.jfa.jp>

監修：公益財団法人日本サッカー協会 コミュニケーション部

編集：編集長 多田寛

JFAnews編集部 / (株)ウォールニクス

印刷：サンメッセ(株)

定価：600円/本体545円

次号2026年2月情報号は、2026年2月18日発売予定

【特集】JFAこころのプロジェクト、20年の歩み(仮題)

※特集テーマ・内容は変更となる場合があります

ご購入のお知らせ

・インターネットからのご購入

https://req.qubo.jp/jfa_coach/form/entry

・年間購読

JFAnewsの年間購読料は、送料・税込みで1年間(12冊)5,000円で、
年間2,200円お得です。

ご希望の方は上記URLよりお申し込みください。



チーム登録をされているご購入者さまへ

JFAnews発送における住所変更、名義変更を希望される場合は、
JFA公式ウェブサイトの「JFAへの登録」よりJFA IDシステムに
ログインしていただき、変更をお願いします。

<https://www.jfa.jp/registration/>



健康を守る

発明品



機能性表示食品 健康な人の免疫機能の維持をサポート[プラズマ乳酸菌の研究報告]

おいしい免疫ケア、おいしい免疫ケア カロリーオフ [届出表示] 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis strain Plasma*) が含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトイド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。 おいしい免疫ケア 睡眠 [届出表示] 本品には、プラズマ乳酸菌 (*L. lactis strain Plasma*) とGABAが含まれます。プラズマ乳酸菌はpDC(プラズマサイトイド樹状細胞)に働きかけ、健康な人の免疫機能の維持に役立つことが報告されています。GABAは睡眠の質(眠りの深さ、すっきりとした目覚め)の向上に役立つことが報告されています。●食生活は、主食、主菜、副菜を基本に、食事のバランスを。●本品は、国産品です。●本品は、疾病の診断、治療、予防を目的としたものではありません。



アシアズ!

定価600円(本体545円)